

赤穂市

こども計画策定のためのアンケート

調査結果報告書

令和6年11月

赤穂市



目次

第1章 子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査（就学前児童保護者）

調査概要	1
お子さんご家族の状況について	2
お子さんの保護者の就労状況について	16
平日の定期的な教育・保育事業の利用について	21
地域子育て支援事業の利用について	32
土曜・休日や長期休暇中の「定期的な」教育・保育事業の利用について	38
病気の際の対応について	48
不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について	52
小学校就学後の放課後の過ごし方について	60
育児と就労の両立について	65
赤穂市での子育てについて	75

第2章 子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査（小学生保護者）

調査概要	81
お子さんご家族の状況について	82
小学校での放課後の過ごし方について	94
病気の際の対応について	100
不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について	104
お子さんの保護者の就労状況について	107
育児と就労の両立について	112
お子さんの安全について	122
赤穂市での子育てについて	124

第3章 子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査（小中学生）

調査概要	131
自身について	132
普段の生活について	133
ヤングケアラーについて	138

第4章 子どもの生活実態調査（保護者）

調査概要	143
家庭の状態について	144
日常生活における支出について	150
日常生活におけるつながり・支援について	154
公的な制度の認知、利用状況について	161

第5章 子どもの生活実態調査（子ども）

調査概要	165
自身について	166
毎日の生活について	167
普段考えていることについて	192
ヤングケアラーについて	198

第6章 子どもの生活実態に係る社会資源調査

調査概要	203
------------	-----

第7章 こども・若者に関する調査

調査概要	229
自身の状況について	230
普段の生活について	235
「居場所」について	238
家族、友人等とのかかわりについて	240
自身の今・将来について	251
こども・若者の意見反映について	259
ヤングケアラーについて	264

資料編	267
-----------	-----

報告書の見方

- 回答は、各質問の回答者数（計）を基数とした百分率（%）で示しています。小数点第2位を四捨五入しているため、比率の合計が100.0%にならない場合があります。
- 複数回答を求めた質問では、回答比率の合計が100.0%を超えます。
- 回答があっても、小数点第2位を四捨五入して0.1%に満たない場合は、表・グラフには「0.0」と表記しています。

第1章

子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査

(就学前児童保護者)

第1章 子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査 （就学前児童保護者）

調査概要

調査の目的： 「子ども・子育て支援法」に基づく次期計画の策定にあたり、教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業に関する「現在の利用状況」や「今後の利用希望」、並びに子育て世帯のニーズや意識を把握し、計画策定の基礎資料とすることを目的としています。

調査の対象： 就学前児童の保護者

調査の方法： 郵送配布・郵送回収・WEB 回答（未就園児童保護者）
直接配布・直接回収・WEB 回答（就園児童保護者）

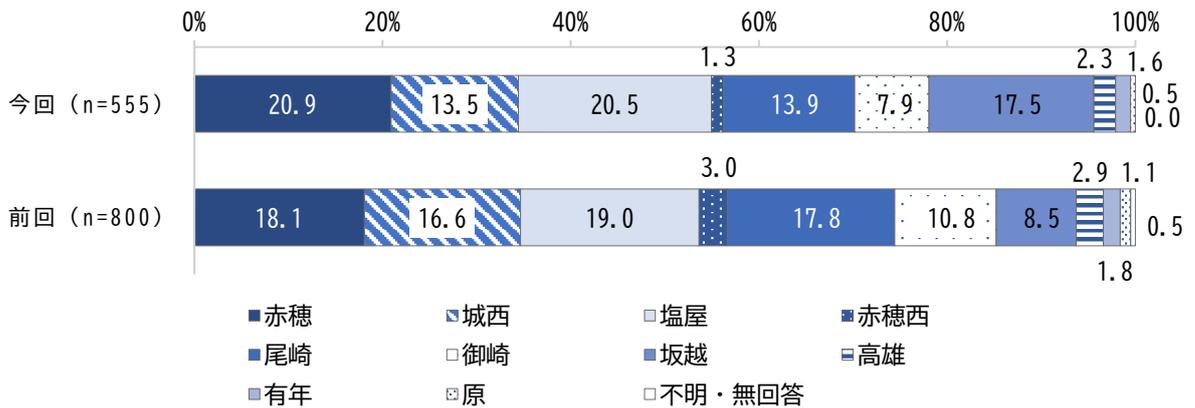
調査の期間： 令和6年2月5日～2月16日

回収の結果：	配布数	回収数(有効回収数)		回収率(有効回収率)
	763 件	全体	555 件 (555 件)	72.7% (72.7%)
		紙	339 件 (339 件)	44.4% (44.4%)
		WEB	216 件 (216 件)	28.3% (28.3%)

お子さんとご家族の状況について

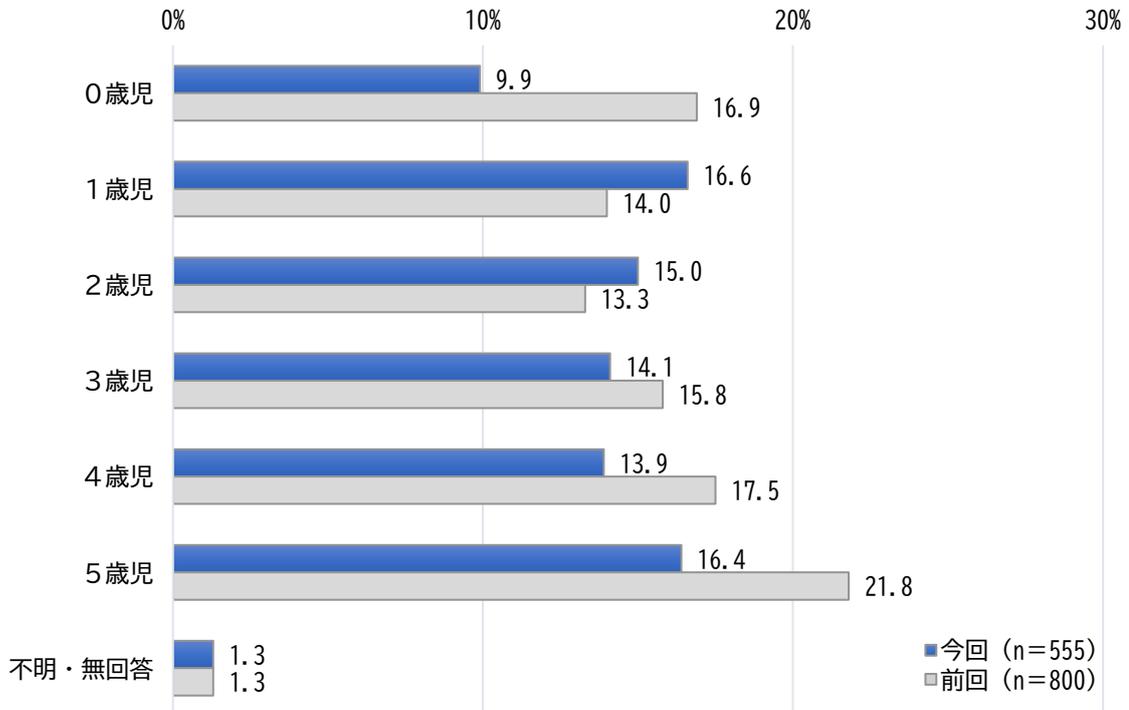
問1 お住まいの小学校区はどちらですか。(1つに○)

お住まいの小学校区については、「赤穂」と回答した人の割合が最も高く、20.9%となっています。次いで、「塩屋」(20.5%)、「坂越」(17.5%)と続いています。



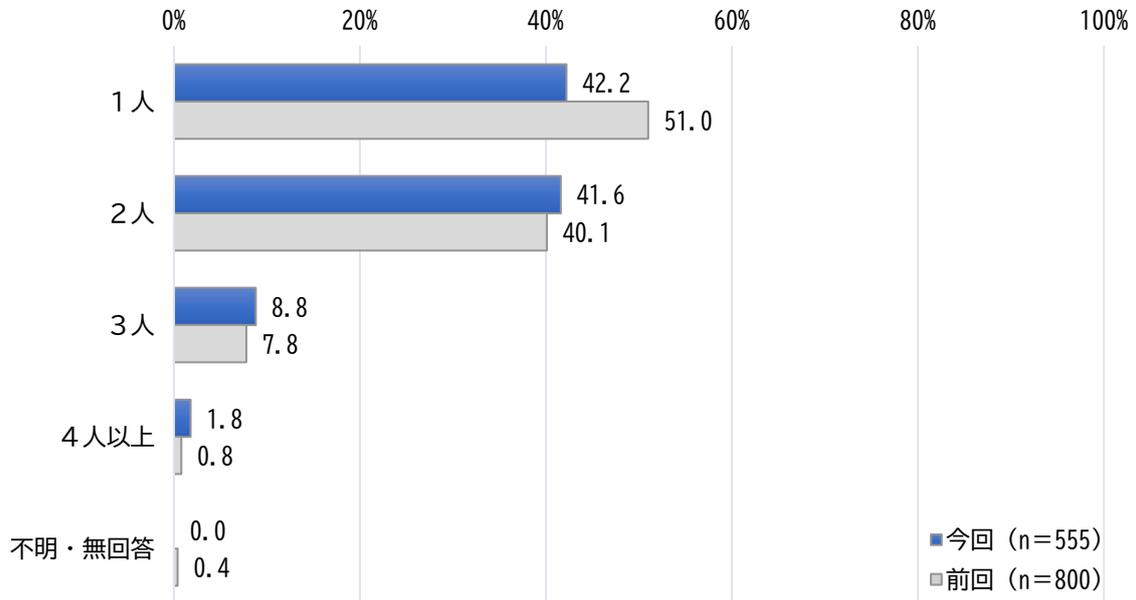
問2 調査票を受け取ったお子さんの生年月月をご記入ください。([] 内に数字を記入)

子どもの年齢については、「1歳」が16.6%で最も高く、次いで「5歳」(16.4%)、「2歳」(15.0%)と続いています。



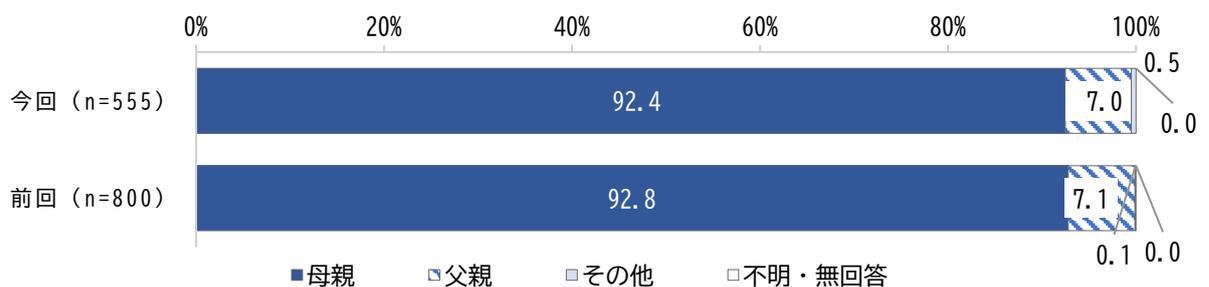
問3 お子さんのきょうだいは何人いらっしゃいますか。お子さんを含めた人数をご記入ください。（[] 内に数字を記入）

きょうだいの人数については、「1人」が42.2%で最も高く、次いで「2人」（41.6%）、「3人」（8.8%）と続いています。



問4 この調査票にご回答いただく方はどなたですか。お子さんからみた関係でお答えください。（1つに○）

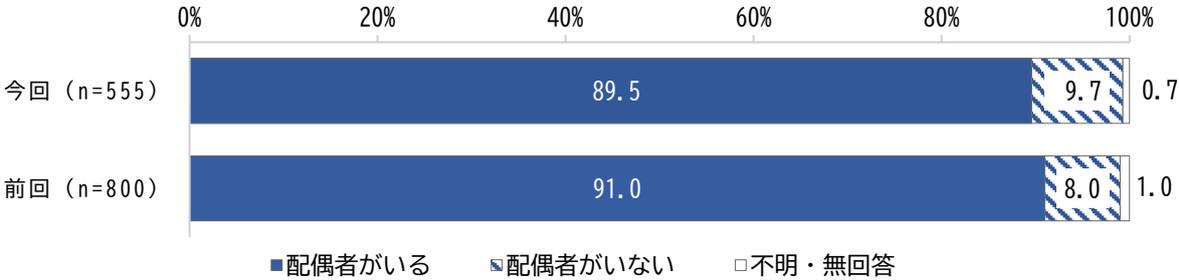
回答者については、「母親」が92.4%で最も高く、次いで「父親」（7.0%）、「その他」（0.5%）と続いています。



【その他】
・祖母 ・おば

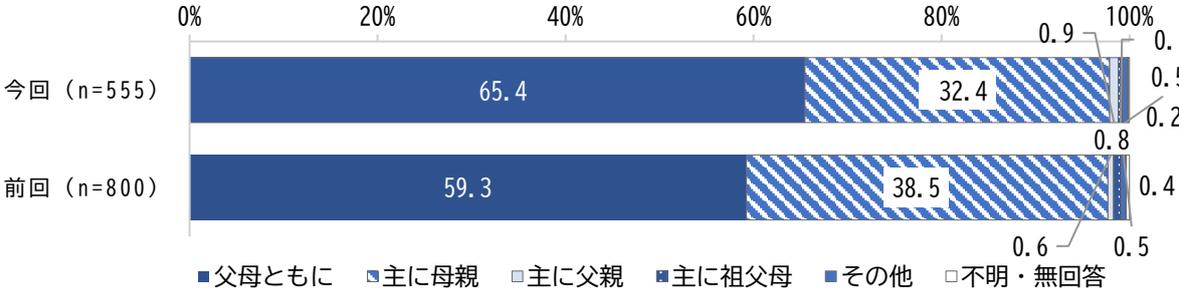
問5 この調査票にご回答いただいている方の配偶関係についてお答えください。(1つに○)

配偶者の有無については、「配偶者がいる」が 89.5%、「配偶者がいない」の 9.7%となっています。



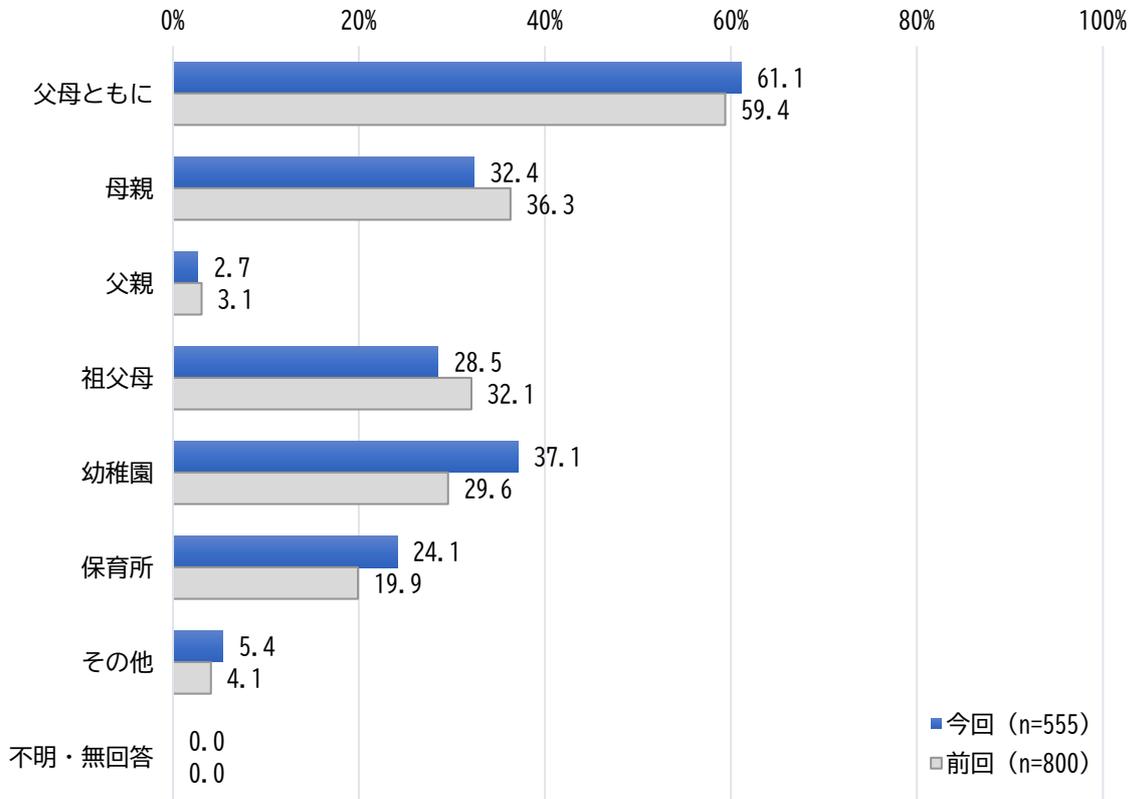
問6 お子さんの子育てや教育を主に行っているのはどなたですか。お子さんからみた関係でお答えください。(1つに○)

主に子育てを行っている人については、「父母ともに」が 65.4%で最も高く、次いで「主に母親」(32.4%)、「主に父親」(0.9%)と続いています。



問7 お子さんの子育てや教育に日常的に関わっている方はどなた（施設）ですか。お子さんから見た関係でお答えください。（あてはまるすべてに○）

子育てや教育に日常的に関わっている人については、「父母ともに」が 61.1%で最も高く、次いで「幼稚園」（37.1%）、「母親」（32.4%）と続いています。



【その他】
 ・曾祖父母 ・おじ ・おば ・託児所 ・療育施設 ・兄弟 ・義母

【母子父子家庭別・家庭類型別】

問7の結果について、母子父子家庭別でみると、[母子家庭]の場合に「祖父母」「幼稚園」「保育所」がほぼ同じ割合になっています。

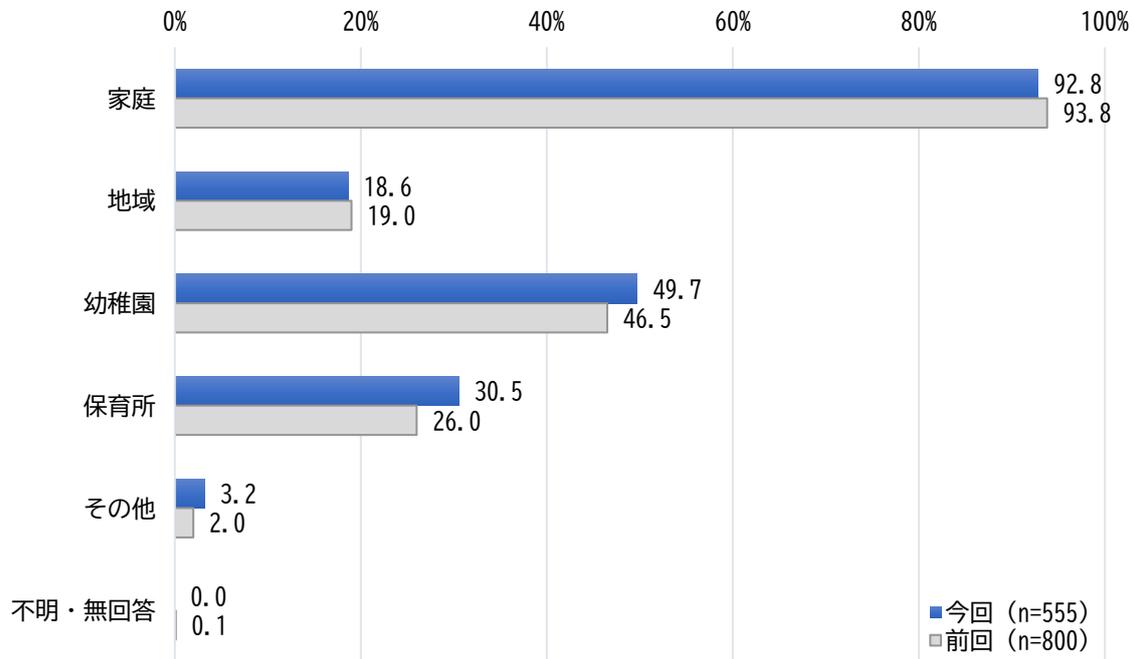
また、家庭類型別でみると、[ひとり親家庭]と「フルタイム×パートタイム（短時間）」をのぞくすべての家庭類型において「父母ともに」が最も高くなっています。

【父子母子家庭別】 上段:件数 下段:%	母子家庭	父子家庭	その他
父母ともに	4 7.8	0 0.0	333 66.7
母親	36 70.6	0 0.0	143 28.7
父親	1 2.0	1 100.0	12 2.4
祖父母	17 33.3	1 100.0	140 28.1
幼稚園	18 35.3	0 0.0	187 37.5
保育所	18 35.3	1 100.0	114 22.8
その他	5 9.8	0 0.0	25 5.0
全体数	51	1	499

【家庭類型別】 上段:件数 下段:%	ひとり親 家庭	フルタイム × フルタイム	フルタイム × パートタイム (長時間)	フルタイム × パートタイム (短時間)	専業主婦 (夫)	パートタイ ム×パート タイム (双方長時 間)	パートタイ ム×パート タイム (いずれか が短時間)	無業× 無業
父母ともに	4 7.7	151 75.5	74 67.9	8 44.4	92 59.4	1 100.0	0 0.0	2 100.0
母親	36 69.2	39 19.5	28 25.7	9 50.0	61 39.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0
父親	2 3.8	5 2.5	2 1.8	2 11.1	3 1.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0
祖父母	18 34.6	63 31.5	25 22.9	7 38.9	39 25.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0
幼稚園	18 34.6	62 31.0	48 44.0	11 61.1	61 39.4	0 0.0	0 0.0	1 50.0
保育所	19 36.5	71 35.5	35 32.1	0 0.0	4 2.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0
その他	5 9.6	6 3.0	8 7.3	1 5.6	5 3.2	0 0.0	0 0.0	1 50.0
全体数	52	200	109	18	155	1	0	2

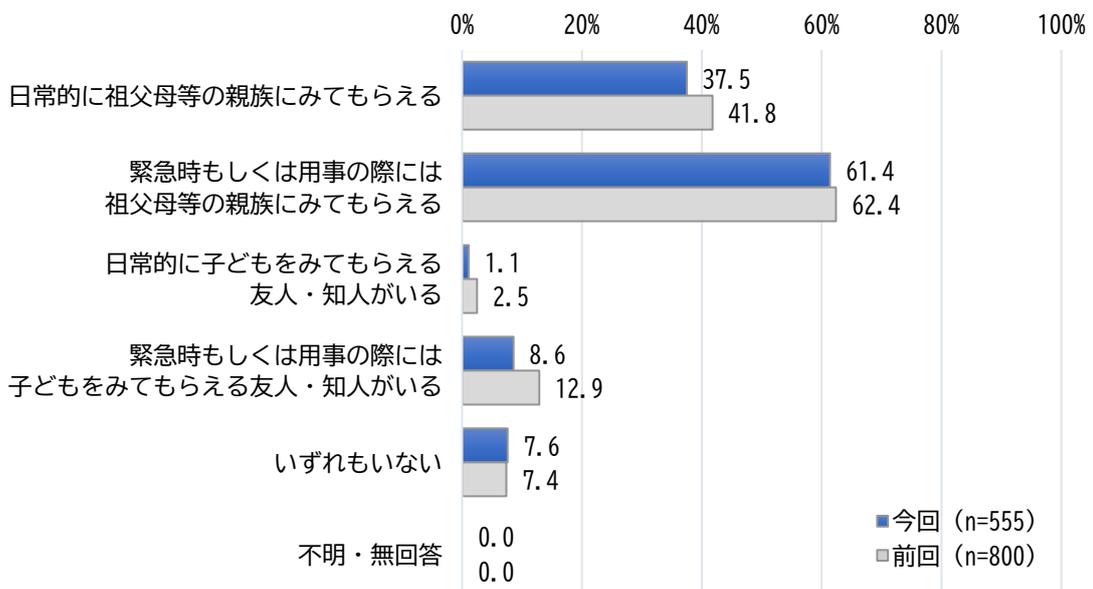
問8 お子さんの子育てや教育に、最も大きく影響すると思われる環境はどれですか。（あてはまるすべてに○）

お子さんの子育てや教育に、最も大きく影響すると思われる環境については、「家庭」が92.8%で最も高く、次いで「幼稚園」（49.7%）、「保育所」（30.5%）と続いています。



問9 日頃、お子さんをみてもらえる親族・知人はいますか。（あてはまるすべてに○）

子どもをみてもらえる親族・知人については、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が61.4%で最も高く、次いで「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」（37.5%）、「緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる」（8.6%）と続いています。



【母子父子家庭別・家庭類型別】

問9の結果について、母子父子家庭別でみると、[母子家庭]の場合に「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が「その他」と比べて高くなっています。

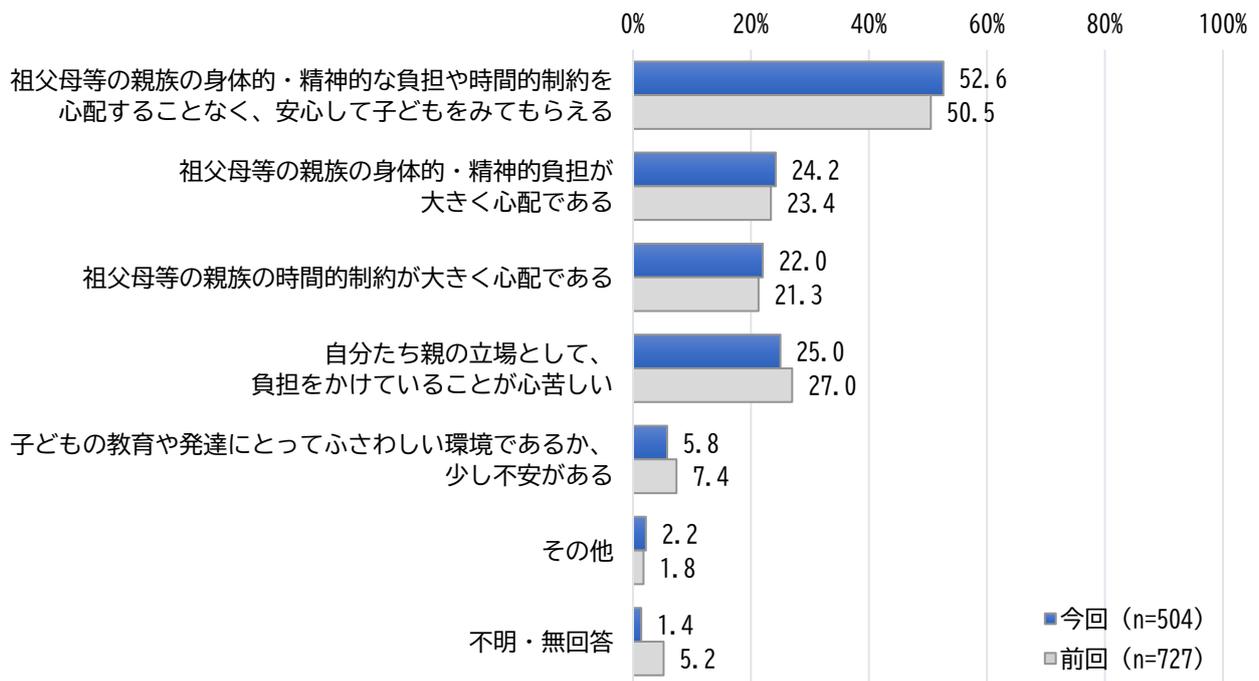
また、家庭類型別でみると、[ひとり親家庭]と「フルタイム×パートタイム（短時間）」「パートタイム×パートタイム（双方長時間）」をのぞくすべての家庭類型において「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が最も高くなっています。

【父子母子家庭別】 上段:件数 下段:%	母子家庭	父子家庭	その他
日常的に祖父母等の親族にみてもらえる	31 60.8	0 0.0	174 34.9
緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる	25 49.0	1 100.0	314 62.9
日常的に子どもをみてもらえる友人・知人がいる	0 0.0	0 0.0	6 1.2
緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる	6 11.8	0 0.0	41 8.2
いずれもない	0 0.0	0 0.0	42 8.4
不明・無回答	0 0.0	0 0.0	0 0.0
全体数	51	1	499

【家庭類型別】 上段:件数 下段:%	ひとり親家庭	フルタイム×フルタイム	フルタイム×パートタイム（長時間）	フルタイム×パートタイム（短時間）	専業主婦（夫）	パートタイム×パートタイム（双方長時間）	パートタイム×パートタイム（いずれかが短時間）	無業×無業
日常的に祖父母等の親族にみてもらえる	31 59.6	68 34.0	30 27.5	11 61.1	59 38.1	1 100.0	0 0.0	0 0.0
緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる	26 50.0	135 67.5	74 67.9	6 33.3	89 57.4	0 0.0	0 0.0	2 100.0
日常的に子どもをみてもらえる友人・知人がいる	0 0.0	1 0.5	0 0.0	1 5.6	3 1.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0
緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる	6 11.5	15 7.5	7 6.4	1 5.6	18 11.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0
いずれもない	0 0.0	12 6.0	11 10.1	2 11.1	16 10.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0
不明・無回答	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
全体数	52	200	109	18	155	1	0	2

問9-1 【問9で「1 日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」または「2 緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」を選択した方にお伺いします。】
 祖父母等の親族にお子さんをみてもらっている状況についてお答えください。
 （あてはまるすべてに○）

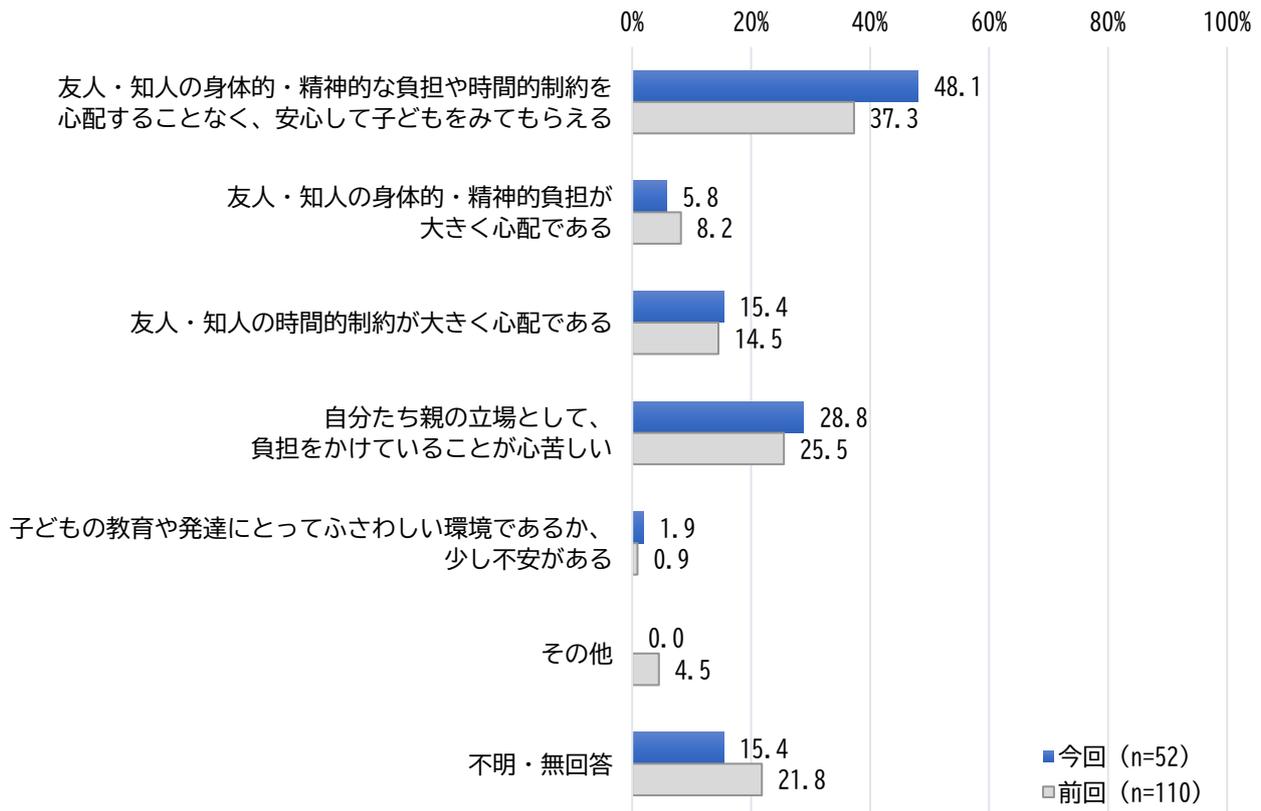
祖父母等の親族に子どもをみてもらっている状況については、「祖父母等の親族の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」が52.6%で最も高く、次いで「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」（25.0%）、「祖父母等の親族の身体的・精神的負担が大きく心配である」（24.2%）と続いています。



問9-2

【問9で「3 日常的に子どもをみてもらえる友人・知人がいる」または「4 緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる」を選択した方にお伺いします。】
友人・知人にお子さんをみてもらっている状況についてお答えください。
(あてはまるすべてに○)

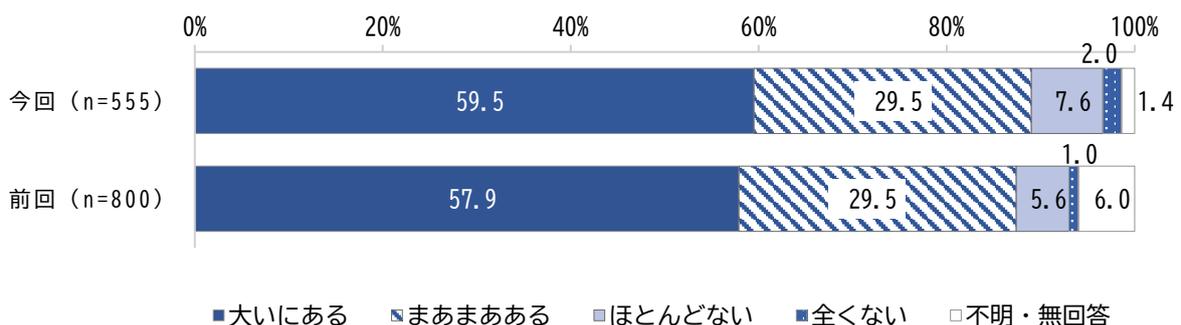
友人・知人に子どもをみてもらっている状況については、「友人・知人の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」が48.1%で最も高く、次いで「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」(28.8%)、「友人・知人の時間的制約が大きく心配である」(15.4%)と続いています。



問10

周囲の人に支えてもらって子育てをしているという実感がありますか。(1つに○)

周囲の人に支えてもらって子育てをしているという実感については、「大いにある」が59.5%で最も高く、次いで「まあまあある」(29.5%)、「ほとんどない」(7.6%)と続いています。



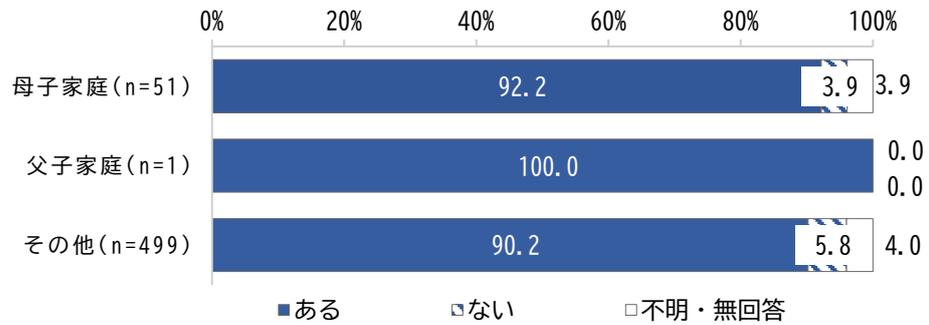
問 11 お子さんの子育てや教育をする上で、気軽に相談できる先はありますか。（1つに○）

子育てや教育をする上で、気軽に相談できる先については、「ある」が90.3%、「ない」が5.8%となっています。

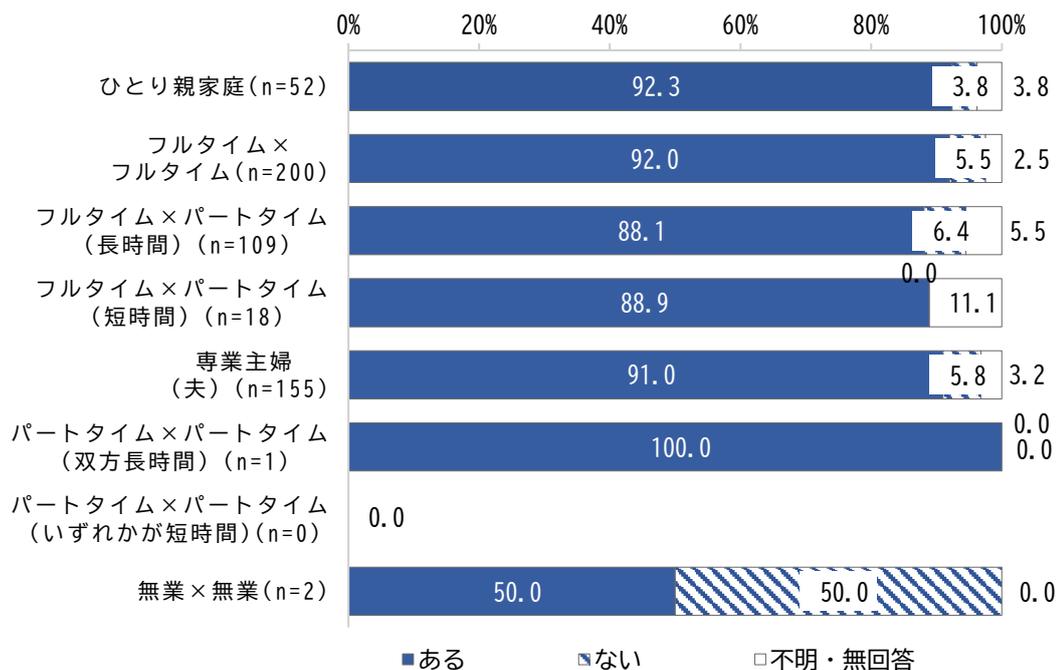
家庭類型別でみると、「無業×無業」をのぞくすべての家庭類型において「ある」が9割程度と高くなっています。



【母子父子家庭別】



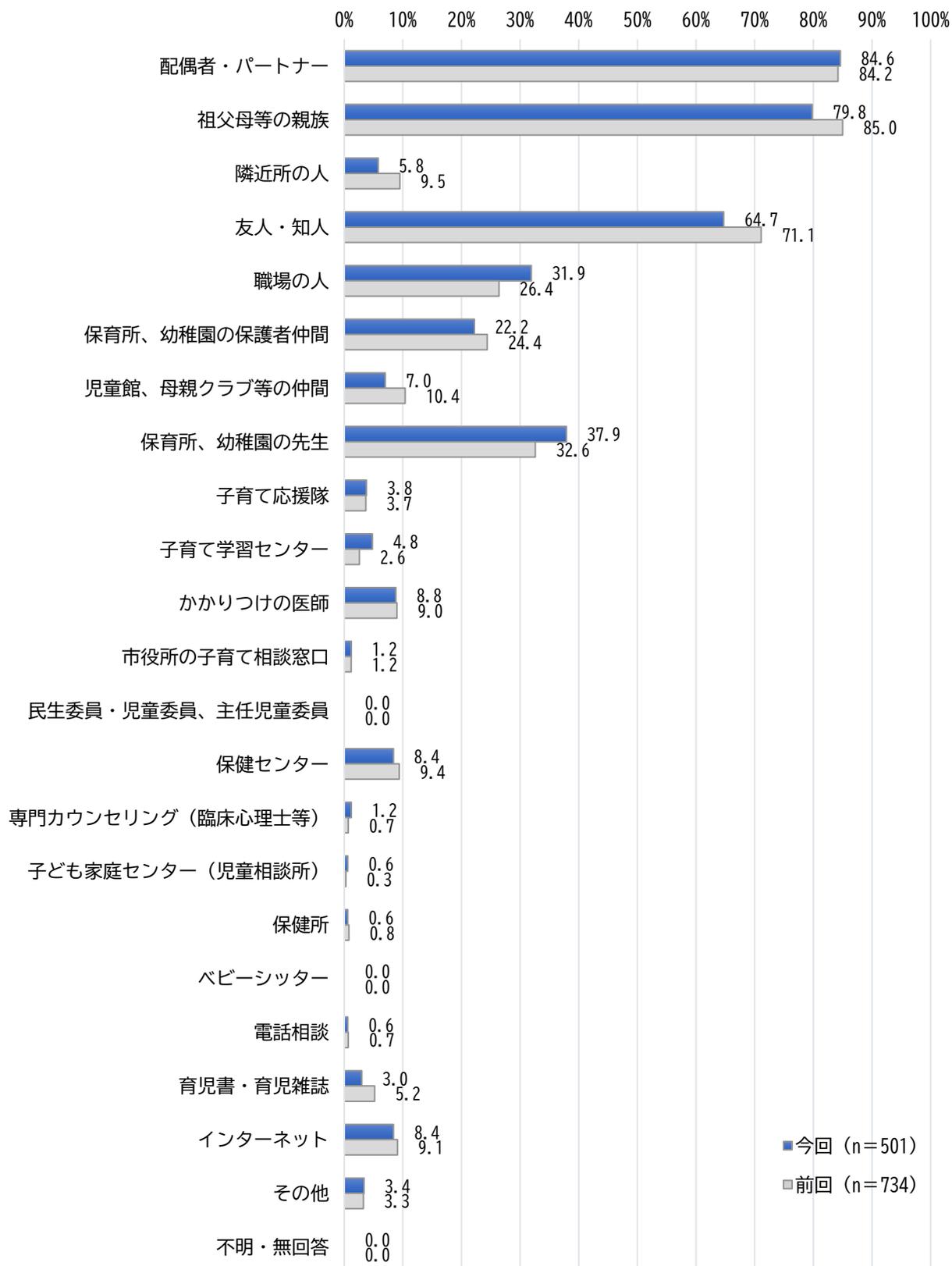
【家庭類型別】



問 11-1

【問11で「1 ある」を選択した方にお伺いします。】
 お子さんの子育てや教育に関して、気軽に相談できる先は、誰（どこ）ですか。
 （あてはまるすべてに○）

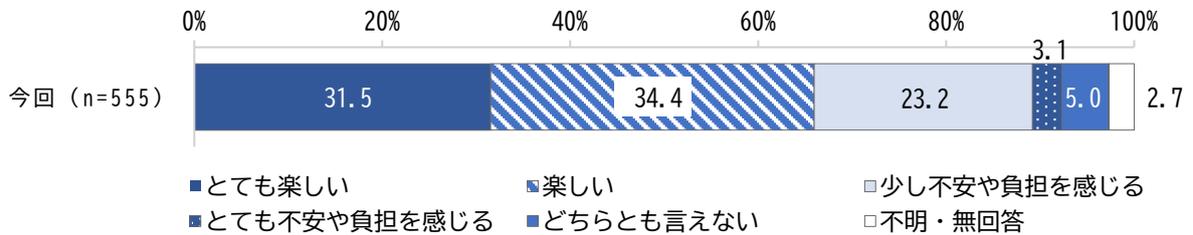
お子さんの子育てや教育に関して、気軽に相談できる先については、「配偶者・パートナー」が 84.6%で最も高く、次いで「祖父母等の親族」(79.8%)、「友人・知人」(64.7%)と続いています。



問 12

あなたは子育てについて全体的にどのように感じていますか。（1つに○）

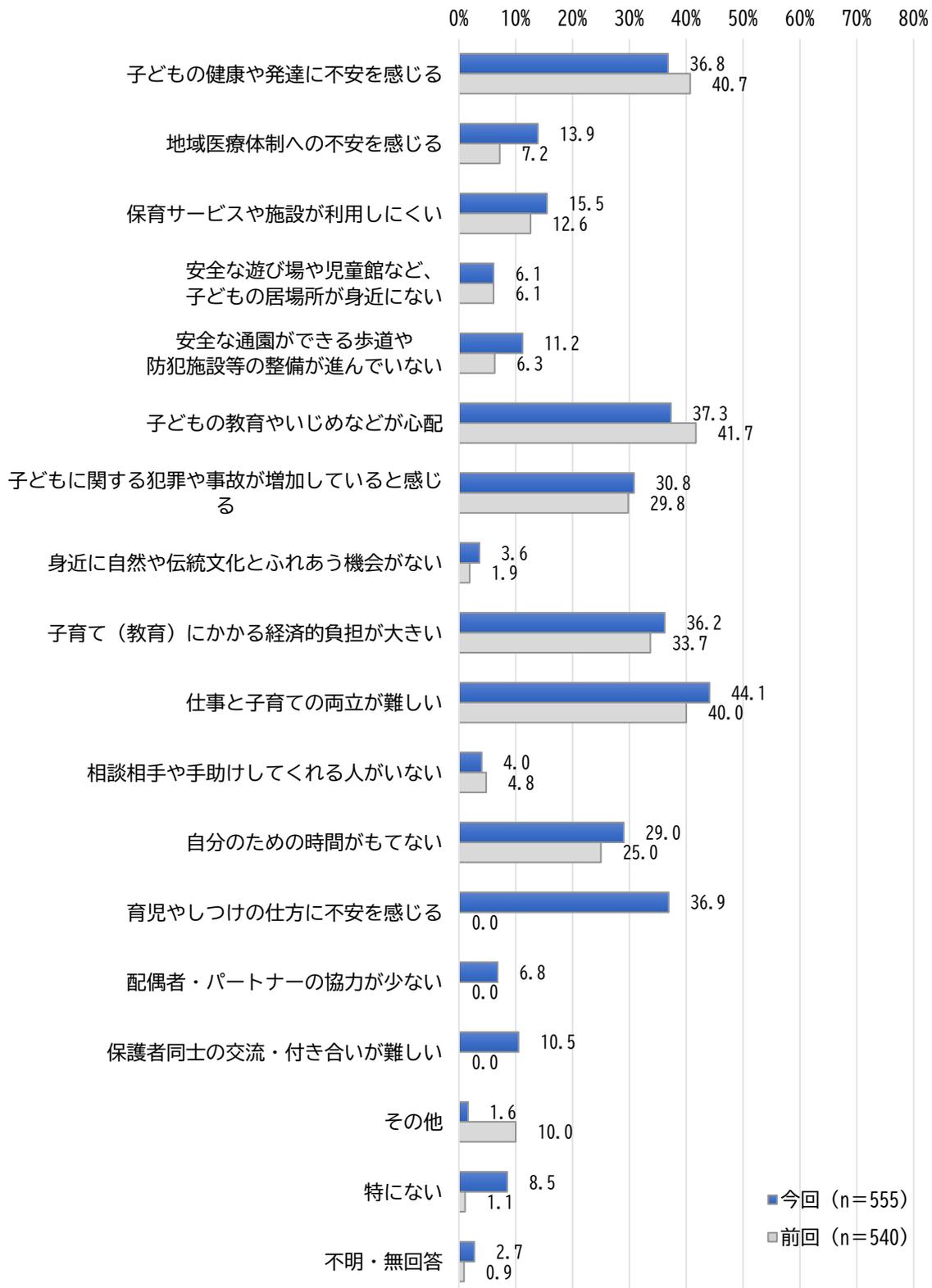
子育てについて全体的にどのように感じていますかについては、「楽しい」が 34.4%で最も高く、次いで「とても楽しい」(31.5%)、「少し不安や負担を感じる」(23.2%)と続いています。



問 13

あなたは、子育てについてどのような不安や負担を感じることがありますか。
(あてはまるすべてに○)

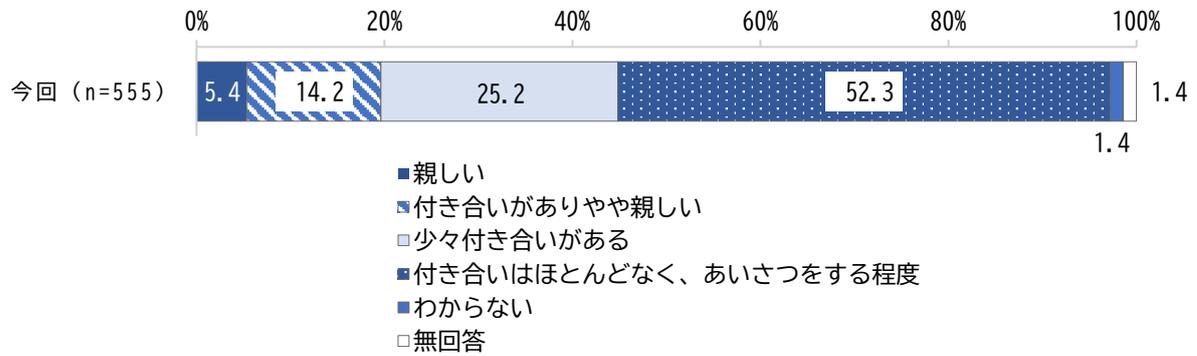
子育てについてどのような不安や負担があるかについては、「仕事と子育ての両立が難しい」が44.1%で最も高く、次いで「子どもの教育やいじめなどが心配」(37.3%)、「育児やしつけの仕方に不安を感じる」(36.9%)と続いています。



問 14

ご近所や地域の人々とのお付き合いはどのような状況ですか。（1つに○）

ご近所や地域の人々との付き合いについては、「付き合いはほとんどなく、あいさつをする程度」が 52.3%で最も高く、次いで「少々付き合いがある」（25.2%）、「付き合いがありやや親しい」（14.2%）と続いています。



お子さんの保護者の就労状況について

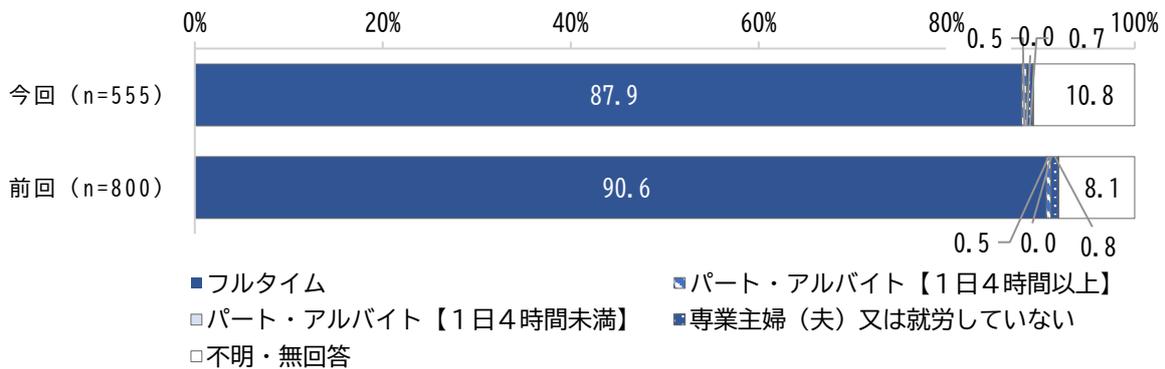
問 15①

お子さんの保護者の就労状況（自営業、家族従事者含む）について現在の状況をお答えください。（1つに○）

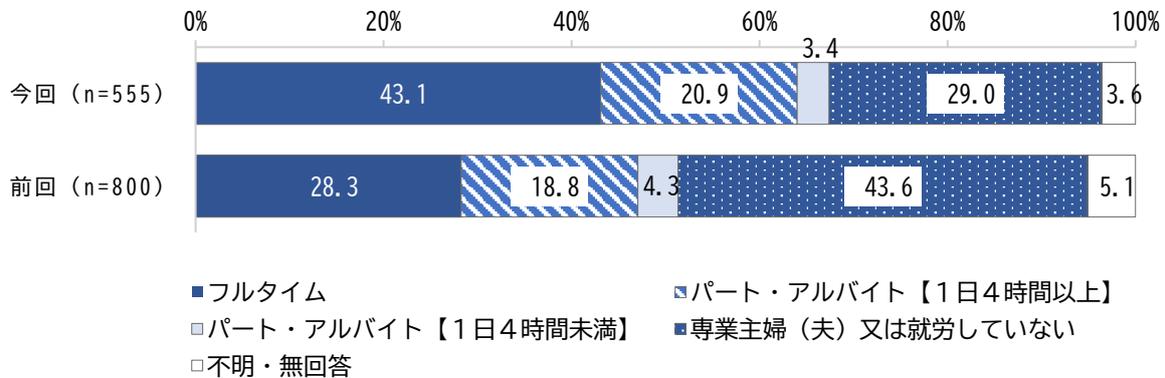
父親の現在の就労状況については、「フルタイム（週5日・1日8時間程度）で就労している」が87.9%で最も高くなっています。

母親については、「フルタイム（週5日・1日8時間程度）で就労している」が43.1%で最も高く、次いで「専業主婦又は就労していない」（29.0%）、「パート・アルバイト（1日4時間以上）で就労している」（20.9%）と続いています。

【父親】



【母親】

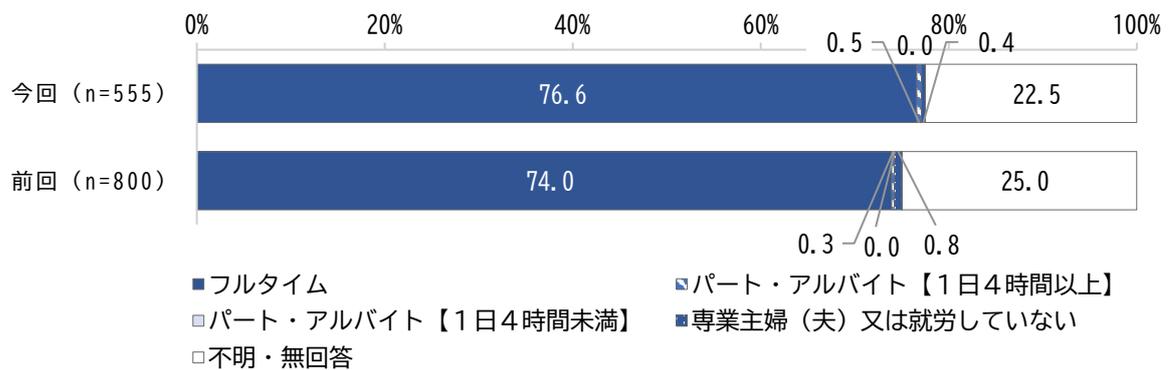


問 15② お子さんの保護者の就労状況（自営業、家族従事者含む）について1年以内の見込み（実現見込みがある）をお答えください。（1つに○）

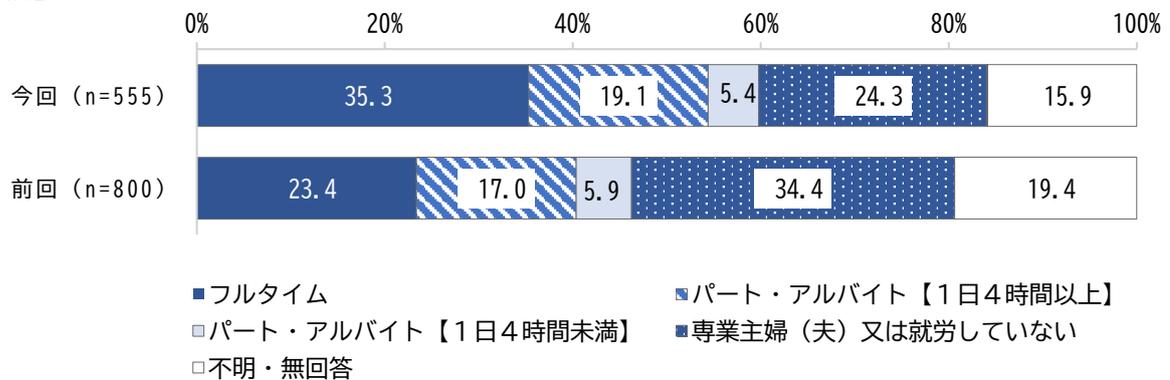
父親の1年以内の見込み（現実見込みがある）就労状況（自営業・家族従事者含む）については、「フルタイム（週5日・1日8時間程度）で就労している」が76.6%で最も高くなっています。

母親については、「フルタイム（週5日・1日8時間程度）で就労している」が35.3%で最も高く、次いで「専業主婦又は就労していない」（24.3%）、「パート・アルバイト（1日4時間以上）で就労している」（19.1%）と続いています。

【父親】



【母親】



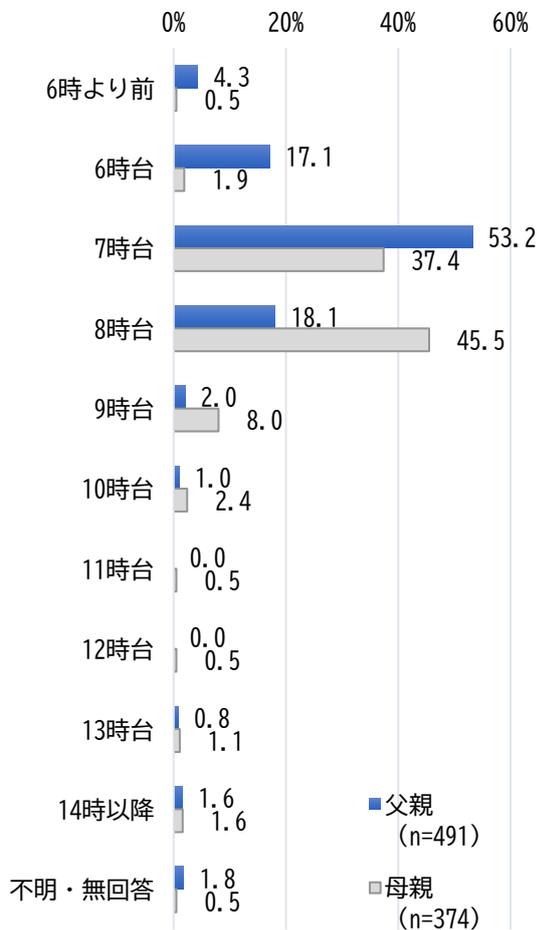
問 15-1

【問15の①で「1 フルタイム【週5日・1日8時間程度】」「2 パート・アルバイト【1日4時間以上】」「3 パート・アルバイト【1日4時間未満】」を選択した方にお伺いします。
家を出る時間と帰宅時間を [] 内に数字でご記入ください。

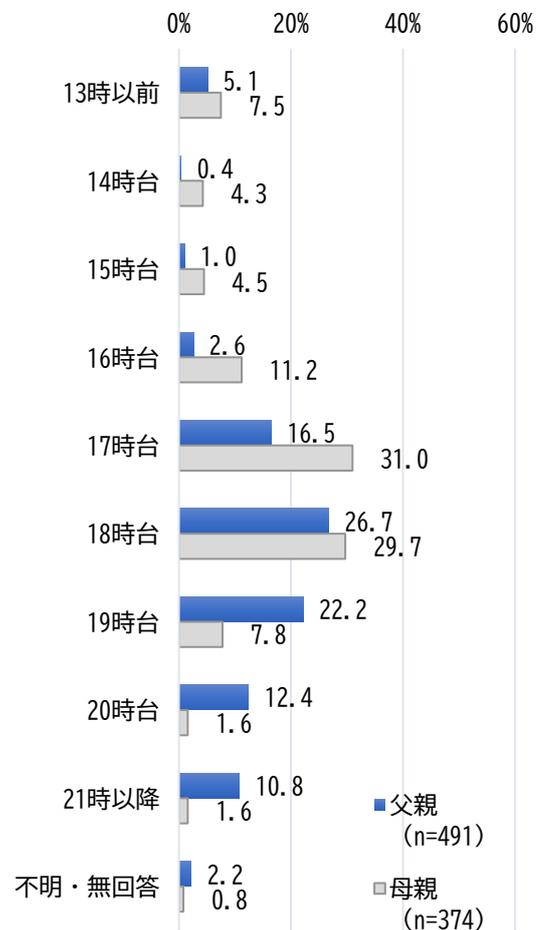
家を出る時間については、父親は「7 時台」が 53.2%で最も高く、次いで「8 時台」(18.1%)、「6 時台」(17.1%)と続いています。また、母親については「8 時台」が 45.5%で最も高く、次いで「7 時台」(37.4%)、「9 時台」(8.0%)と続いています。

帰宅時刻については、父親は「18 時台」が 26.7%で最も高く、次いで「19 時台」(22.2%)、「17 時台」(16.5%)と続いています。また、母親については「17 時台」が 31.0%で最も高く、次いで「18 時台」(29.7%)、「16 時台」(11.2%)と続いています。

■家を出る時間

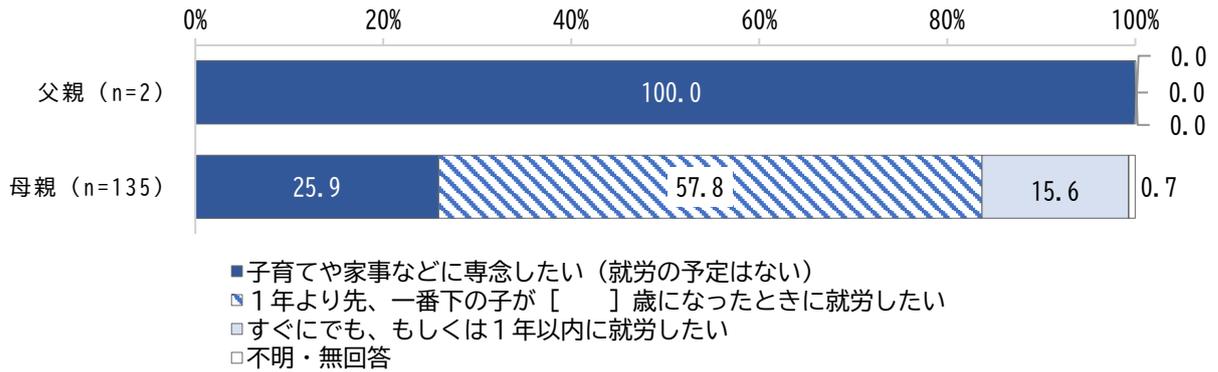


■帰宅時間



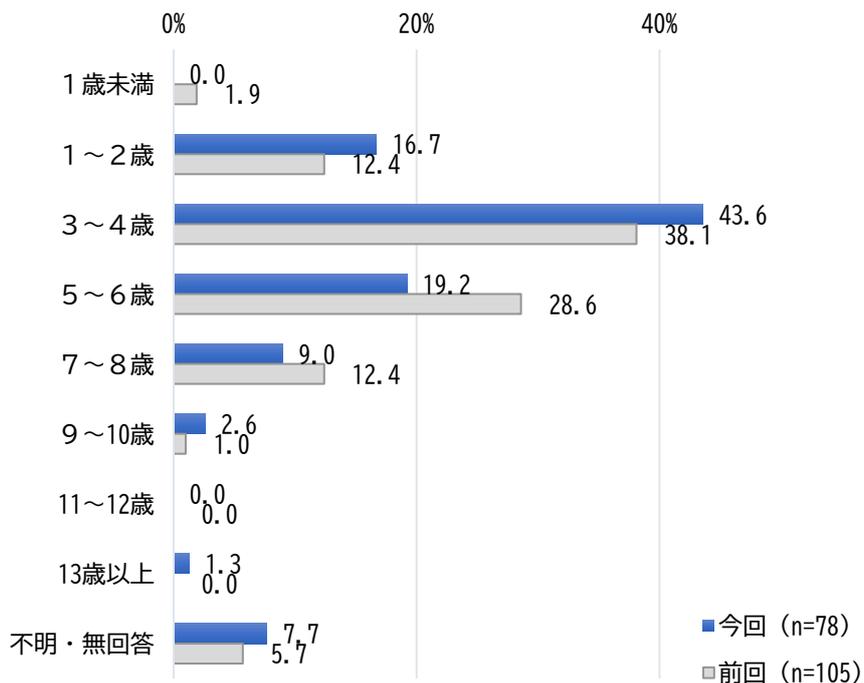
問 15-2 【問15の②で「4 専業主婦（夫）又は就労していない」を選択した方にお伺いします。
1年よりも先、将来的な就労予定はありますか。
（1つに○。[] 内に数字をご記入ください。）

将来的な就労予定については、父親は「子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）」が100.0%となっています。また、母親については「1年よりも先、一番下の子が[]歳になったときに就労したい」が57.8%で最も高く、次いで「子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）」（25.9%）、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」（15.6%）と続いています。



問 15-2① 【問15-2で「2 1年よりも先、一番下の子が[]歳になったときに就労したい」を選択した方にお伺いします。
就労予定時の一番下の子どもの年齢をご記入ください。
（[] 内に数字をご記入ください。）

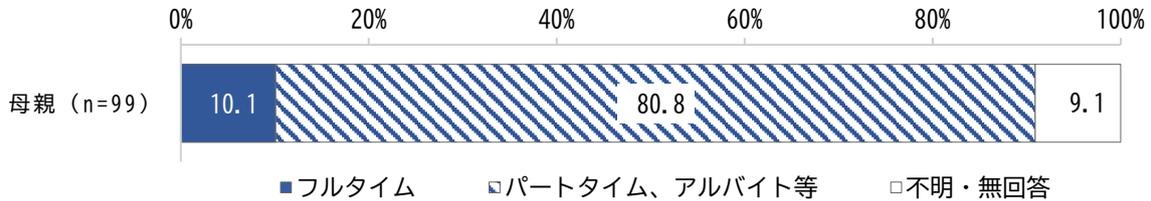
就労予定時の一番下の子どもの年齢については、母親の場合は「3～4歳」が43.6%で最も高く、次いで「5～6歳」（19.2%）、「1～2歳」（16.7%）と続いています。父親については有効回答がありませんでした。



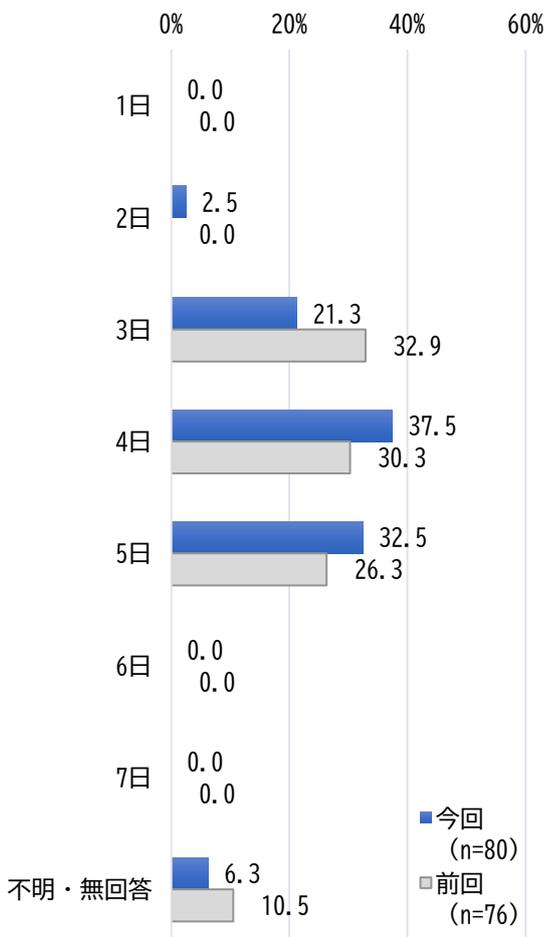
問 15-2 ②

【問15-2で「3 すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」を選択した方にお伺いします。】
 希望する就労形態をお答えください。（1つに○）

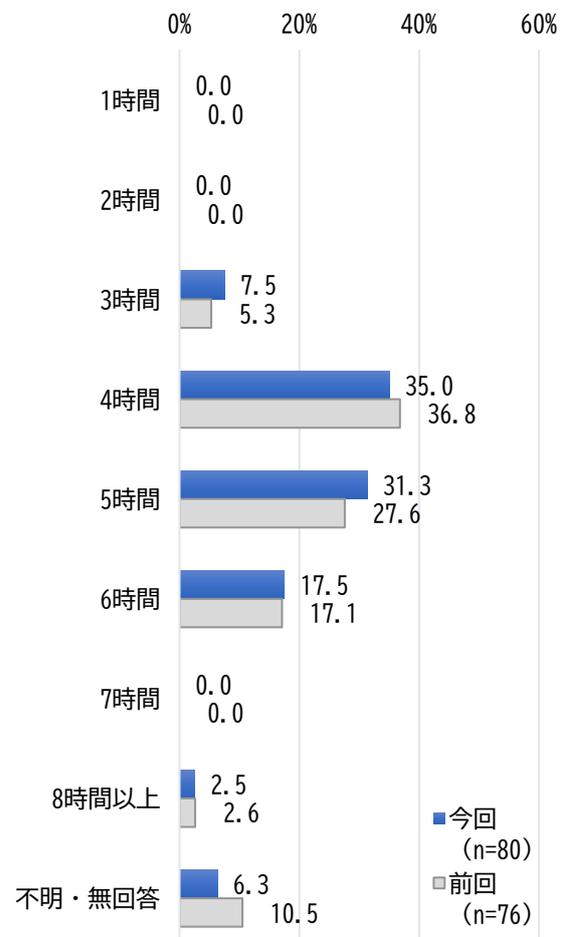
希望する就労形態については、母親では「パートタイム、アルバイト等（「1」以外）」が 80.8%で、「フルタイム（1週5日程度、1日8時間程度の労働）」が 10.1%となっています。父親については有効回答がありませんでした。



【母親のパートタイム1週間あたりの勤務日数見込み】



【母親のパートタイム1日あたりの勤務時間見込み】



平日の定期的な教育・保育事業の利用について

問 16

お子さんは現在、幼稚園や保育所などの「定期的な教育・保育の事業」を利用されていますか。（1つに○）

幼稚園や保育所などの「定期的な教育・保育の事業」の利用については、「利用している」が74.6%、「利用していない」が23.1%となっています。

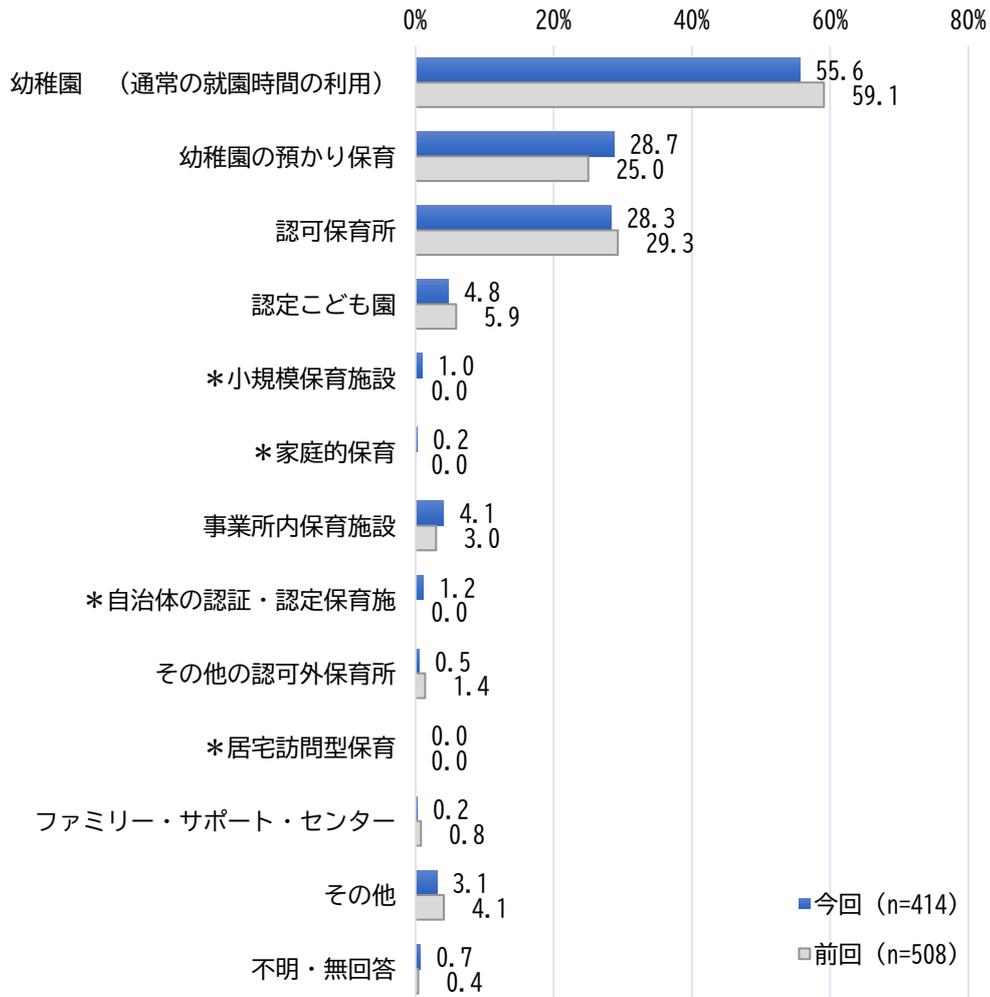


問 16-1

【問16で「1 利用している」を選択した方にお伺いします。】

お子さんは、平日どのような教育・保育の事業を利用されていますか。年間を通じて「定期的に」利用されている事業をお答えください。(あてはまるすべてに○)

年間を通じて「定期的に」利用している事業については、「幼稚園（通常の就園時間の利用）」が55.6%で最も高く、次いで「幼稚園の預かり保育(通常の就園時間を延長して預かる事業のうち定期的な利用のみ)」(28.7%)、「認可保育所（国が定める最低基準に適合した施設で都道府県等の認可を受けた定員 20 人以上のもの）」(28.3%)と続いています。



*の選択肢については前回調査に項目なし

【母子父子家庭別・家庭類型別】

問 16-1 の結果について、母子父子家庭別でみると、[母子家庭]「その他」の場合に「幼稚園」が最も高くなっています。

また、家庭類型別でみると、「フルタイム×フルタイム」と「パートタイム×パートタイム（双方長時間）」をのぞくすべての家庭類型において「幼稚園」が最も高くなっています。

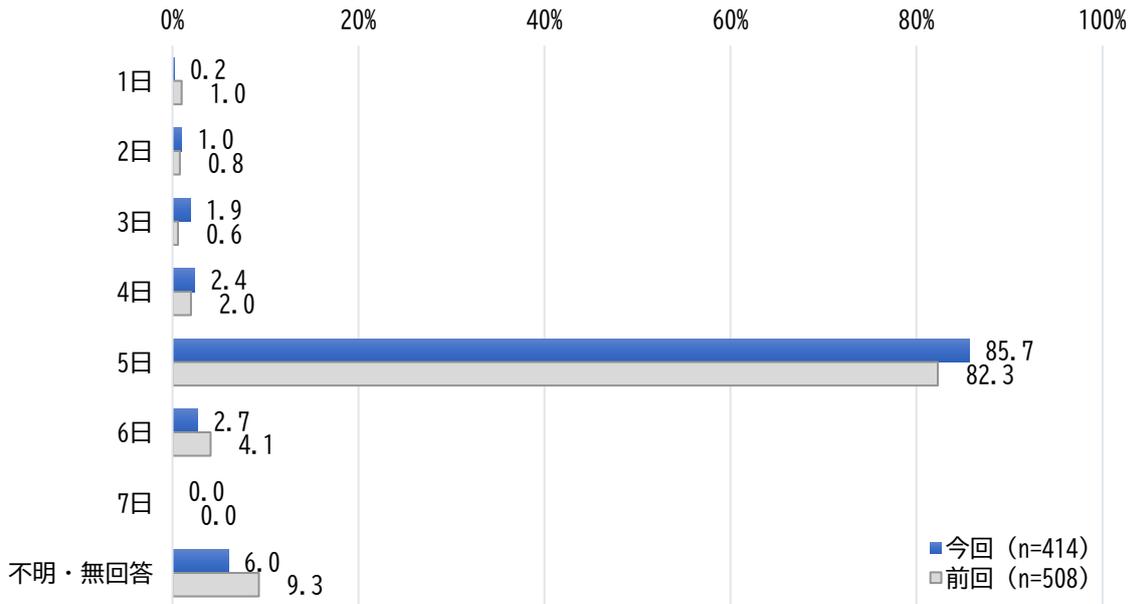
【父子母子家庭別】 上段:件数 下段:%	母子家庭	父子家庭	その他
幼稚園（通常の就園時間の利用）	19 44.2	0 0.0	209 56.9
幼稚園の預かり保育	16 37.2	0 0.0	102 27.8
認可保育所	12 27.9	1 100.0	103 28.1
認定こども園	1 2.3	0 0.0	19 5.2
小規模保育施設	2 4.7	0 0.0	2 0.5
家庭的保育	0 0.0	0 0.0	1 0.3
事業所内保育施設	3 7.0	0 0.0	14 3.8
自治体の認証・認定保育施設	3 7.0	0 0.0	2 0.5
その他の認可外保育所	0 0.0	0 0.0	2 0.5
居宅訪問型保育	0 0.0	0 0.0	0 0.0
ファミリー・サポート・センター	0 0.0	0 0.0	1 0.3
その他	1 2.3	0 0.0	12 3.3
不明・無回答	1 2.3	0 0.0	2 0.5
全体数	43	1	367

【家庭類型別】 上段:件数 下段:%	ひとり親 家庭	フルタイム × フルタイム	フルタイム × パートタイム (長時間)	フルタイム × パートタイム (短時間)	専業主婦 (夫)	パートタイム ×パート タイム (双方長時 間)	パートタイム ×パート タイム (いずれか が短時間)	無業× 無業
幼稚園 (通常の就園時間の利用)	19 43.2	55 35.3	54 55.7	12 100.0	84 91.3	0 0.0	0 0.0	1 100.0
幼稚園の預かり保育	16 36.4	52 33.3	43 44.3	4 33.3	3 3.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0
認可保育所	13 29.5	68 43.6	30 30.9	0 0.0	3 3.3	1 100.0	0 0.0	0 0.0
認定こども園	1 2.3	12 7.7	2 2.1	0 0.0	5 5.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0
小規模保育施設	2 4.5	2 1.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
家庭的保育	0 0.0	1 0.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
事業所内保育施設	3 6.8	6 3.8	6 6.2	1 8.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
自治体の認証・ 認定保育施設	3 6.8	2 1.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
その他の認可外保育所	0 0.0	1 0.6	1 1.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
居宅訪問型保育	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
ファミリー・サポート・ センター	0 0.0	0 0.0	1 1.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
その他	1 2.3	3 1.9	3 3.1	1 8.3	4 4.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0
不明・無回答	1 2.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
全体数	44	156	97	12	92	1	0	1

問 16-2 ① 【問16で「1 利用している」を選択した方にお伺いします。】
 問16-1で○をつけた事業を、現在、どのくらい利用されていますか。
 ([]内に数字を記入)

事業の現在の利用頻度については、「5日」が85.7%で最も高く、次いで「6日」(2.7%)、「4日」(2.4%)と続いています。

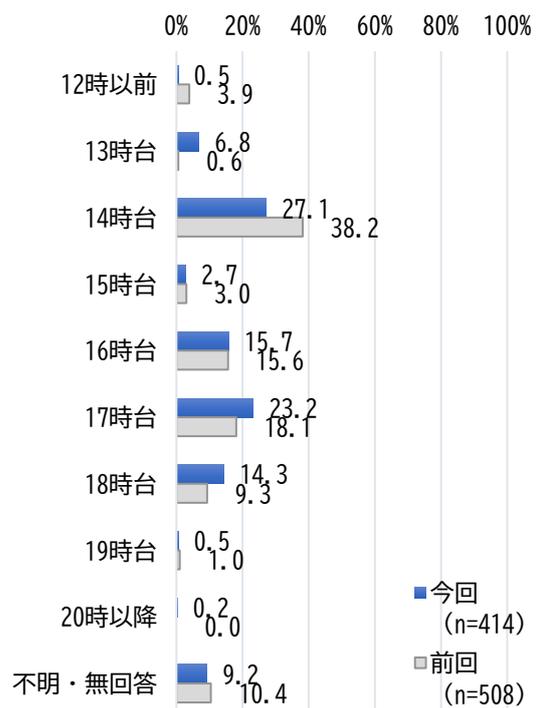
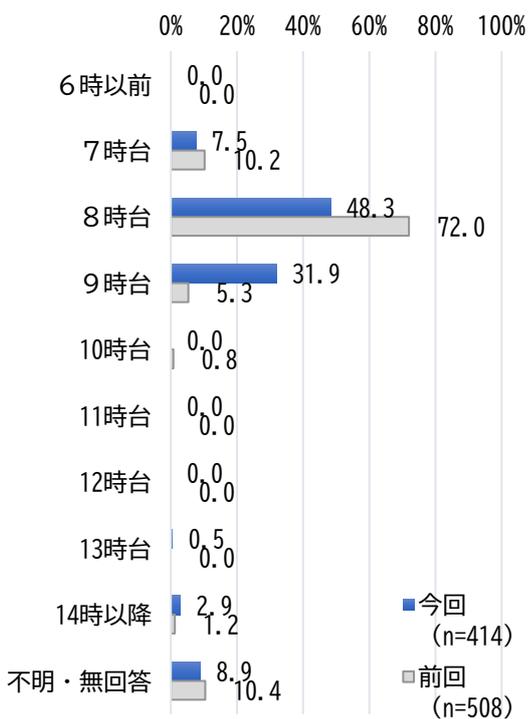
1日あたりの利用時間は、利用開始時間では「8時台」が48.3%で最も高く、次いで「9時台」(31.9%)、「7時台」(7.5%)と続いています。また、利用終了時間については「14時台」が27.1%で最も高く、次いで「17時台」(23.2%)、「16時台」(15.7%)と続いています。



【1日あたりの利用時間】

■ 利用開始時間

■ 利用終了時間

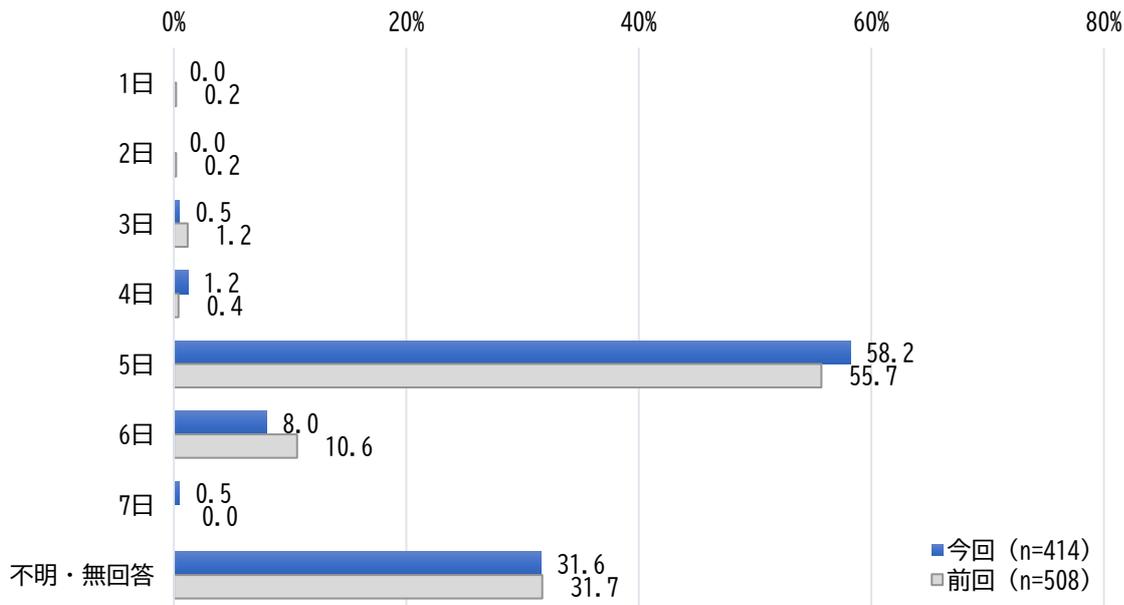


問 16-2 ②

【問16で「1 利用している」を選択した方にお伺いします。】
 問16-1で○をつけた事業を、希望としてはどのくらい利用したいですか。
 ([]内に数字を記入)

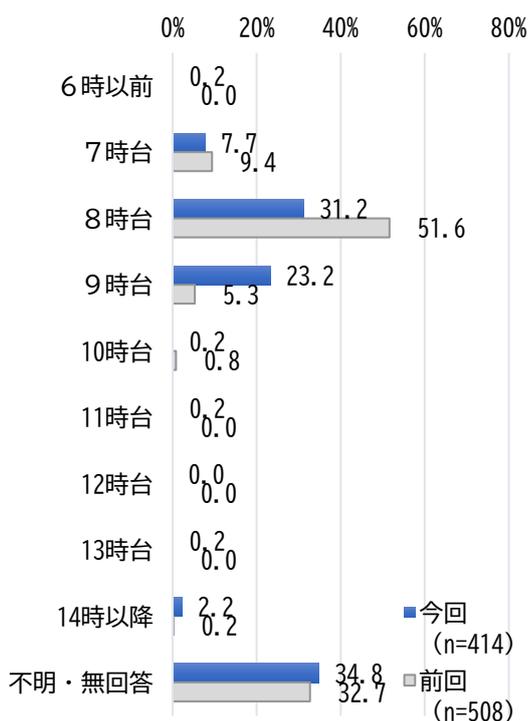
事業の希望利用頻度については、「5日」が58.2%で最も高く、次いで「6日」(8.0%)、「4日」(1.2%)と続いています。

1日あたりの利用時間は、利用開始時間では「8時台」が31.2%で最も高く、次いで「9時台」(23.2%)、「7時台」(7.7%)と続いています。また、利用終了時間については「17時台」が15.5%で最も高く、次いで「16時台」(13.3%)、「18時台」(12.3%)と続いています。

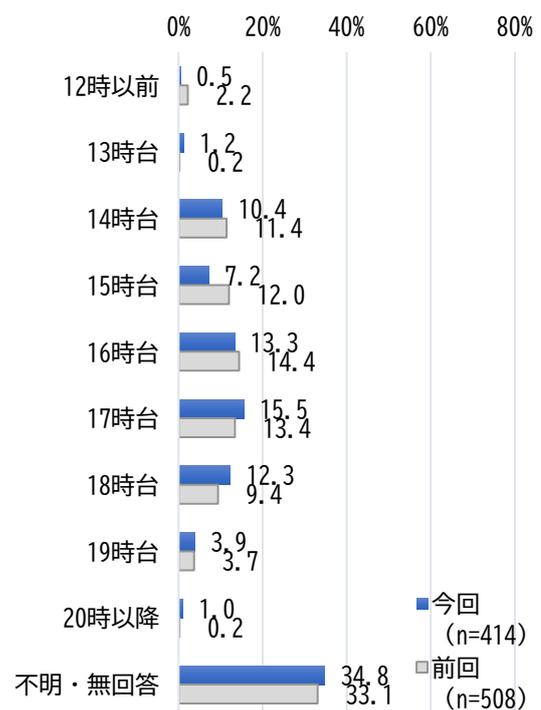


【1日あたりの利用時間】

■利用開始時間



■利用終了時間



問 16-3

【問16で「1 利用している」を選択した方にお伺いします。】
 現在、利用されている教育・保育事業の場所はどこですか。（1つに○。赤穂市外を選択された方は、利用している市町名を（ ）内にご記入ください。）

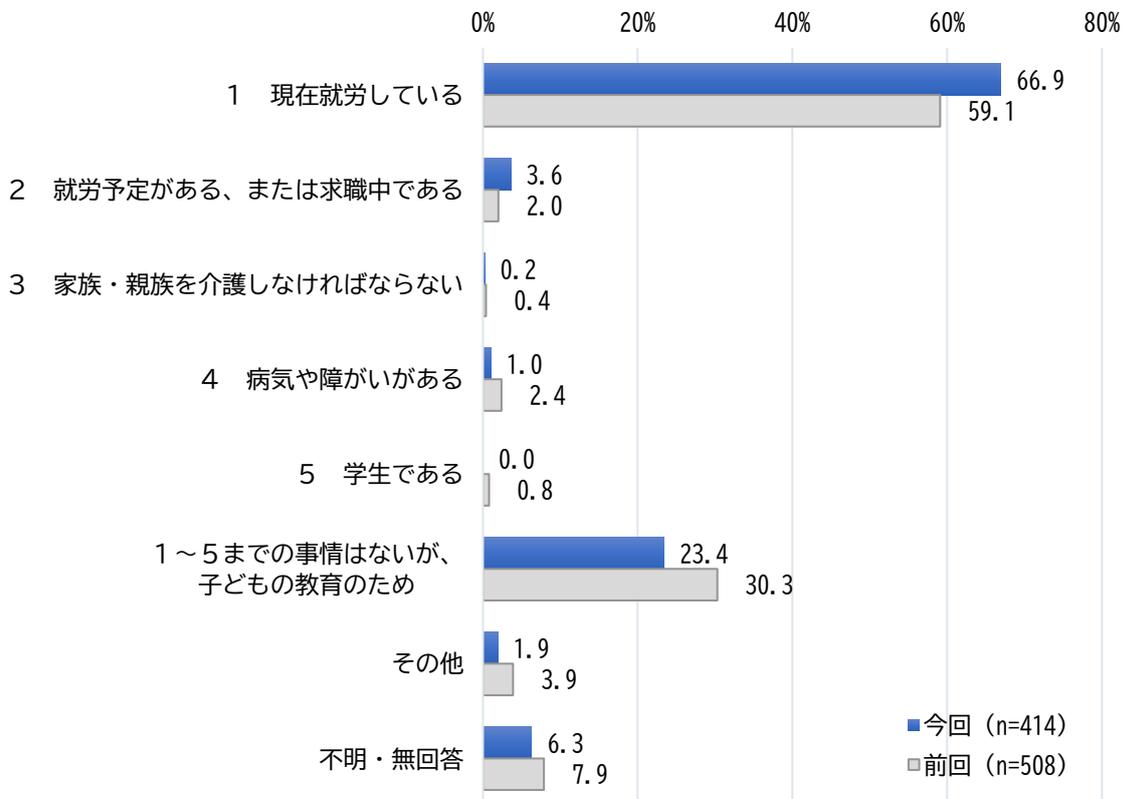
現在利用している教育・保育事業の場所については、「赤穂市内」が94.4%、「赤穂市外」が1.0%となっています。



問 16-4

【問16で「1 利用している」を選択した方にお伺いします。】
 事業を利用されている理由は何ですか。（あてはまるすべてに○）

事業を利用している理由については、「現在就労している」が66.9%で最も高く、次いで「1～5までの事情はないが、子どもの教育のため」(23.4%)、「就労予定がある、または求職中である」(3.6%)と続いています。

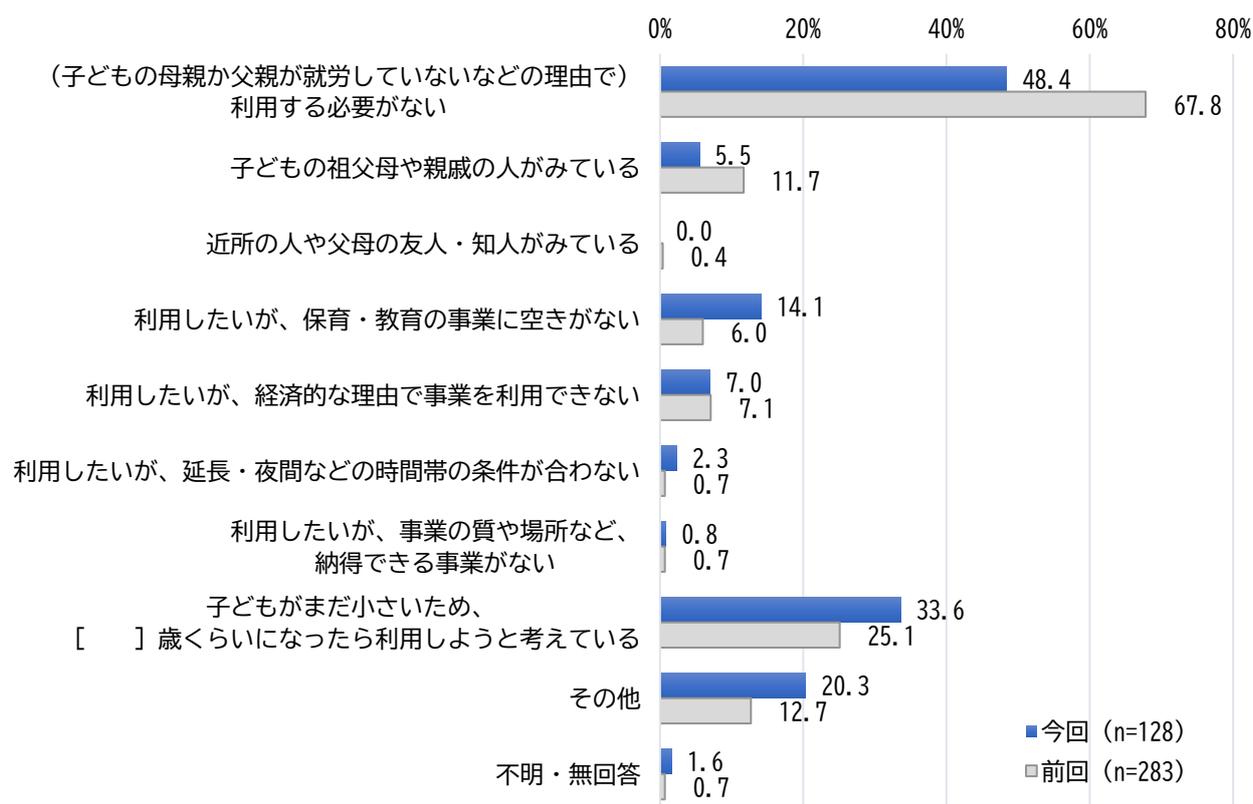


問 16-5

【問16で「2 利用していない」を選択した方にお伺いします。】
事業を利用していない理由は何ですか。(あてはまるすべてに○)

事業を利用していない理由については、「(子どもの母親か父親が就労していないなどの理由で) 利用する必要がない」が48.4%で最も高く、次いで「子どもがまだ小さいため、[] 歳くらいになったら利用しようと考えている」(33.6%)、「利用したいが、保育・教育の事業に空きがない」(14.1%)と続いています。

家庭類型別でみると、「フルタイム×パートタイム(長時間)」をのぞくすべての家庭類型において「利用する必要がない」が最も高くなっています。



【家庭類型別】

【家庭類型別】 上段:件数 下段:%	ひとり親 家庭	フルタイム × フルタイム	フルタイム × パートタイム (長時間)	フルタイム × パートタイム (短時間)	専業主婦 (夫)	パートタイム ×パート タイム (双方長時 間)	パートタイム ×パート タイム (いずれか が短時間)	無業× 無業
利用する必要がない	2 33.3	14 33.3	0 0.0	2 50.0	42 68.9	0 0.0	0 0.0	1 100.0
子どもの祖父母や親戚の人がみている	1 16.7	0 0.0	1 10.0	1 25.0	3 4.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0
近所の人や父母の友人・知人がみている	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
利用したいが、保育・教育の事業に空きがない	1 16.7	4 9.5	5 50.0	1 25.0	7 11.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0
利用したいが、経済的な理由で事業を利用できない	1 16.7	1 2.4	0 0.0	0 0.0	7 11.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0
利用したいが、延長・夜間などの時間帯の条件が合わない	0 0.0	1 2.4	0 0.0	1 25.0	1 1.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0
利用したいが、事業の質や場所など、納得できる事業がない	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 1.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0
子どもがまだ小さいため、 [] 歳くらいになったら利用しようと考えている	2 33.3	17 40.5	2 20.0	1 25.0	21 34.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0
その他	1 16.7	11 26.2	3 30.0	2 50.0	7 11.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0
不明・無回答	1 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 1.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0
全体数	6	42	10	4	61	0	0	1

問 17

現在、利用している、利用していないにかかわらず、お子さんの平日の幼稚園や保育所利用などのうち、「定期的に」利用したいものをお答えください
(あてはまるすべてに○)

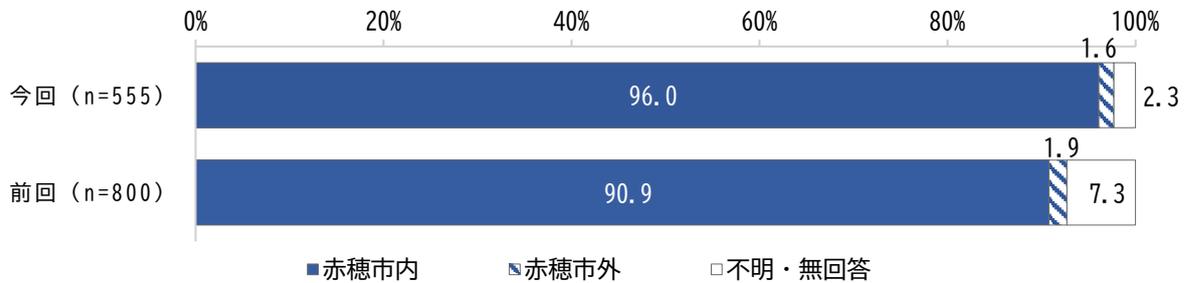
定期的に利用したい事業についてみると、2～3歳の場合は「認可保育園」が高くなっています。その他の年齢では「幼稚園」が高くなっています。

年 齢 別	0 歳		1 歳		2 歳		3 歳		4 歳		5 歳	
	n=62		n=72		n=56		n=39		n=90		n=118	
	件数	%										
1 幼稚園	43	69.4	49	68.1	31	55.4	18	46.2	63	70.0	101	85.6
2 幼稚園の預かり保育	31	50.0	30	41.7	27	48.2	16	41.0	59	65.6	81	68.6
3 認可保育所	31	50.0	45	62.5	38	67.9	24	61.5	26	28.9	18	15.3
4 認定こども園	21	33.9	27	37.5	15	26.8	13	33.3	17	18.9	16	13.6
5 小規模保育施設	12	19.4	12	16.7	3	5.4	1	2.6	1	1.1	2	1.7
6 家庭的保育	1	1.6	2	2.8	2	3.6	0	0.0	0	0.0	1	0.8
7 事業所内保育施設	7	11.3	7	9.7	4	7.1	2	5.1	1	1.1	5	4.2
8 自治体の認証・認定保育施設	3	4.8	3	4.2	1	1.8	2	5.1	1	1.1	2	1.7
9 その他の認可外保育所	3	4.8	1	1.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
10 居宅訪問型保育	5	8.1	2	2.8	3	5.4	1	2.6	1	1.1	3	2.5
11 ファミリー・サポート・センター	1	1.6	6	8.3	6	10.7	2	5.1	2	2.2	7	5.9
12 その他	0	0.0	1	1.4	1	1.8	1	2.6	1	1.1	2	1.7
13 利用しない	1	1.6	1	1.4	1	1.8	1	2.6	0	0.0	1	0.8

問 17-1

教育・保育事業を利用したい場所についてお伺いします。（1つに○。赤穂市外を選択された方は、利用したい市町名を（ ）内にご記入ください。）

教育・保育事業を利用したい場所については、「赤穂市内」が96.0%、「赤穂市外」が1.6%となっています。



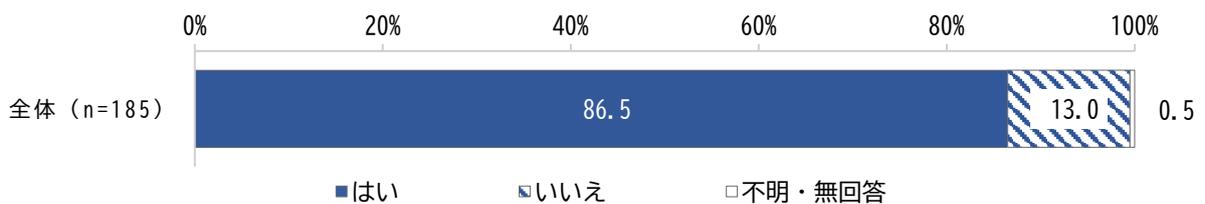
【赤穂市外】

・上郡町 ・たつの市 ・明石市 ・姫路市

問 17-2

【問17で「1 幼稚園（通常の就園時間の利用）」または「2 幼稚園の預かり保育（通常の就園時間を延長して預かる事業のうち定期的な利用のみ）」を選択し、かつ「3」～「12」も選択した方にお伺いします。】
特に幼稚園（幼稚園の預かり保育をあわせて利用する場合を含む）の利用を強く希望するかどうか。（1つに○）

幼稚園（幼稚園の預かり保育をあわせて利用する場合を含む）の利用を強く希望するかどうかについては、「はい」が86.5%、「いいえ」が13.0%となっています。



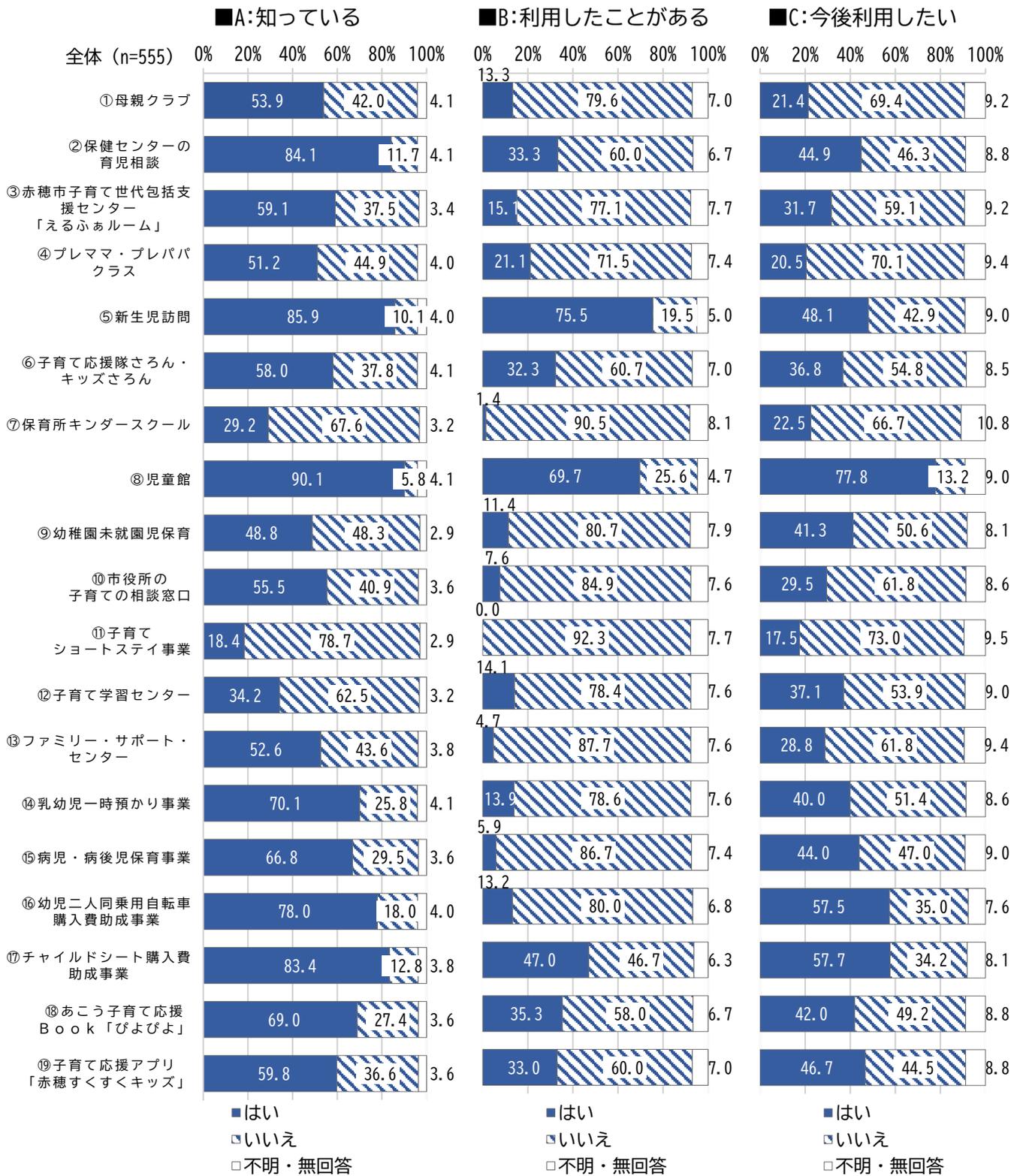
地域子育て支援事業の利用について

問 18

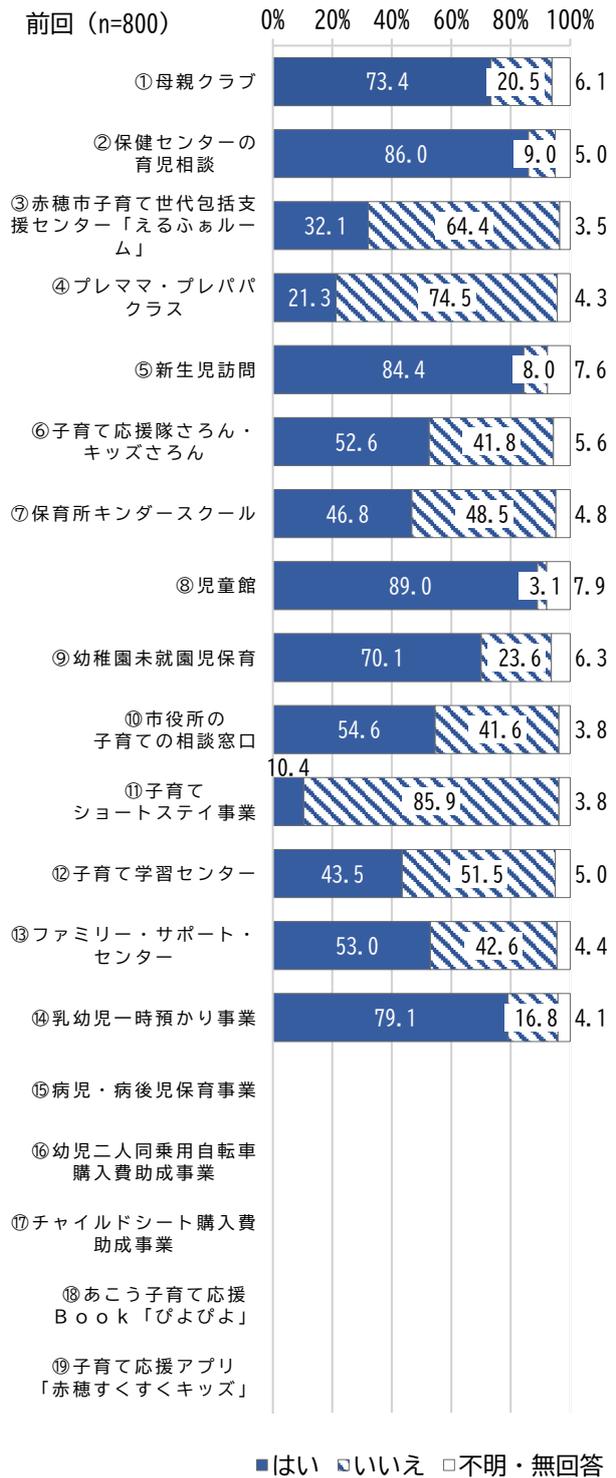
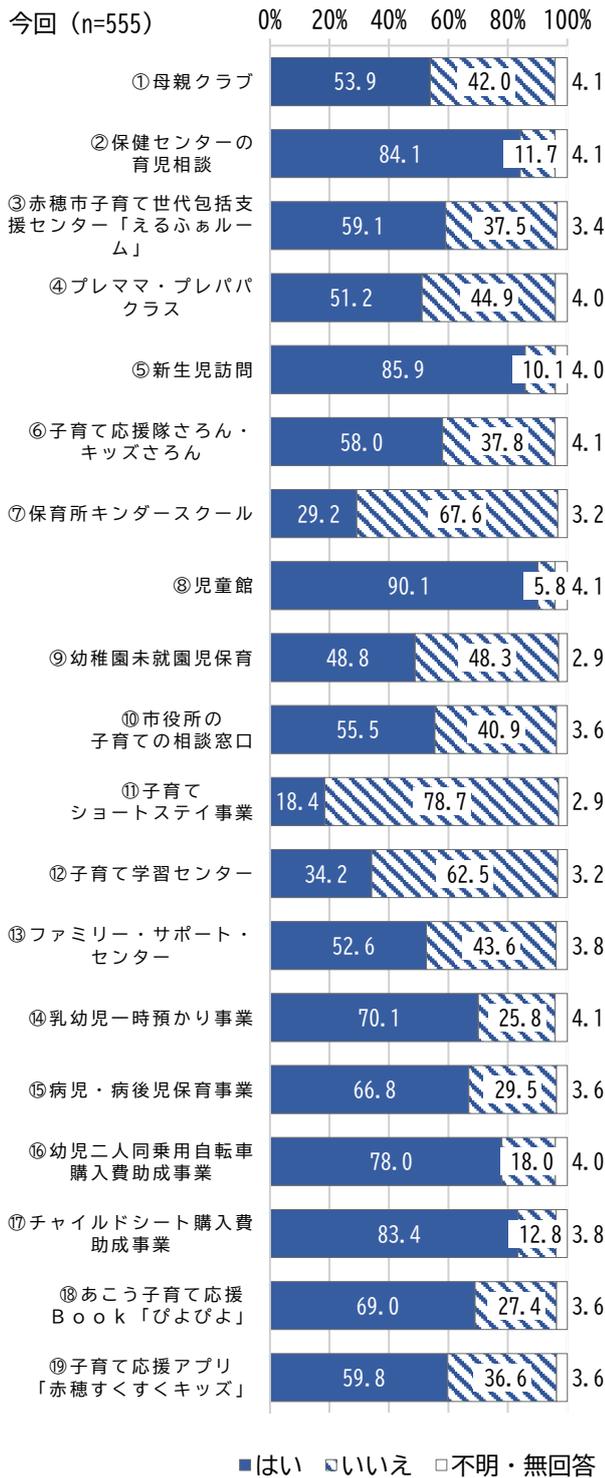
次の事業で知っているものや、これまでに利用したことがあるもの、今後利用したいと思うものをお答えください。(①～⑱の事業ごとに、A～Cのそれぞれ1つに○)

事業の認知度（知っている）についてみると、「保健センターの育児相談」や「新生児訪問」、「児童館」、「チャイルドシート購入費助成事業」が高くなっています。事業の利用経験（利用したことがある）についてみると、「新生児訪問」や「児童館」が高くなっています。事業の利用意向（今後利用したい）についてみると、「児童館」や「幼児二人同乗用自転車購入費助成事業」、「チャイルドシート購入費助成事業」が高くなっています。

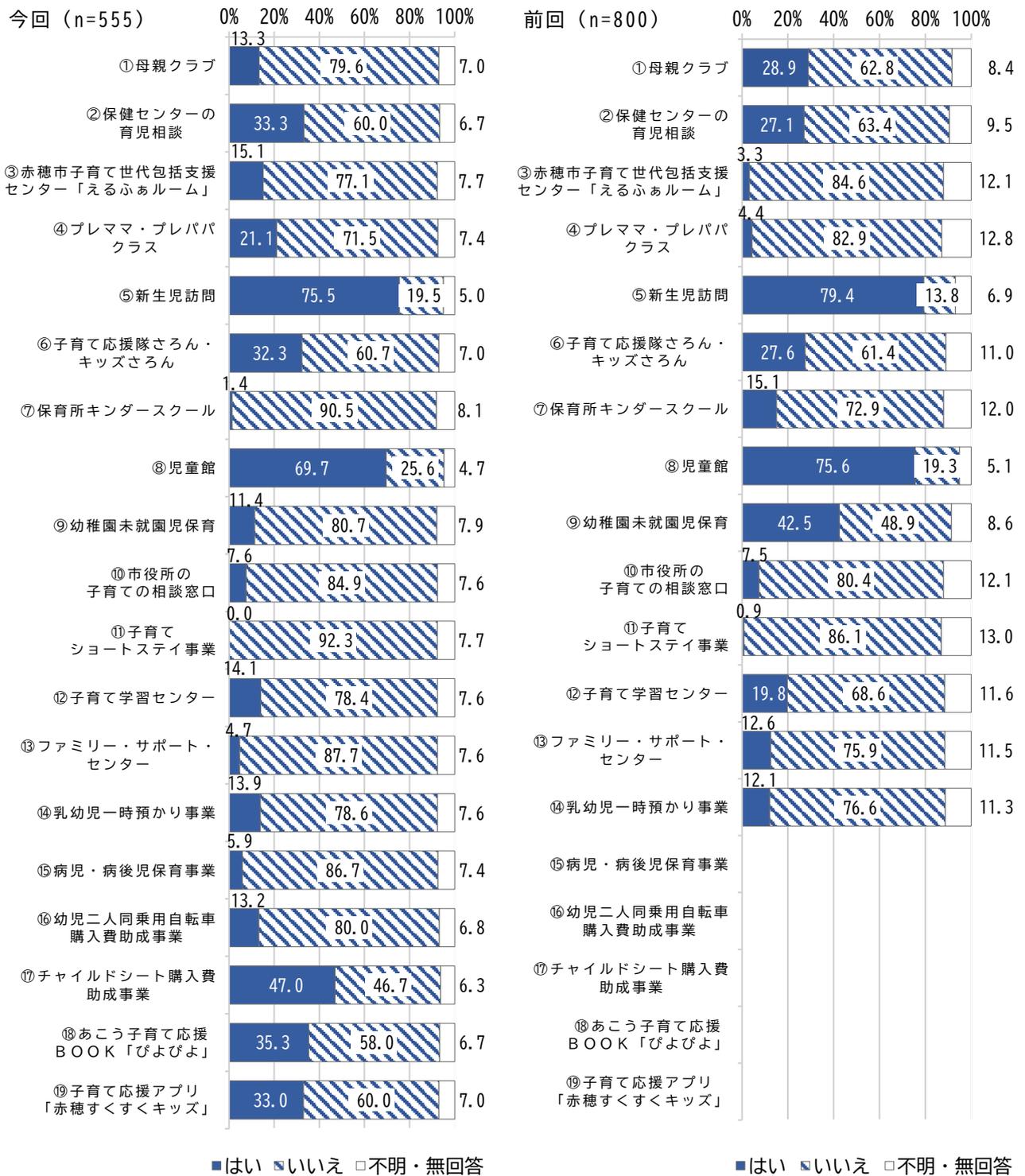
児童館については認知度、利用経験、利用意向のいずれも高くなっています。



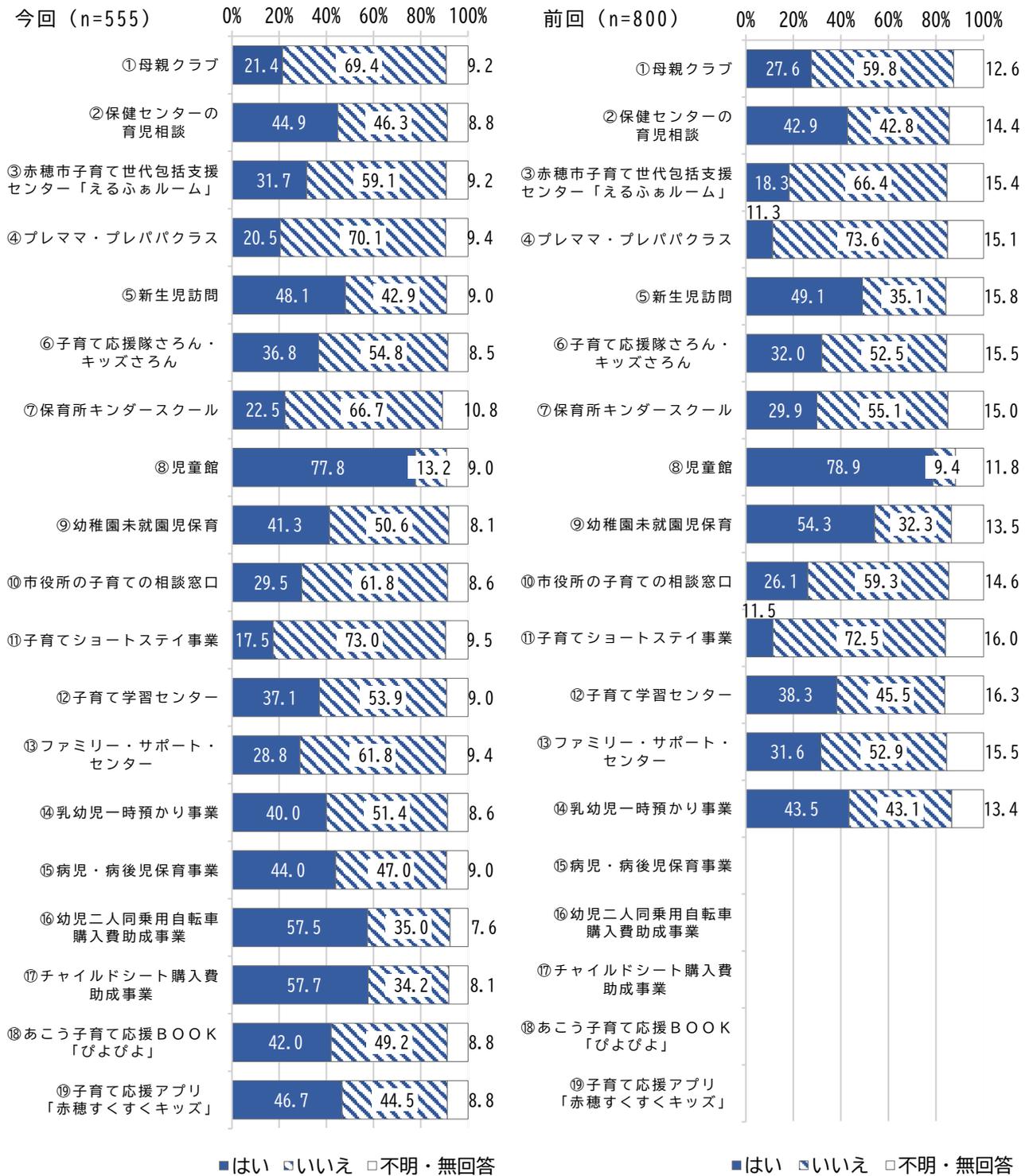
【事業認知度（A：知っている）の前回比較】



【事業の利用経験（B：利用したことがある）の前回比較】



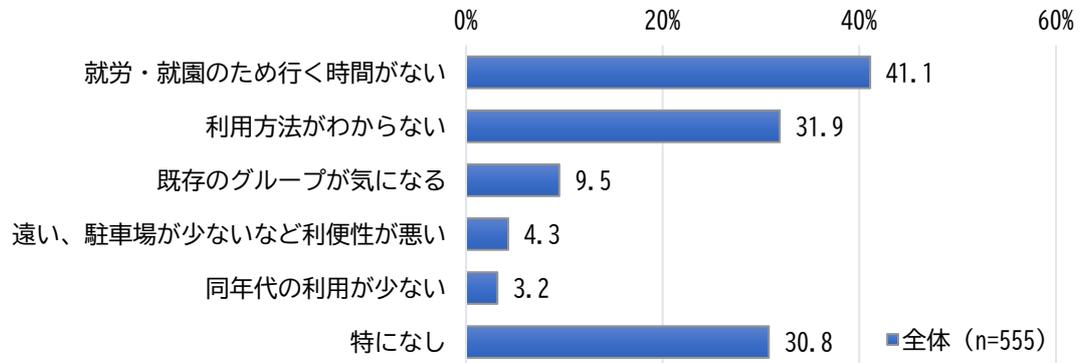
【事業の利用経験（C：今後利用したい）の前回比較】



問 19

問18の①から⑮までの事業について、「A 知っている」で「はい」、「B 利用したことがある」で「いいえ」を選択した事業について、利用していない理由をお聞かせください。（あてはまるすべてに○）

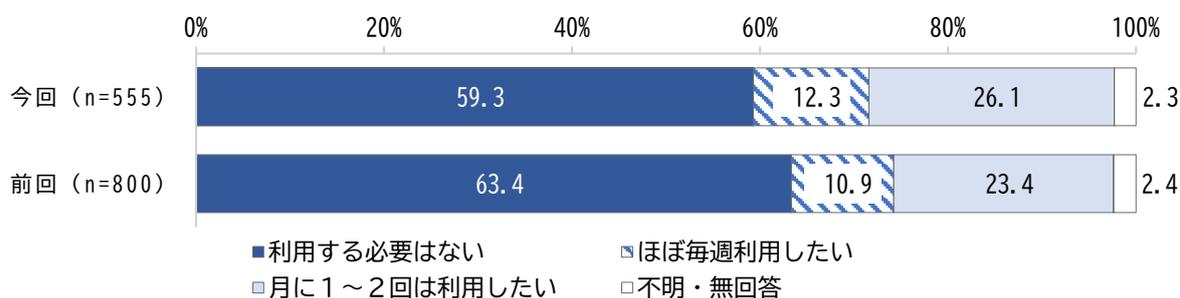
問 18 の①から⑮までの事業について利用していない理由については、「就労・就園のため行く時間がない」が41.1%で最も高く、次いで「利用方法がわからない」(31.9%)、「既存のグループが気になる」(9.5%)と続いています。



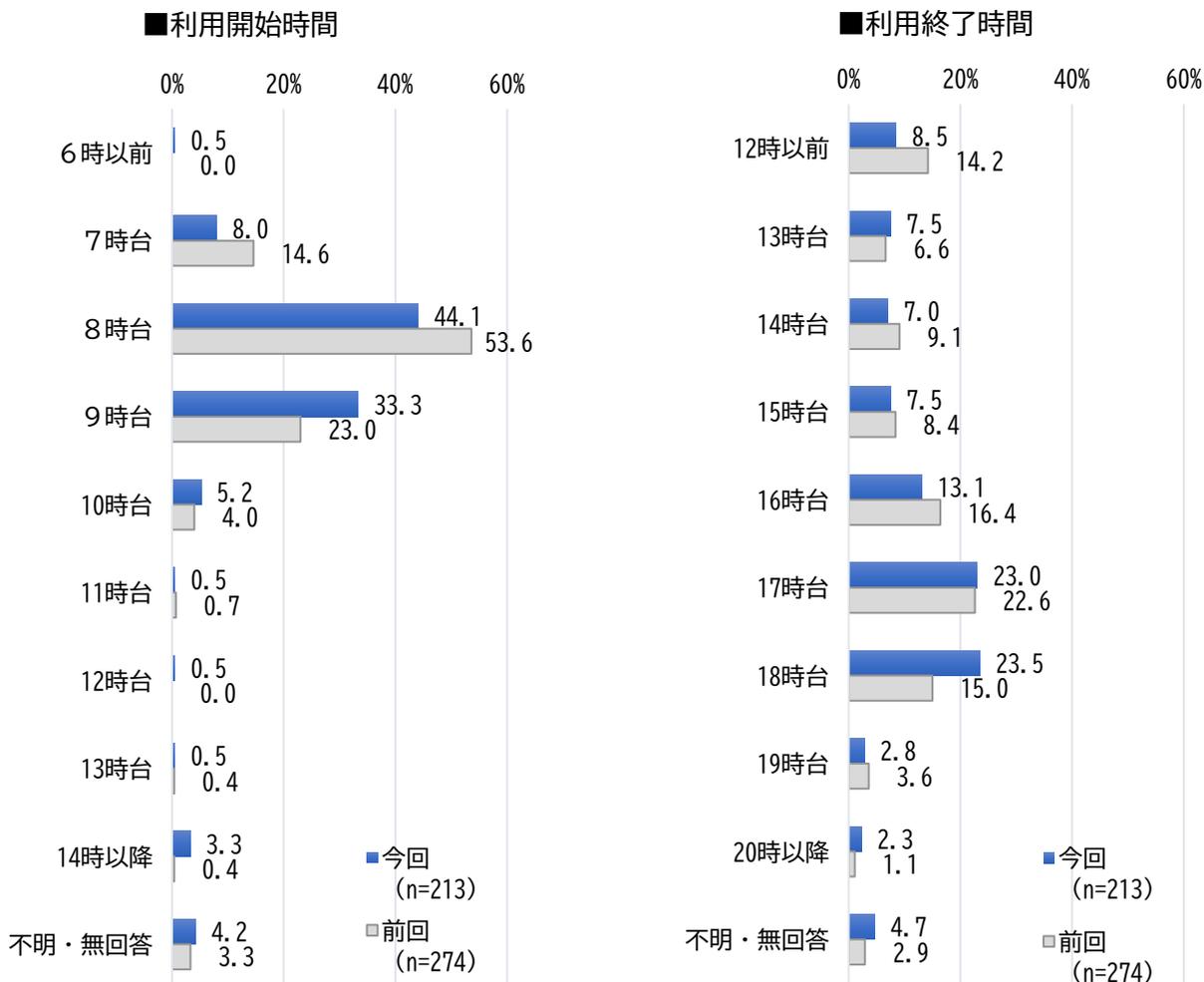
土曜・休日や長期休暇中の「定期的な」教育・保育事業の利用について

問 20 (1) お子さんについて、土曜日に問16-1に記載の「定期的な」教育・保育事業の利用希望はありますか。(一時的な利用は除きます。)
(それぞれ1つに○。希望がある場合は、利用したい時間帯を [] 内に数字でご記入ください。)

土曜日の「定期的な」教育・保育事業の利用希望については、「利用する必要はない」が 59.3%で最も高く、次いで「月に1～2回は利用したい」(26.1%)、「ほぼ毎週利用したい」(12.3%)と続いています。利用したい時間帯については、利用開始時間が「8時台」(44.1%)、利用終了時間が「18時台」(23.5%)と最も高くなっています。

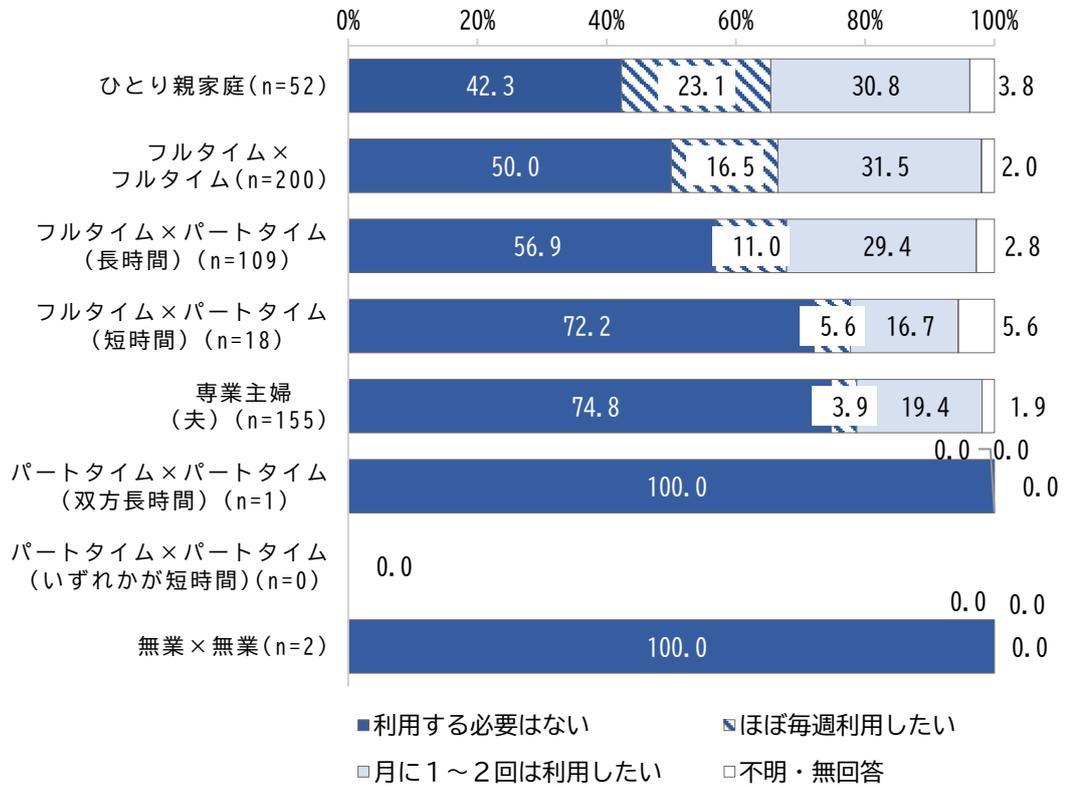


【利用したい時間帯】



家庭類型別でみると、「フルタイム×パートタイム（短時間）」や「専業主婦（夫）」で「利用する必要はない」が7割を超えています。一方、「ひとり親家庭」や「フルタイム×フルタイム」では、『利用したい（「ほぼ毎週利用したい」+「月に1～2回は利用したい」）』が5割程度と高くなっています。

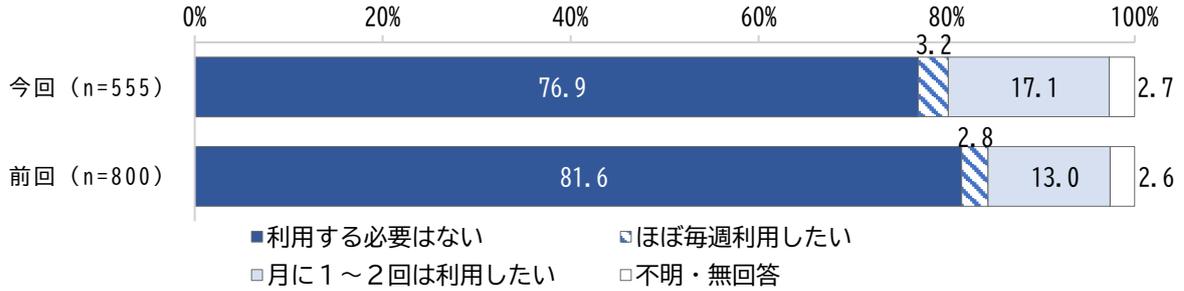
【家庭類型別】



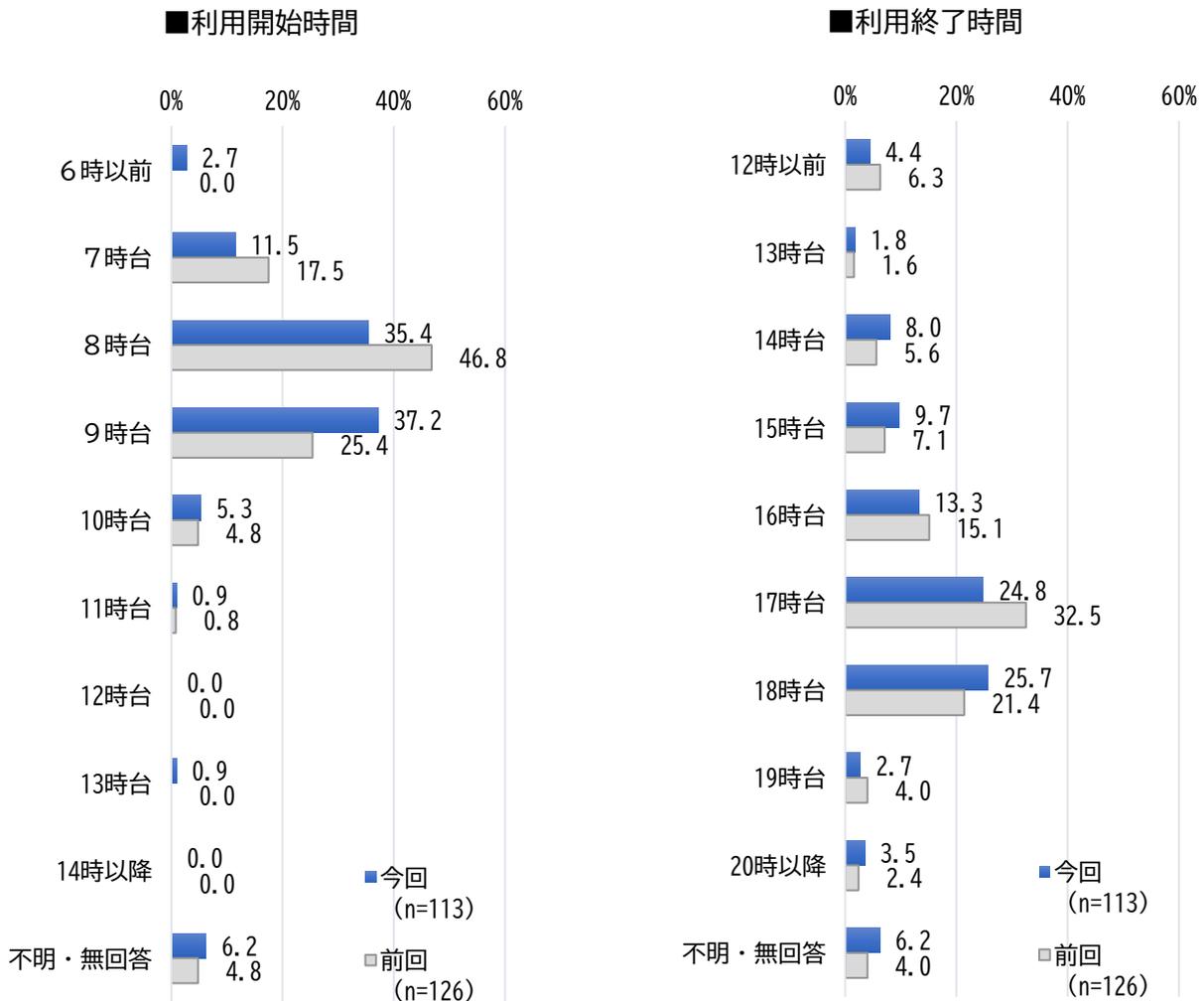
**問 20
(2)**

お子さんについて、日曜日・祝日に問16-1に記載の「定期的な」教育・保育事業の利用希望はありますか。(一時的な利用は除きます。)
(それぞれ1つに○。希望がある場合は、利用したい時間帯を [] 内に数字でご記入ください。)

日曜日・祝日の「定期的な」教育・保育事業の利用希望については、「利用する必要はない」が76.9%で最も高く、次いで「月に1～2回は利用したい」(17.1%)、「ほぼ毎週利用したい」(3.2%)と続いています。利用したい時間帯については、利用開始時間が「8時台」(35.4%)、利用終了時間が「18時台」(25.7%)と最も高くなっています。

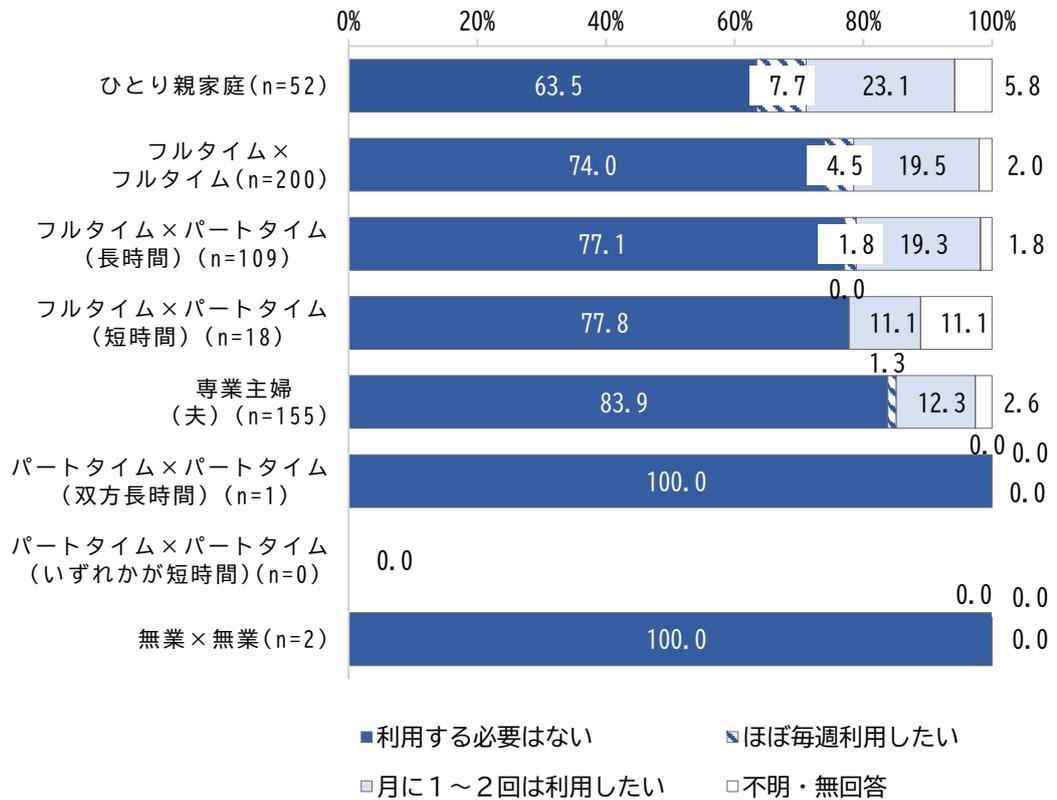


【利用したい時間帯】



家庭類型別でみると、「ひとり親家庭」では『利用したい（「ほぼ毎週利用したい」＋「月に1～2回は利用したい」）』が3割程度と他の家庭類型と比べて高くなっています。土曜日の保育ニーズに比べると、「ひとり親家庭」「フルタイム×フルタイム」「フルタイム×パートタイム（長時間）」での「利用する必要はない」割合が増加しています。

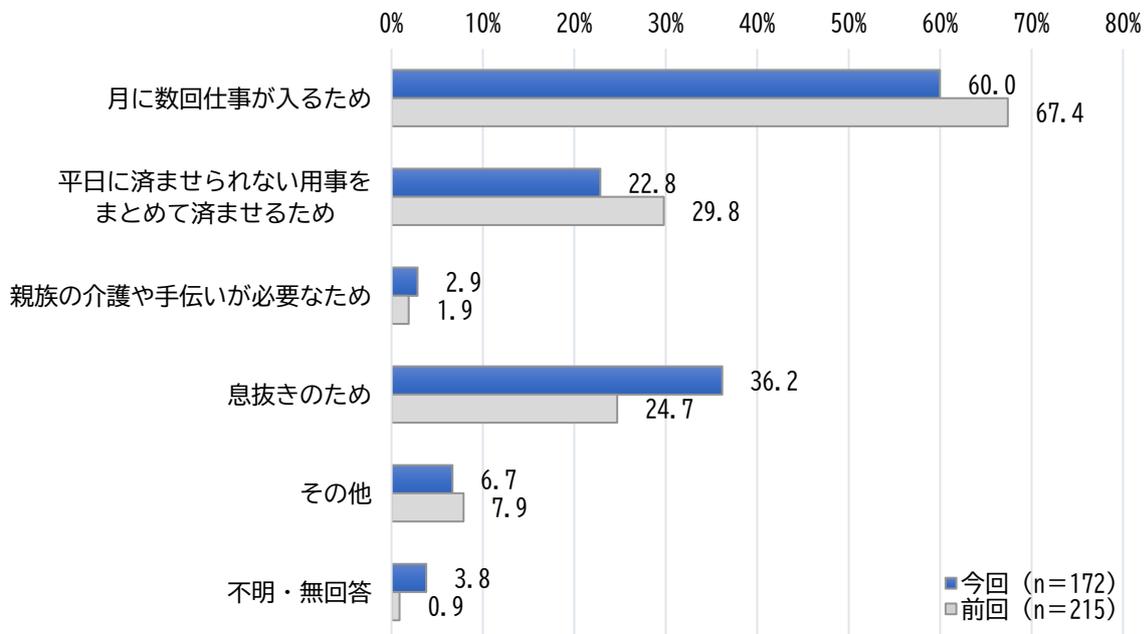
【家庭類型別】



問 20-1

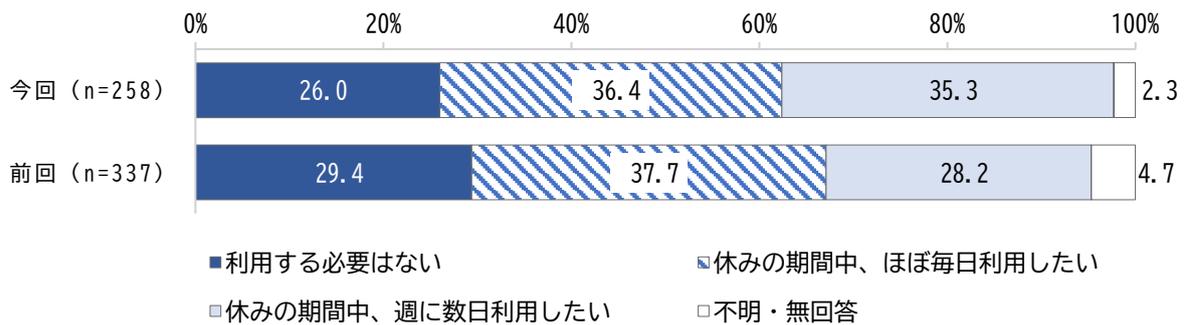
【問20の(1)または(2)で「3月に1~2回は利用したい」を選択した方にお伺いします。】
毎週ではなく、たまに利用したい理由は何ですか。(あてはまるすべてに○)

たまに利用したい理由については、「月に数回仕事が入るため」が60.0%で最も高く、次いで「息抜きのため」(36.2%)、「平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため」(22.8%)と続いています。

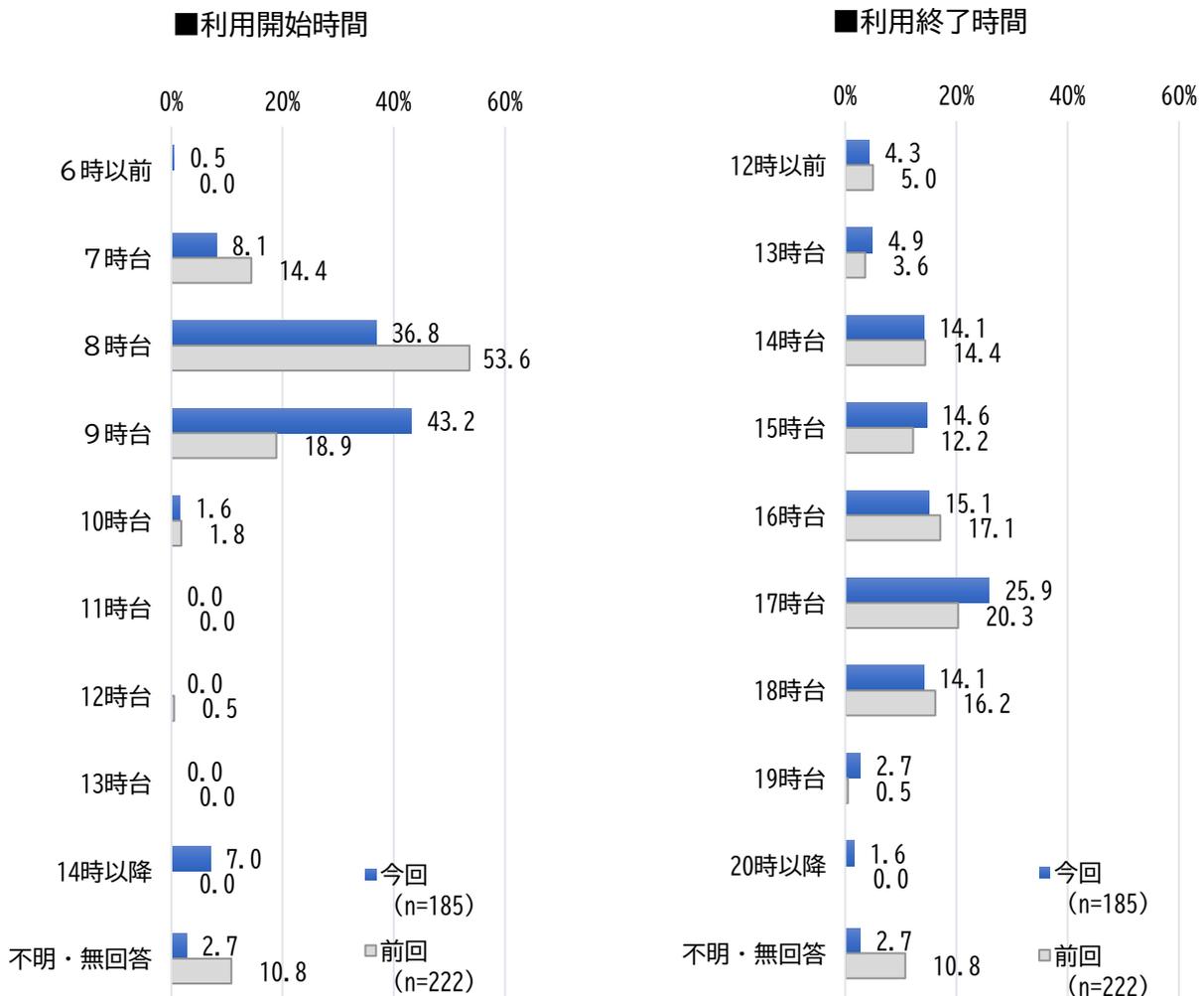


問 21 【「幼稚園」を利用されている方にお伺いします。】
 幼稚園の夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中に、教育・保育事業の利用希望はありますか。（1つに○。希望がある場合は、利用したい時間帯を [] 内に数字でご記入ください

休暇期間中の、教育・保育事業の利用希望については、「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」が 36.4%で最も高く、次いで「休みの期間中、週に数日利用したい」（35.3%）、「利用する必要はない」（26.0%）と続いています。利用したい時間帯については、利用開始時間が「9時台」（43.2%）、利用終了時間が「17時台」（25.9%）と最も高くなっています。

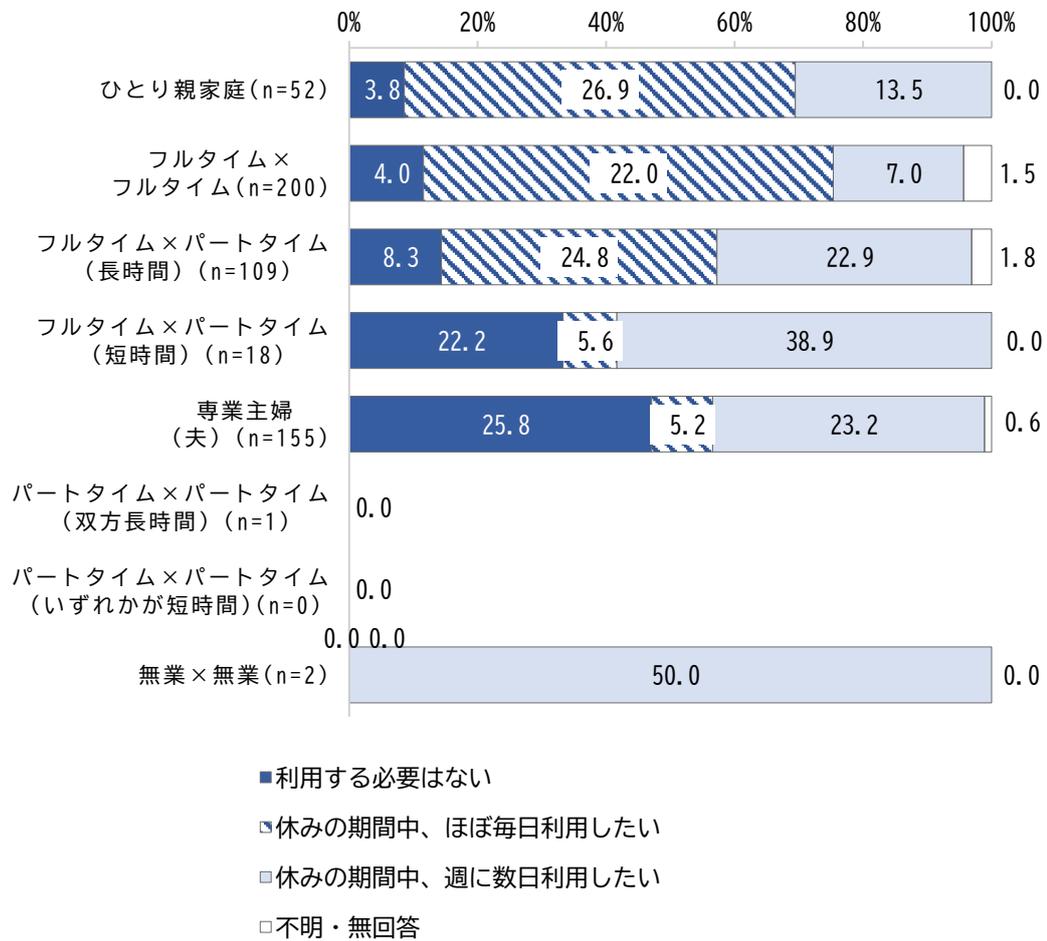


【利用したい時間帯】



家庭類型別でみると、「ひとり親家庭」「フルタイム×フルタイム」「フルタイム×パートタイム（長時間）」において「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」が高くなっている一方で、「フルタイム×パート・アルバイト（短時間）」「専業主婦（夫）」で「利用する必要はない」が高くなっています。

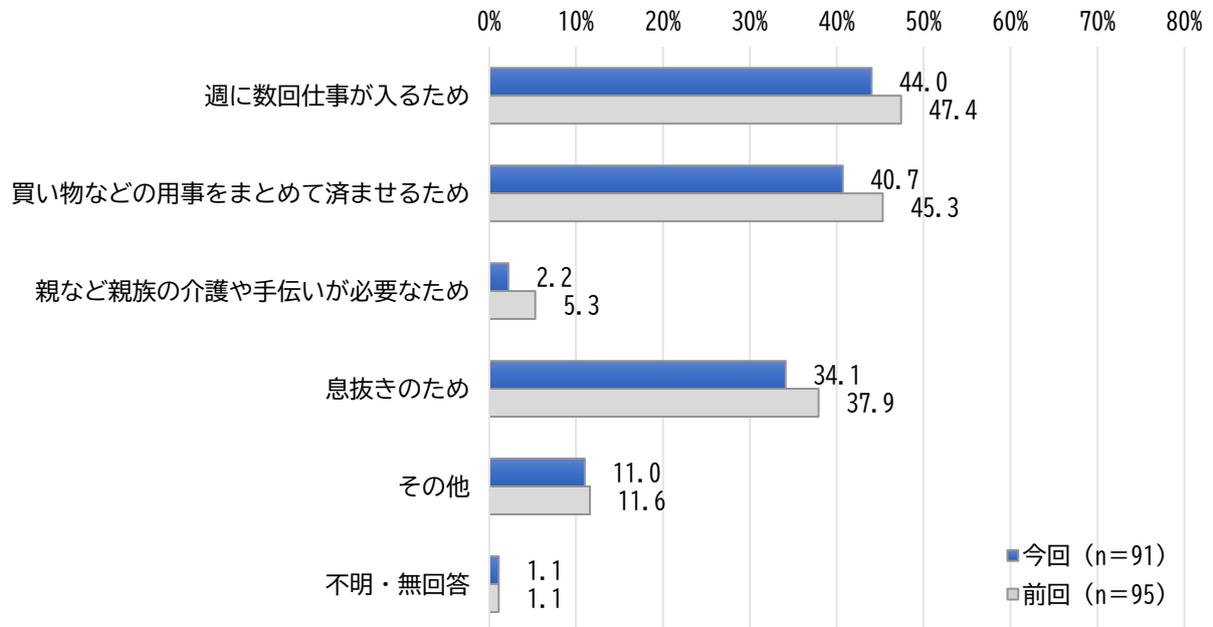
【家庭類型別】



問 21-1

【問21で「3 休みの期間中、週に数日利用したい」を選択した方にお伺いします。】
毎日ではなく、たまに利用したい理由は何ですか。（あてはまるすべてに○）

たまに利用したい理由については、「週に数回仕事が入るため」が 44.0%で最も高く、次いで「買い物などの用事をまとめて済ませるため」（40.7%）、「息抜きのため」（34.1%）と続いています。

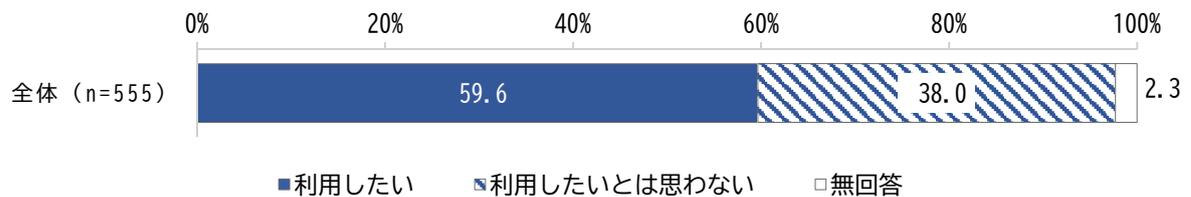
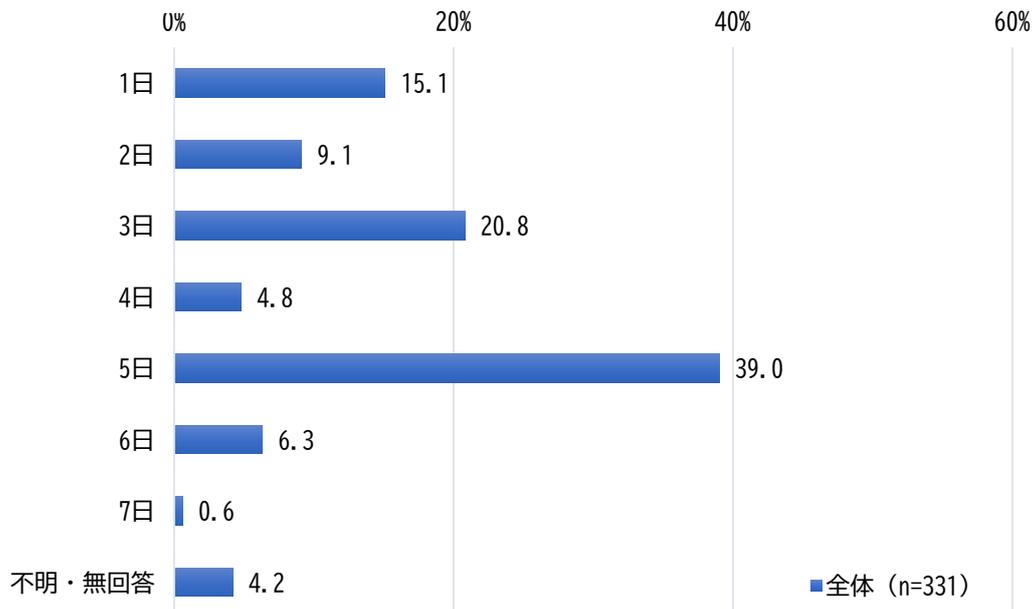


問 22

お子さんについて、国が検討している「こども誰でも通園制度（仮称）」が創設された場合、利用したいと思いますか。（1つに○。利用したい場合は、[] 内に日数・時間帯をご記入ください。）

「こども誰でも通園制度（仮称）」が創設された場合の利用意向については、「利用したい」が 59.6%、「利用したいとは思わない」が 38.0%となっています。

利用したい日数については、「5日」が 39.0%で最も高く、次いで「3日」（20.8%）、「1日」（15.1%）と続いています。また、利用したい時間帯については、利用開始時間が「9時台」（44.4%）、利用終了時間が「17時台」（21.8%）と最も高くなっています。

**【利用したい日数】**

【利用したい時間帯】

■利用開始時間



■利用終了時間

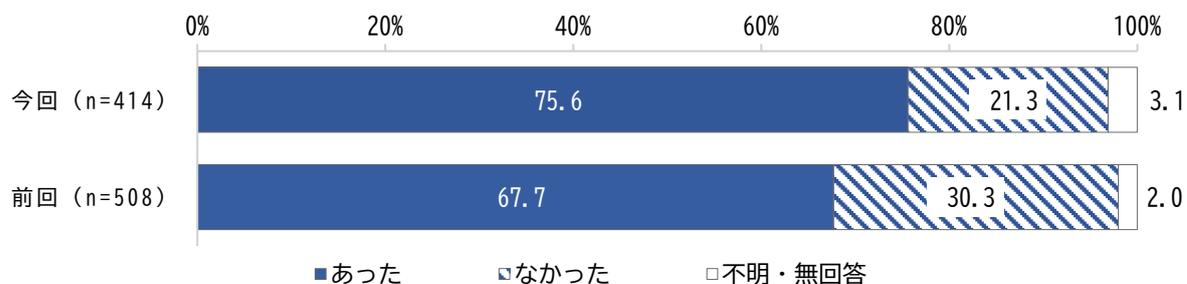


病気の際の対応について

問 23

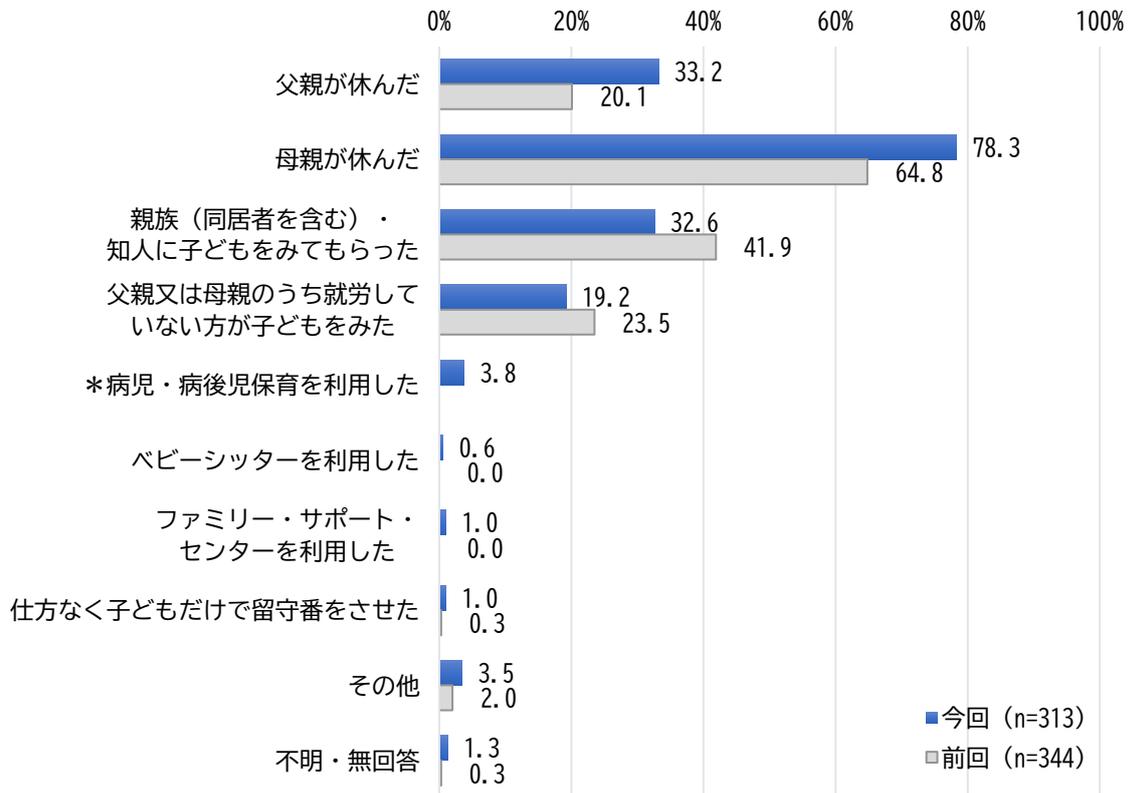
【定期的に幼稚園・保育所などを利用している方にお伺いします。】
この1年間に、お子さんが病気やケガで通常の利用ができなかったことはありますか。
(1つに○)

子どもが病気やケガで通常の利用ができなかった経験の有無については、「あった」が75.6%、「なかった」が21.3%となっています。



問 23-1 【問23で「1 あった」を選択した方にお伺いします。
 その際、どのように対応しましたか。（あてはまるすべてに○。それぞれの日数も
 [] 内に数字でご記入ください。半日対応の場合も1日とカウントしてください。）

通園が出来なかった際の対応については、「母親が休んだ」が78.3%で最も高く、次いで「父親が休んだ」(33.2%)、「親族（同居者を含む）・知人に子どもをみてもらった」(32.6%)と続いています。



*の選択肢については前回調査に項目なし

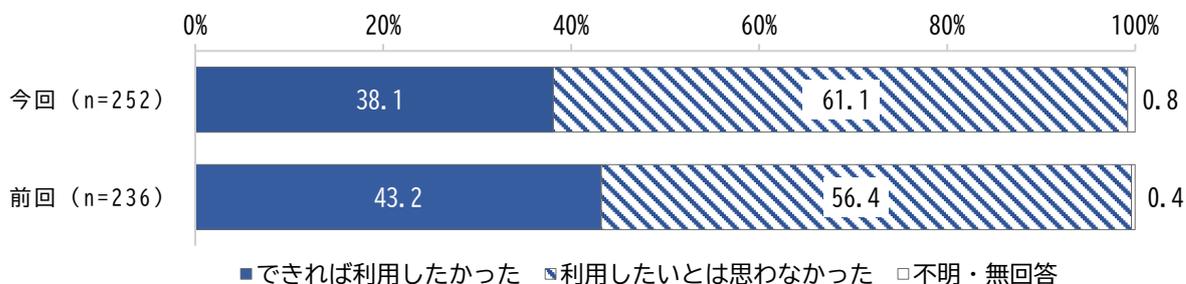
【対応した日数】

対応方法別	父親が休んだ n=104		母親が休んだ n=245		親族（同居者を含む） をみてもらった n=102		父親又は母親のうち 就労していない方が 子どもをみた n=60		病児・病後児保育を 利用した n=12		ベビーシッターを 利用した n=2		ファミリー・サポ ート・センターを 利用した n=3		仕方なく子どもだけ で留守番をさせた n=3		その他 n=11	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
1日	10	9.7	3	1.2	5	5.0	1	1.7	2	20.0	0	0.0	1	100.0	0	0.0	0	0.0
2日	23	22.3	11	4.5	14	13.9	3	5.2	2	20.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3日	10	9.7	18	7.3	12	11.9	2	3.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	100.0	1	11.1
4日	1	1.0	8	3.3	2	2.0	0	0.0	1	10.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5日	23	22.3	40	16.3	18	17.8	8	13.8	2	20.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	33.3
6日	1	1.0	4	1.6	2	2.0	1	1.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
7日以上	30	29.1	141	57.6	37	36.6	38	65.5	3	30.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	33.3

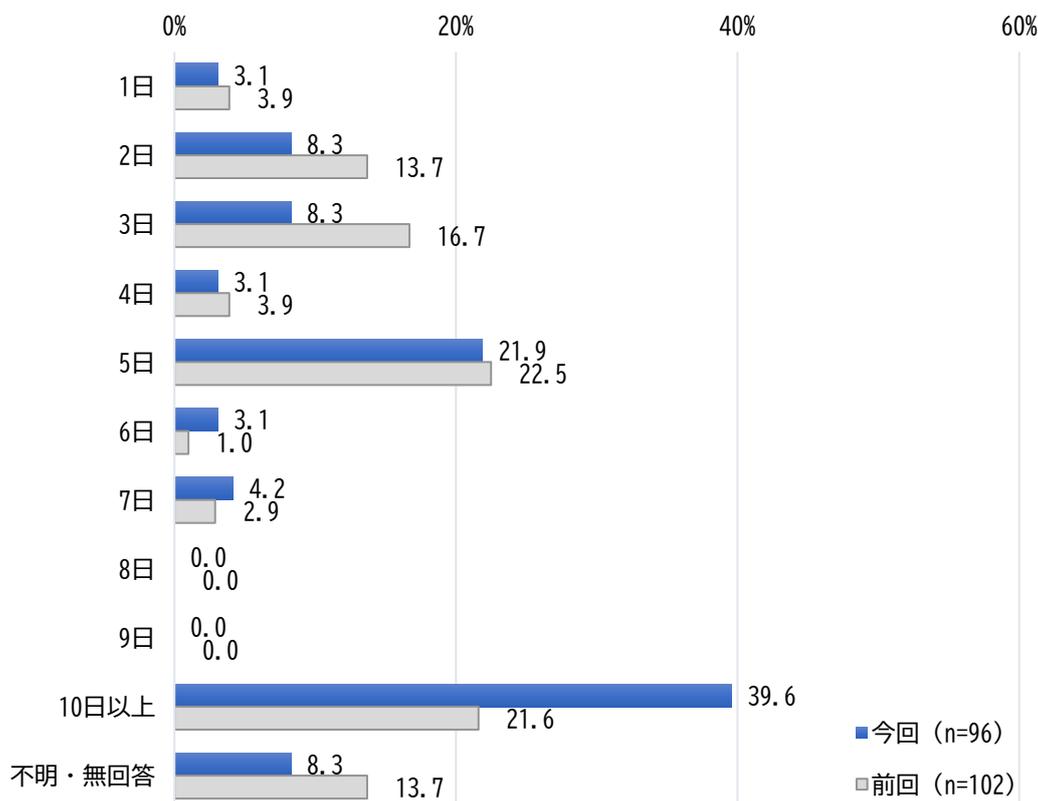
問 23-2

【問23-1で「1 父親が休んだ」「2 母親が休んだ」を選択した方にお伺いします。】
 できれば「病児・病後児のための保育施設等を利用したい」と思われたことはありましたか。(1つに○。「1」を選択した場合は日数もご記入ください。)

病児・病後児のための保育施設等を利用したいと思ったかについては、「利用したいとは思わなかった」が61.1%「できれば利用したかった」が38.1%となっています。



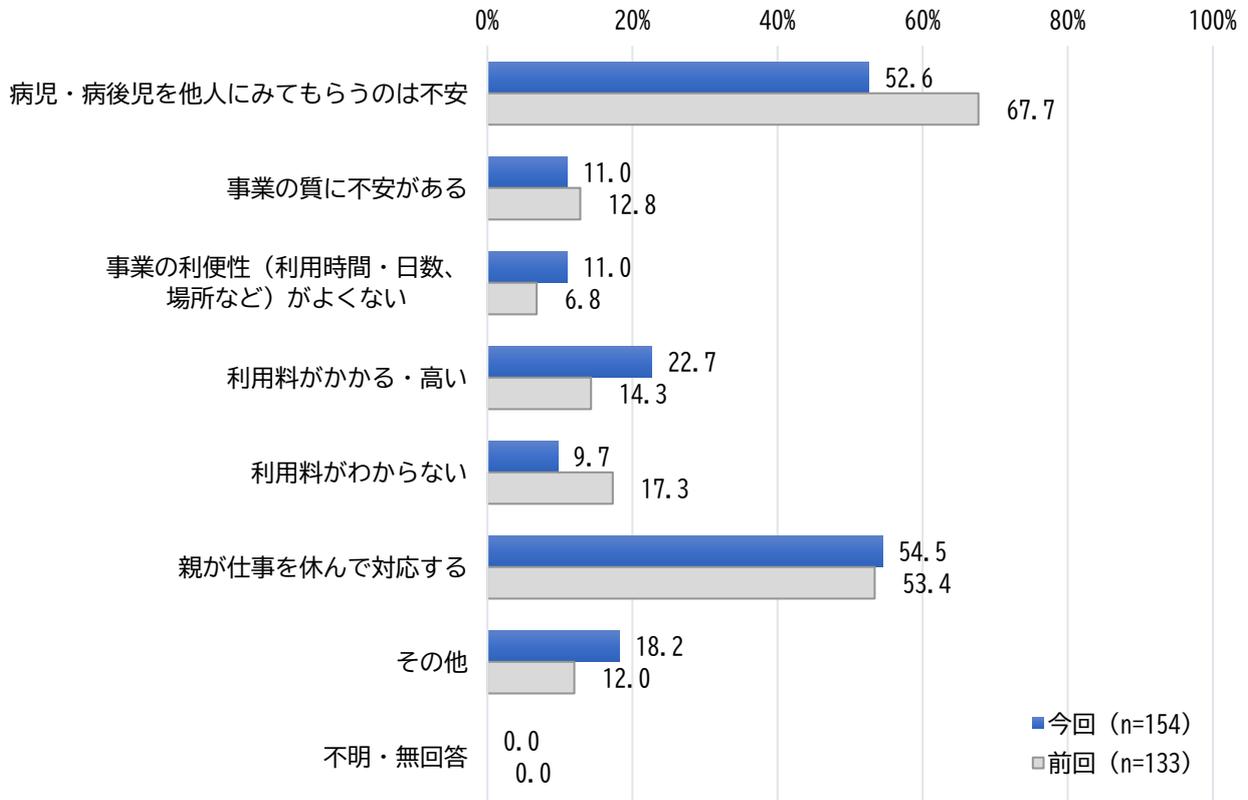
【利用したかった日数】



問 23-3

【問23-2で「2 利用したいとは思わなかった」を選択した方にお伺いします。】
 利用したいと思わなかった理由は何ですか。（あてはまるすべてに○）

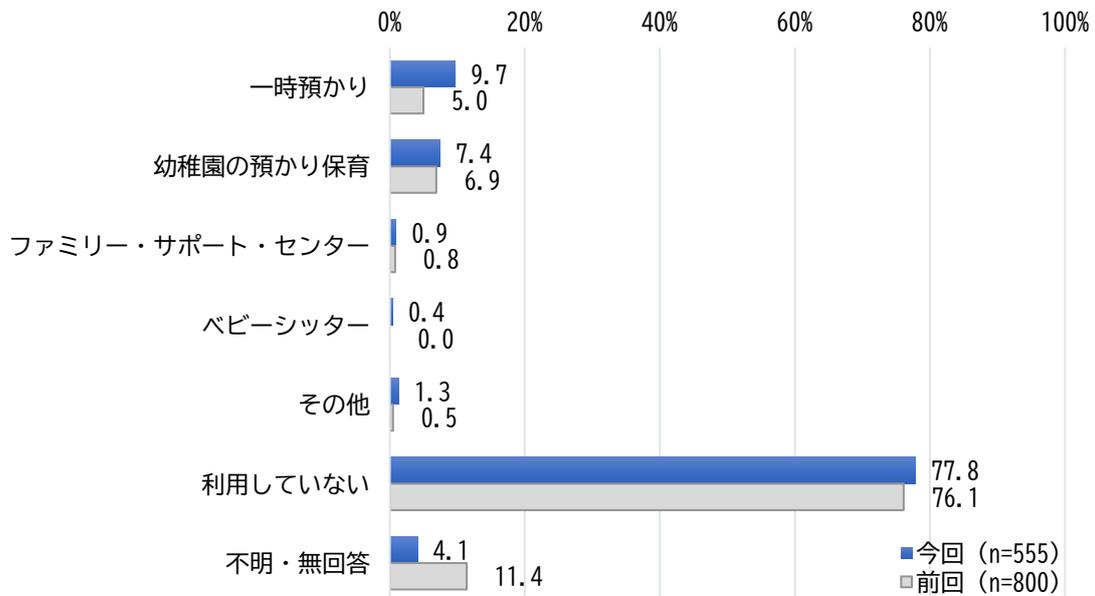
利用したいと思わなかった理由については、「親が仕事を休んで対応する」が 54.5%で最も高く、次いで「病児・病後児を他人にみてもらうのは不安」(52.6%)、「利用料がかかる・高い」(22.7%)と続いています。



不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について

問 24 保護者の私用や通院、不定期の就労などの目的で、お子さんが不定期に利用している事業はありますか。(あてはまるすべてに○。また、該当する日数にはおおよその1年間の利用日数を [] 内に数字でご記入ください。半日対応の場合も1日とカウントしてください。)

不定期に利用している事業については、「利用していない」が77.8%で最も高く、次いで「一時預かり」(9.7%)、「幼稚園の預かり保育」(7.4%)と続いています。



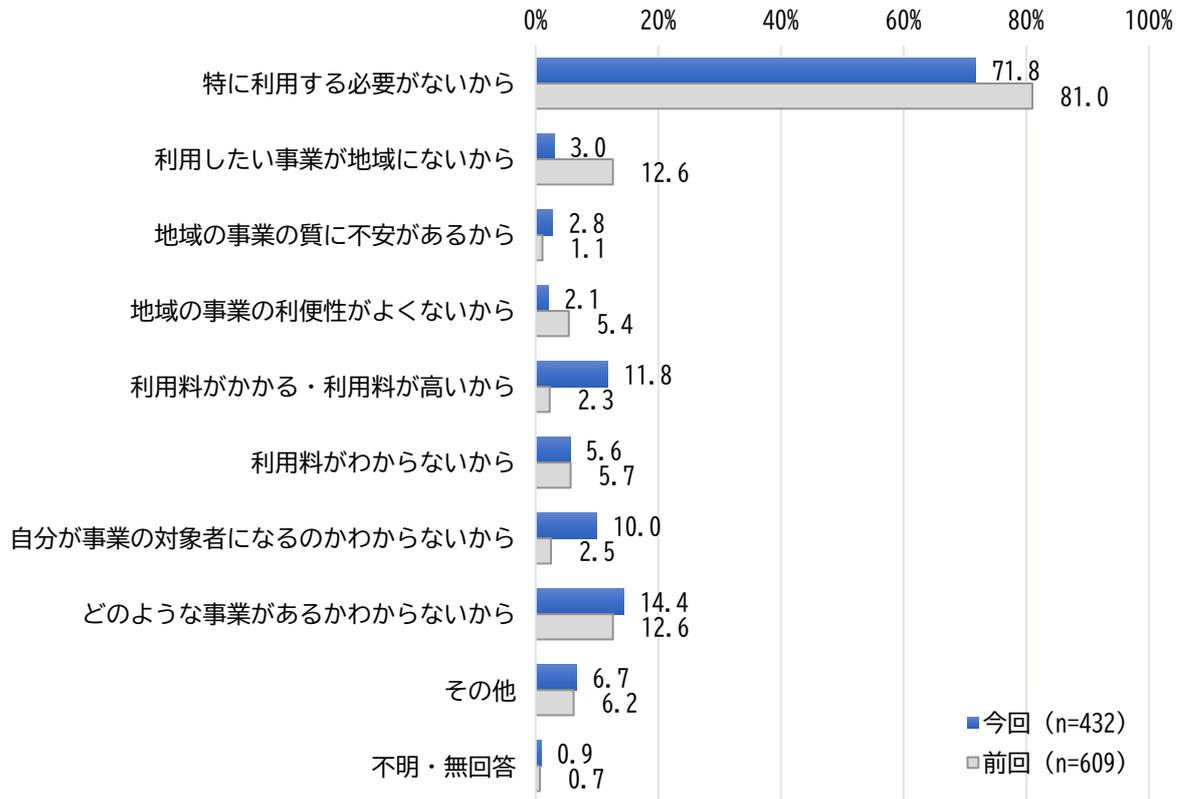
【対応方法ごとの日数】

事業別	一時預かり		幼稚園の預かり保育		ファミリー・サポート・センター		ベビーシッター		その他	
	n=52		n=31		n=4		n=1		n=6	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
1日	10	19.2	1	3.2	2	50.0	1	100.0	1	16.7
2日	7	13.5	1	3.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3日	5	9.6	1	3.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4日	0	0.0	2	6.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5~9日	13	25.0	5	16.1	2	50.0	0	0.0	0	0.0
10~19日	9	17.3	3	9.7	0	0.0	0	0.0	3	50.0
20~29日	3	5.8	1	3.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0
30~39日	2	3.8	2	6.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0
40~49日	0	0.0	1	3.2	0	0.0	0	0.0	1	16.7
50日以上	3	5.8	14	45.2	0	0.0	0	0.0	1	16.7

問 24-1

【問24で「6 利用していない」を選択した方にお伺いします。】
 利用していない理由は何ですか。（あてはまるすべてに○）

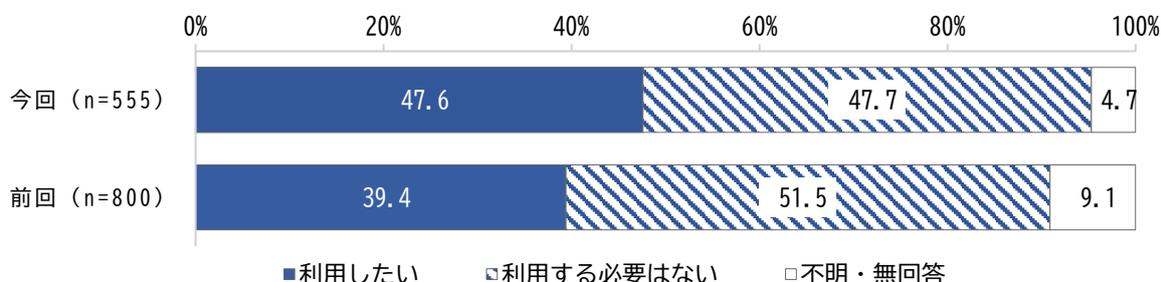
利用していない理由については、「特に利用する必要がないから」が 71.8%で最も高く、次いで「どのような事業があるかわからないから」（14.4%）、「利用料がかかる・利用料が高いから」（11.8%）と続いています。



**問 25
(1)**

保護者の私用や通院、不定期の就労などの目的で、お子さんの不定期に利用する事業を利用したいと思いますか。(1つに○)

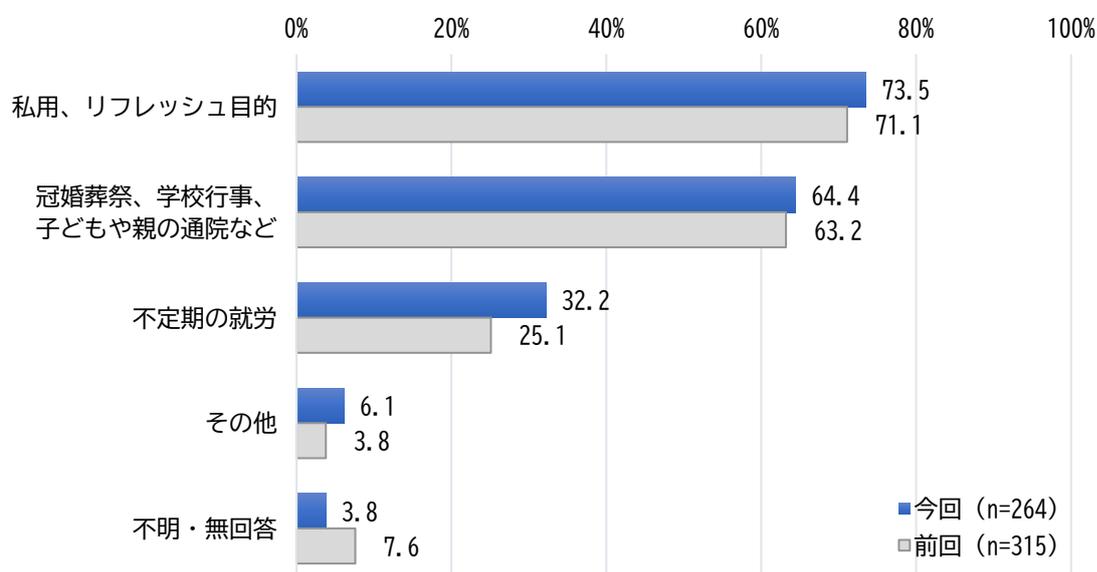
事業を不定期に利用したいかについては、「利用する必要はない」が47.7%、「利用したい」が47.6%となっています。



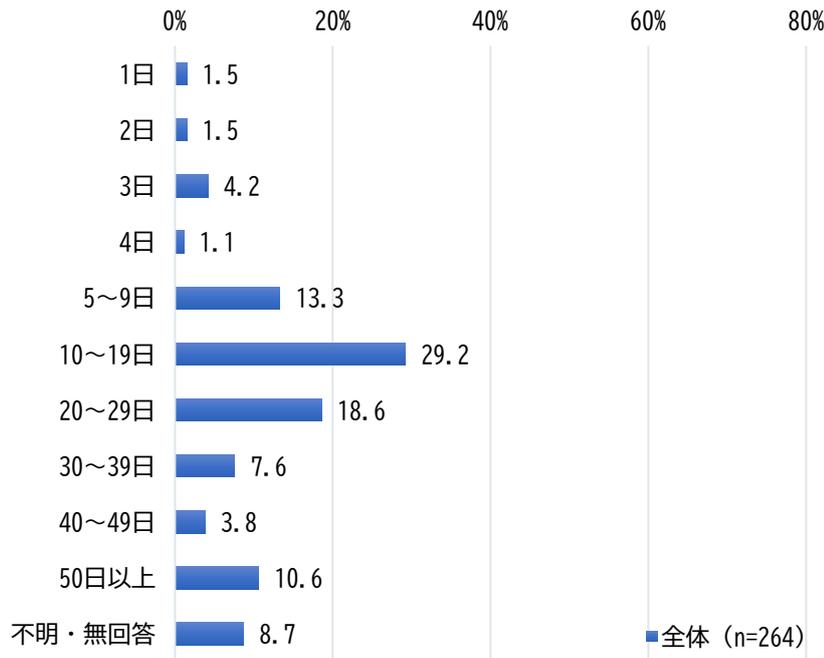
**問 25
(2)**

どのような目的で利用したいですか。また、利用する事業が年間何日くらい必要だと思いますか。(あてはまるすべてに○。また、利用したい日数の合計と、目的別の内訳の日数を [] 内に数字でご記入ください。)

利用目的については、「私用（買い物、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の習い事など）、リフレッシュ目的」が73.5%で最も高く、次いで「冠婚葬祭、学校行事、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の通院など」（64.4%）、「不定期の就労」（32.2%）と続いています。



【利用希望日数の合計】



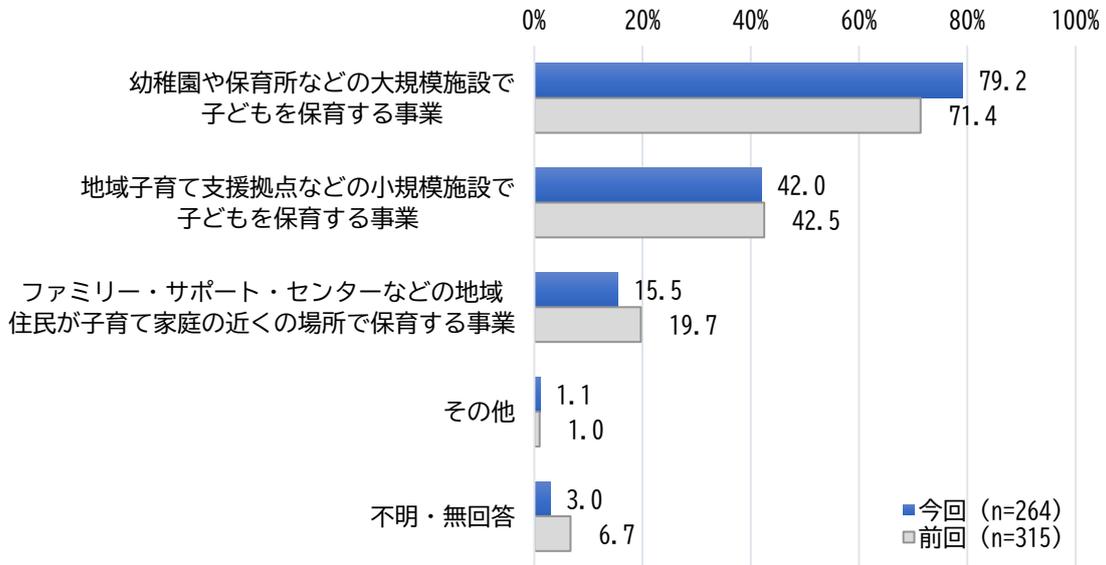
【各利用内容の日数】

目的別	私用、リフレッシュ目的 n=189		冠婚葬祭、子どもや親の通院など n=164		不定期の就労 n=80		その他 n=16	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
1日	3	1.6	10	6.1	2	2.5	0	0.0
2日	13	6.9	14	8.5	3	3.8	1	6.3
3日	23	12.2	21	12.8	5	6.3	1	6.3
4日	6	3.2	6	3.7	3	3.8	0	0.0
5～9日	47	24.9	61	37.2	16	20.0	4	25.0
10～19日	61	32.3	39	23.8	17	21.3	5	31.3
20～29日	15	7.9	10	6.1	7	8.8	1	6.3
30～39日	10	5.3	1	0.6	11	13.8	1	6.3
40～49日	5	2.6	1	0.6	1	1.3	1	6.3
50日以上	6	3.2	1	0.6	15	18.8	2	12.5

問 25-1

【問25の(1)で「1 利用したい」を選択した方にお伺いします。】
 お子さんを預ける場合、下記のいずれの事業形態が望ましいと思われますか。(あてはまるすべてに○)

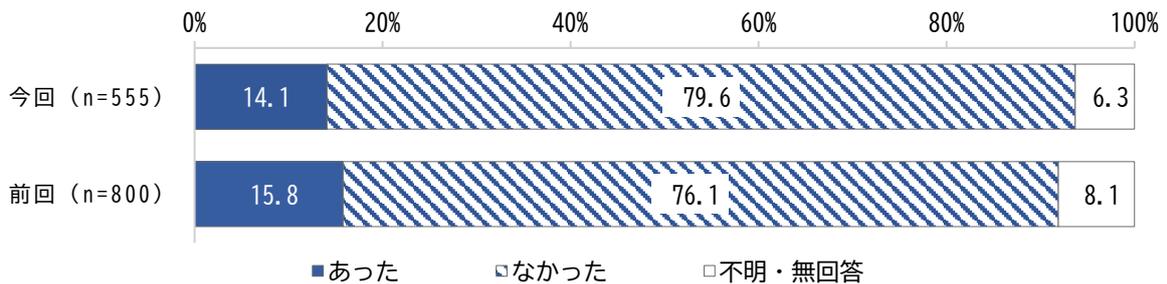
子どもを預ける場合に望ましい事業形態については、「幼稚園や保育所などの大規模施設で子どもを保育する事業」が79.2%で最も高く、次いで「地域子育て支援拠点などの小規模施設で子どもを保育する事業」(42.0%)、「ファミリー・サポート・センターなどの地域住民が子育て家庭の近くの場所で保育する事業」(15.5%)と続いています。



問 26 (1)

この1年間に、保護者の用事(冠婚葬祭、保護者・家族の病気など)により、お子さんを泊まりがけで家族以外にみてもらわなければならないことはありましたか。(1つに○)

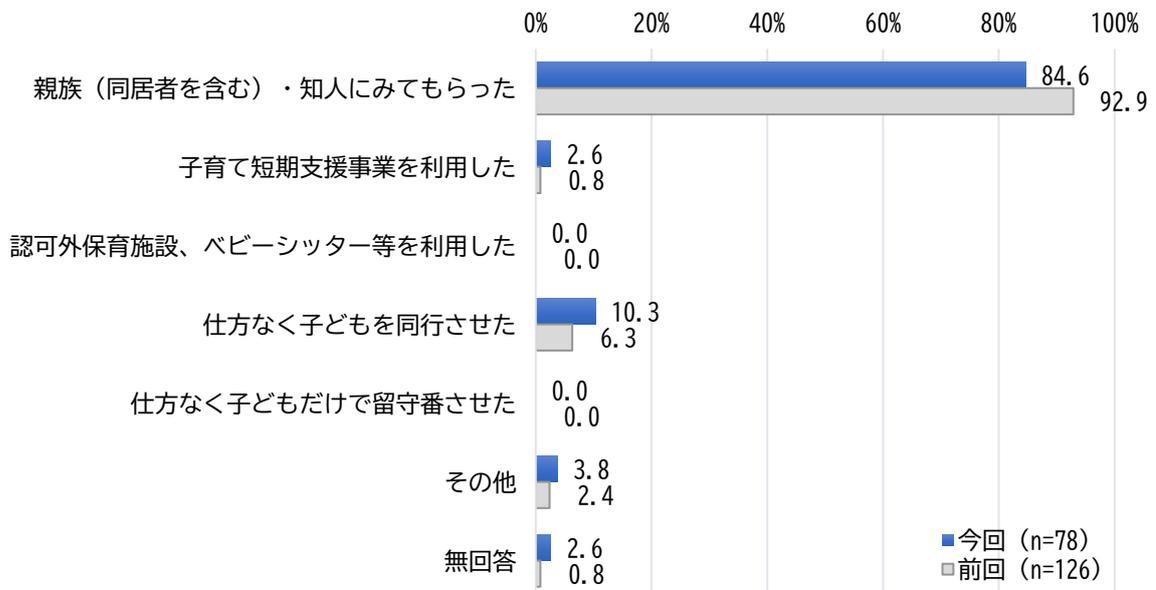
子どもを泊まりがけで家族以外にみてもらわなければならない経験については、「なかった」が79.6%、「あった」が14.1%となっています。



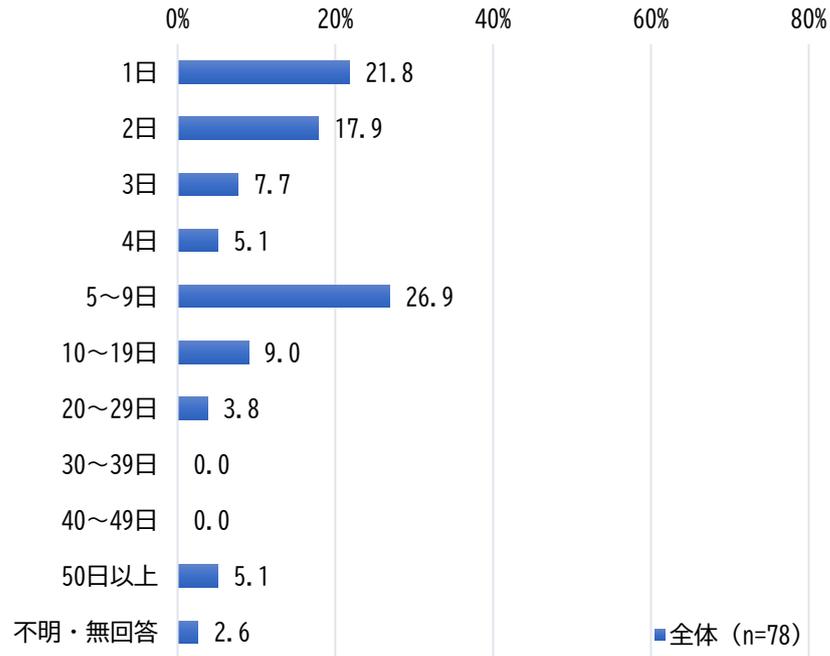
**問 26
(2)**

その際の対処法をお答えください。
（あてはまるすべてに○。また、対処方法別の内訳の日数を [] 内に数字でご記入ください。）

1年間の対処法については、「親族（同居者を含む）・知人にみてもらった」が84.6%で最も高く、次いで「仕方なく子どもを同行させた」（10.3%）、「子育て短期支援事業（ショートステイ）を利用した（児童養護施設で一定期間、子どもを保育する事業）」（2.6%）と続いています。



【預けた日数の合計】



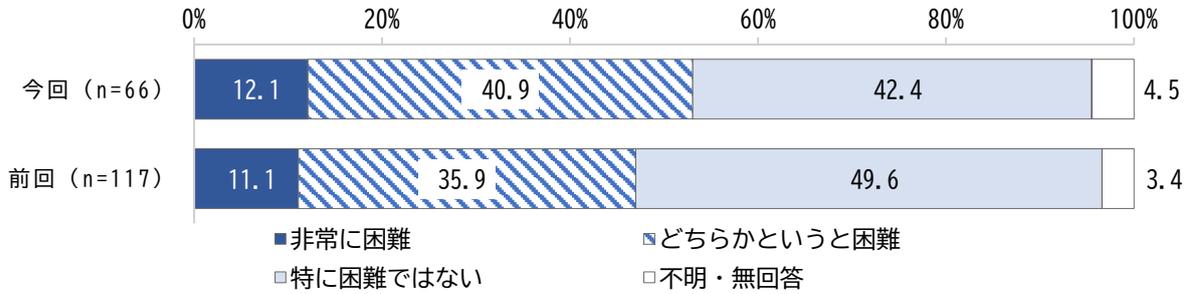
【各対処法の日数】

目的別	親族（同居者を含む） 知人にみてもらった n=66		子育て短期支援事業を 利用した n=2		認可外保育施設、ベビー シッター等を利用した n=0		仕方なく子どもを 同行させた n=7		仕方なく子どもだけで 留守番させた n=0		その他 n=2	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
1泊	14	21.5	1	50.0			2	28.6			1	50.0
2泊	13	20.0	0	0.0			3	42.9			0	0.0
3泊	6	9.2	0	0.0			0	0.0			0	0.0
4泊	1	1.5	0	0.0			1	14.3			0	0.0
5泊	16	24.6	0	0.0			1	14.3			0	0.0
6泊	0	0.0	0	0.0			0	0.0			0	0.0
7泊以上	15	23.1	1	50.0			0	0.0			1	50.0

問 26-1

【問26の「(2) 1年間の対処法」で「1 親族（同居者を含む）・知人にみてもらった」を選択した方にお伺いします。
 その場合の困難度はどの程度でしたか。（1つに○）

親族・知人にみてもらうときの困難度については、「特に困難ではない」が42.4%で最も高く、次いで「どちらかという困難」（40.9%）、「非常に困難」（12.1%）と続いています。

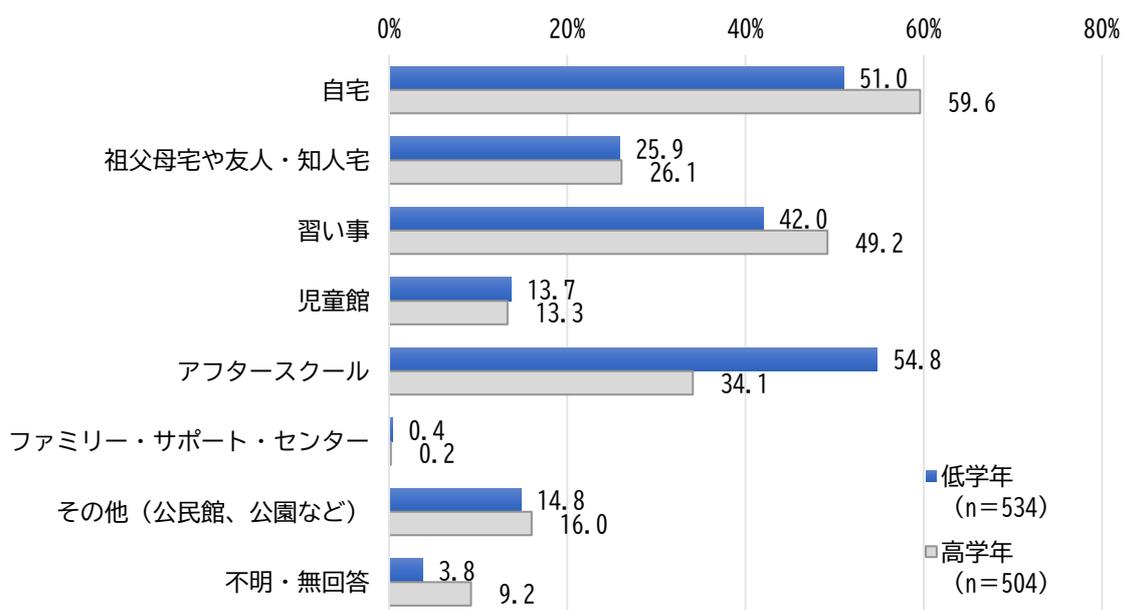


小学校就学後の放課後の過ごし方について

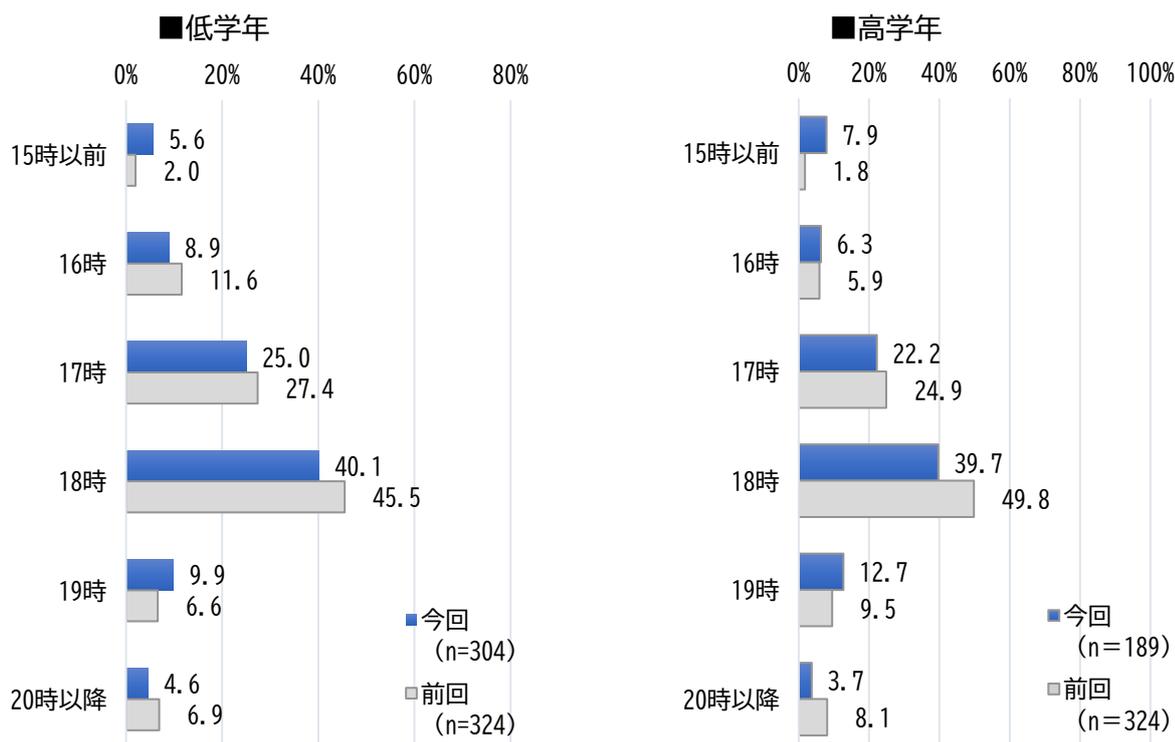
問 27

お子さんについて、小学生になったら、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。
（あてはまるすべてに○。それぞれ希望する週当たり日数を数字でご記入ください。）

平日放課後に過ごさせたい場所については、低学年で「アフタースクール」が54.8%で最も高く、次いで「自宅」(51.0%)、「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」(42.0%)と続いています。高学年では、「自宅」が59.6%で最も高く、次いで「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」(49.2%)、「アフタースクール」(34.1%)と続いています。



【アフタースクールの希望利用時間帯】



【それぞれの場所の希望日数】

■低学年

場所別	自宅 n=272		祖父母宅や友人・知人宅 n=139		習い事 n=228		児童館 n=71		アフタースクール n=298		ファミリー・サポート・センター n=2		その他（公民館、公園など） n=3	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
1日	31	11.4	49	35.3	92	40.4	40	56.3	8	2.7	2	100.0	25	30.9
2日	50	18.4	41	29.5	102	44.7	21	29.6	27	9.1	0	0.0	23	28.4
3日	60	22.1	26	18.7	29	12.7	5	7.0	48	16.1	0	0.0	20	24.7
4日	30	11.0	4	2.9	2	0.9	1	1.4	33	11.1	0	0.0	3	3.7
5日	88	32.4	16	11.5	3	1.3	4	5.6	179	60.1	0	0.0	9	11.1
6日	4	1.5	1	0.7	0	0.0	0	0.0	3	1.0	0	0.0	0	0.0
7日	9	3.3	2	1.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	1.2

■高学年

場所別	自宅 n=320		祖父母宅や友人・知人宅 n=141		習い事 n=269		児童館 n=70		アフタースクール n=184		ファミリー・サポート・センター n=1		その他（公民館、公園など） n=87	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
1日	37	11.6	47	33.3	64	23.8	36	51.4	7	3.8	1	100.0	31	35.6
2日	61	19.1	41	29.1	122	45.4	20	28.6	21	11.4	0	0.0	24	27.6
3日	69	21.6	25	17.7	68	25.3	7	10.0	30	16.3	0	0.0	16	18.4
4日	22	6.9	4	2.8	8	3.0	1	1.4	19	10.3	0	0.0	4	4.6
5日	122	38.1	23	16.3	7	2.6	6	8.6	104	56.5	0	0.0	10	11.5
6日	2	0.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	1.6	0	0.0	1	1.1
7日	7	2.2	1	0.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	1.1

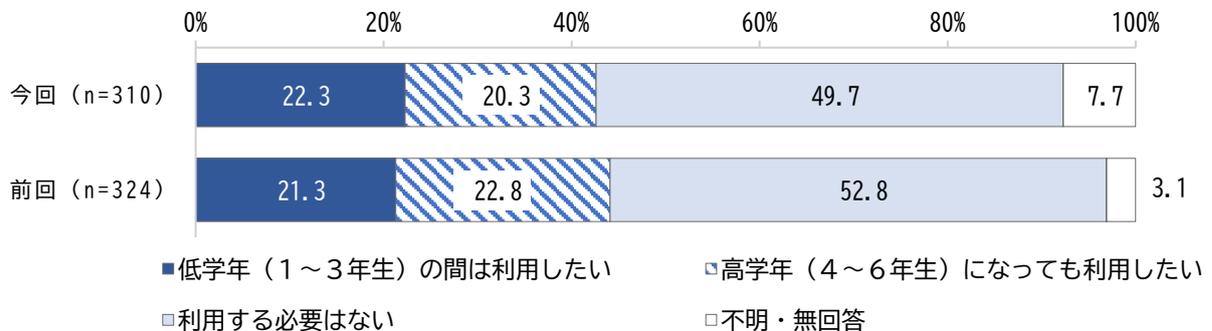
問 27-1

【問27で「5 アフタースクール」を選択した方にお伺いします。】

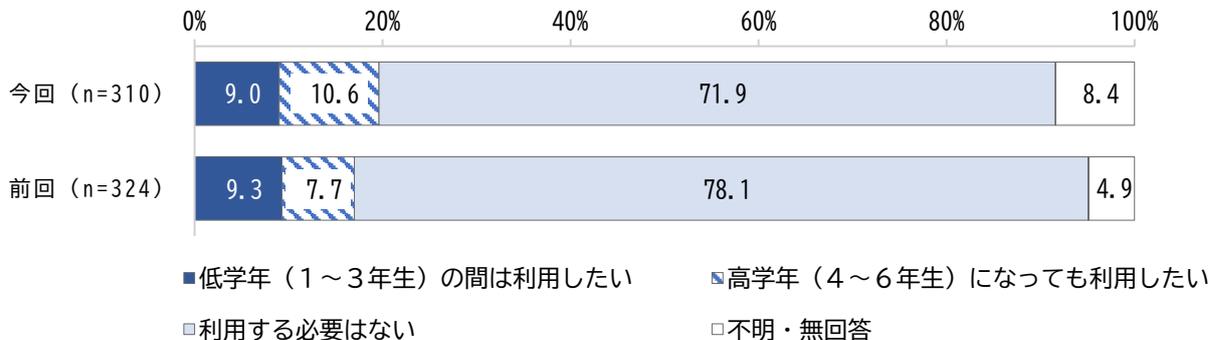
お子さんについて、土曜日、日曜日・祝日及び長期休暇（春・夏・冬休み）に、アフタースクールの利用希望はありますか。（それぞれ1つに○。また利用したい時間帯を（ ）内にご記入ください。）

アフタースクールの利用希望について、土曜日で「利用する必要はない」が49.7%で最も高く、次いで「低学年（1～3年生）の間は利用したい」（22.3%）、「高学年（4～6年生）になっても利用したい」（20.3%）と続いています。日曜・祝日では、「利用する必要はない」が71.9%で最も高く、次いで「高学年（4～6年生）になっても利用したい」（10.6%）、「低学年（1～3年生）の間は利用したい」（9.0%）と続いています。長期休暇では、「高学年（4～6年生）になっても利用したい」が44.5%で最も高く、次いで「低学年（1～3年生）の間は利用したい」（36.8%）、「利用する必要はない」（10.3%）と続いています。

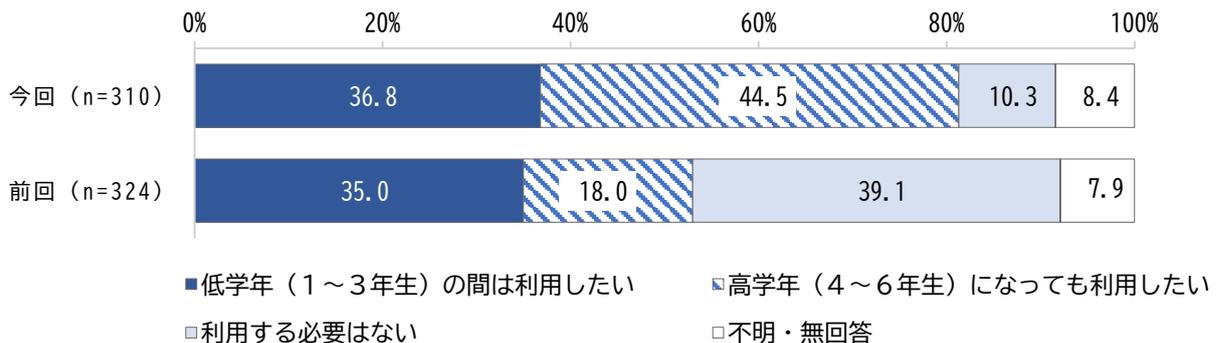
■土曜日の利用



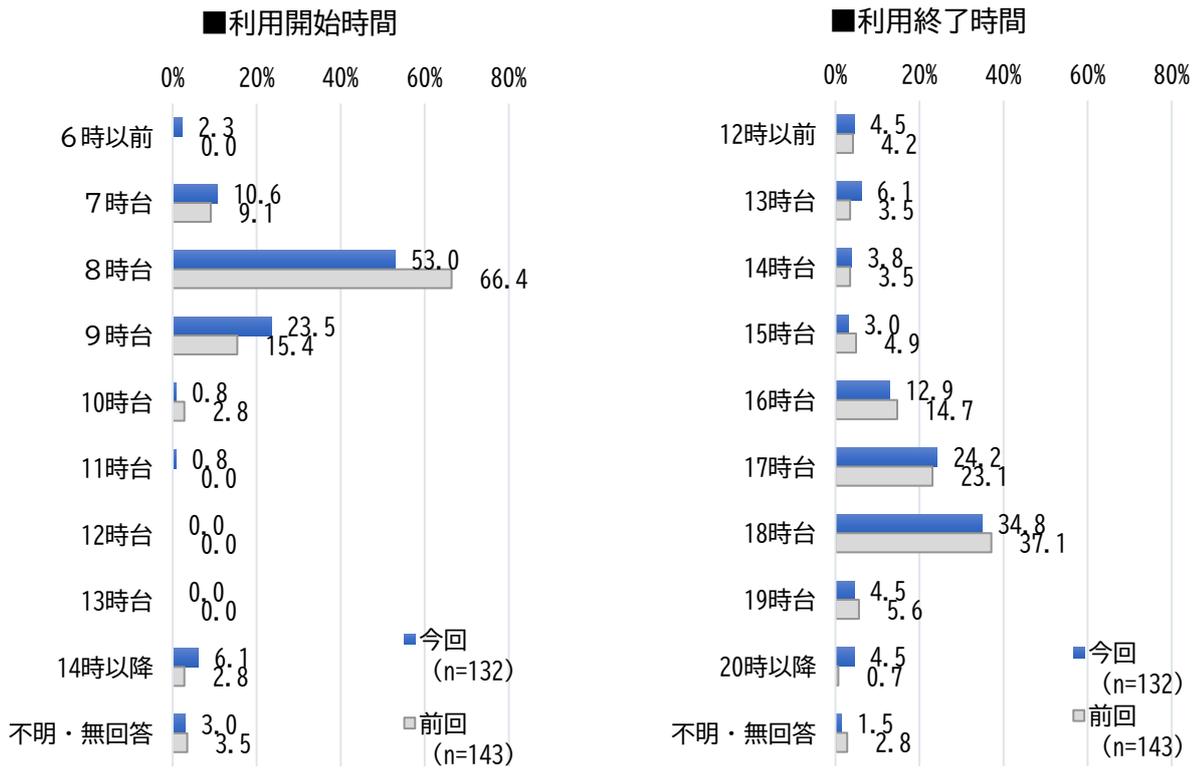
■日曜・祝日の利用



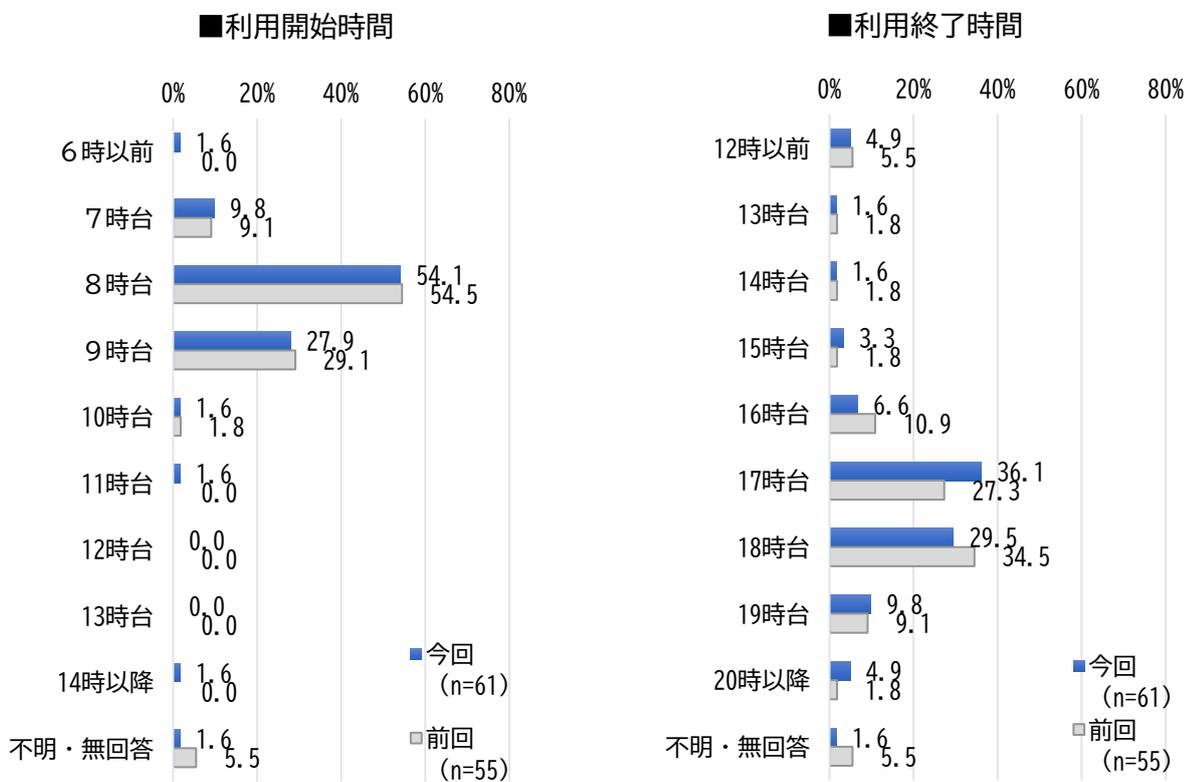
■長期休暇の利用



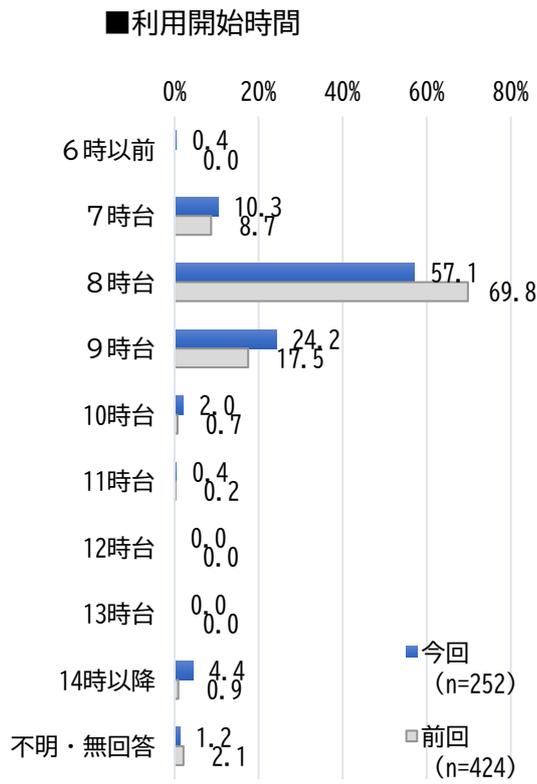
【土曜日のアフタースクール利用希望時間】



【日曜日・祝日のアフタースクール利用希望時間】



【長期休暇のアフタースクール利用希望時間】



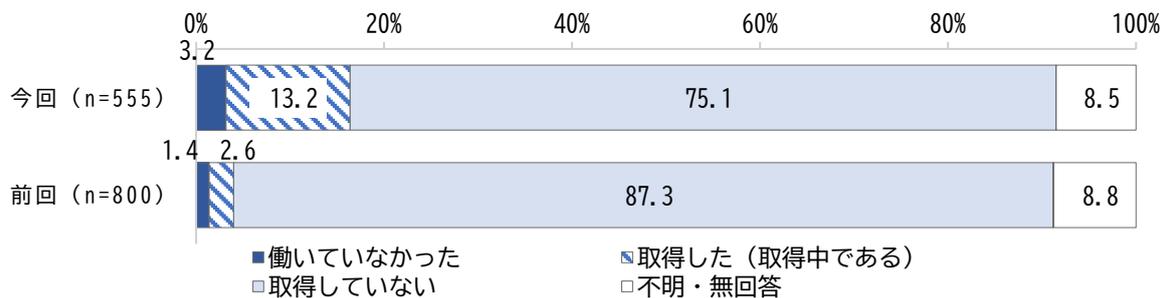
育児と就労の両立について

問 28

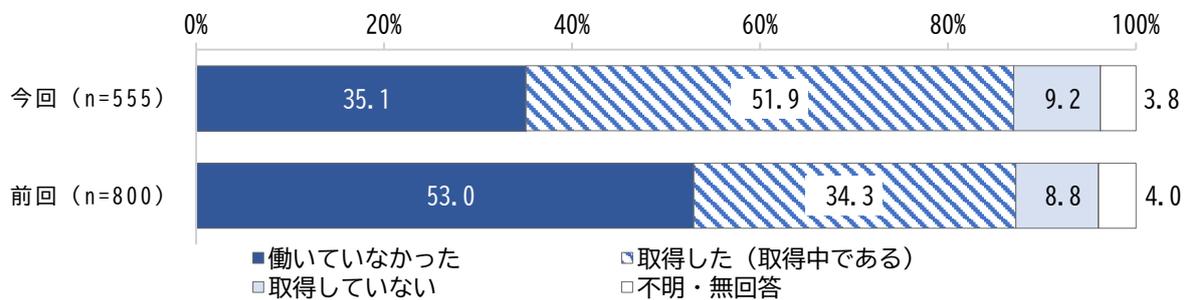
お子さんが生まれた時、父母のいずれか、もしくは双方が育児休業を取得しましたか。
（それぞれ1つに○。ひとり親家庭の方は、該当する部分のみお答えください。）

育児休業の取得については、父親で「取得していない」が75.1%で最も高く、次いで「取得した（取得中である）」（13.2%）、「働いていなかった」（3.2%）と続いています。母親では、「取得した（取得中である）」が51.9%で最も高く、次いで「働いていなかった」（35.1%）、「取得していない」（9.2%）と続いています。

【父親】

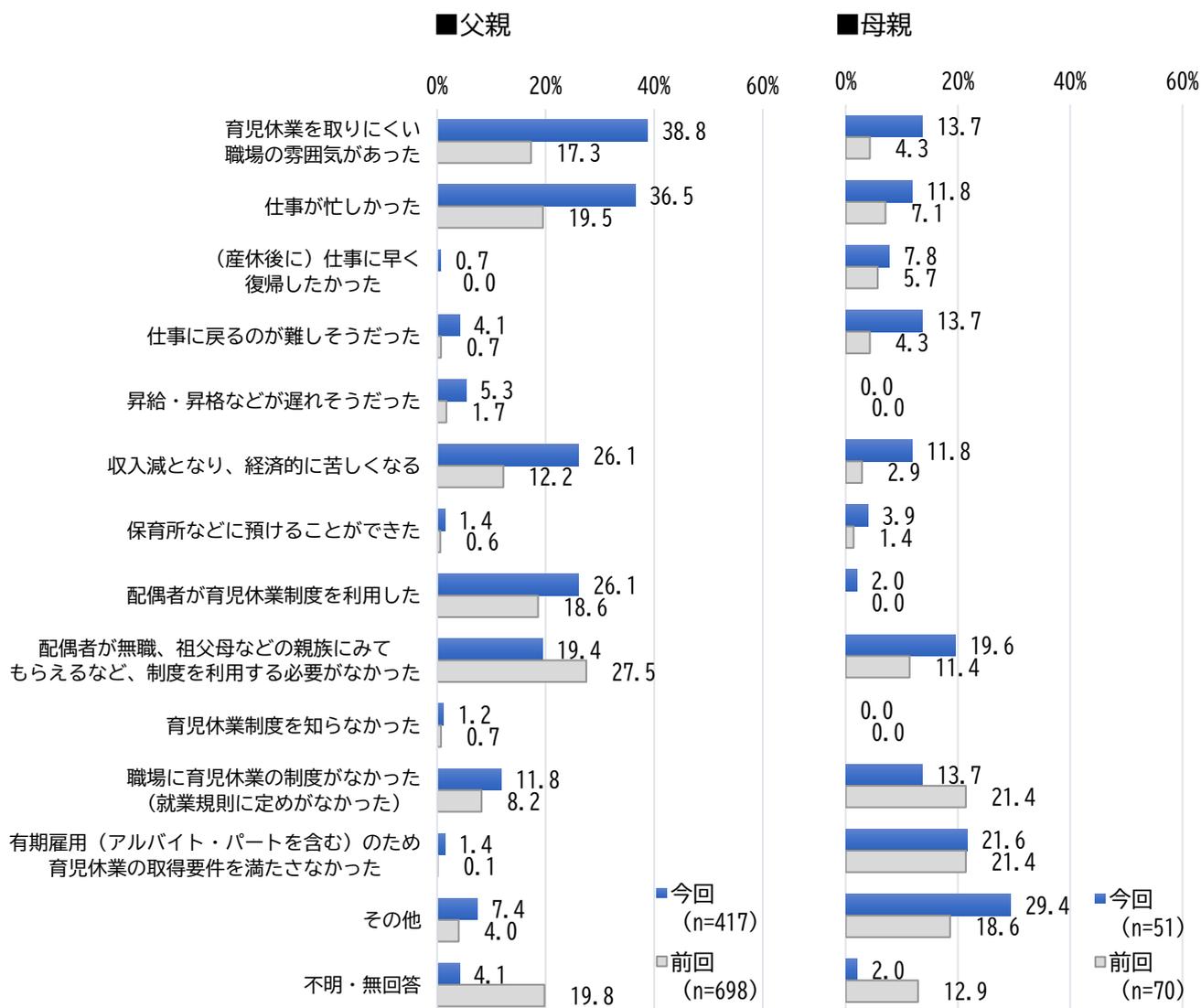


【母親】



育児休暇を取得していない理由については、父親で「育児休業を取りにくい職場の雰囲気があった」が38.8%で最も高く、次いで「仕事が忙しかった」(36.5%)、「収入減となり、経済的に苦しくなる」「配偶者が育児休業制度を利用した」(26.1%)と続いています。母親では、「有期雇用(アルバイト・パートを含む)のため育児休業の取得要件を満たさなかった」が21.6%で最も高く、次いで「配偶者が無職、祖父母などの親族にみてもらえるなど、制度を利用する必要がなかった」(19.6%)と続いています。

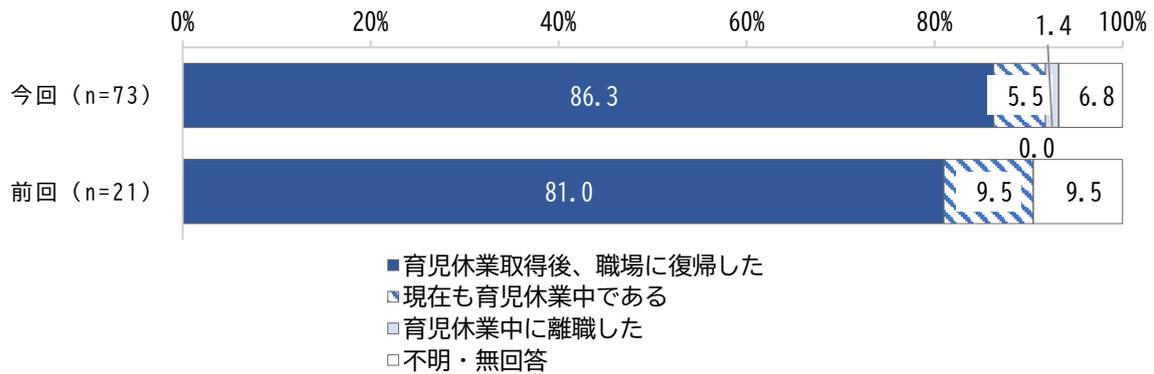
【育児休暇を取得していない理由】



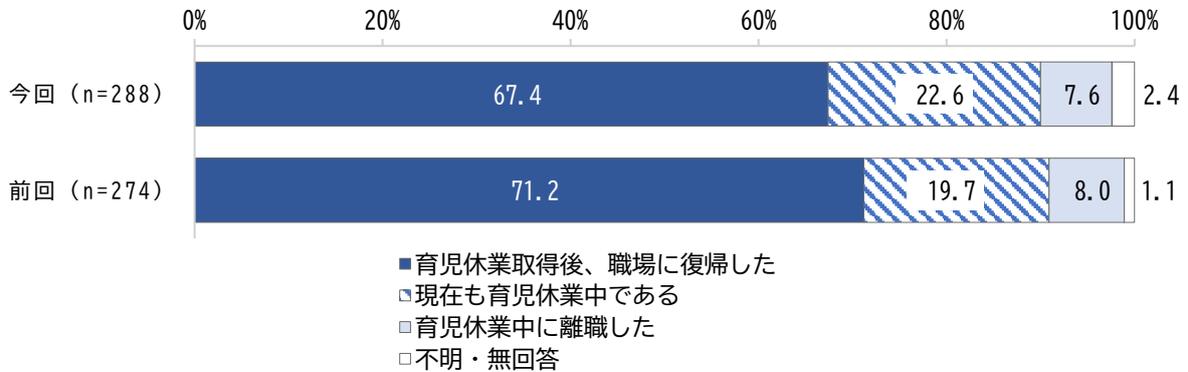
問 28-1 【問28で「2 取得した（取得中である）」を選択した方にお伺いします。】
 育児休業取得後、職場に復帰しましたか。（それぞれ1つに○。ひとり親家庭の方は、該当する部分のみお答えください。）

育児休業取得後の職場に復帰については、父親で「育児休業取得後、職場に復帰した」が86.3%で最も高く、次いで「現在も育児休業中である」（5.5%）、「育児休業中に離職した」（1.4%）と続いています。母親では、「育児休業取得後、職場に復帰した」が67.4%で最も高く、次いで「現在も育児休業中である」（22.6%）、「育児休業中に離職した」（7.6%）と続いています。

【父親】



【母親】



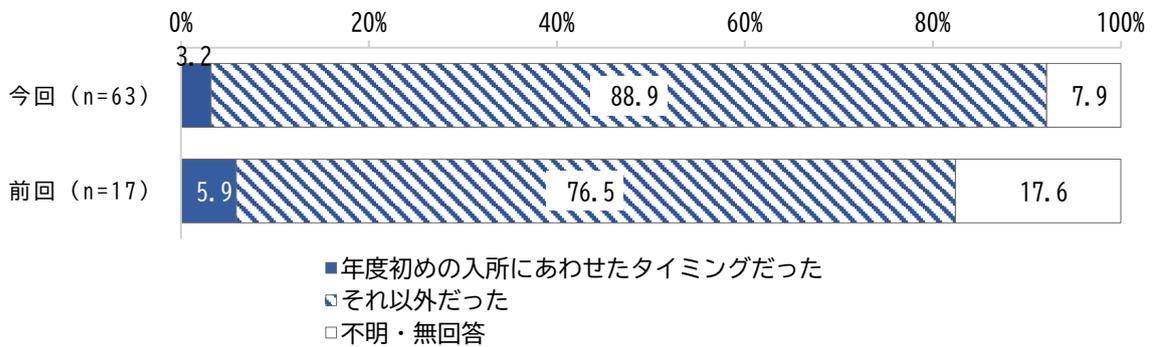
問 28-2

【問28-1で「1 育児休業取得後、職場に復帰した」を選択した方にお伺いします。】

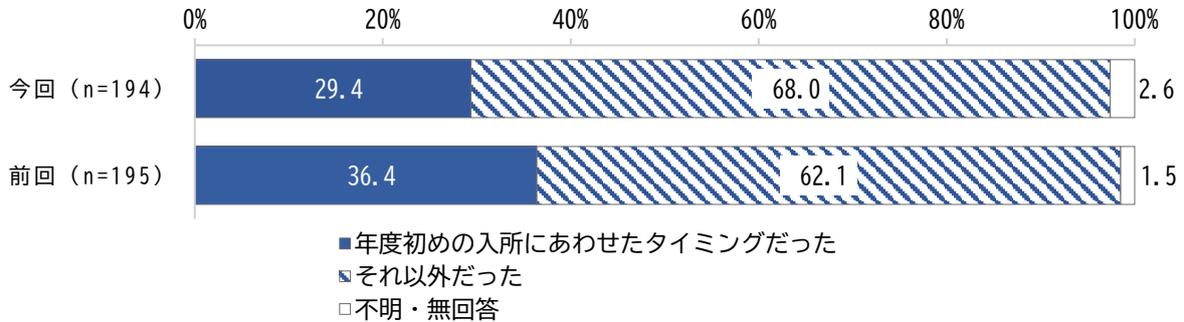
育児休業から職場に復帰したのは、年度初めの保育所入所にあわせたタイミングでしたか。あるいはそれ以外でしたか。（1つに○※ 年度初めを希望して復帰したが、入所できなかった場合も「1 年度初めの入所にあわせたタイミングだった」を選択してください。）

育児休業後の職場復帰のタイミングが保育所入所にあわせたタイミングであったかについては、父親で「それ以外だった」が 88.9%、「年度初めの入所にあわせたタイミングだった」が 3.2%となっています。母親では、「それ以外だった」が 68.0%、「年度初めの入所にあわせたタイミングだった」が 29.4%となっています。

【父親】



【母親】

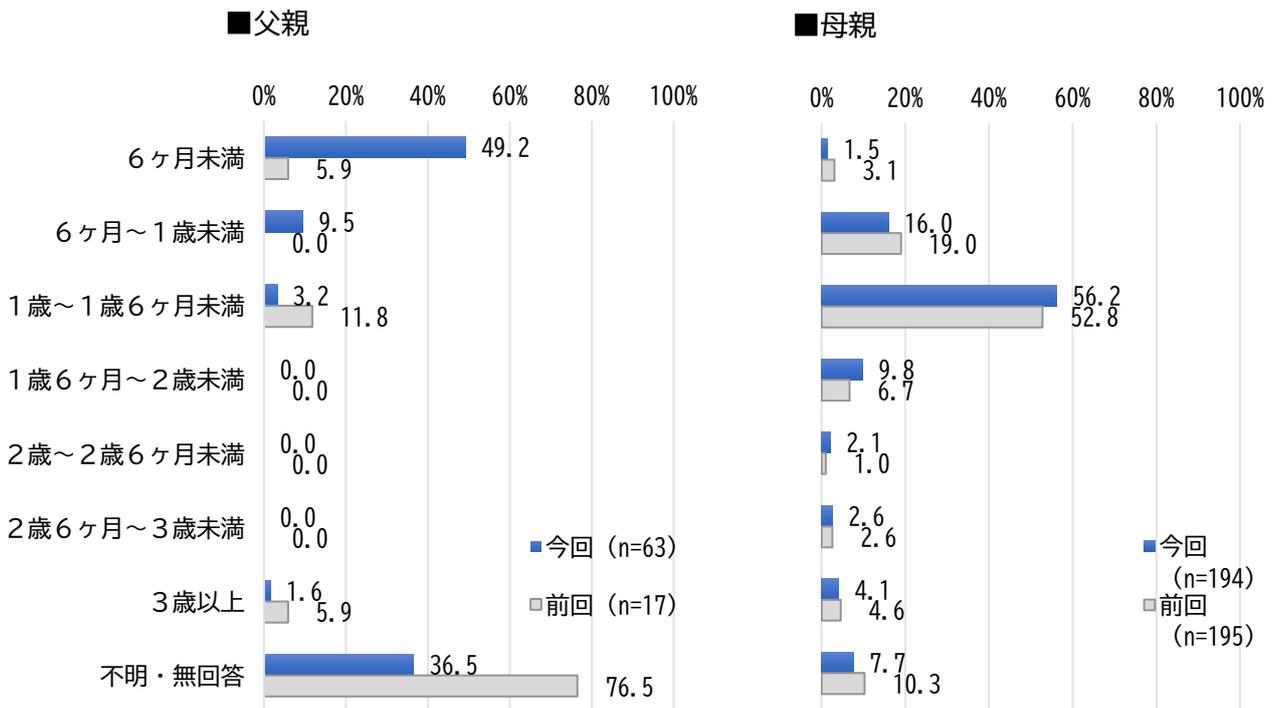


問 28-3 【問28-1で「1 育児休業取得後、職場に復帰した」を選択した方にお伺いします。】
 育児休業からは、「実際に」お子さんが何歳何ヶ月の時に職場復帰しましたか。また、お勤め先の育児休業の制度の期間内で、何歳何ヶ月のときまで取りたかったですか。（[] 内に数字を記入）

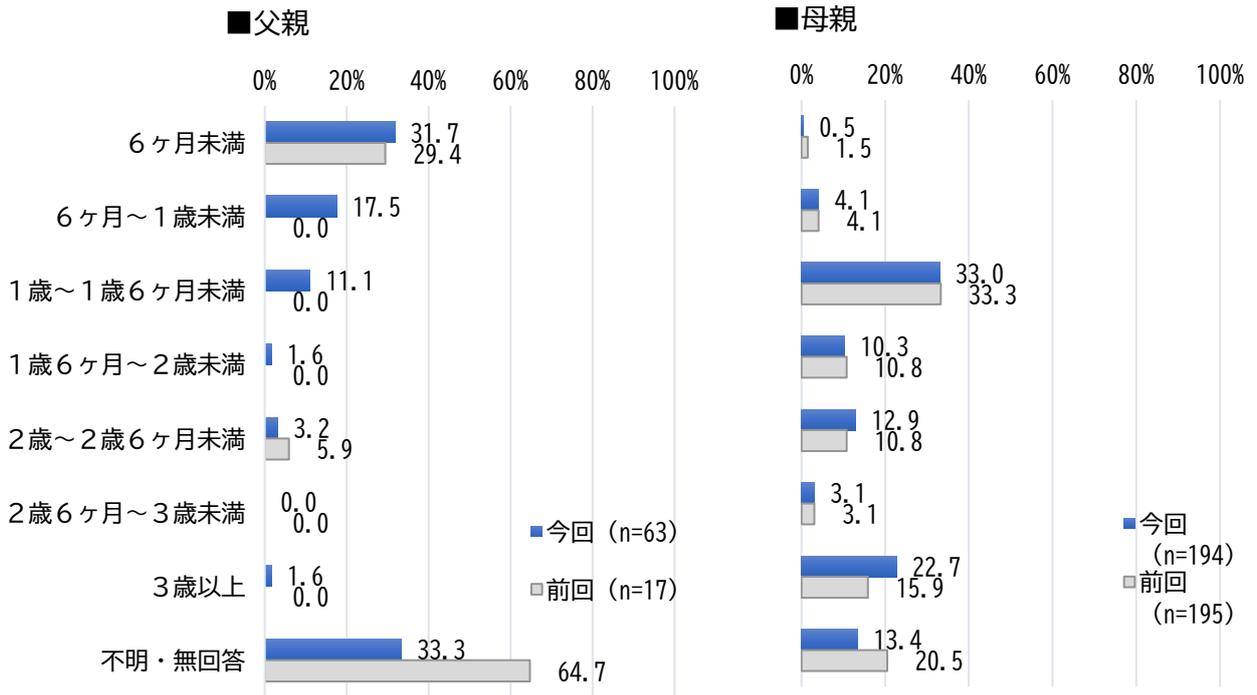
子どもが何歳何ヶ月の時に職場復帰したかについては、父親で「6ヶ月未満」が49.2%で最も高く、次いで「6ヶ月～1歳未満」（9.5%）、「1歳～1歳6ヶ月未満」（3.2%）と続いています。母親では、「1歳～1歳6ヶ月未満」が56.2%で最も高く、次いで「6ヶ月～1歳未満」（16.0%）、「1歳6ヶ月～2歳未満」（9.8%）と続いています。

また、希望の職場復帰時期については、父親で「6ヶ月未満」が31.7%で最も高く、次いで「6ヶ月～1歳未満」（17.5%）、「1歳～1歳6ヶ月未満」（11.1%）と続いています。母親では、「1歳～1歳6ヶ月未満」が33.0%で最も高く、次いで「3歳以上」（22.7%）、「2歳～2歳6ヶ月未満」（12.9%）と続いています。

【実際の職場復帰時期】

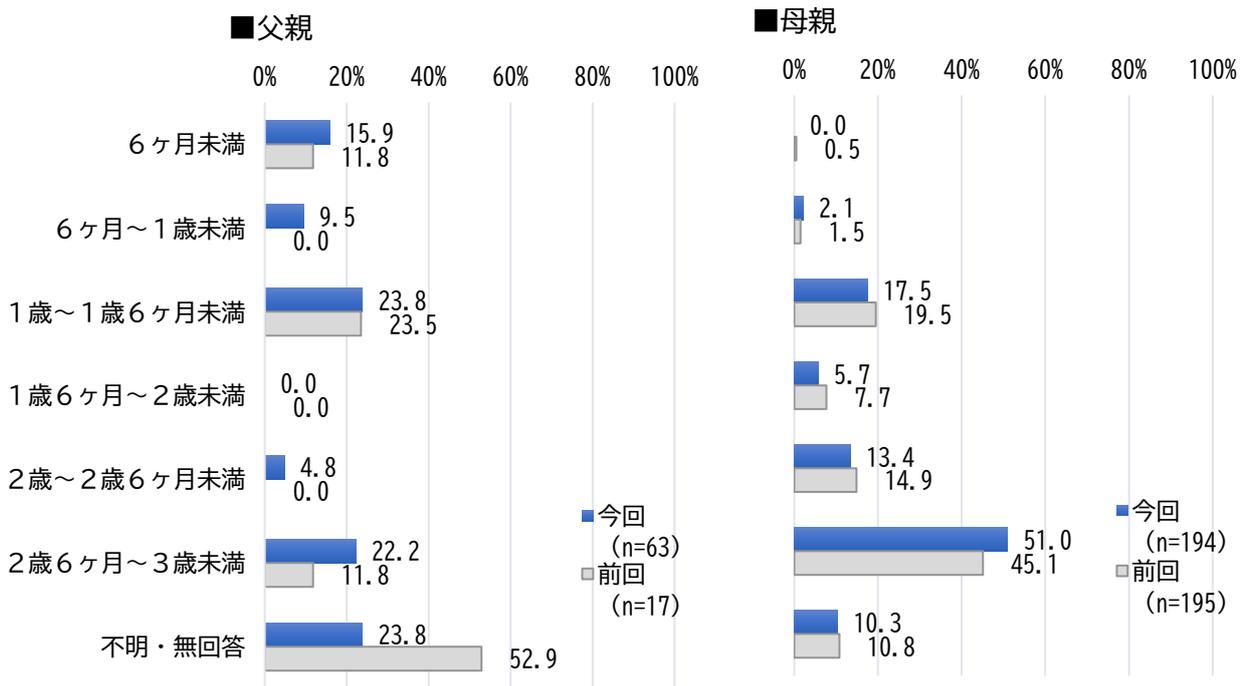


【希望の職場復帰時期】



問 28-4 【問28-1で「1 育児休業取得後、職場に復帰した」を選択した方にお伺いします。】
 お勤め先に、育児のために3歳まで休暇を取得できる制度があった場合、「希望」としてはお子さんが何歳何ヶ月のときまで取りたかったですか。（〔 〕内に数字を記入。ひとり親家庭の方は、該当する部分のみお答えください。）

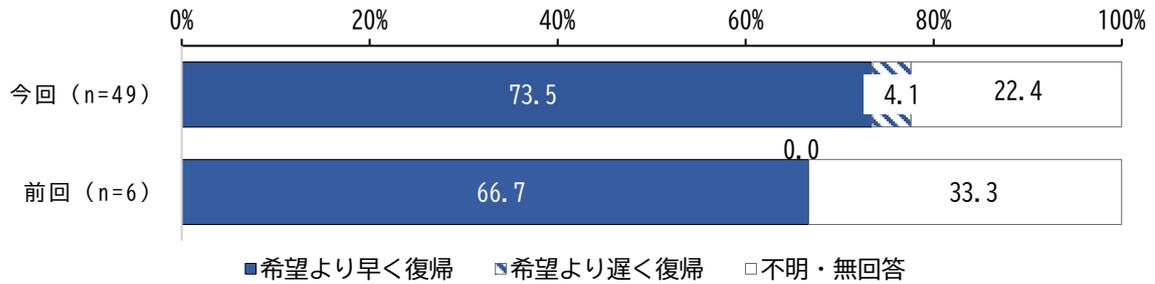
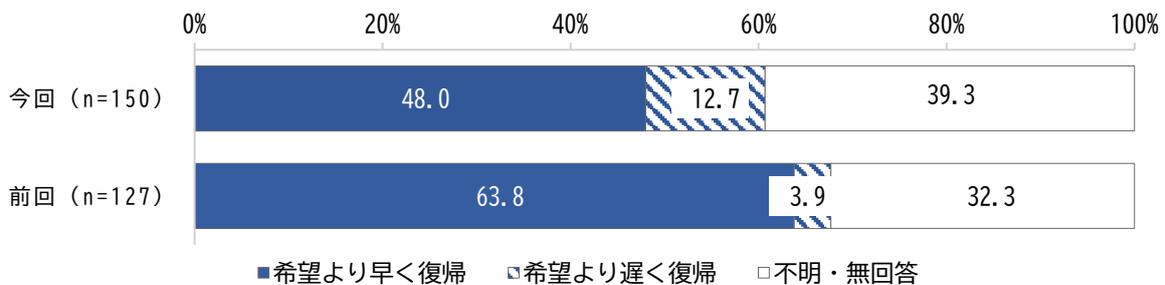
育児のために3歳まで休暇を取得できる制度があった場合、何歳何ヶ月のときまで取りたかったかについては、父親で「1歳～1歳6ヶ月未満」が23.8%で最も高く、次いで「2歳6ヶ月～3歳未満」（22.2%）、「6ヶ月未満」（15.9%）と続いています。母親では、「2歳6ヶ月～3歳未満」が51.0%で最も高く、次いで「1歳～1歳6ヶ月未満」（17.5%）、「2歳～2歳6ヶ月未満」（13.4%）と続いています。



問 28-5

【問28-3で実際の復帰と希望が異なる方にお伺いします。】
希望の時期に職場復帰しなかった理由を教えてください。(AまたはBのいずれかを選択した上で、選択肢よりあてはまる番号をすべて回答欄にご記入ください。)

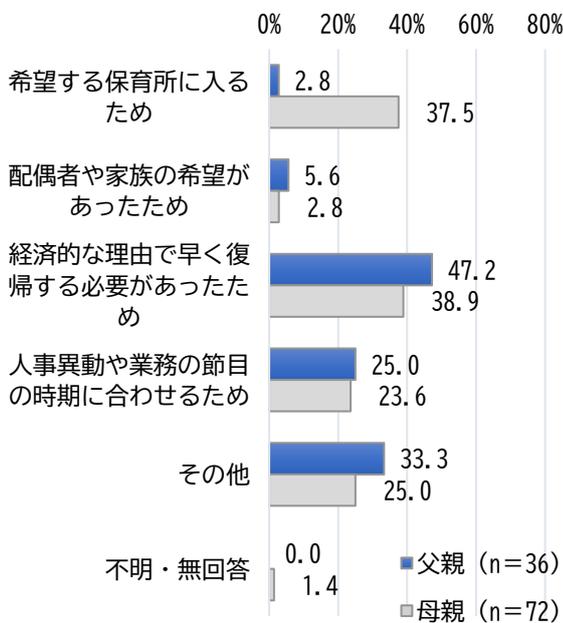
復帰のタイミングが希望とどう違ったかについては、父親で「希望より早く復帰した」が73.5%、「希望より遅く復帰した」が4.1%となっています。母親では、「希望より早く復帰した」が48.0%、「希望より遅く復帰した」が12.7%となっています。

【父親】**【母親】**

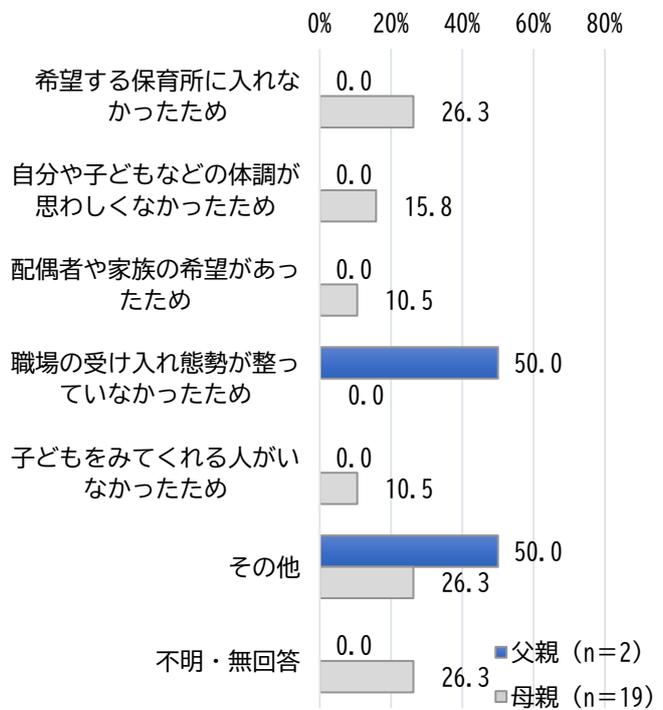
希望より早く復帰した理由については、父親で「経済的な理由で早く復帰する必要があったため」が47.2%で最も高く、次いで「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」(25.0%)、「配偶者や家族の希望があったため」(5.6%)と続いています。母親では、「経済的な理由で早く復帰する必要があったため」が38.9%で最も高く、次いで「希望する保育所に入るため」(37.5%)、「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」(23.6%)と続いています。

一方、遅く復帰した理由については、父親で「職場の受け入れ態勢が整っていなかったため」が50.0%となっています。母親では、「希望する保育所に入れなかったため」が26.3%で最も高く、次いで「自分や子どもなどの体調が思わしくなかったため」(15.8%)、「配偶者や家族の希望があったため」「子どもをみてくれる人がいなかったため」(10.5%)と続いています。

【希望より早く復帰した理由】



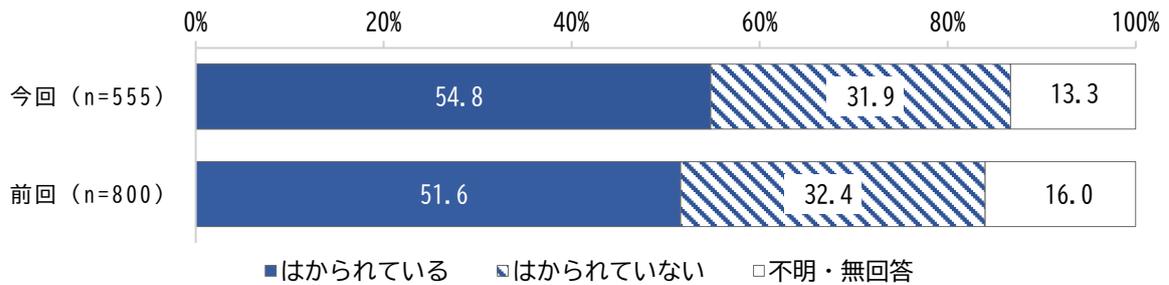
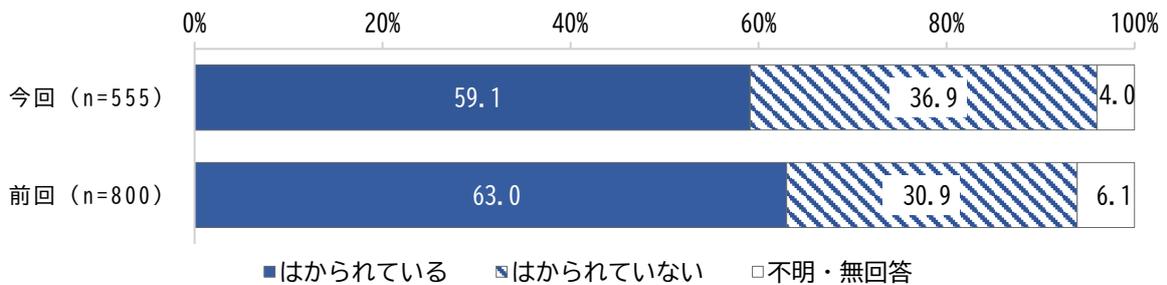
【希望より遅く復帰した理由】



問 29

子どもと一緒に時間や親の介護、自己実現のための時間が十分に取れている（仕事と生活の調和がはかられている）と思いますか。（父親・母親それぞれ1つに○）

仕事と生活の調和については、父親で「はかられている」が 54.8%、「はかされていない」が 31.9%となっています。母親では、「はかられている」が 59.1%、「はかされていない」が 36.9%となっています。

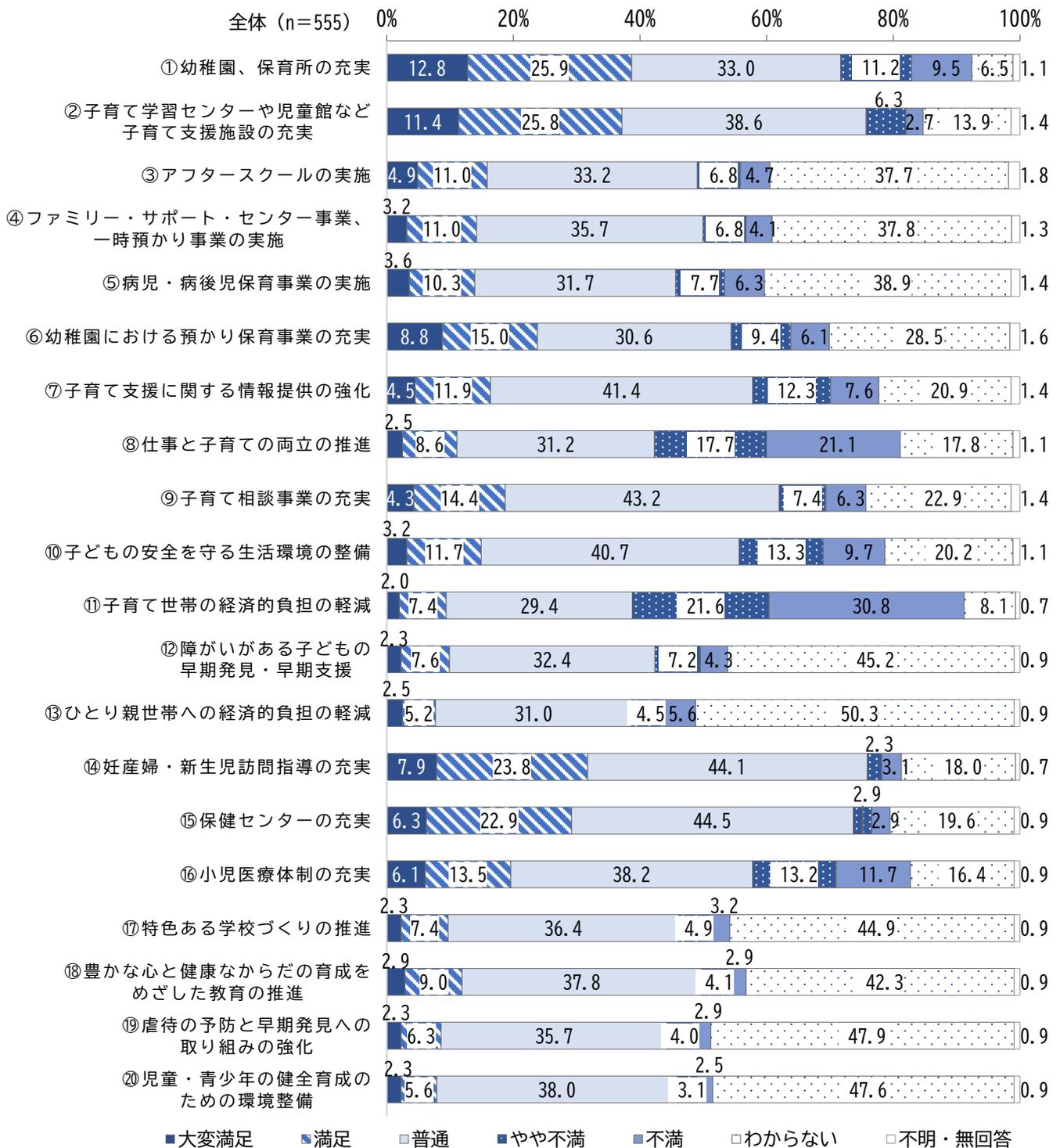
【父親】**【母親】**

赤穂市での子育てについて

問 30

下記の分野のうち、行政の取り組みに対してどのように感じていますか。取り組みは多岐に渡りますが、全体的な満足度をお答えください。（①～⑳、それぞれ1つに○）

行政の取り組みに対する評価についてみると、『満足している（大変満足+満足）』が「幼稚園、保育所の充実」で38.7%、「子育て学習センターや児童館など子育て支援施設の充実」で37.2%、「妊産婦・新生児訪問指導の充実」で31.7%と高くなっています。一方で、『不満を感じている（不満+やや不満）』が「子育て世帯の経済的負担の軽減」で52.4%、「仕事と子育ての両立の推進」で38.8%となっています。

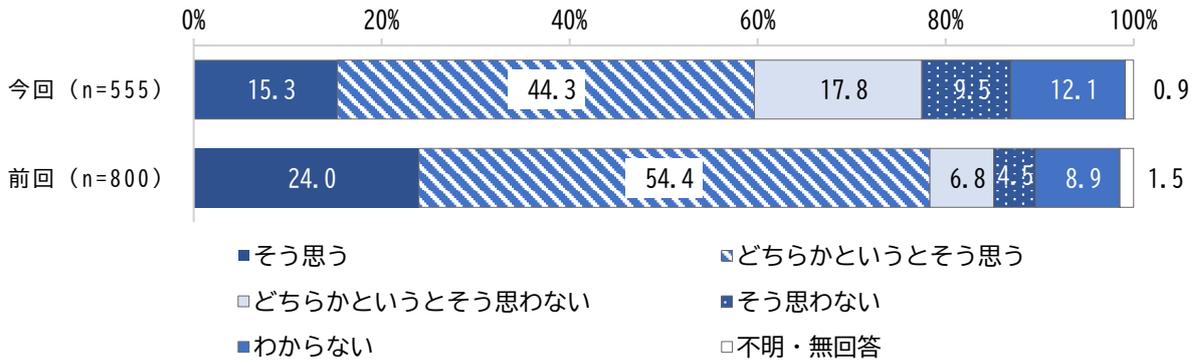


問 31

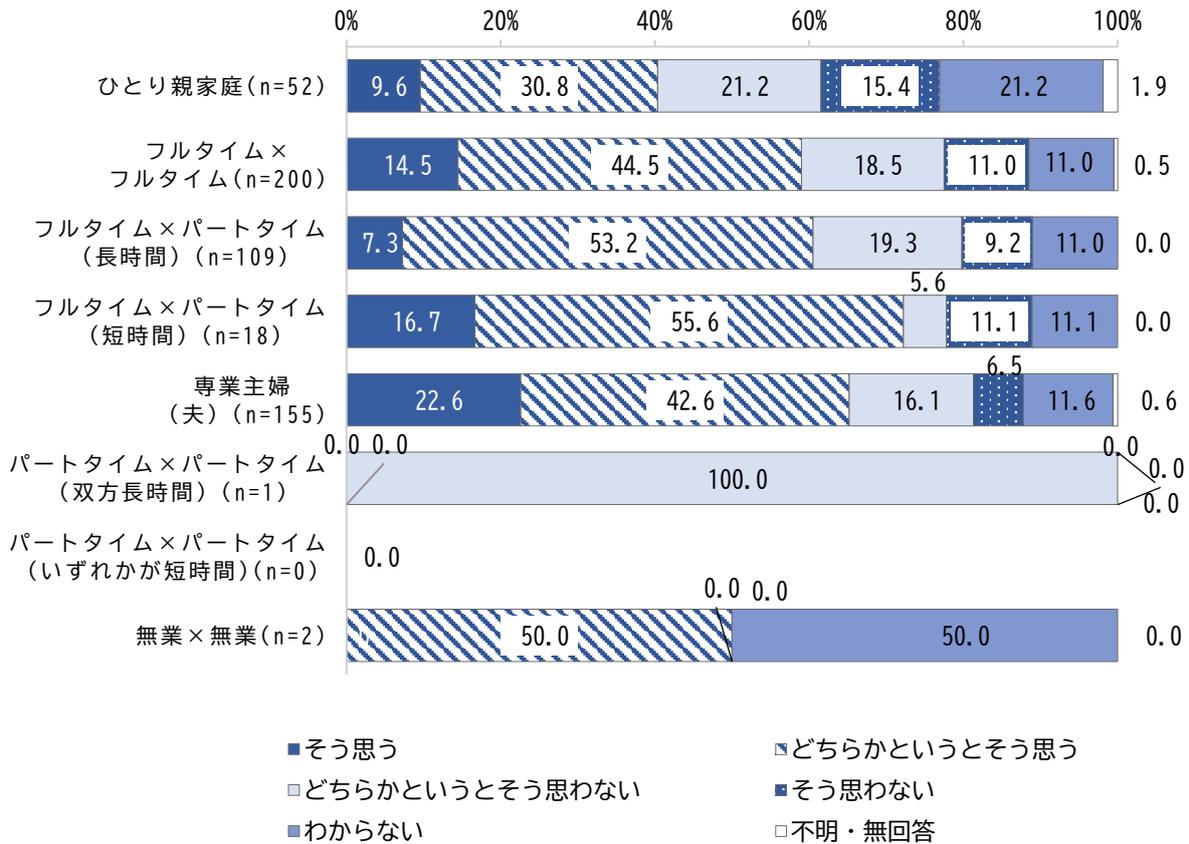
赤穂市は、子育てしやすい環境にあると思いますか。
(1つに○。また、その理由もご記入ください。)

赤穂市が子育てしやすい環境にあると思うかについては、「どちらかというと思う」が 44.3%で最も高く、次いで「どちらかというと思わない」(17.8%)、「そう思う」(15.3%)と続いています。

家庭類型別でみると、「ひとり親家庭」で『子育てしやすいと思う(「そう思う」+「どちらかというと思う」)』が 40.4%と低くなっています。

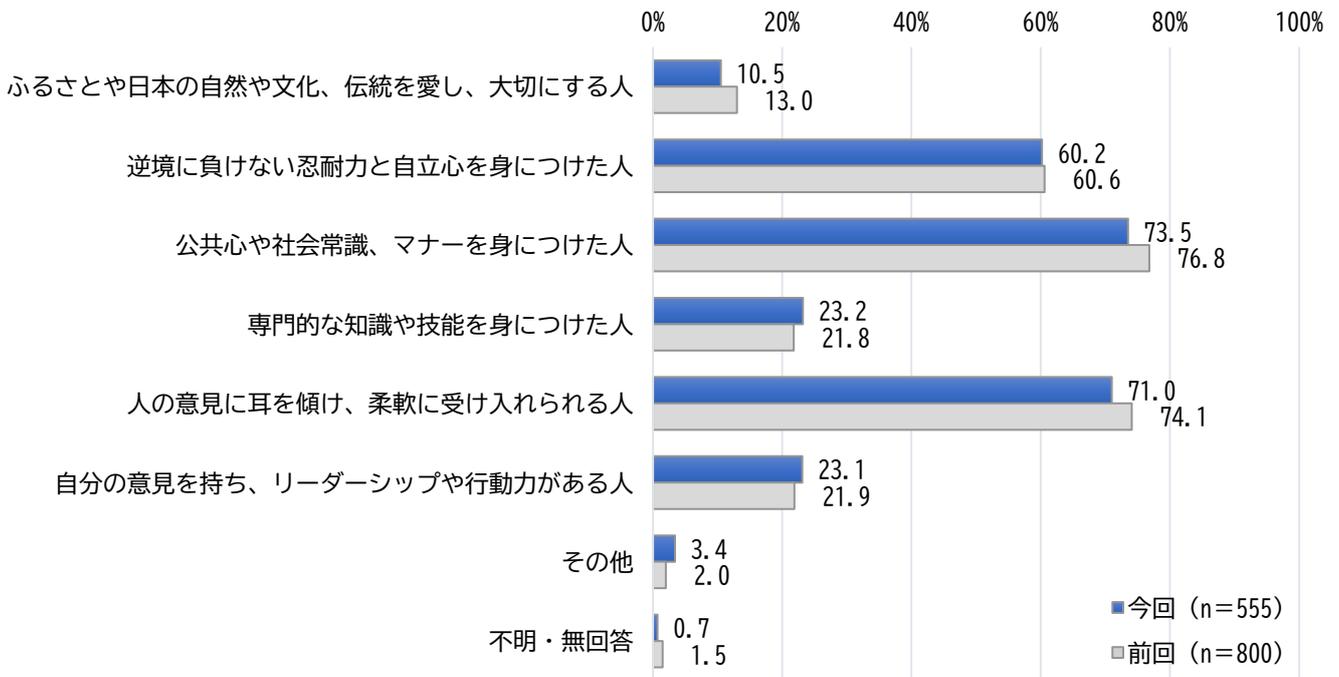


【家庭類型別】



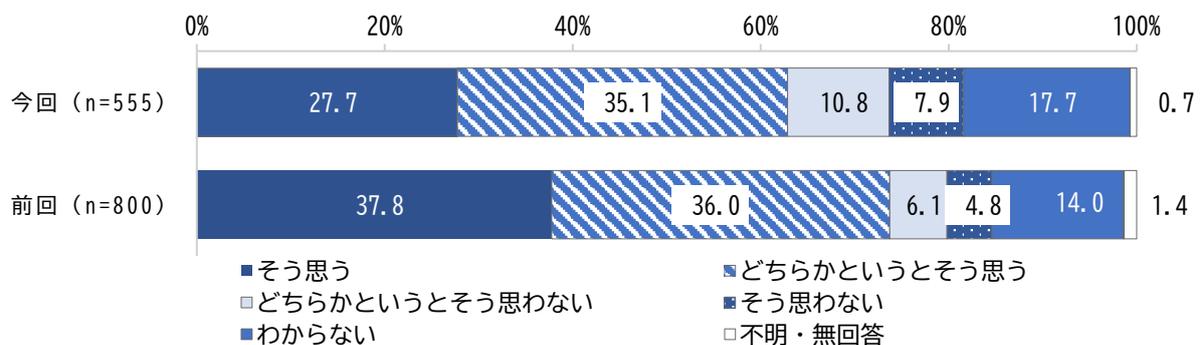
問 32 将来、お子さんにどのような人に育ててほしいと思いますか。（〇は3つまで）

将来、子どもにどのような人に育ててほしいと思うかについては、「公共心や社会常識、マナーを身につけた人」が73.5%で最も高く、次いで「人の意見に耳を傾け、柔軟に受け入れられる人」（71.0%）、「逆境に負けない忍耐力と自立心を身につけた人」（60.2%）と続いています。



問 33 あなたは、これからもお子さんに赤穂市で育ててほしいと思いますか。（1つに〇。また、その理由もご記入ください。）

これからも子どもに赤穂市で育ててほしいと思うかについては、「どちらかというそう思う」が35.1%で最も高く、次いで「そう思う」（27.7%）、「どちらかというそう思わない」（10.8%）と続いています。



問 34

最後に、教育・保育環境の充実など子育ての環境や支援に関してご意見がございましたら、ご自由にご記入ください。

医療について	件数
医療費の負担軽減 (地域・所得での不平等改善、医療費無償化)	5
医療従事者の不足や利便性改善 (医療従事者増員、土日診療)	2

保育園・幼稚園について	件数
入しやすい環境整備 (入所条件緩和、幼保一元化、育休中の保育等)	24
保育料の軽減	15
幼稚園の充実(3年保育、時間延長、イベント開催等)	16
保育所の充実(時間延長、土曜保育、5歳までの通所等)	22
一時預かり利用の充実 (期間延長、時間単位預かり等)	7
病児・病後保育の充実	3
施設の質の向上(防犯対策、設備整備・改修等)	7
施設の増設・定員増	6
保育関係者の待遇改善や人員増	8
その他(支払方法改善、手続きの簡素化、情報提供等)	15

小中学校について	件数
給食費無償化	4
アフタースクールの充実(利用時間の拡大、料金体系の見直し等)	8
誰でも過ごせる場所の充実	2
PTA改善	1
その他(支払方法改善、小学生保護者の時短勤務を企業に要請等)	3

子育て支援・サービス等について	件数
経済的負担軽減(非課税世帯や母子家庭以外への平等な支援等)	9
支援サービス充実 (妊娠・出産の支援サービス拡充、共働き世帯への支援拡充等)	22
子育て支援に関する情報提供 (情報へのアクセス性改善、分かりやすい情報発信等)	7
障がい児支援の充実	2
相談しやすい窓口の充実	1
窓口職員の対応向上	3
その他(支払方法改善、サービス提供の平等性確保、地域差の是正等)	7

公共施設・公共交通機関・安全対策について	件数
安全なまちづくり（街灯増設）	1
公共機関の充実・改善 （バスの利便性改善、タクシーチケットの割引率引き上げ等）	5
遊びの環境・子育て支援施設について	件数
公園の増設・整備 （古い遊具の改善、トイレの洋式化、ごみの管理改善、遊具の増設等）	12
施設の充実（民間企業によるテーマパークやアスレチック施設の増設等）	3
その他（駐車場増設、無料化）	2
まちづくりについて	件数
少子化対策および行政の改善要望	3
アンケートについて（設問量のスリム化等）	5
その他（幼・小・中学校統合希望）	1

第2章

子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査

(小学生保護者)

第2章 子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査 （小学生保護者）

調査概要

調査の目的： 「子ども・子育て支援法」に基づく次期計画の策定にあたり、教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業に関する「現在の利用状況」や「今後の利用希望」、並びに子育て世帯のニーズや意識を把握し、計画策定の基礎資料とすることを目的としています。

調査の対象： 小学1年生～5年生の保護者

調査の方法： 学校配布・回収（一部郵送配布・回収）
WEB 回答

調査の期間： 令和6年2月5日～2月16日

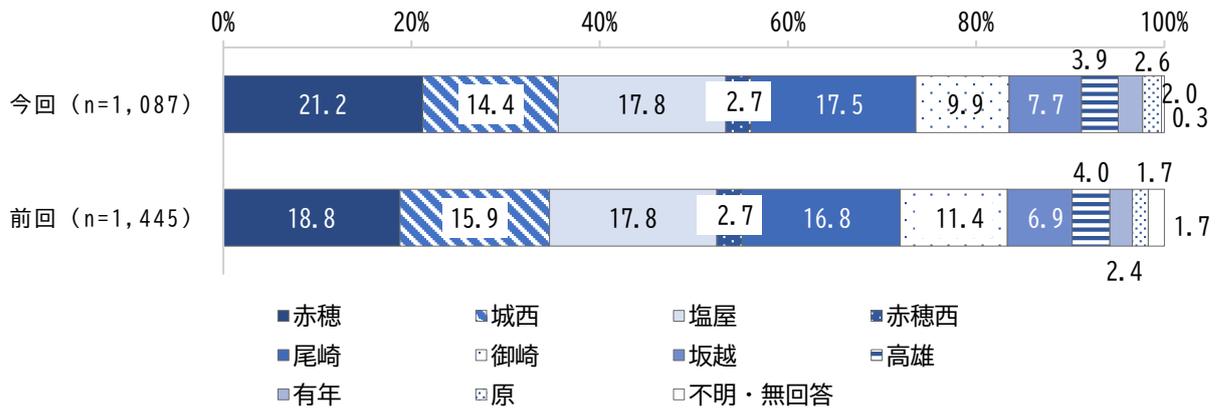
回収の結果：

配布数	回収数(有効回収数)		回収率(有効回収率)
1,362 件	全体	1,103 件 (1,087 件)	81.0% (79.8%)
	紙	593 件 (577 件)	43.5% (42.4%)
	WEB	510 件 (510 件)	37.4% (37.4%)

お子さんご家族の状況について

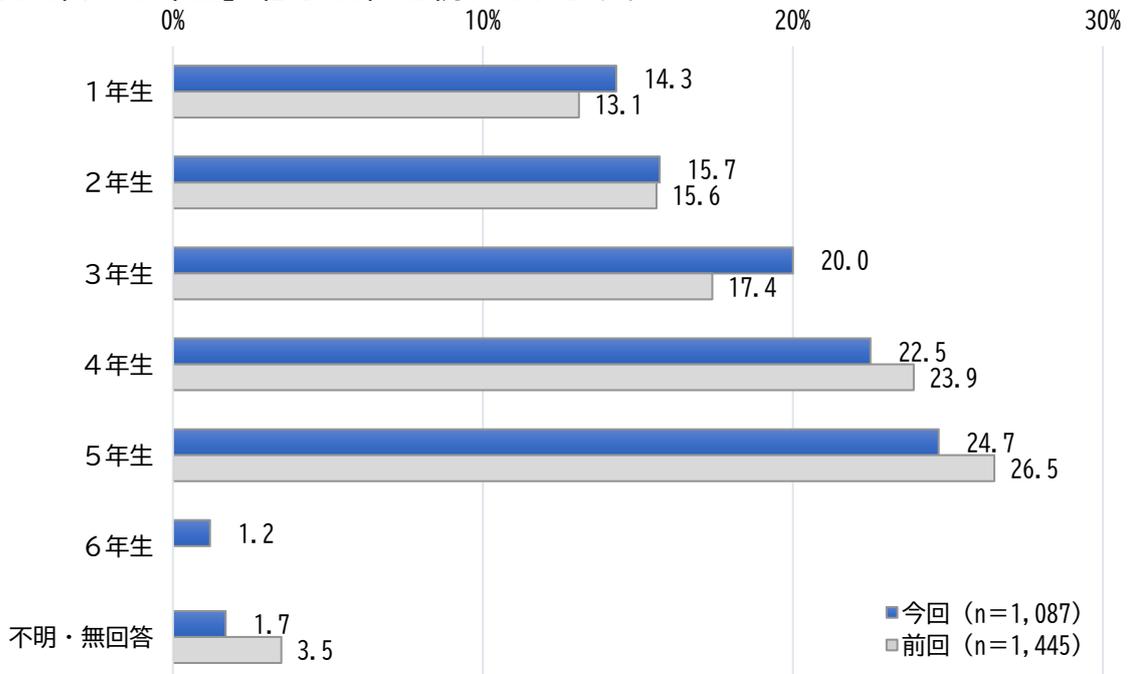
問1 お住まいの小学校区はどちらですか。(1つに○)

お住まいの小学校区については、「赤穂」と回答した人の割合が最も高く、21.2%となっています。次いで、「塩屋」(17.8%)、「尾崎」(17.5%)と続いています。



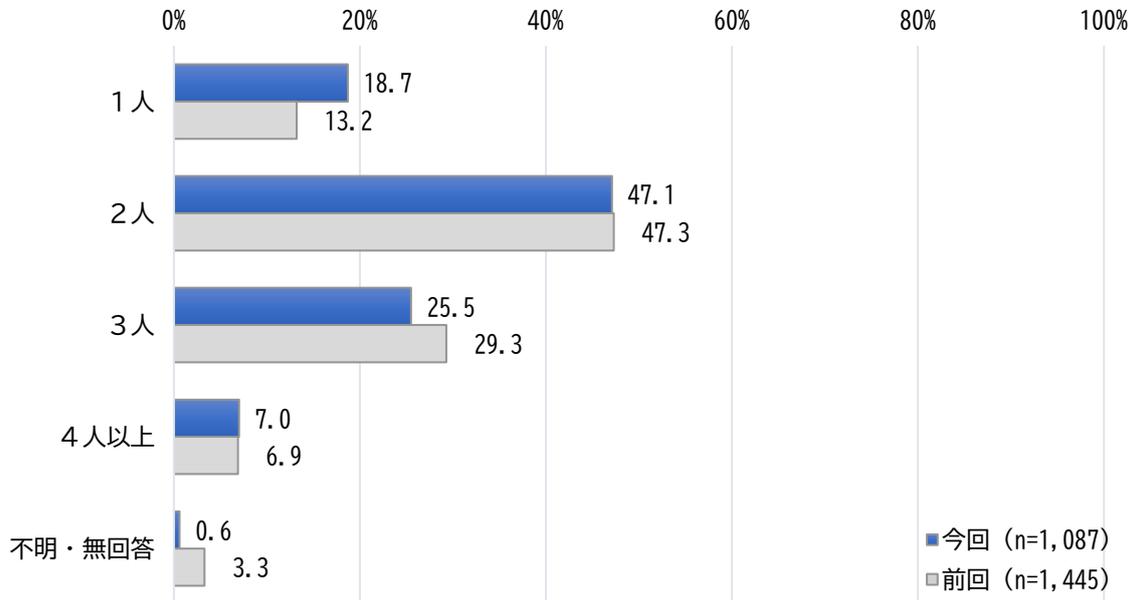
問2 調査票を受け取ったお子さんの生年月月をご記入ください。([] 内に数字を記入)

子どもの学年については、「5年生」が24.7%で最も高く、次いで「4年生」(22.5%)、「3年生」(20.0%)と続いています。



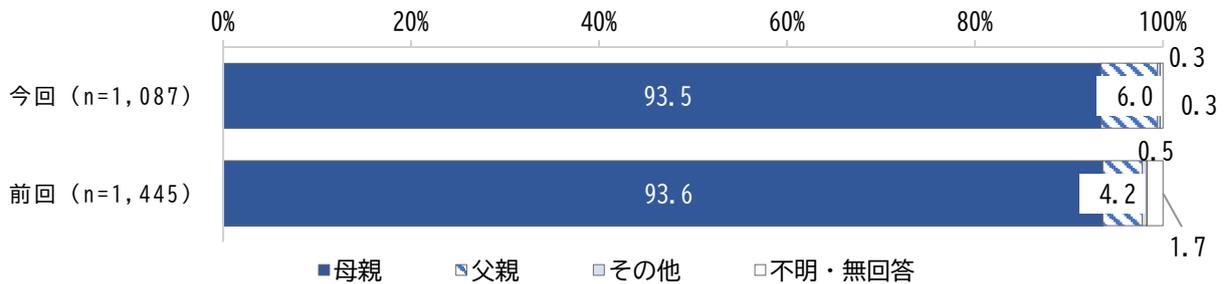
問3 お子さんのきょうだいは何人いらっしゃいますか。お子さんを含めた人数をご記入ください。（[] 内に数字を記入）

きょうだいの人数については、「2人」が47.1%で最も高く、次いで「3人」（25.5%）、「1人」（18.7%）と続いています。



問4 この調査票にご回答いただく方はどなたですか。お子さんからみた関係でお答えください。（1つに○）

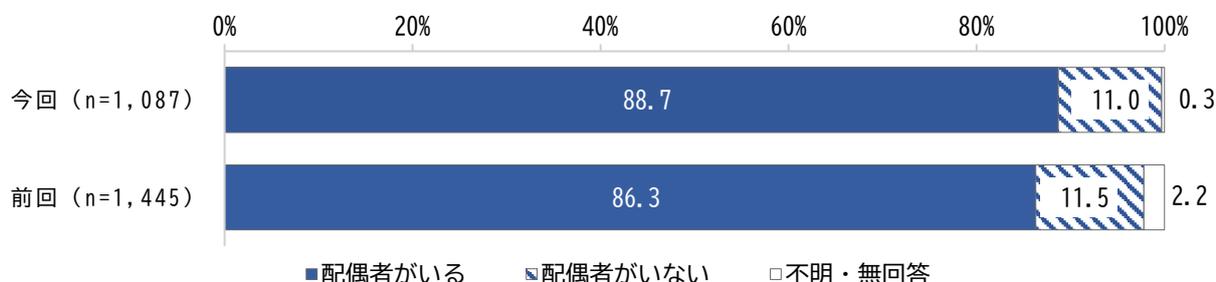
回答者については、「母親」が93.5%で最も高く、次いで「父親」（6.0%）、「その他」（0.3%）と続いています。



【その他】
・祖母 ・叔母 ・里母

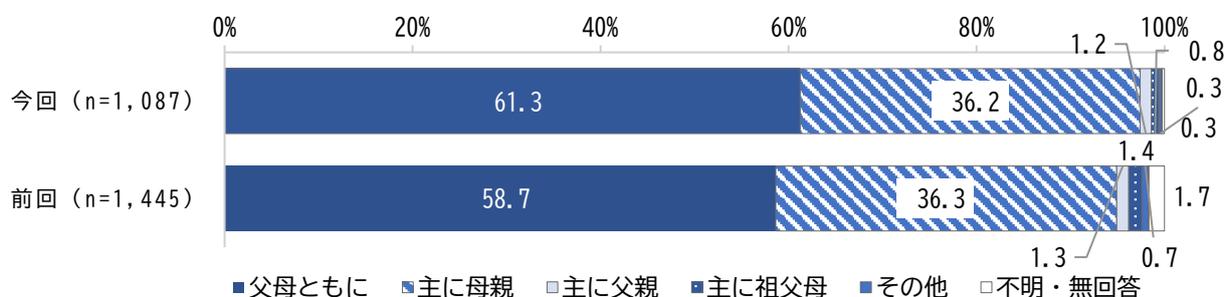
問5 この調査票にご回答いただいている方の配偶関係についてお答えください。(1つに○)

配偶者の有無については、「配偶者がいる」が 88.7%、「配偶者がいない」が 11.0% となっています。



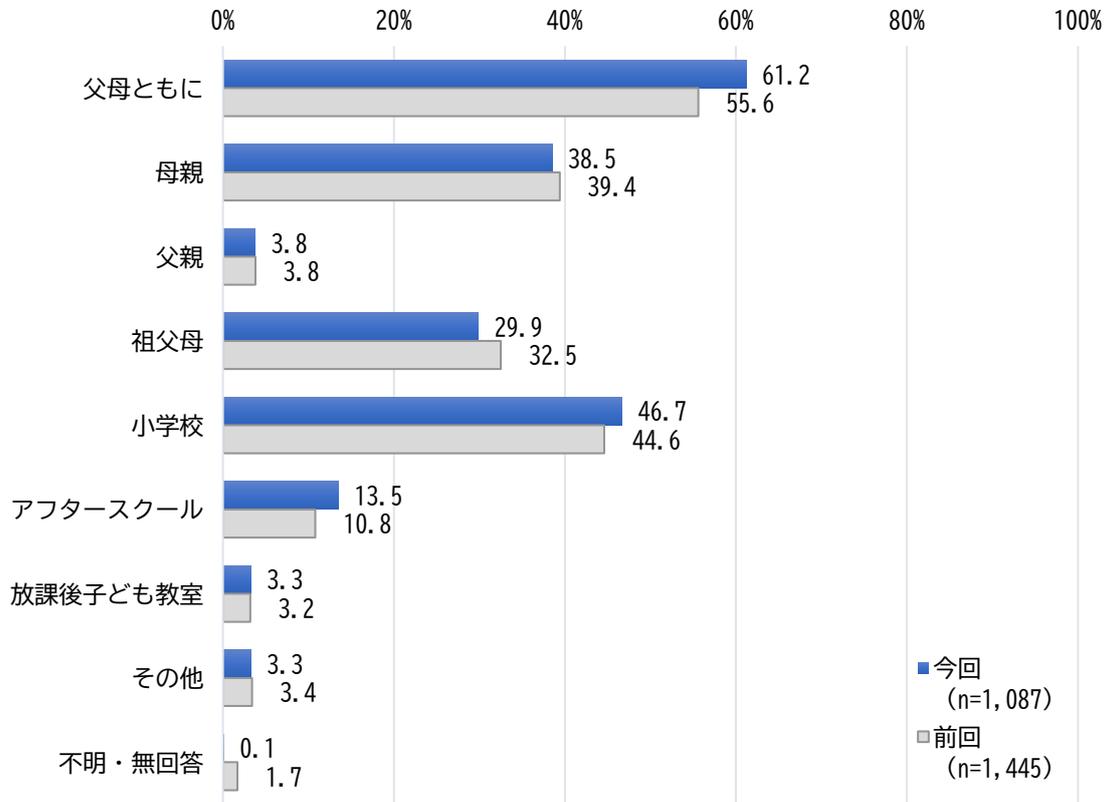
問6 お子さんの子育てや教育を主に行っているのはどなたですか。お子さんからみた関係でお答えください。(1つに○)

主に子育てを行っている人については、「父母ともに」が 61.3%で最も高く、次いで「主に母親」(36.2%)、「主に父親」(1.2%)と続いています。



問7 お子さんの子育てや教育に日常的に関わっている方はどなた（施設）ですか。お子さんからみた関係でお答えください。（あてはまるすべてに○）

子育てや教育に日常的に関わっている人については、「父母ともに」が 61.2%で最も高く、次いで「小学校」（46.7%）、「母親」（38.5%）と続いています。



【その他】
 ・祖父母 ・姉 ・習い事の先生 ・叔父叔母
 ・放課後デイサービス ・療育施設

【母子父子家庭別・家庭類型別】

問7の結果について、母子父子家庭別でみると、[母子家庭] の場合に「祖父母」「小学校」が高くなっています。

また、家庭類型別でみると、[ひとり親家庭] をのぞくすべての家庭類型において「父母ともに」が最も高くなっています。

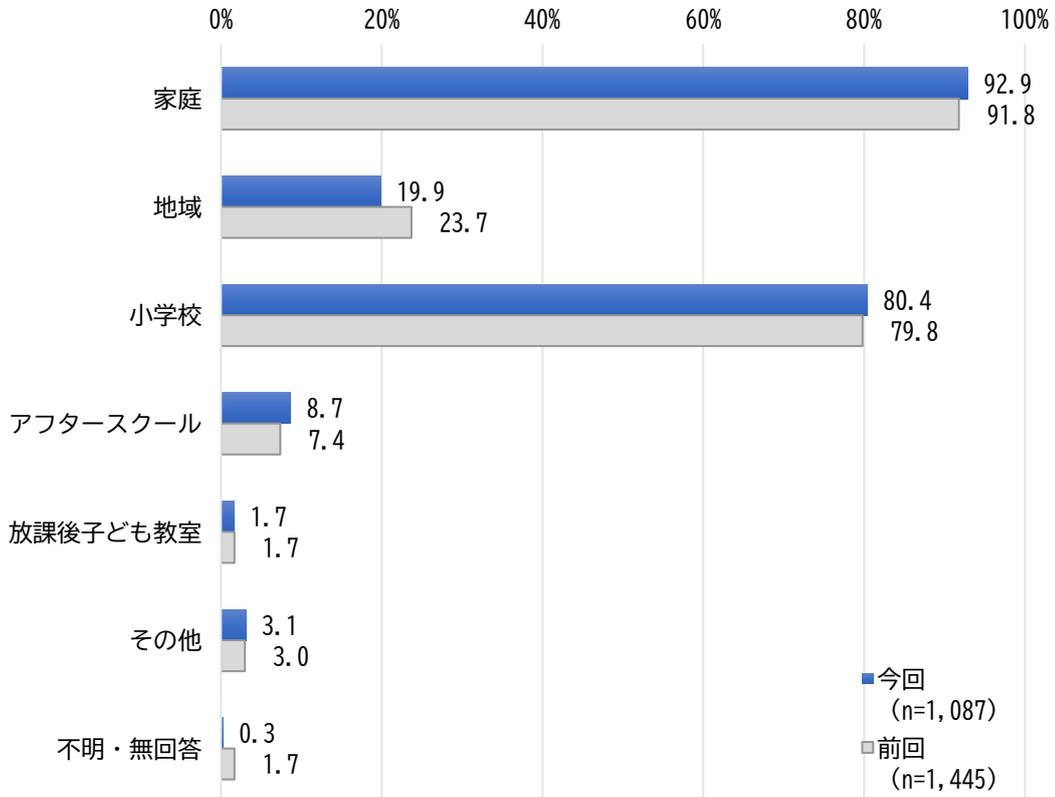
【父子母子家庭別】 上段:件数 下段:%	母子家庭	父子家庭	その他
父母ともに	3	1	658
	2.8	12.5	68.2
母親	104	0	313
	95.4	0.0	32.4
父親	1	7	33
	0.9	87.5	3.4
祖父母	54	2	267
	49.5	25.0	27.7
小学校	64	3	437
	58.7	37.5	45.3
アフタースクール	24	2	120
	22.0	25.0	12.4
放課後子ども教室	3	0	33
	2.8	0	3.4
その他	7	0	29
	6.4	0.0	3.0
全体数	109	8	965

【家庭類型別】 上段:件数 下段:%	ひとり親 家庭	フルタイム × フルタイム	フルタイム × パートタイム (長時間)	フルタイム × パートタイム (短時間)	専業主婦 (夫)	パートタイム ×パート タイム (双方長時 間)	パートタイム ×パート タイム (いずれか が短時間)	無業× 無業
父母ともに	4	214	229	66	108	4	3	2
	3.4	76.2	67.4	64.1	63.5	57.1	60.0	100.0
母親	104	63	114	42	67	3	2	0
	88.9	22.4	33.5	40.8	39.4	42.9	40.0	0.0
父親	8	9	14	4	3	0	0	0
	6.8	3.2	4.1	3.9	1.8	0.0	0.0	0.0
祖父母	56	122	89	21	23	1	0	0
	47.9	43.4	26.2	20.4	13.5	14.3	0.0	0.0
小学校	67	166	153	38	57	2	1	0
	57.3	59.1	45.0	36.9	33.5	28.6	20.0	0.0
アフタースクール	26	86	29	0	2	0	0	0
	22.2	30.6	8.5	0.0	1.2	0.0	0.0	0.0
放課後子ども教室	3	13	12	1	5	0	0	0
	2.6	4.6	3.5	1.0	2.9	0.0	0.0	0.0
その他	7	11	6	4	5	0	0	0
	6.0	3.9	1.8	3.9	2.9	0.0	0.0	0.0
全体数	117	281	340	103	170	7	5	2

問8

お子さんの子育てや教育に、最も大きく影響すると思われる環境はどれですか。（あてはまるすべてに○）

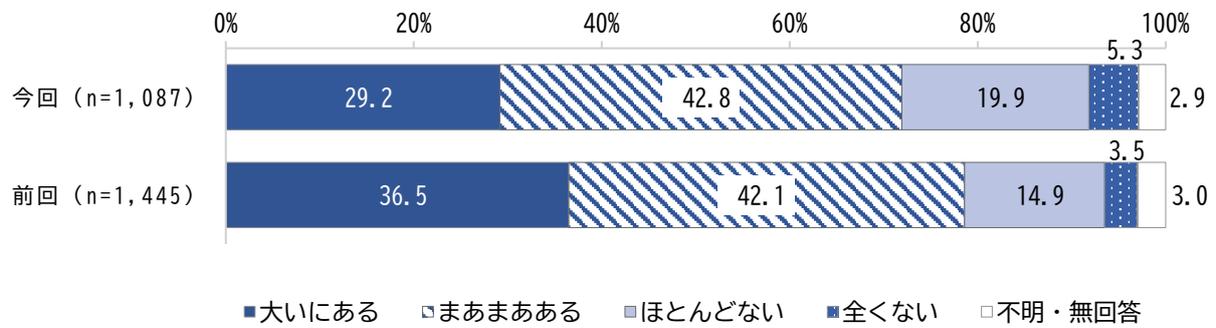
お子さんの子育てや教育に、最も大きく影響すると思われる環境については、「家庭」が92.9%で最も高く、次いで「小学校」（80.4%）、「地域」（19.9%）と続いています。



問9

周囲の人に支えてもらって子育てをしているという実感がありますか。(1つに○)

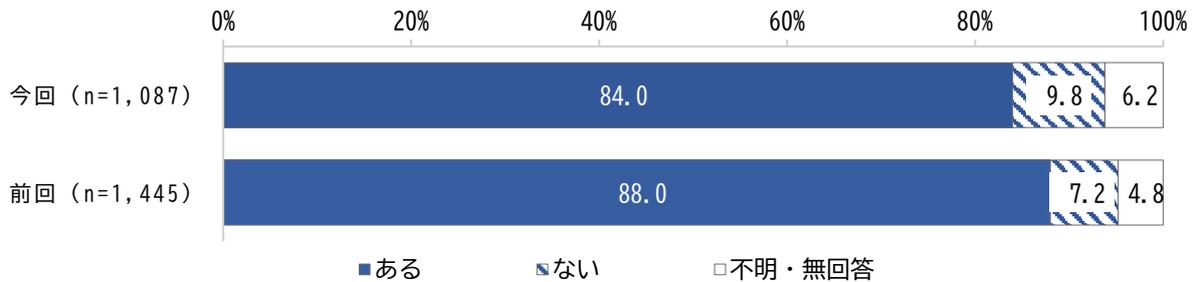
周囲の人に支えてもらって子育てをしているという実感については、「まあまあある」が42.8%で最も高く、次いで「大いにある」(29.2%)、「ほとんどない」(19.9%)と続いています。



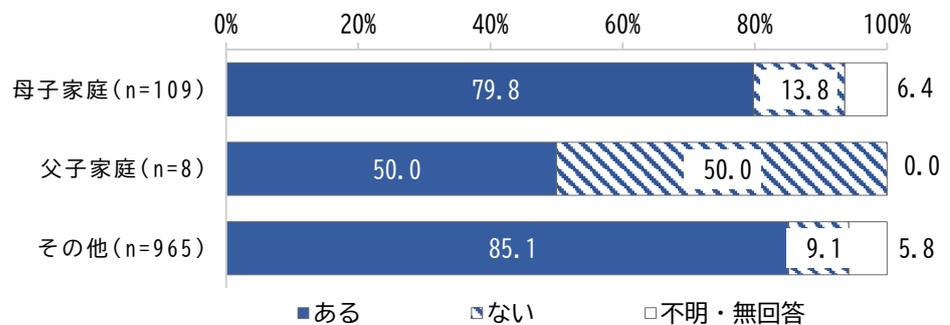
問 10 お子さんの子育てや教育をする上で、気軽に相談できる先はありますか。（1つに○）

子育てや教育をする上で、気軽に相談できる先については、「ある」が84.0%、「ない」が9.8%となっています。

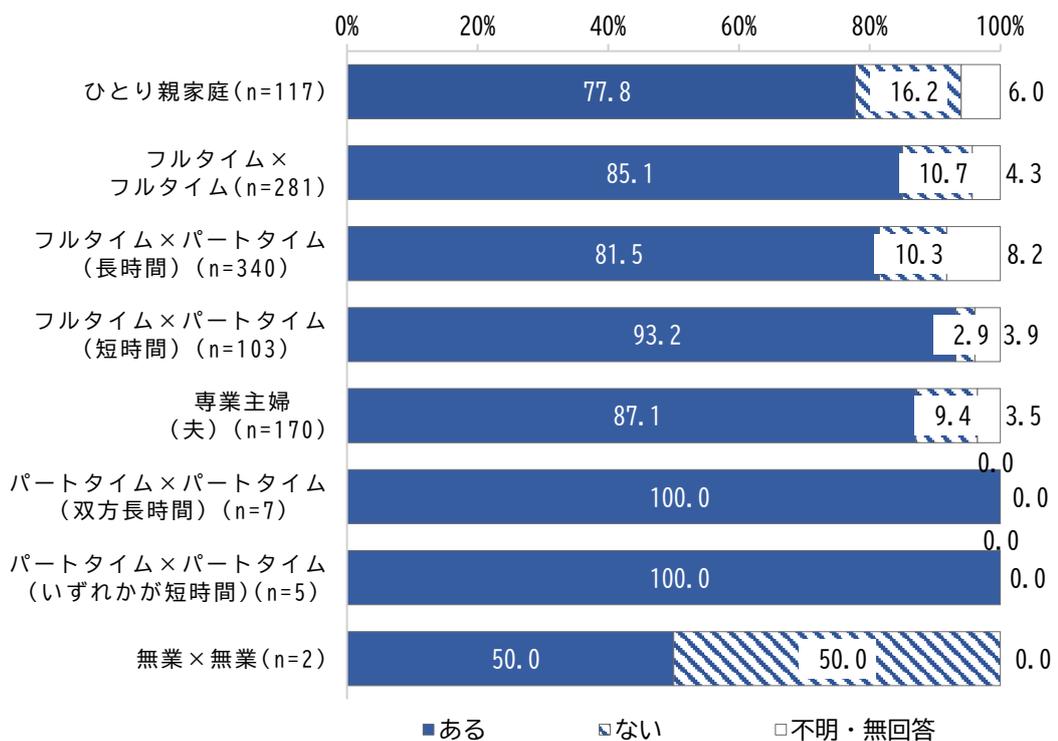
家庭類型別でみると、「ひとり親家庭」では「ある」が77.8%と他の家庭類型と比べて低くなっています。



【母子父子家庭別】



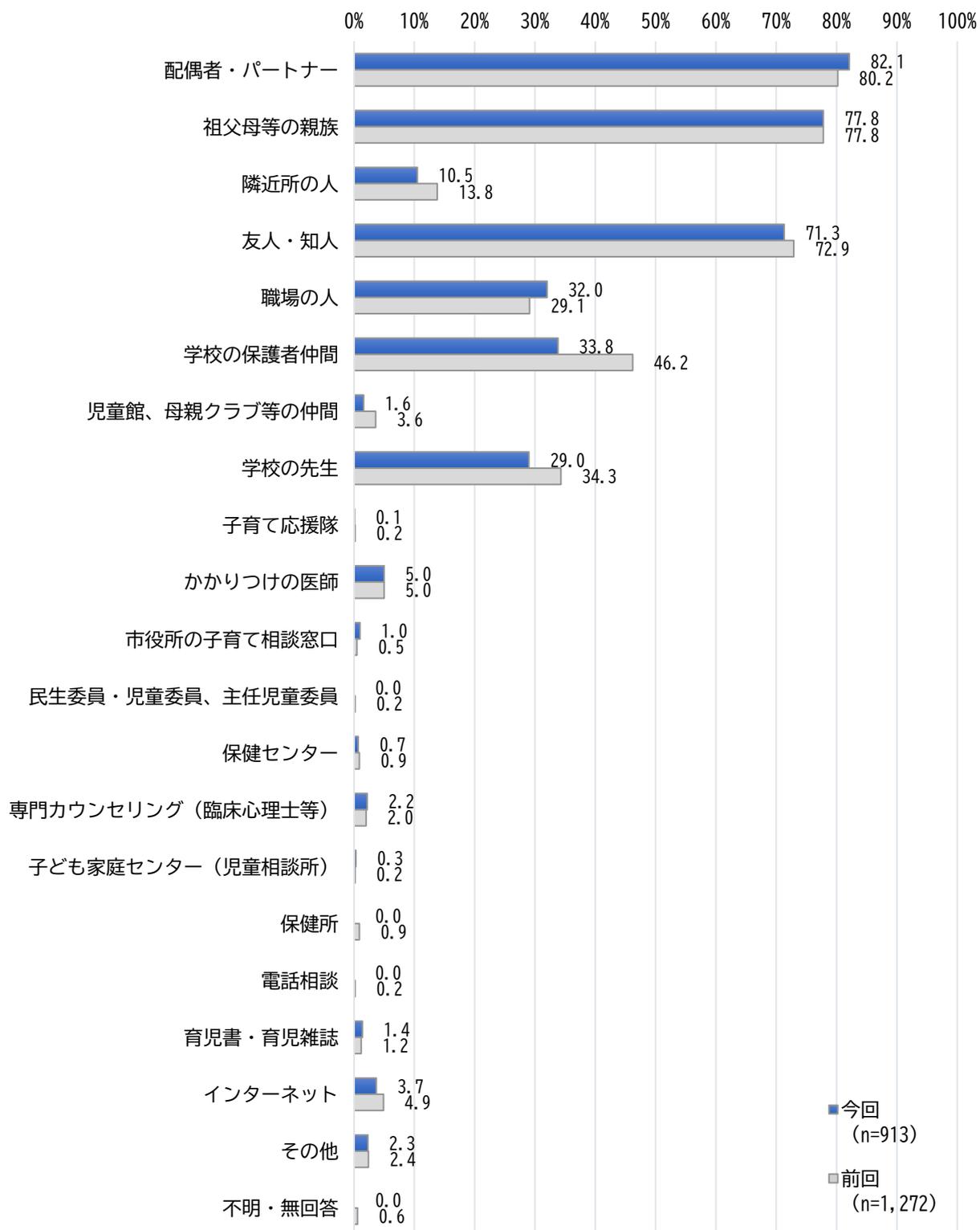
【家庭類型別】



問 10-1

【問10で「1 ある」を選択した方にお伺いします。】
 お子さんの子育てや教育に関して、気軽に相談できる先は、誰（どこ）ですか。
 （あてはまるすべてに○）

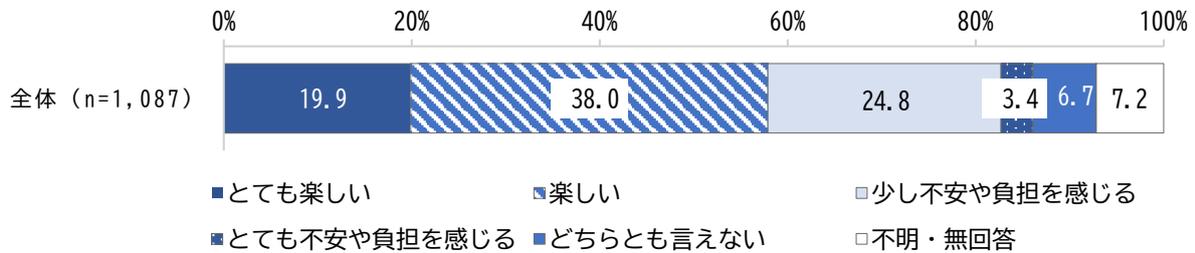
お子さんの子育てや教育に関して、気軽に相談できる先については、「配偶者・パートナー」が 82.1%で最も高く、次いで「祖父母等の親族」(77.8%)、「友人・知人」(71.3%)と続いています。



問 11

あなたは子育てについて全体的にどのように感じていますか。（1つに○）

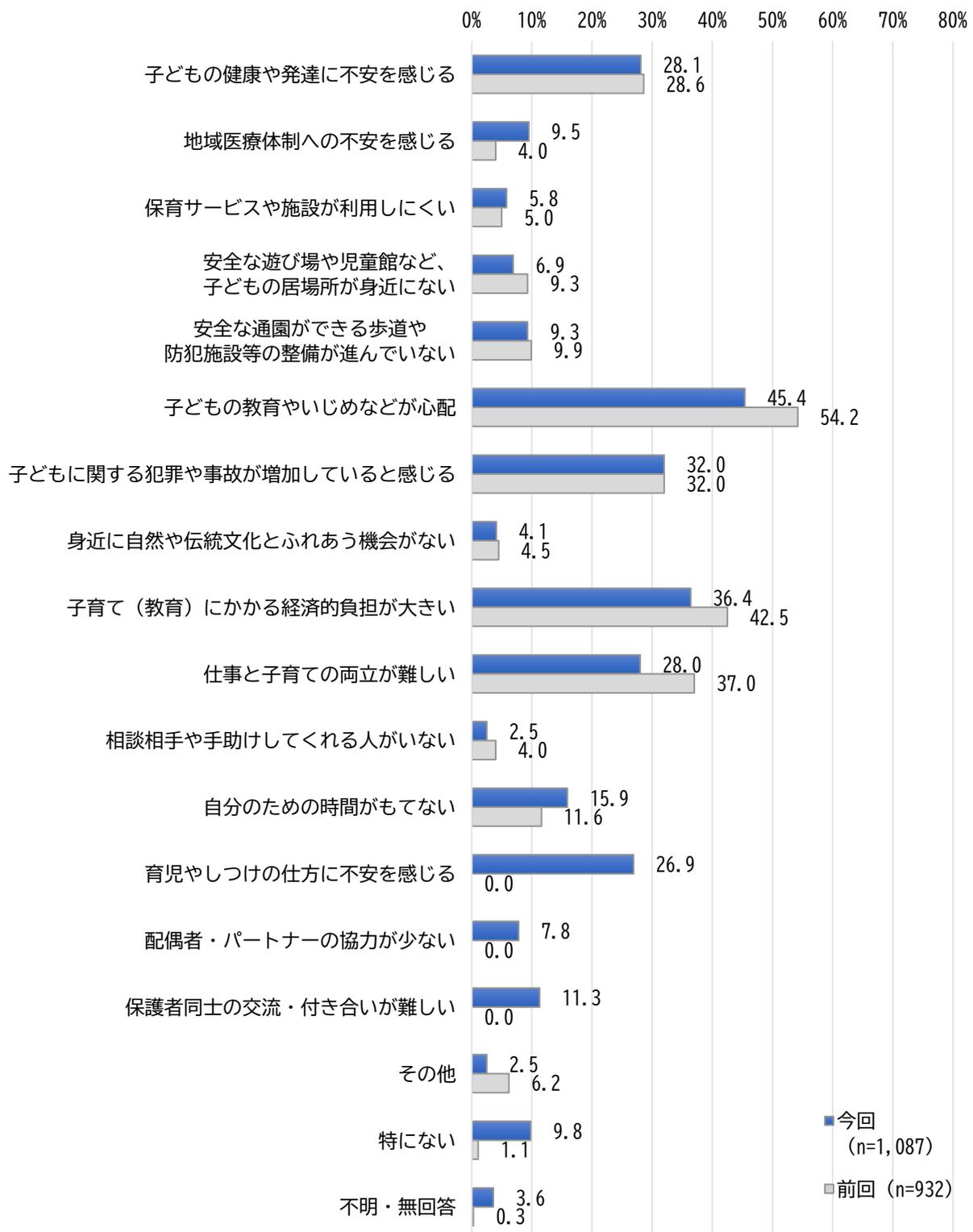
子育てについて全体的にどのように感じていますかについては、「楽しい」が 38.0%で最も高く、次いで「少し不安や負担を感じる」（24.8%）、「とても楽しい」（19.9%）と続いています。



問 12

あなたは、子育てについてどのような不安や負担を感じることがありますか。(あてはまるすべてに○)

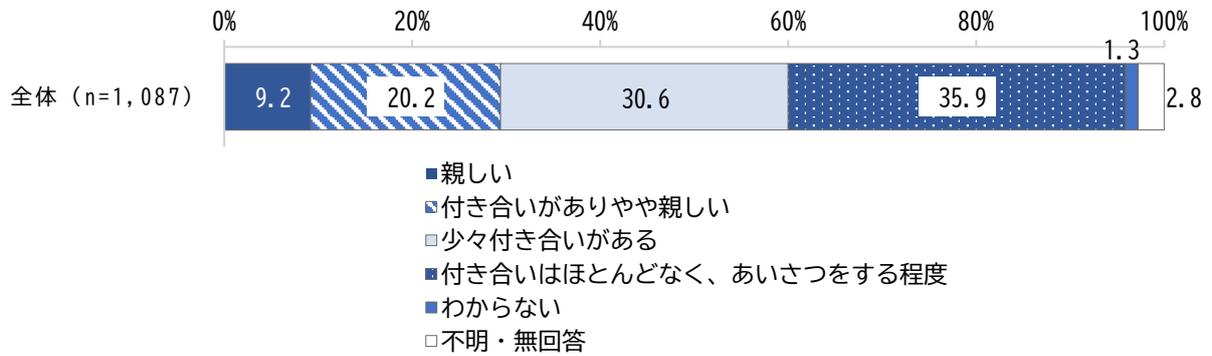
子育てについてどのような不安や負担があるかについては、「子どもの教育やいじめなどが心配」が45.4%で最も高く、次いで「子育て（教育）にかかる経済的負担が大きい」(36.4%)、「子どもに関する犯罪や事故が増加していると感じる」(32.0%)と続いています。



問 13

ご近所や地域の人々との付き合いはどのような状況ですか。（1つに○）

ご近所や地域の人々との付き合いについては、「付き合いはほとんどなく、あいさつをする程度」が 35.9%で最も高く、次いで「少々付き合いがある」（30.6%）、「付き合いがありやや親しい」（20.2%）と続いています。

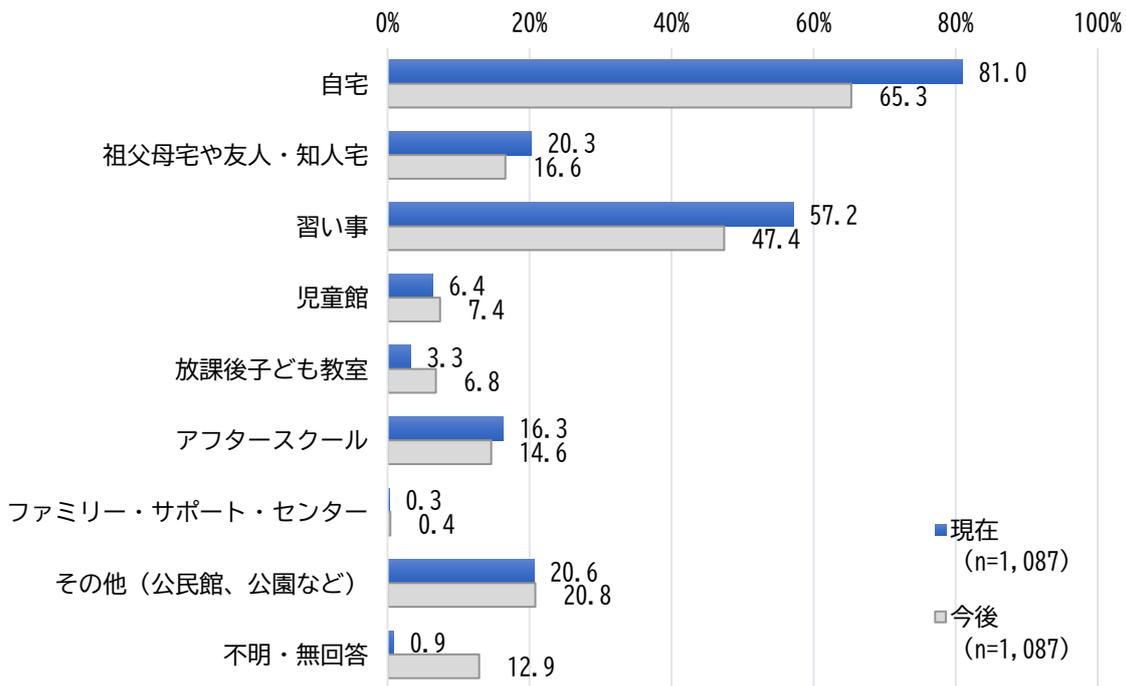


小学校での放課後の過ごし方について

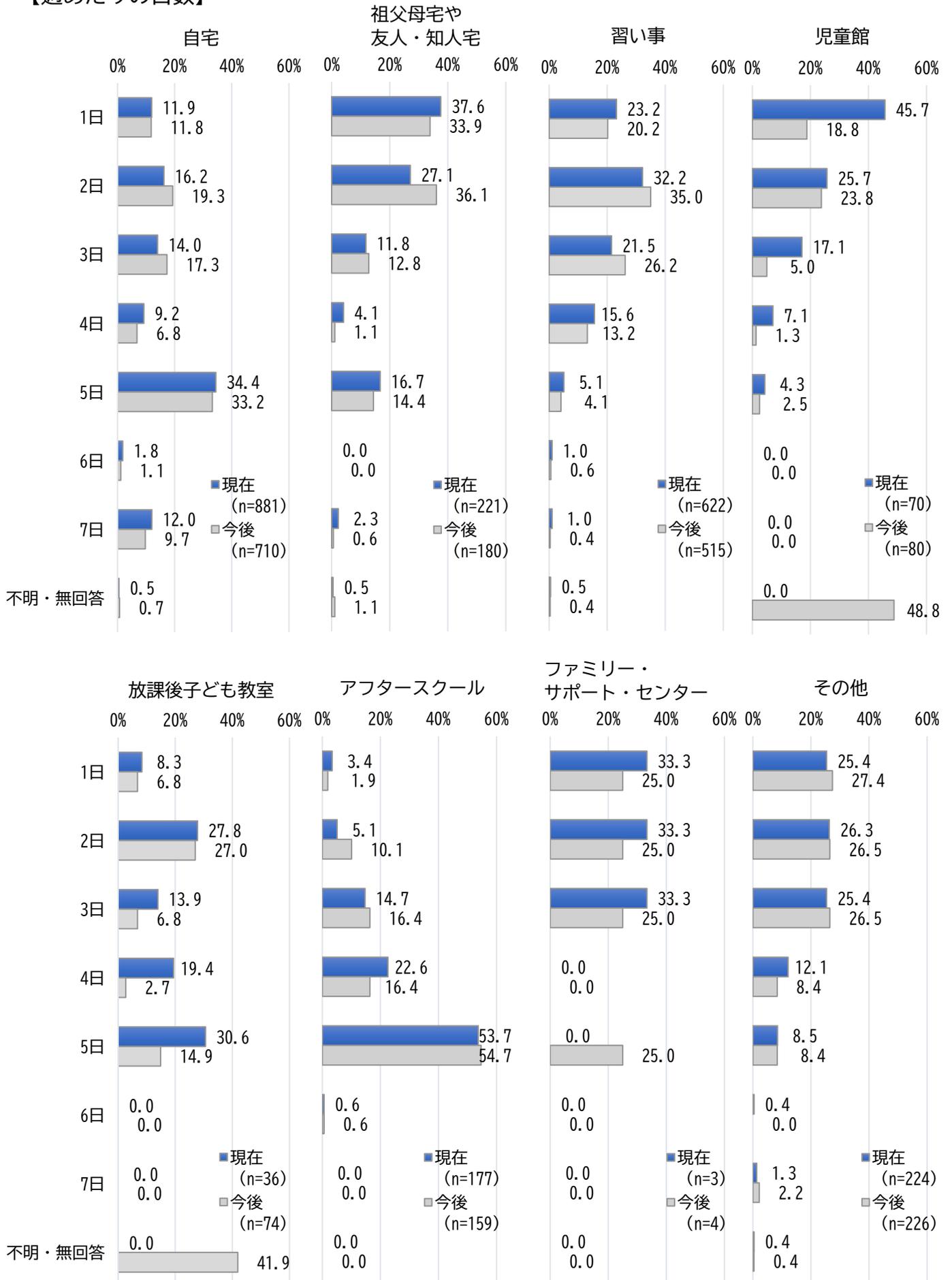
問 14

お子さんの放課後（平日の小学校終了後）の過ごし方についてお伺いします。「(1) 現在放課後において過ごしている場所」と「(2) 今後の希望場所」を、下の【選択肢】欄から3つまで選び、週あたりの日数をお答えください。（口内に数字を記入）

現在の平日放課後に過ごしている場所については、「自宅」が 81.0%で最も高く、次いで「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」（57.2%）、「その他（公民館、公園など）」（20.6%）と続いています。今後の希望については、「自宅」が 65.3%で最も高く、次いで「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」（47.4%）、「その他（公民館、公園など）」（20.8%）と続いています。



【週あたりの日数】

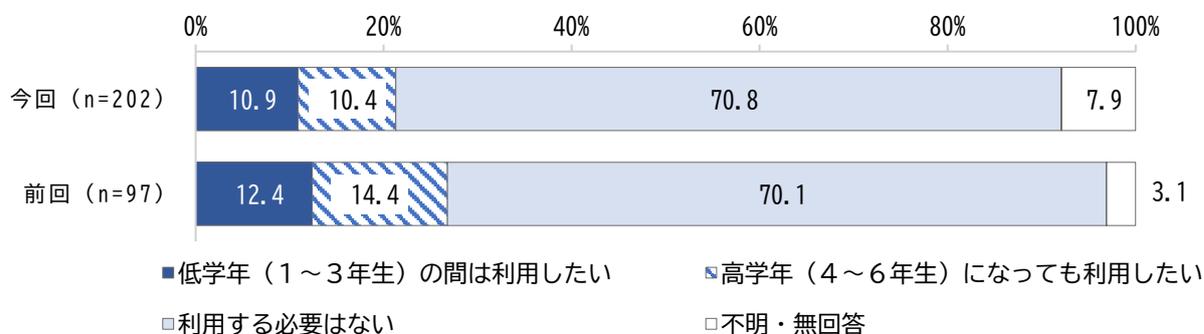


問 14-1

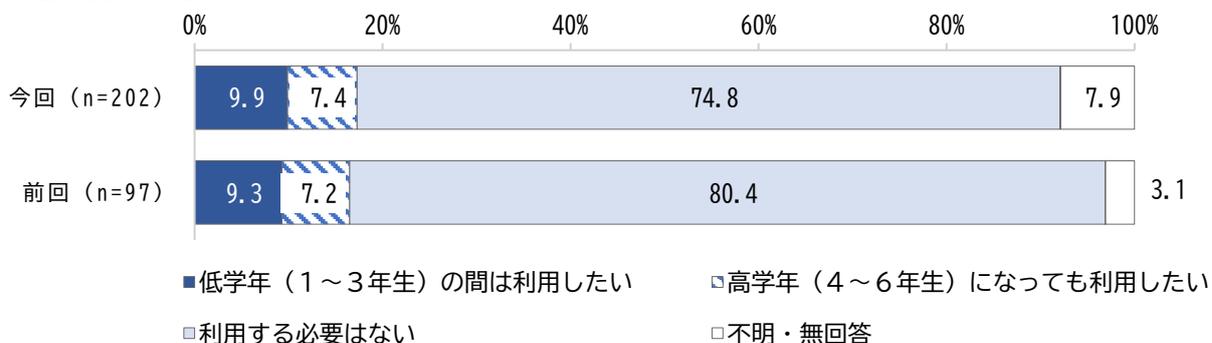
【問14で「6 アフタースクール」を選択した方にお伺いします。
 お子さんについて、土曜日、日曜日・祝日及び長期休暇（春・夏・冬休み）に、アフタースクールの利用希望はありますか。
 （それぞれ1つに○。また利用したい時間帯を（ ）内にご記入ください。）

アフタースクールの利用希望について、土曜日で「利用する必要はない」が70.8%で最も高く、次いで「低学年（1～3年生）の間は利用したい」（10.9%）、「高学年（4～6年生）になっても利用したい」（10.4%）と続いています。日曜・祝日では、「利用する必要はない」が74.8%で最も高く、次いで「低学年（1～3年生）の間は利用したい」（9.9%）、「高学年（4～6年生）になっても利用したい」（7.4%）と続いています。長期休暇では、「高学年（4～6年生）になっても利用したい」が52.0%で最も高く、次いで「低学年（1～3年生）の間は利用したい」（33.7%）、「利用する必要はない」（9.9%）と続いています。

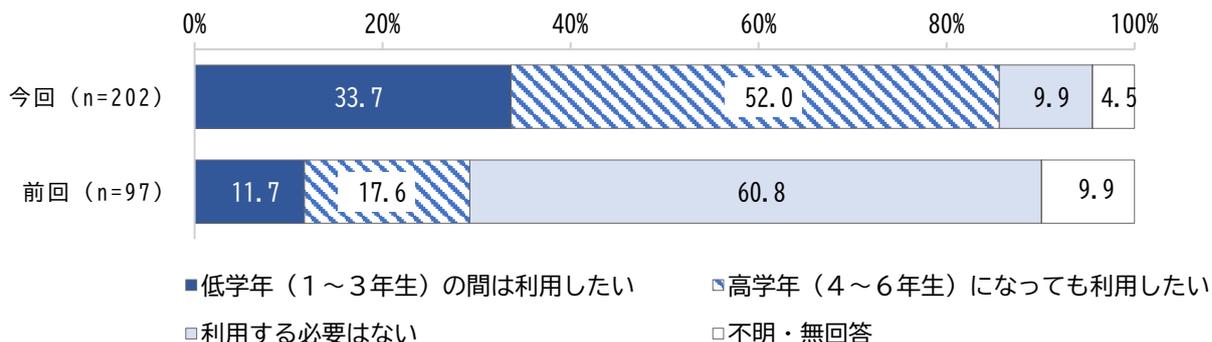
■土曜日の利用



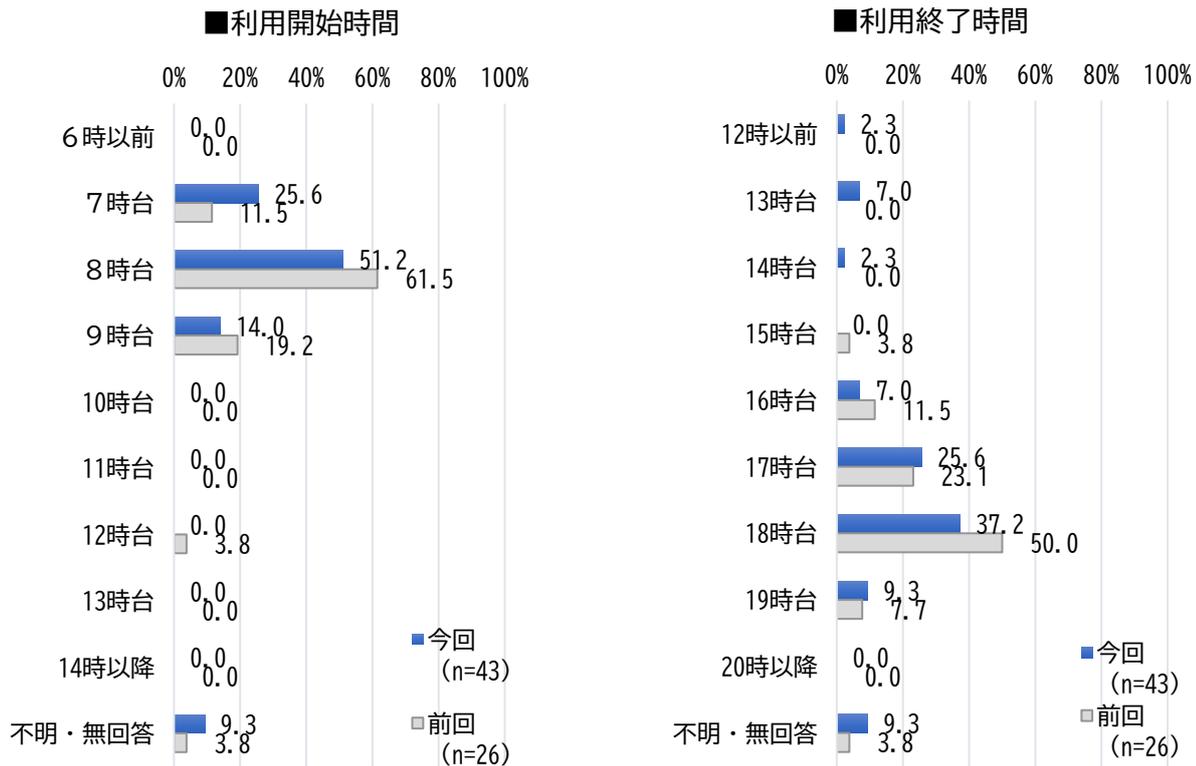
■日曜・祝日の利用



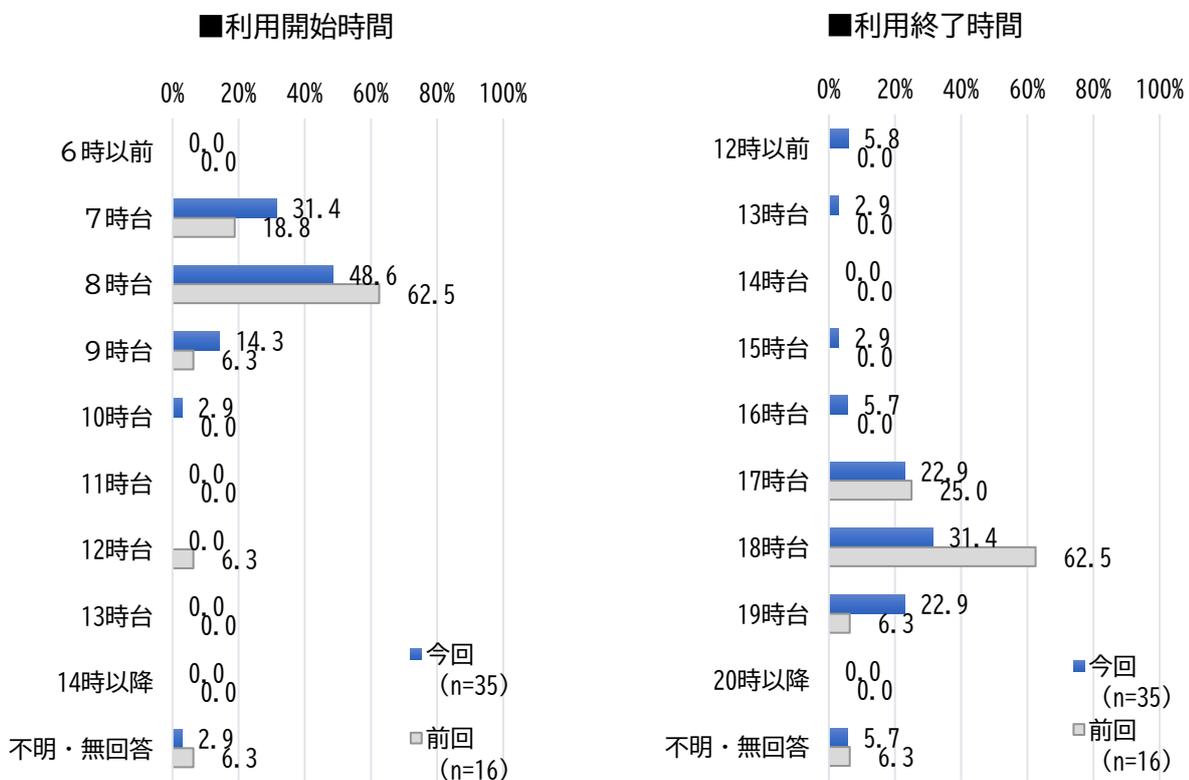
■長期休暇の利用



【土曜日のアフタースクール利用希望時間】

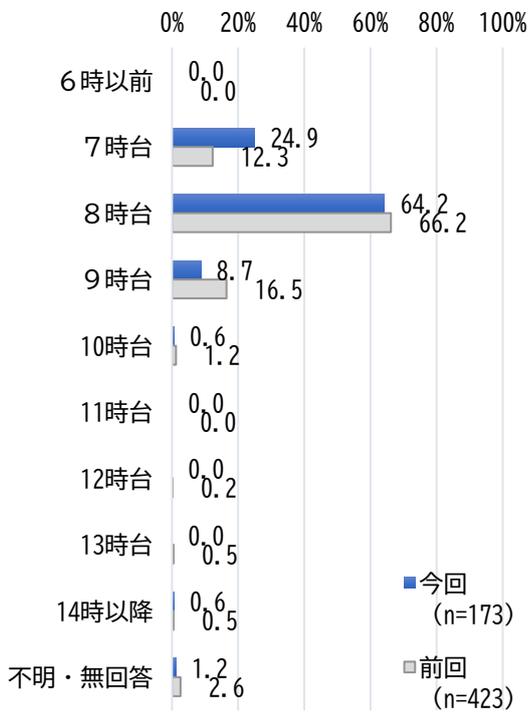


【日曜日・祝日のアフタースクール利用希望時間】

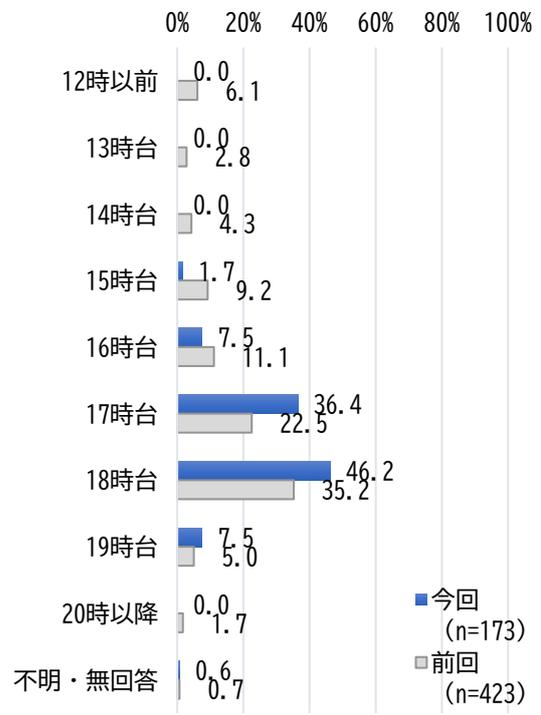


【長期休暇のアフタースクール利用希望時間】

■利用開始時間

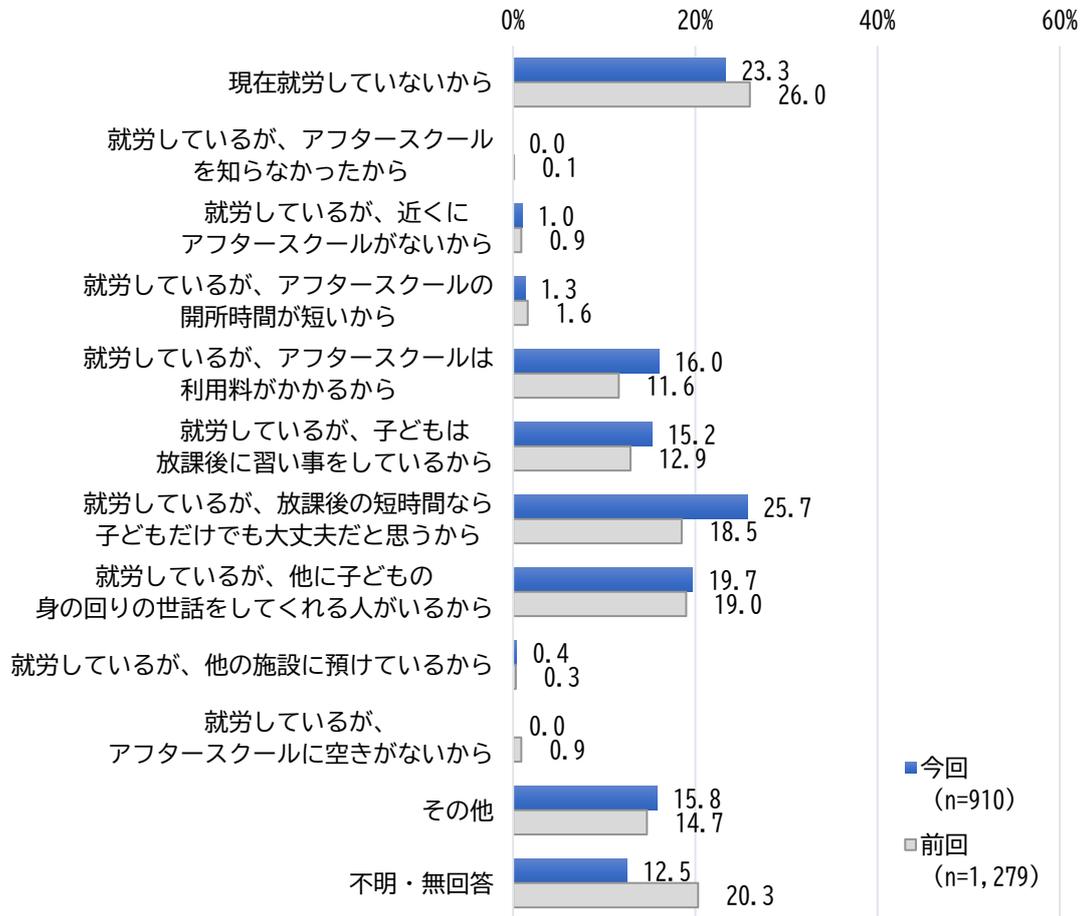


■利用終了時間



問 14-2 【問14で「6 アフタースクール」を選択しなかった方にお伺いします。】
アフタースクールを利用していない理由は何ですか。（あてはまるすべてに○）

アフタースクールを利用していない理由については、「就労しているが、放課後の短時間なら子どもだけでも大丈夫だと思うから」が25.7%で最も高く、次いで「現在就労していないから」（23.3%）、「就労しているが、他に子どもの身の回りの世話をしてくれる人がいるから」（19.7%）と続いています。

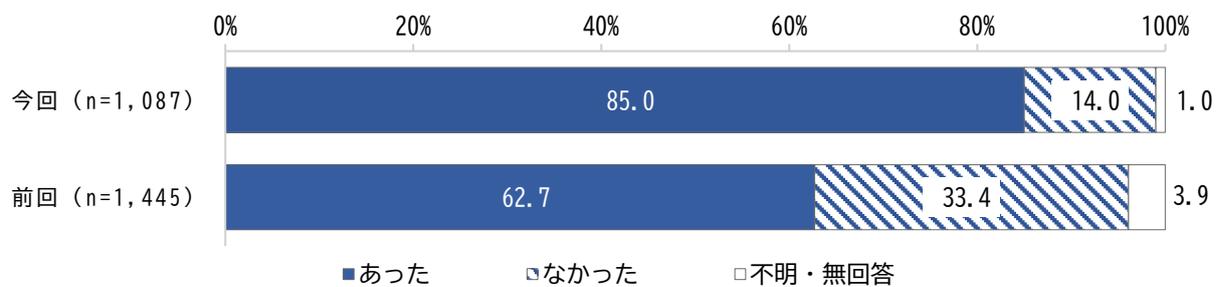


病気の際の対応について

問 15

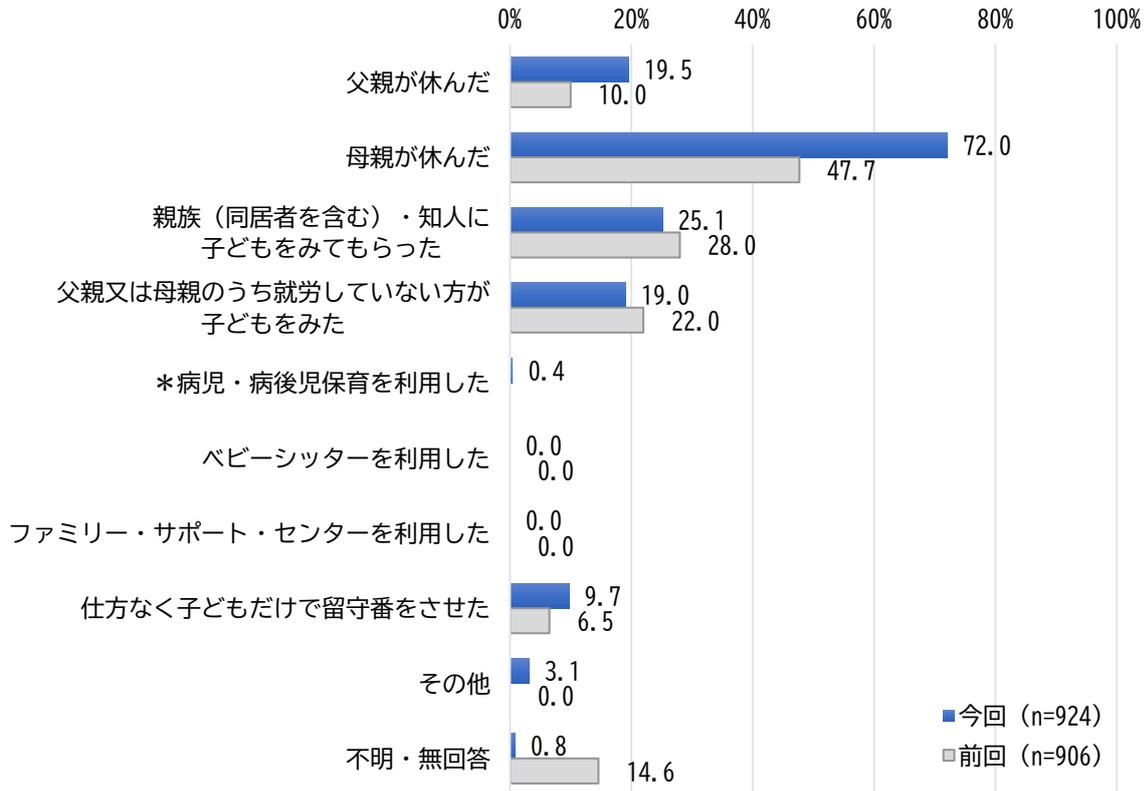
この1年間に、お子さんが病気やケガで学校を休まなければならなかったことはありますか。(1つに○)

子どもが病気やケガで通学ができなかった経験の有無については、「あった」が85.0%、「なかった」が14.0%となっています。



問 15-1 【問15で「1 あった」を選択した方にお伺いします。】
 その際、どのように対応しましたか。（あてはまるすべてに○。それぞれの日数も [] 内に数字でご記入ください。半日対応の場合も1日とカウントしてください。）

通学が出来なかった際の対応については、「母親が休んだ」が72.0%で最も高く、次いで「親族（同居者を含む）・知人に子どもをみてもらった」（25.1%）、「父親が休んだ」（19.5%）と続いています。

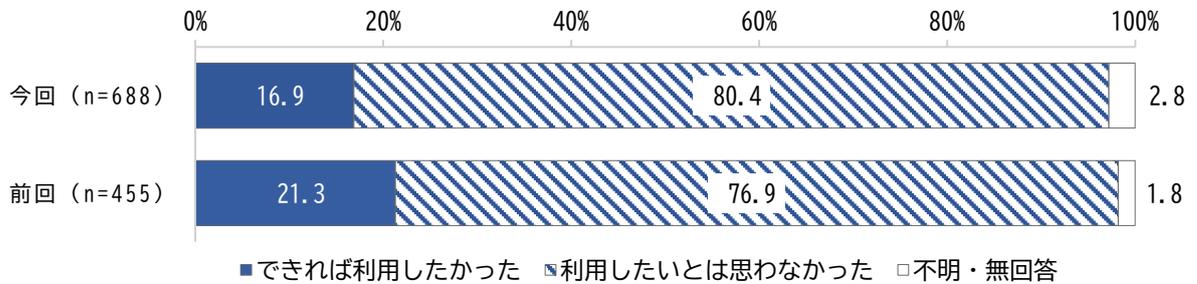


*の選択肢については前回調査に項目なし

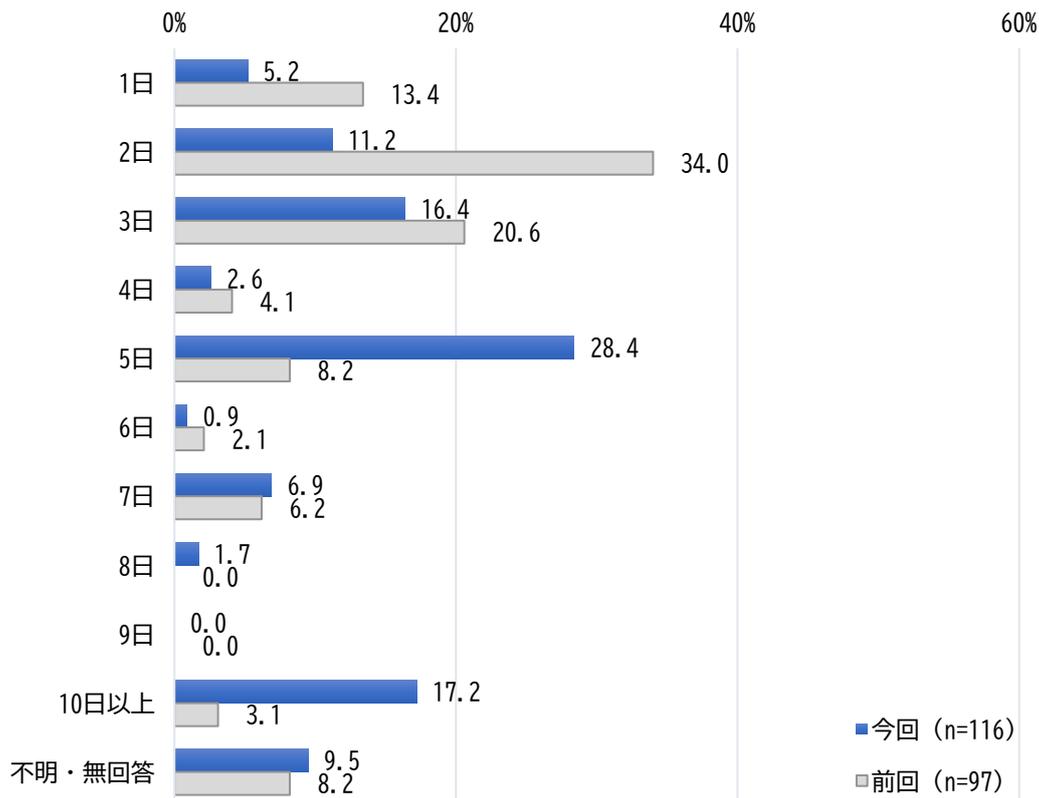
問 15-2

【問15-1で「1 父親が休んだ」「2 母親が休んだ」を選択した方にお伺いします。】
 できれば「病児・病後児のための保育施設等を利用したい」と思われたことはありましたか。(1つに○。「1」を選択した場合は日数もご記入ください。)

病児・病後児のための保育施設等を利用したいと思ったかについては、「利用したいとは思わなかった」が80.4%「できれば利用したかった」が16.9%となっています。



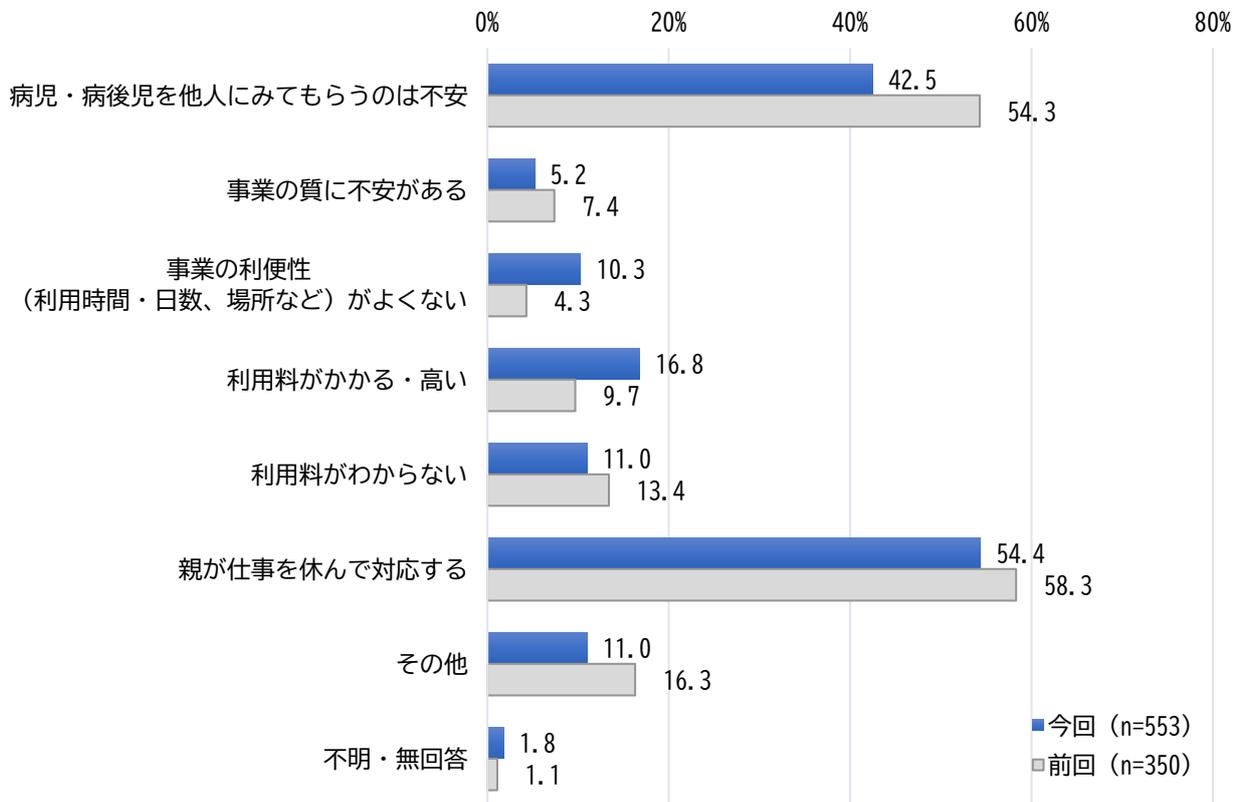
【利用したかった日数】



問 15-3

【問15-2で「2 利用したいとは思わなかった」を選択した方にお伺いします。】
 利用したいと思わなかった理由は何ですか。（あてはまるすべてに○）

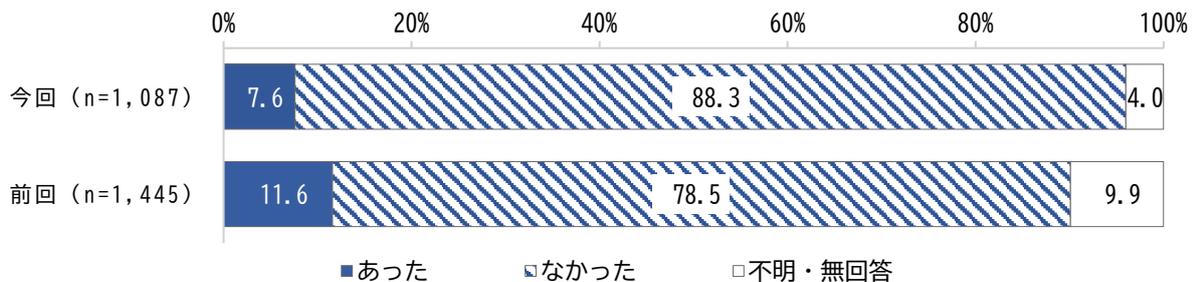
利用したいと思わなかった理由については、「親が仕事を休んで対応する」が 54.4%で最も高く、次いで「病児・病後児を他人にみてもらうのは不安」(42.5%)、「利用料がかかる・高い」(16.8%)と続いています。



不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について

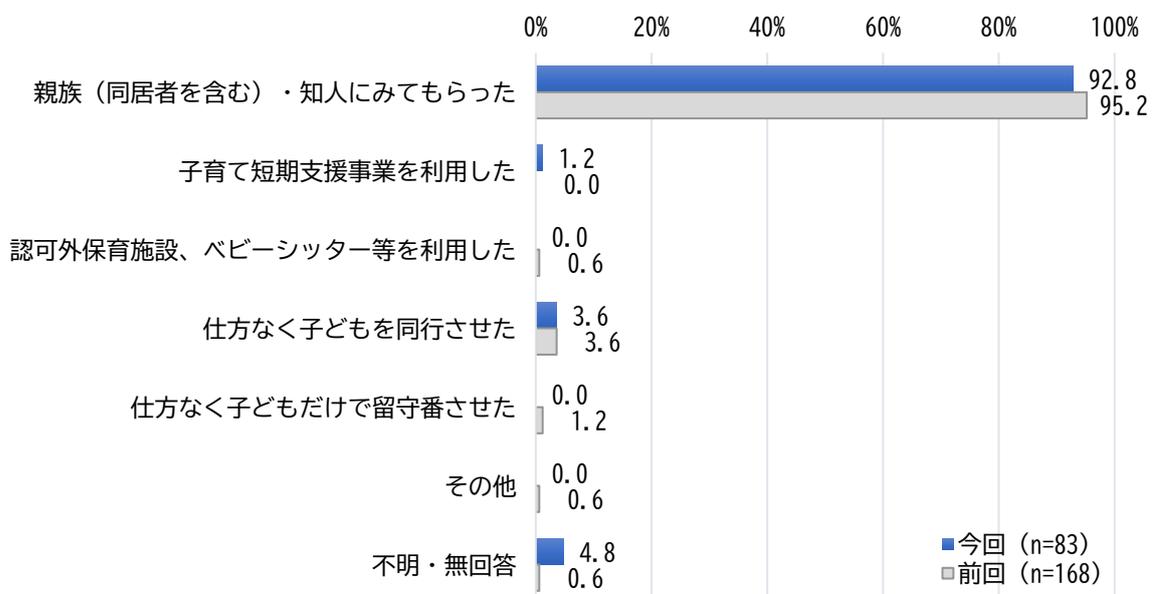
問 16 (1) この1年間に、保護者の用事（冠婚葬祭、保護者・家族の病気など）により、お子さんを泊まりがけで家族以外にみてもらわなければならないことはありましたか。（1つに○）

子どもを泊まりがけで家族以外にみてもらわなければならない経験については、「なかった」が88.3%、「あった」が7.6%となっています。

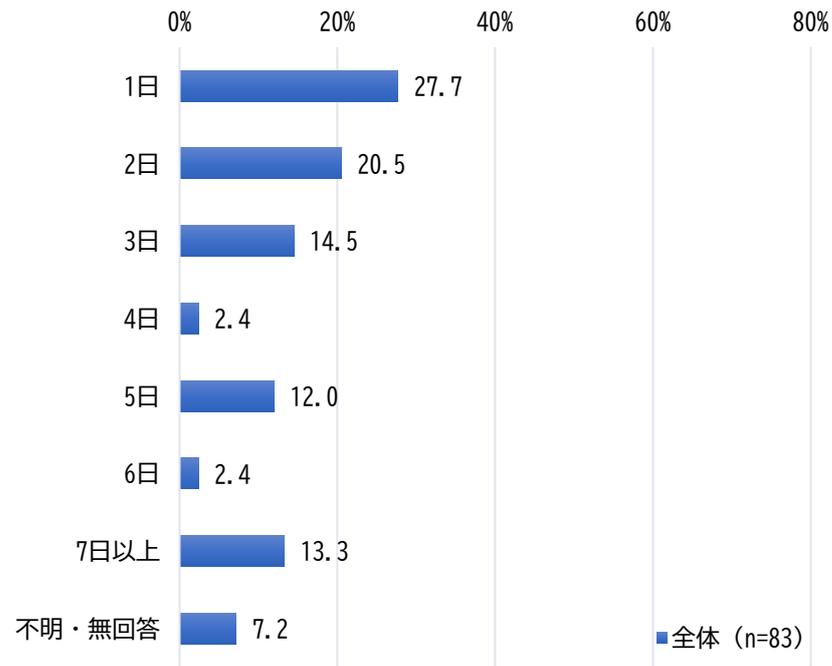


問 16 (2) その際の対処法をお答えください。
（あてはまるすべてに○。また、対処方法別の内訳の日数を [] 内に数字でご記入ください。）

1年間の対処法については、「親族（同居者を含む）・知人にみてもらった」が92.8%で最も高く、次いで「仕方なく子どもを同行させた」（3.6%）、「子育て短期支援事業（ショートステイ）を利用した（児童養護施設で一定期間、子どもを保育する事業）」（1.2%）と続いています。



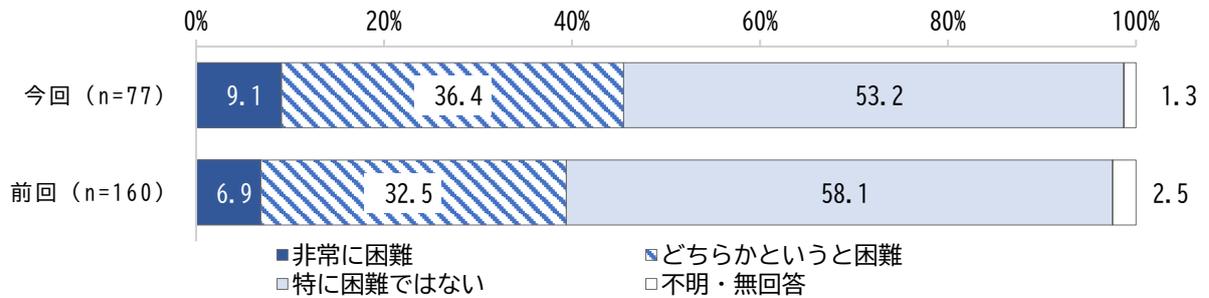
【預けた日数の合計】



問 16-1

【問16の「(2) 1年間の対処法」で「1 親族（同居者を含む）・知人にみてもらった」を選択した方にお伺いします。
その場合の困難度はどの程度でしたか。（1つに○）

親族・知人にみてもらうときの困難度については、「特に困難ではない」が 53.2%で最も高く、次いで「どちらかという困難」（36.4%）、「非常に困難」（9.1%）と続いています。



お子さんの保護者の就労状況について

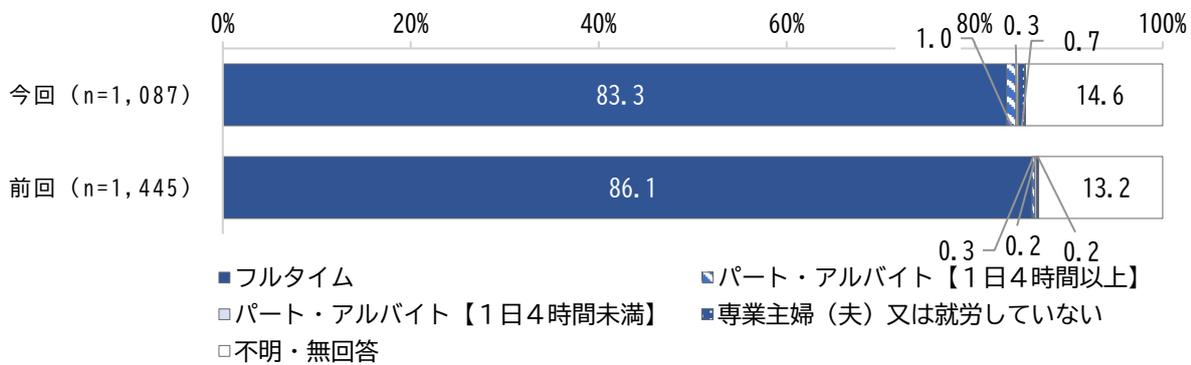
問 17①

お子さんの保護者の就労状況（自営業、家族従事者含む）について現在の状況をお答えください。（1つに○）

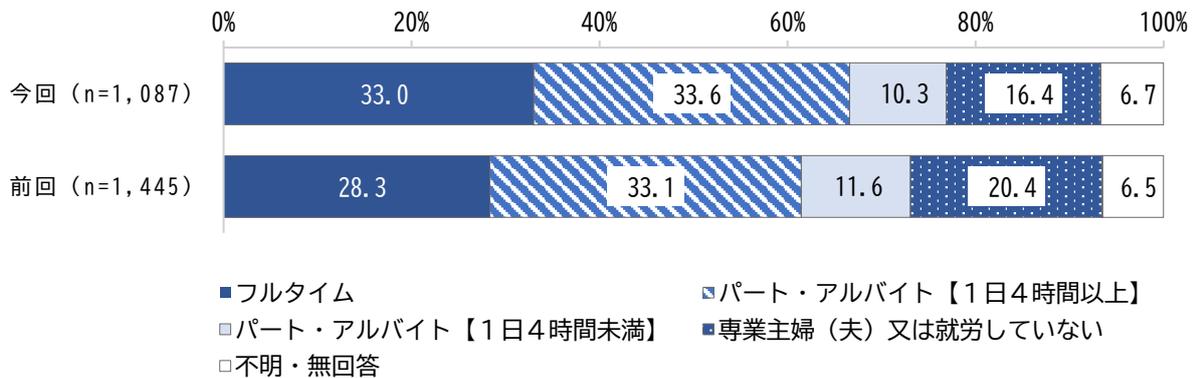
父親の現在の就労状況については、「フルタイム（週5日・1日8時間程度）で就労している」が83.3%で最も高く、次いで「パート・アルバイト（1日4時間以上）で就労している」（1.0%）、「専業主婦又は就労していない」（0.7%）と続いています。

母親については、「パート・アルバイト（1日4時間以上）で就労している」が33.6%で最も高く、次いで「フルタイム（週5日・1日8時間程度）で就労している」（33.0%）、「専業主婦又は就労していない」（16.4%）と続いています。

【父親】



【母親】



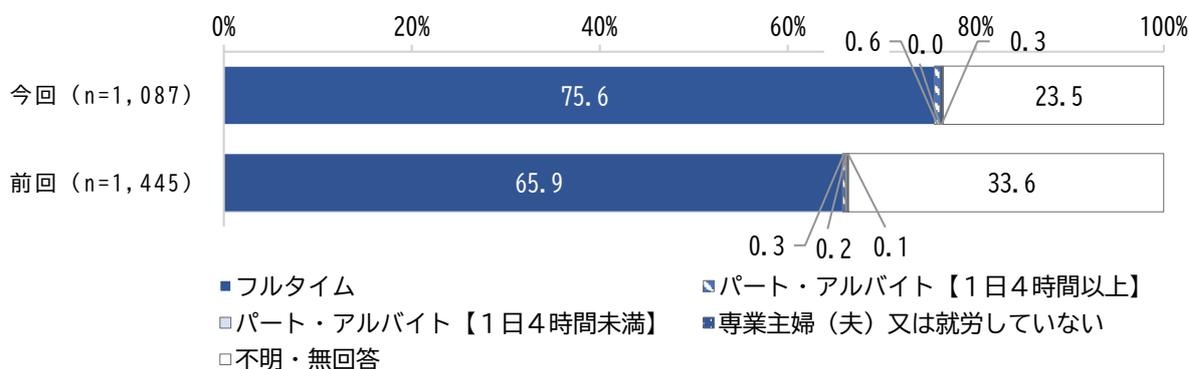
問 17②

お子さんの保護者の就労状況（自営業、家族従事者含む）について1年以内の見込み（実現見込みがある）をお答えください。（1つに○）

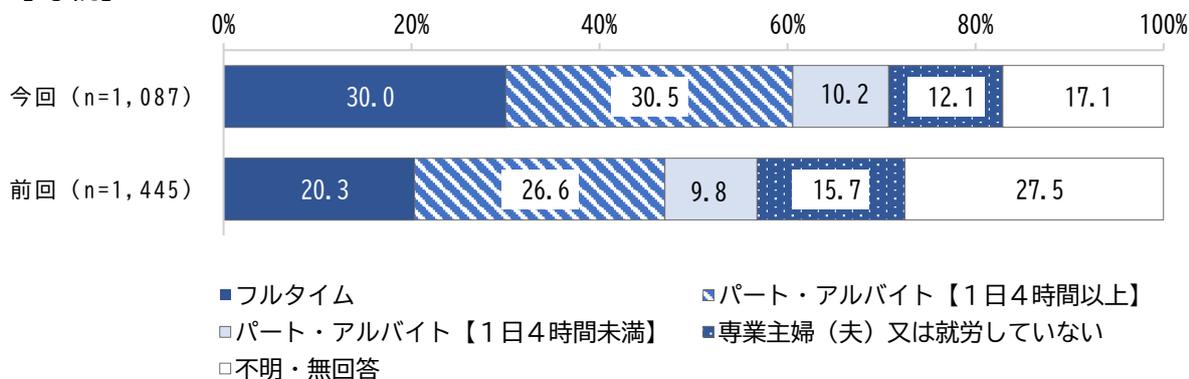
父親の1年以内の見込み（現実見込みがある）就労状況（自営業・家族従事者含む）については、「フルタイム（週5日・1日8時間程度）で就労している」が75.6%で最も高く、次いで「パート・アルバイト（1日4時間以上）で就労している」（0.6%）、「専業主夫又は就労していない」（0.3%）と続いています。

母親については、「パート・アルバイト（1日4時間以上）で就労している」が30.5%で最も高く、次いで「フルタイム（週5日・1日8時間程度）で就労している」（30.0%）、「専業主婦又は就労していない」（12.1%）と続いています。

【父親】



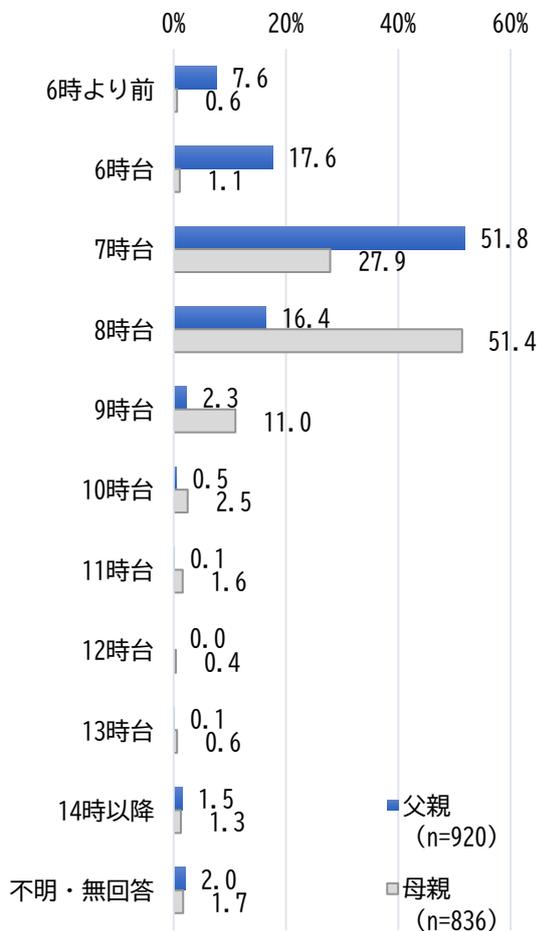
【母親】



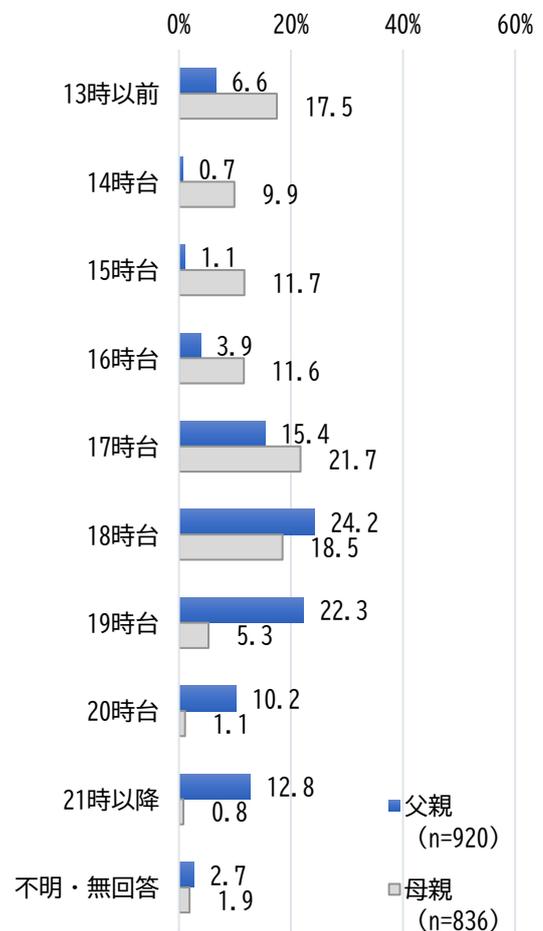
問 17-1 【問17の①で「1 フルタイム【週5日・1日8時間程度】」「2 パート・アルバイト【1日4時間以上】」「3 パート・アルバイト【1日4時間未満】」を選択した方にお伺いします。
家を出る時間と帰宅時間を [] 内に数字でご記入ください。

家を出る時間については、父親は「7時台」が51.8%で最も高く、次いで「6時台」（17.6%）、「8時台」（16.4%）と続いています。また、母親については「8時台」が51.4%で最も高く、次いで「7時台」（27.9%）、「9時台」（11.0%）と続いています。
帰宅時刻については、父親は「18時台」が24.2%で最も高く、次いで「19時台」（22.3%）、「17時台」（15.4%）と続いています。また、母親については「17時台」が21.7%で最も高く、次いで「18時台」（18.5%）、「13時以前」（17.5%）と続いています。

■家を出る時間



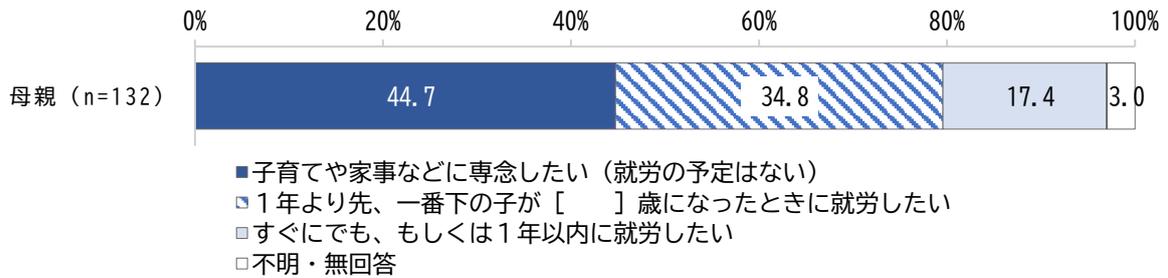
■帰宅時間



問 17-2

【問17の②で「4 専業主婦（夫）又は就労していない」を選択した方にお伺いします。】
 1年よりも先、将来的な就労予定はありますか。
 （1つに○。[] 内に数字をご記入ください。）

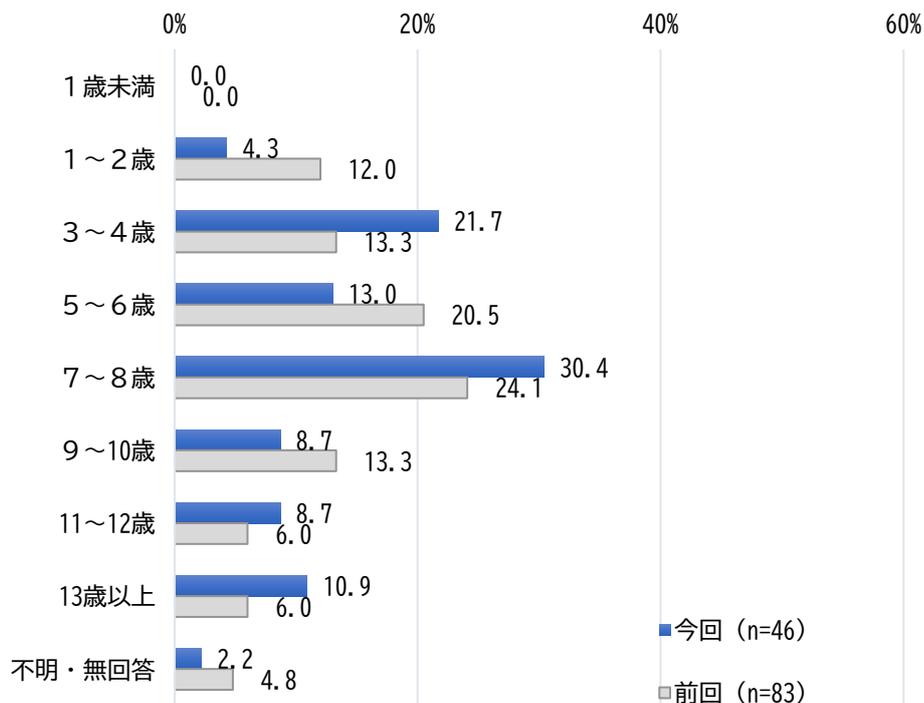
将来的な就労予定については、母親では「子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）」が 44.7%で最も高く、次いで「1年よりも先、一番下の子が [] 歳になったときに就労したい」（34.8%）、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」（17.4%）と続いています。父親については有効回答がありませんでした。



問 17-2①

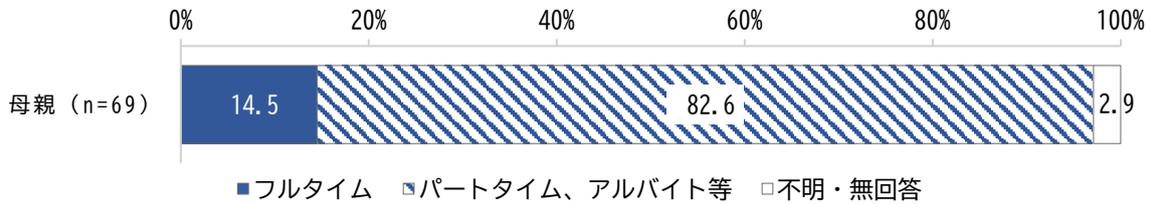
【問17-2で「2 1年よりも先、一番下の子が [] 歳になったときに就労したい」を選択した方にお伺いします。】
 就労予定時の一番下の子どもの年齢をご記入ください。
 （[] 内に数字をご記入ください。）

就労予定時の一番下の子どもの年齢については、母親の場合は「7～8歳」が30.4%で最も高く、次いで「3～4歳」（21.7%）、「5～6歳」（13.0%）と続いています。父親については有効回答がありませんでした。

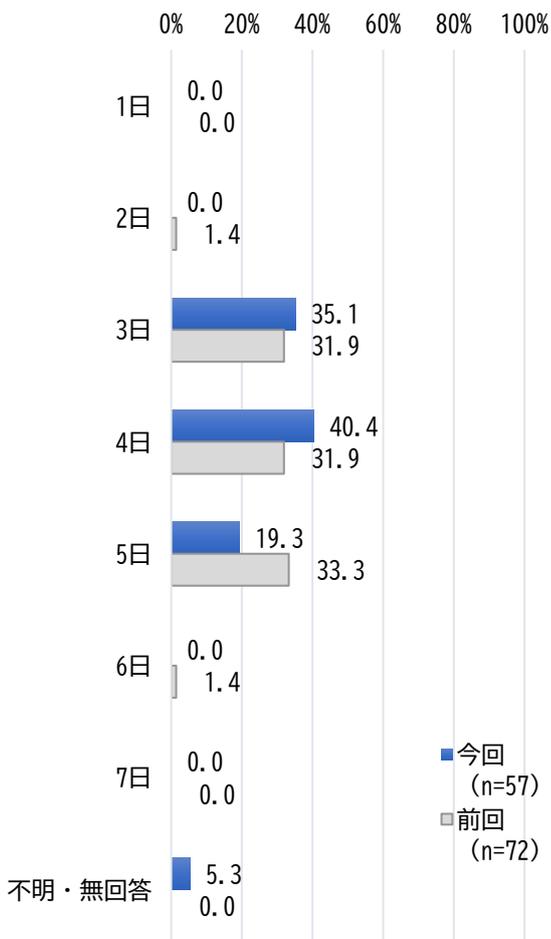


問 17-2 ② 【問17-2で「2 1年より先、一番下の子が [] 歳になったときに就労したい」または「3 すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」を選択した方にお伺いします。】
希望する就労形態をお答えください。（1つに〇）

希望する就労形態については、母親では「パートタイム、アルバイト等（「1」以外）」が 82.6%、「フルタイム（1週5日程度、1日8時間程度の労働）」が 14.5%となっています。父親については有効回答がありませんでした。



【母親のパートタイム1週間あたりの勤務日数見込み】



【母親のパートタイム1日あたりの勤務時間見込み】



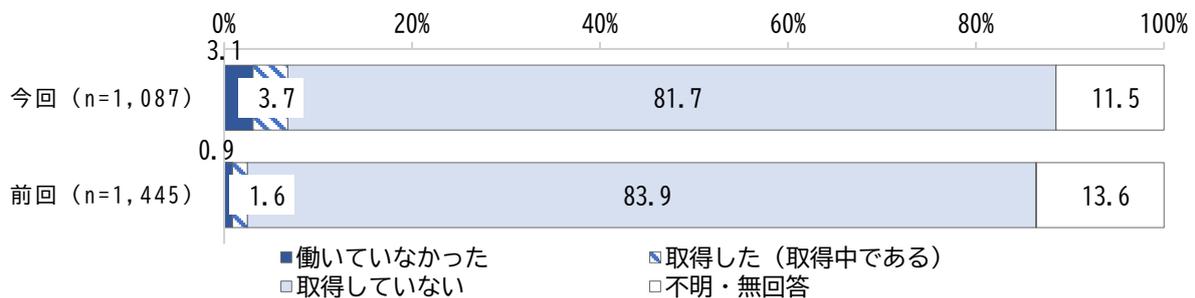
育児と就労の両立について

問 18

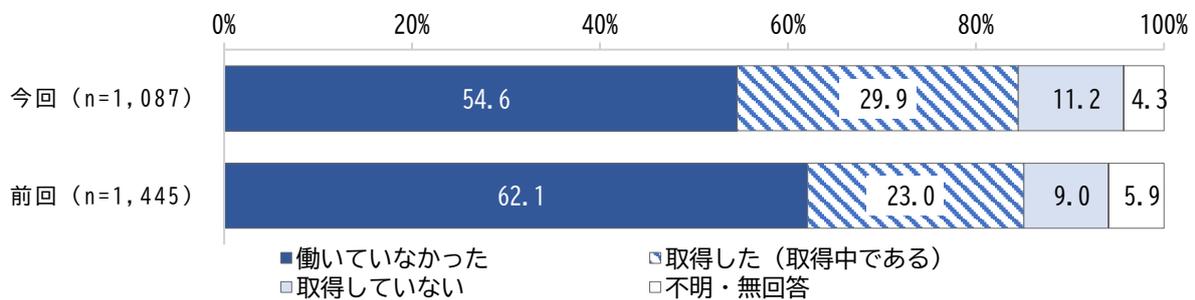
お子さんが生まれた時、父母のいずれか、もしくは双方が育児休業を取得しましたか。
(それぞれ1つに○。ひとり親家庭の方は、該当する部分のみお答えください。)

育児休業の取得については、父親で「取得していない」が81.7%で最も高く、次いで「取得した（取得中である）」(3.7%)、「働いていなかった」(3.1%)と続いています。母親では、「働いていなかった」が54.6%で最も高く、次いで「取得した（取得中である）」(29.9%)、「取得していない」(11.2%)と続いています。

【父親】

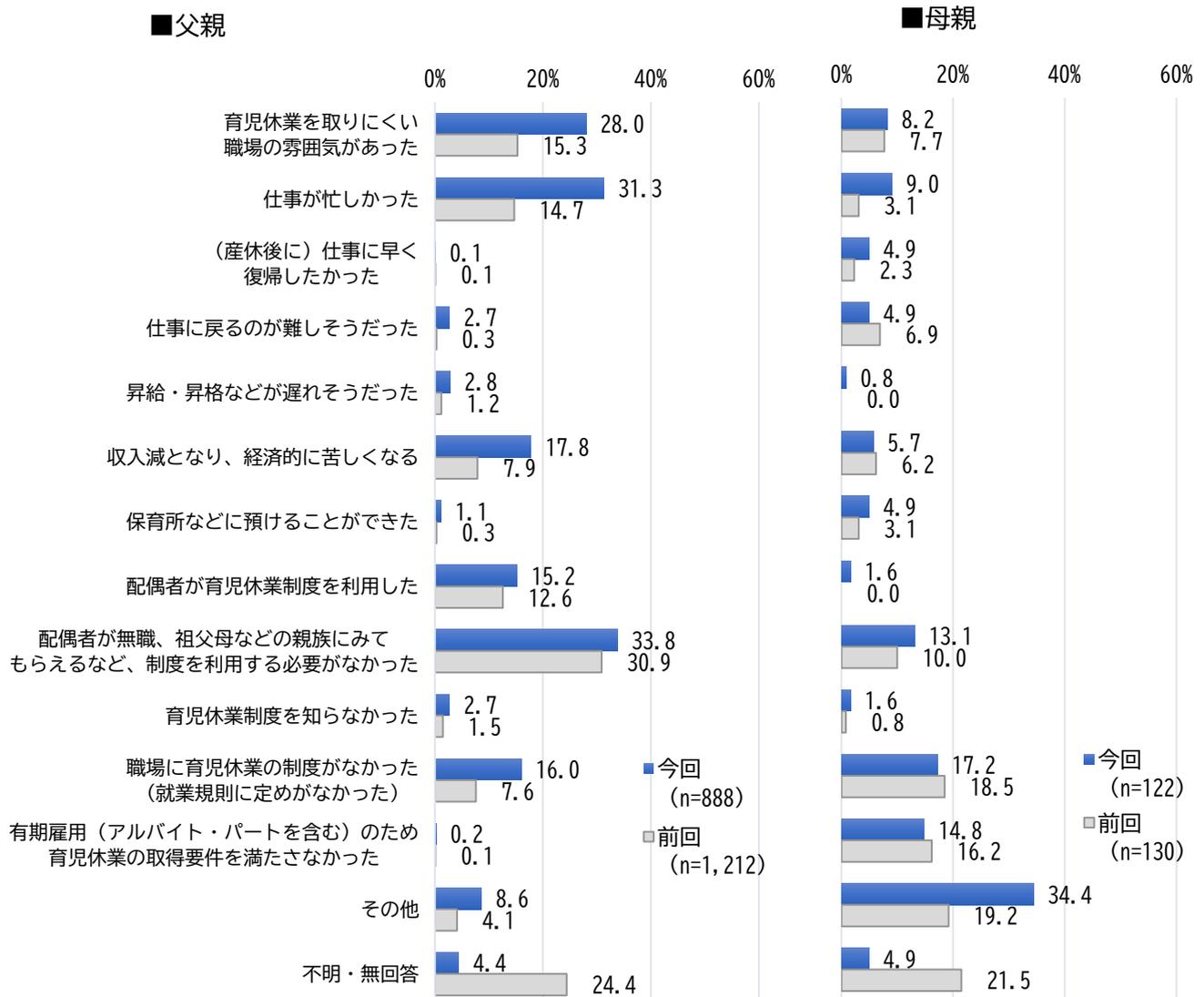


【母親】



育児休暇を取得していない理由については、父親で「配偶者が無職、祖父母などの親族にみてもらえるなど、制度を利用する必要がなかった」が33.8%で最も高く、次いで「仕事が忙しかった」(31.3%)、「育児休業を取りにくい職場の雰囲気があった」(28.0%)と続いています。母親では、「職場に育児休業の制度がなかった(就業規則に定めがなかった)」が17.2%で最も高く、次いで「有期雇用(アルバイト・パートを含む)のため育児休業の取得要件を満たさなかった」(14.8%)、「配偶者が無職、祖父母などの親族にみてもらえるなど、制度を利用する必要がなかった」(13.1%)と続いています。

【育児休暇を取得していない理由】

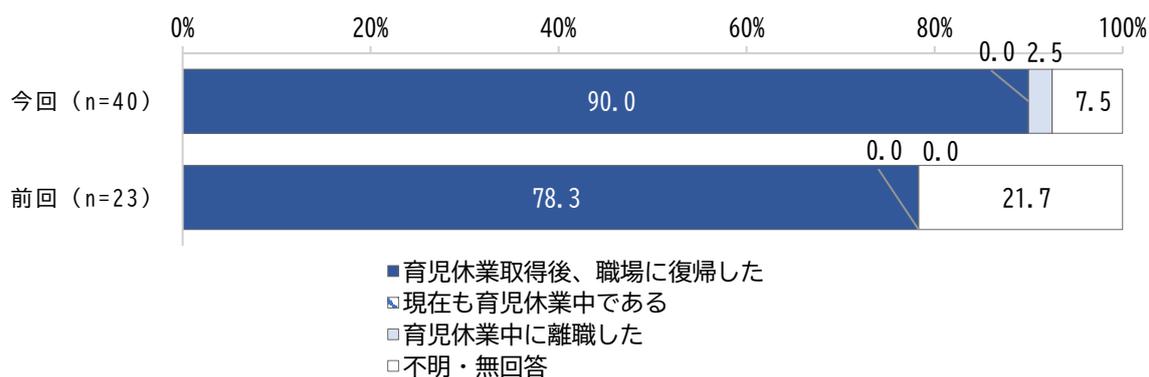


問 18-1

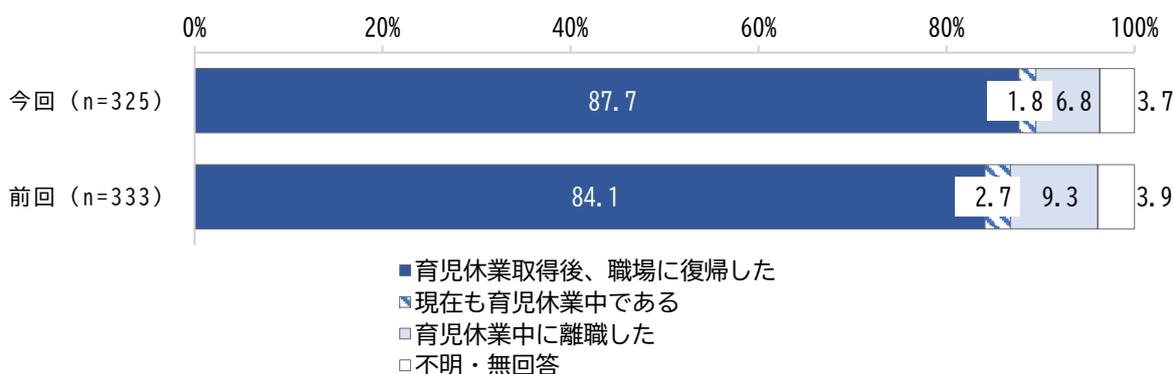
【問18で「2 取得した（取得中である）」を選択した方にお伺いします。
 育児休業取得後、職場に復帰しましたか。（それぞれ1つに○。ひとり親家庭の方は、該当する部分のみお答えください。）

育児休業取得後、職場に復帰したかについては、父親で「育児休業取得後、職場に復帰した」が90.0%で最も高く、次いで「育児休業中に離職した」(2.5%)となっています。母親では、「育児休業取得後、職場に復帰した」が87.7%で最も高く、次いで「育児休業中に離職した」(6.8%)、「現在も育児休業中である」(1.8%)と続いています。

【父親】



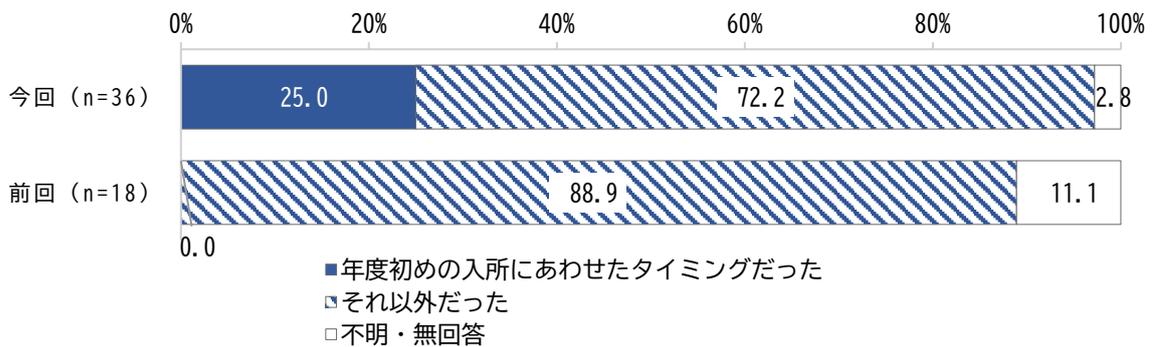
【母親】



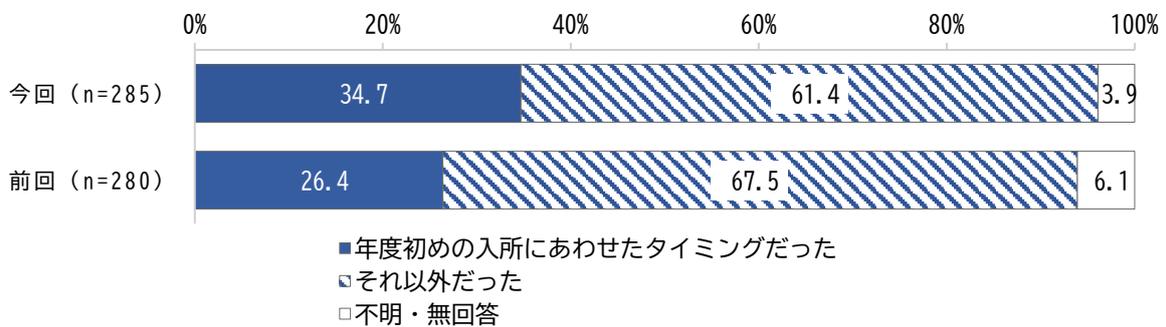
問 18-2	<p>【問18-1で「1 育児休業取得後、職場に復帰した」を選択した方にお伺いします。】</p> <p>育児休業から職場に復帰したのは、年度初めの保育所入所にあわせたタイミングでしたか。あるいはそれ以外でしたか。（1つに○※ 年度初めを希望して復帰したが、入所できなかった場合も「1」を選択してください。）</p>
---------------	---

育児休業後の職場復帰のタイミングが保育所入所にあわせたタイミングであったかについては、父親で「それ以外だった」が 72.2%、「年度初めの入所にあわせたタイミングだった」が 25.0%となっています。母親では、「それ以外だった」が 61.4%、「年度初めの入所にあわせたタイミングだった」が 34.7%となっています。

【父親】



【母親】



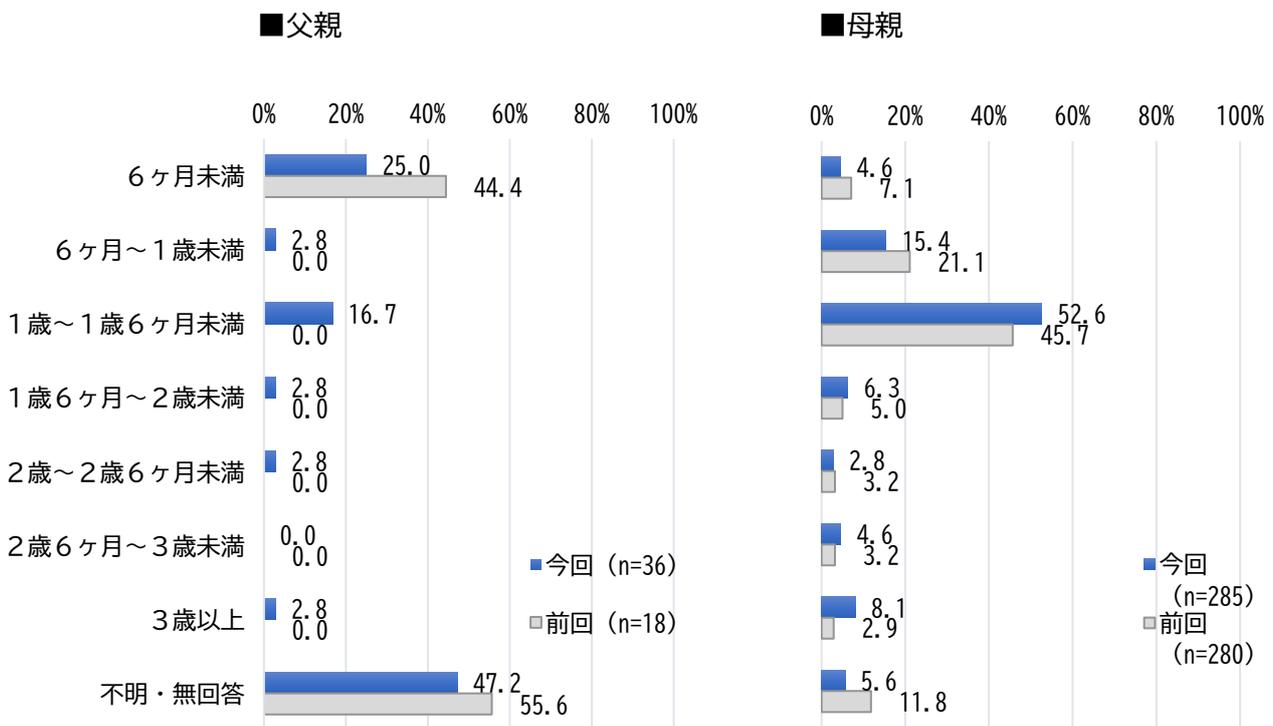
問 18-3

【問28-1で「1 育児休業取得後、職場に復帰した」を選択した方にお伺いします。
 育児休業からは、「実際に」 お子さんが何歳何ヶ月の時に職場復帰しましたか。また、お勤め先の育児休業の制度の期間内で、何歳何ヶ月のときまで取りたかったですか。（[] 内に数字を記入）

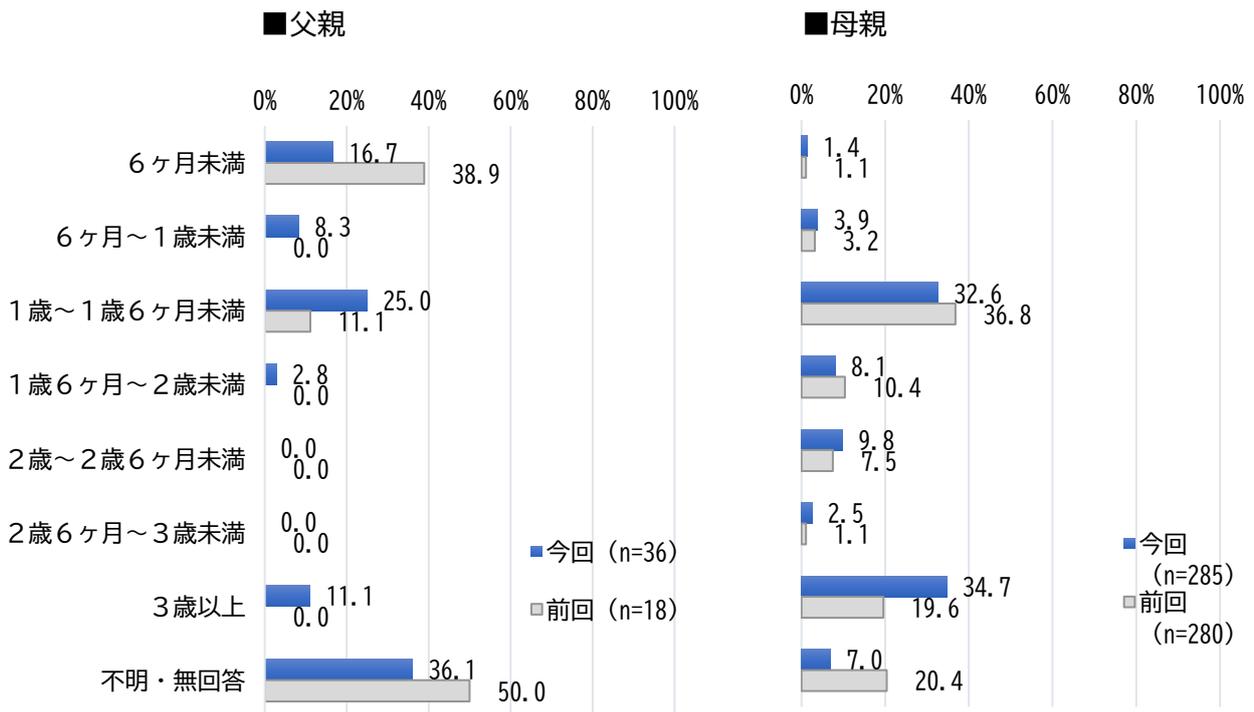
子どもが何歳何ヶ月の時に職場復帰したかについては、父親で「6ヶ月未満」が25.0%で最も高く、次いで「1歳～1歳6ヶ月未満」(16.7%)と続いています。母親では、「1歳～1歳6ヶ月未満」が52.6%で最も高く、次いで「6ヶ月～1歳未満」(15.4%)、「3歳以上」(8.1%)と続いています。

また、希望の職場復帰時期については、父親で「1歳～1歳6ヶ月未満」が25.0%で最も高く、次いで「6ヶ月未満」(16.7%)、「3歳以上」(11.1%)と続いています。母親では、「3歳以上」が34.7%で最も高く、次いで「1歳～1歳6ヶ月未満」(32.6%)、「2歳～2歳6ヶ月未満」(9.8%)と続いています。

【実際の職場復帰時期】



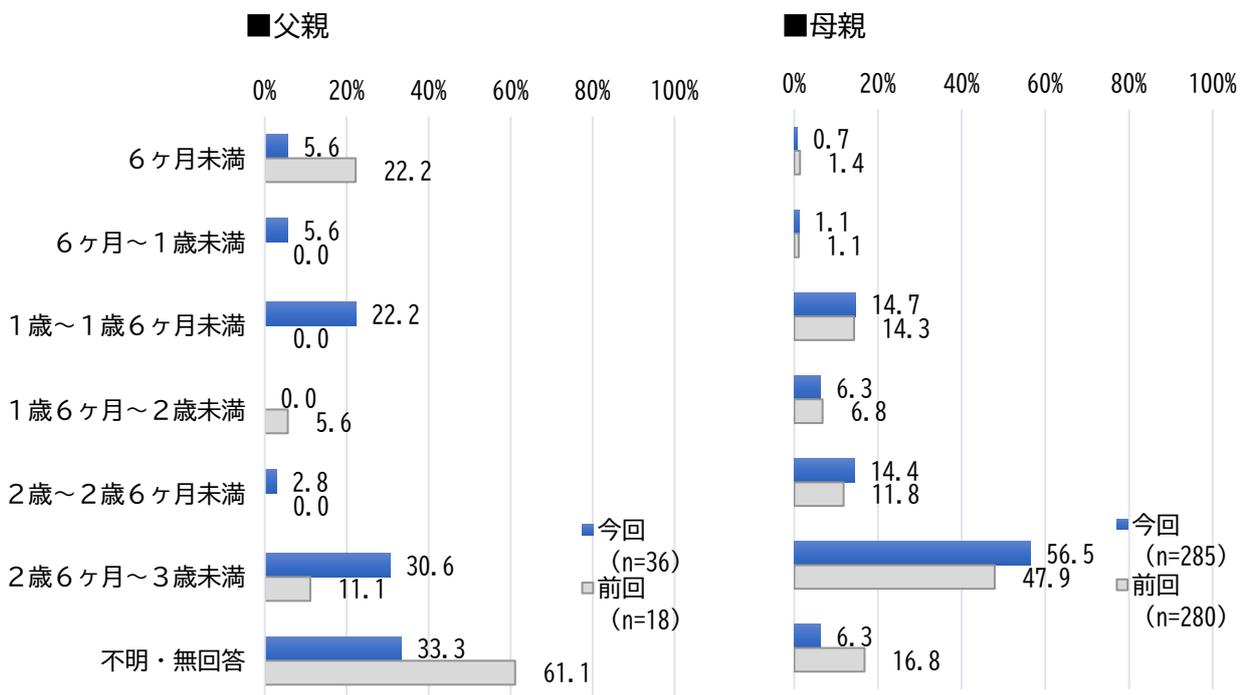
【希望の職場復帰時期】



問 18-4

【問18-1で「1 育児休業取得後、職場に復帰した」を選択した方にお伺いします。】
 お勤め先に、育児のために3歳まで休暇を取得できる制度があった場合、「希望」としてはお子さんが何歳何ヶ月のときまで取りたかったですか。（〔 〕内に数字を記入。ひとり親家庭の方は、該当する部分のみお答えください。）

育児のために3歳まで休暇を取得できる制度があった場合、何歳何ヶ月のときまで取りたかったかについては、父親で「2歳6ヶ月～3歳未満」が30.6%で最も高く、次いで「1歳～1歳6ヶ月未満」(22.2%)、「6ヶ月未満」と「6ヶ月～1歳未満」(5.6%)と続いています。母親では、「2歳6ヶ月～3歳未満」が56.5%で最も高く、次いで「1歳～1歳6ヶ月未満」(14.7%)、「2歳～2歳6ヶ月未満」(14.4%)と続いています。

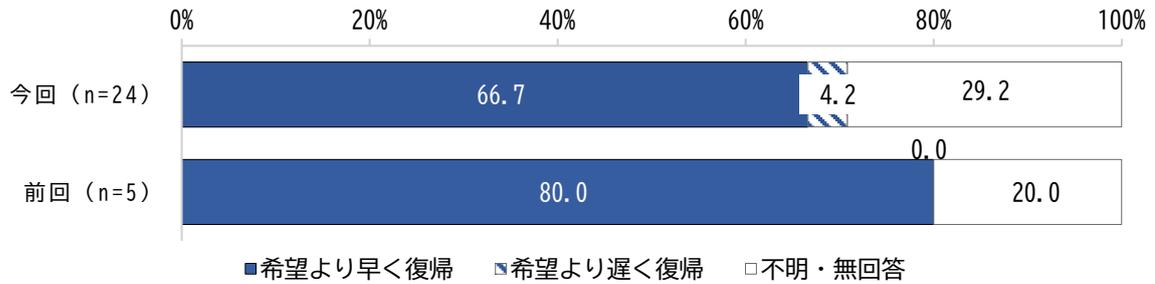


問 18-5

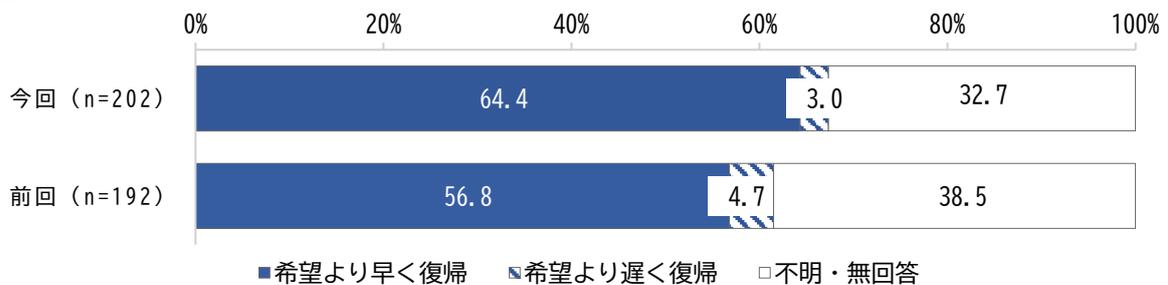
【問18-3で実際の復帰と希望が異なる方にお伺いします。】
希望の時期に職場復帰しなかった理由を教えてください。（AまたはBのいずれかを選択した上で、選択肢よりあてはまる番号をすべて回答欄にご記入ください。）

復帰のタイミングが希望とどう違ったかについては、父親で「A 希望より早く復帰した」が 66.7%、「B 希望より遅く復帰した」が 4.2%となっています。母親では、「希望より早く復帰した」が 64.4%、「希望より遅く復帰した」が 3.0%となっています。

【父親】



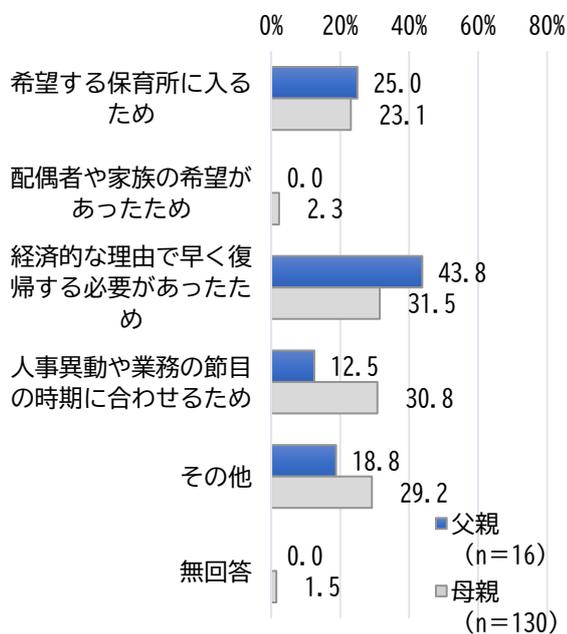
【母親】



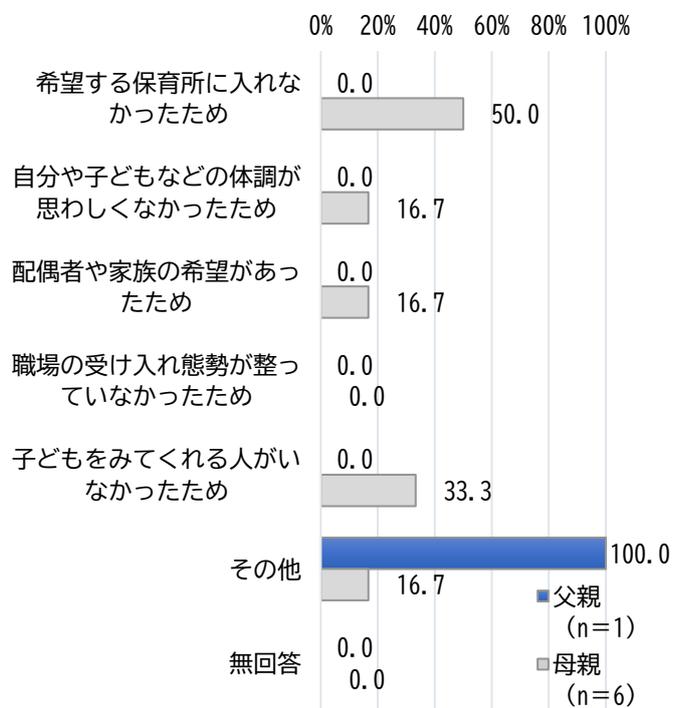
希望より早く復帰した理由については、父親で「経済的な理由で早く復帰する必要があったため」が 43.8%で最も高く、次いで「希望する保育所に入るため」(25.0%)、「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」(12.5%)と続いています。母親では、「経済的な理由で早く復帰する必要があったため」が31.5%で最も高く、次いで「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」(30.8%)、「希望する保育所に入るため」(23.1%)と続いています。

一方、遅く復帰した理由については、父親では「その他」が 100.0%となっています。母親では、「希望する保育所に入れなかったため」が 50.0%で最も高く、次いで「子どもをみてくれる人がいなかったため」(33.3%)と続いています。

【希望より早く復帰した理由】



【希望より遅く復帰した理由】

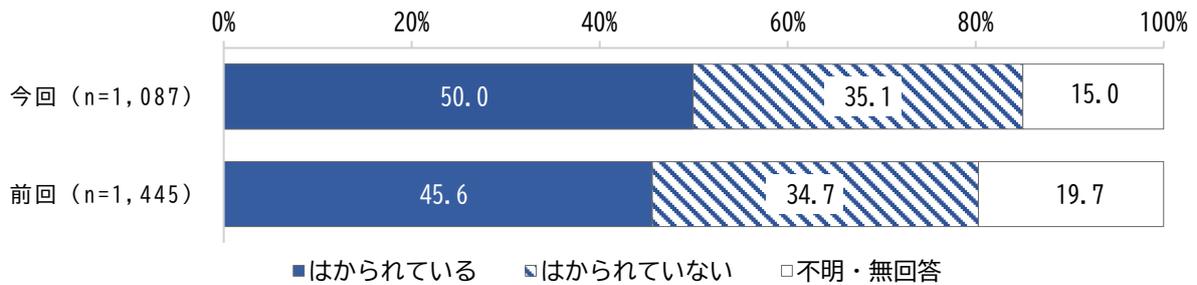


問 19

子どもと一緒に時間や親の介護、自己実現のための時間が十分に取れている（仕事と生活の調和がはかられている）と思いますか。（父親・母親それぞれ1つに○）

仕事と生活の調和については、父親で「はかられている」が 50.0%、「はかされていない」が 35.1%となっています。母親では、「はかられている」が 62.3%、「はかされていない」が 32.2%となっています。

【父親】



【母親】

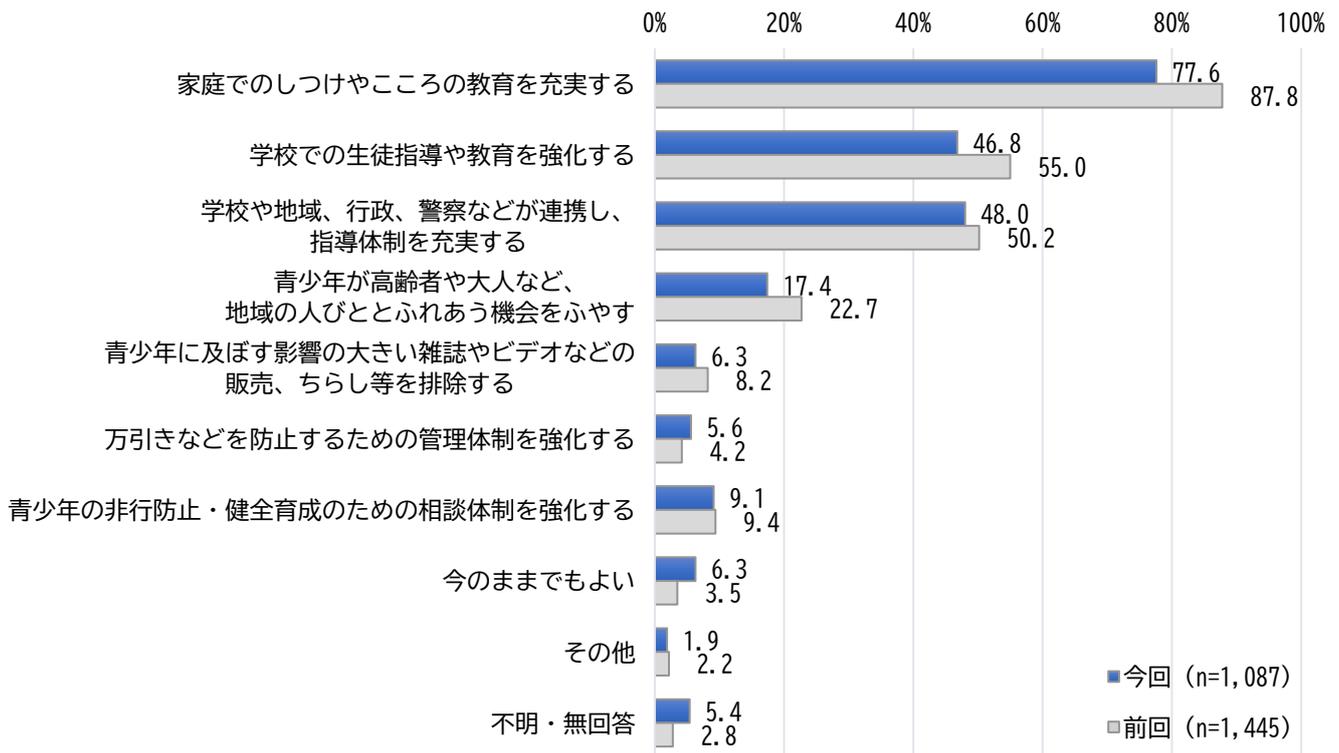


お子さんの安全について

問 20

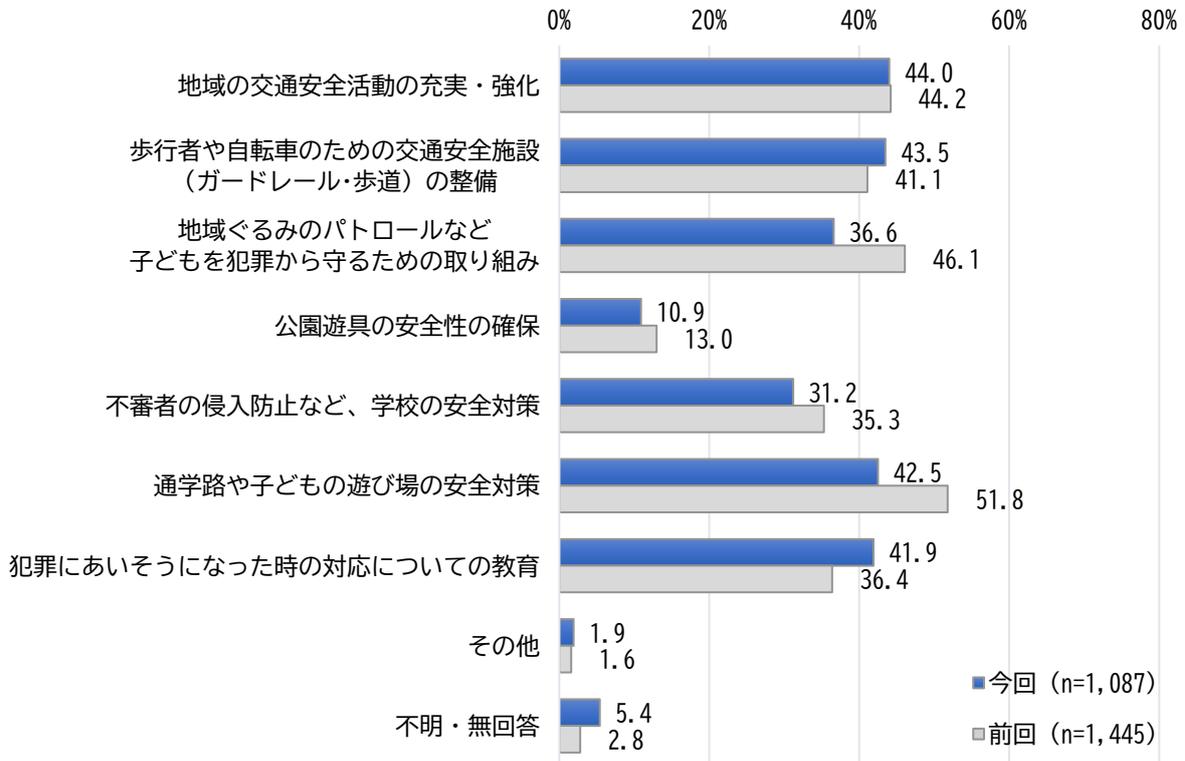
子どもの健全育成や非行防止のために、どのようなことに力をいれるべきだと思われるか。(〇は3つまで)

子どもの健全育成や非行防止のために、どのようなことに注力すべきかについては、「家庭でのしつけやこころの教育を充実する」が77.6%で最も高く、次いで「学校や地域、行政、警察などが連携し、指導体制を充実する」(48.0%)、「学校での生徒指導や教育を強化する」(46.8%)と続いています。



問 21 子どもの安全を守るために、特に重要と思われることは次のうちどれですか。
（○は3つまで）

子どもの安全を守るために、特に重要と思われることについては、「地域の交通安全活動の充実・強化」が44.0%で最も高く、次いで「歩行者や自転車のための交通安全施設（ガードレール・歩道）の整備」（43.5%）、「通学路や子どもの遊び場の安全対策」（42.5%）と続いています。

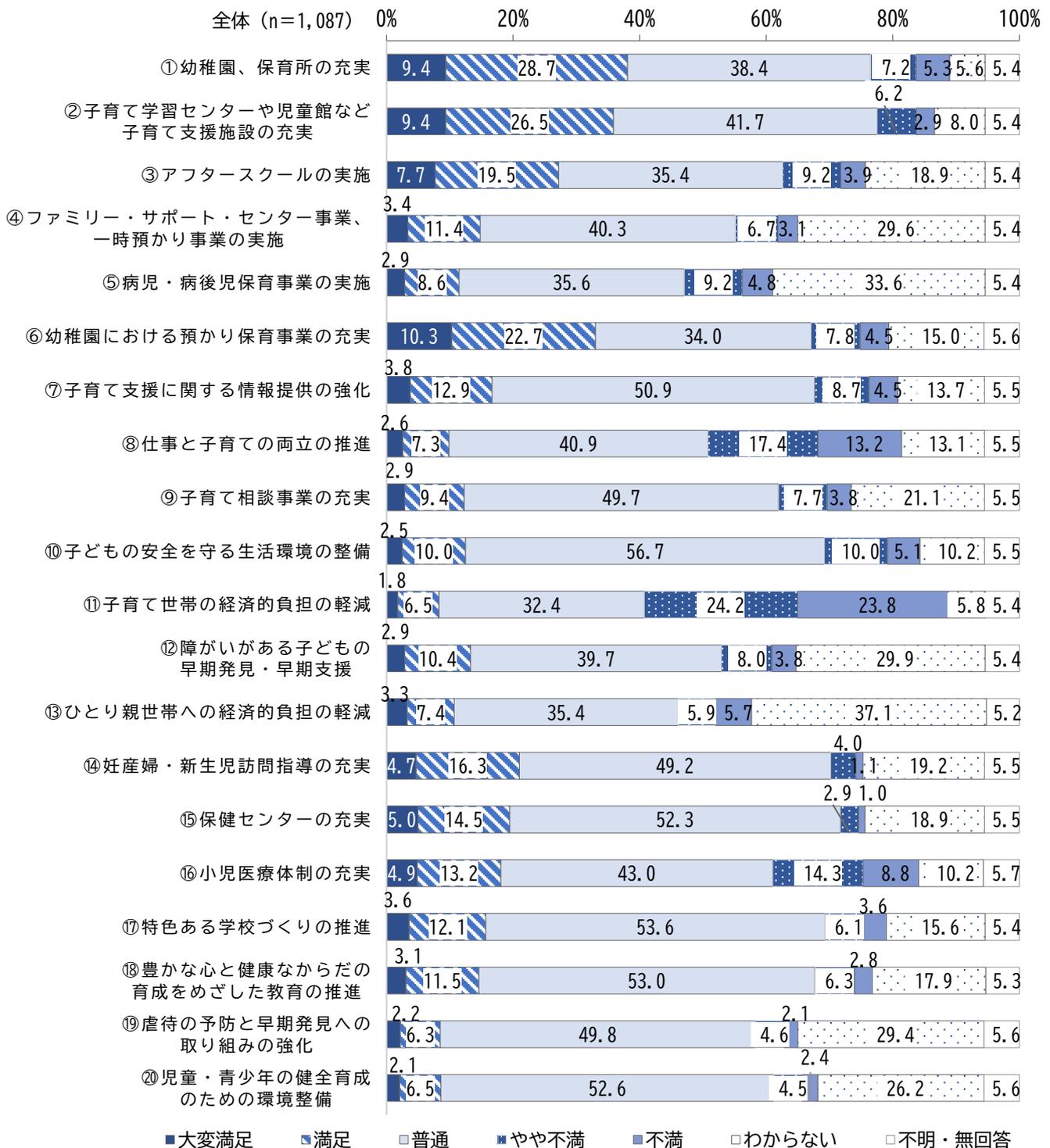


赤穂市での子育てについて

問 22

下記の分野のうち、行政の取り組みに対してどのように感じていますか。取り組みは多岐に渡りますが、全体的な満足度をお答えください。(①~⑳、それぞれ1つに○)

行政の取り組みに対する評価についてしてみると、『満足している（大変満足+満足）』が「幼稚園、保育所の充実」で 38.1%、「子育て学習センターや児童館など子育て支援施設の充実」で 35.9%、「幼稚園における預かり保育事業の充実」で 33.0%と高くなっています。一方で、『不満を感じている（不満+やや不満）』が「子育て世帯の経済的負担の軽減」で 48.0%、「仕事と子育ての両立の推進」で 30.6%となっています。



問 23

地域に、ボランティア等による無料の学習塾があったら、お子さんを参加させたいと思いますか。【1つに〇】

地域に無料の学習塾があったら、子どもを参加させたいと思うかについては、「参加させたい」が 63.2%で最も高く、次いで「わからない」(31.2%)、「参加させたくない」(4.8%)と続いています。



問 24

地域に、無料又は安価で子どもに食事の提供を行う「子ども食堂」に、お子さんを参加させたいと思いますか。【1つに〇】

「子ども食堂」に、子どもを参加させたいと思うかについては、「わからない」が 41.7%で最も高く、次いで「親子で参加したい」(24.7%)、「子どもだけで参加させたい」(22.0%)と続いています。

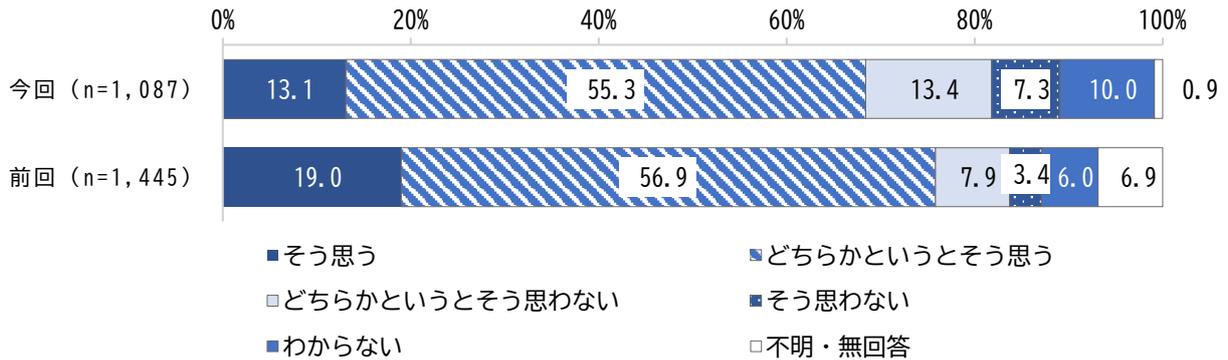


問 25

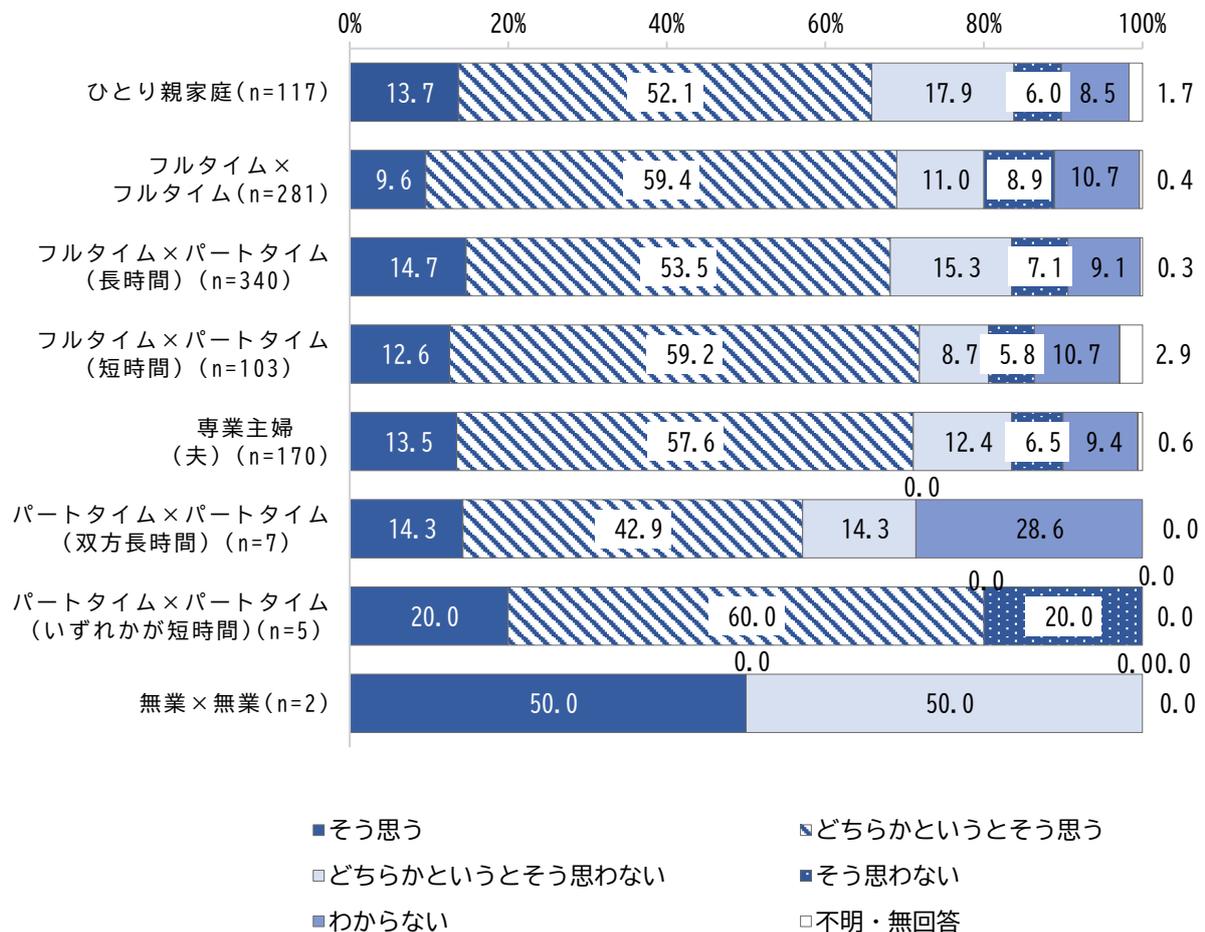
赤穂市は、子育てしやすい環境にあると思いますか。
 (1つに○。また、その理由もご記入ください。)

赤穂市が子育てしやすい環境にあると思うかについては、「どちらかというと思う」が 55.3%で最も高く、次いで「どちらかというと思わない」(13.4%)、「そう思う」(13.1%)と続いています。

家庭類型別でみると、「ひとり親家庭」で『子育てしやすいと思わない(「そう思わない」+「どちらかというと思わない」)』が 23.9%とやや高くなっています。

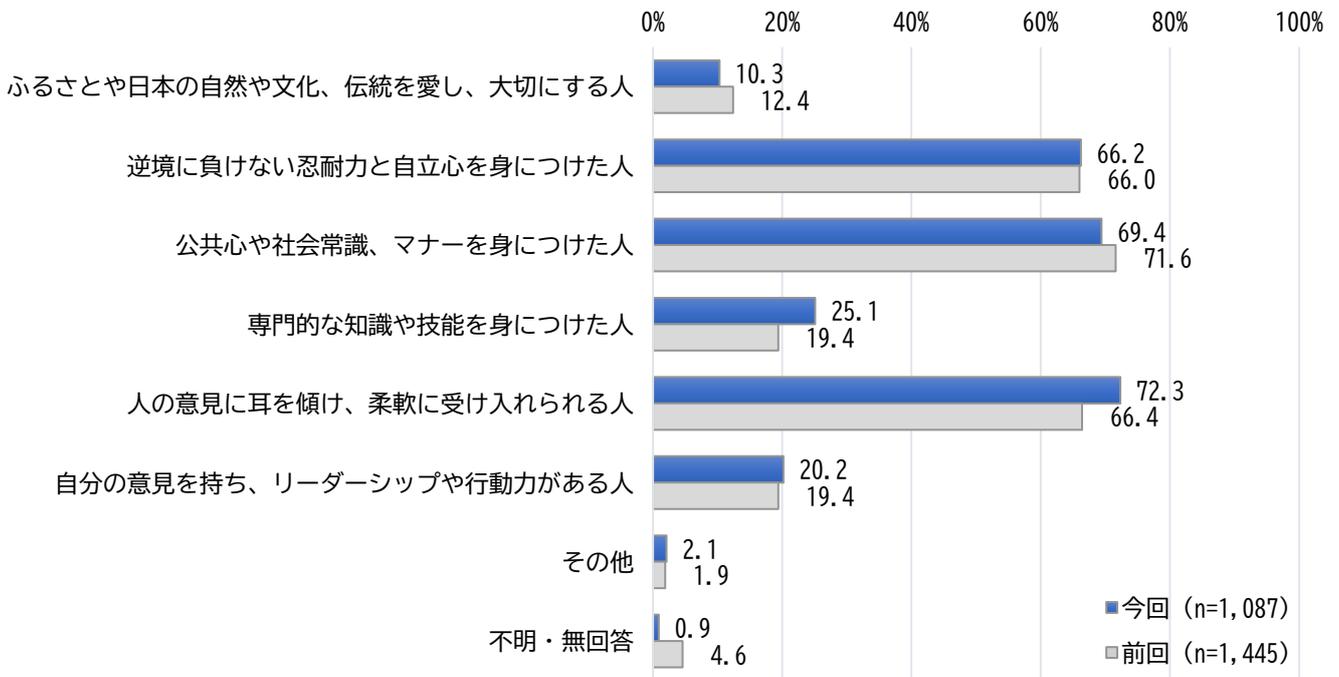


【家庭類型別】



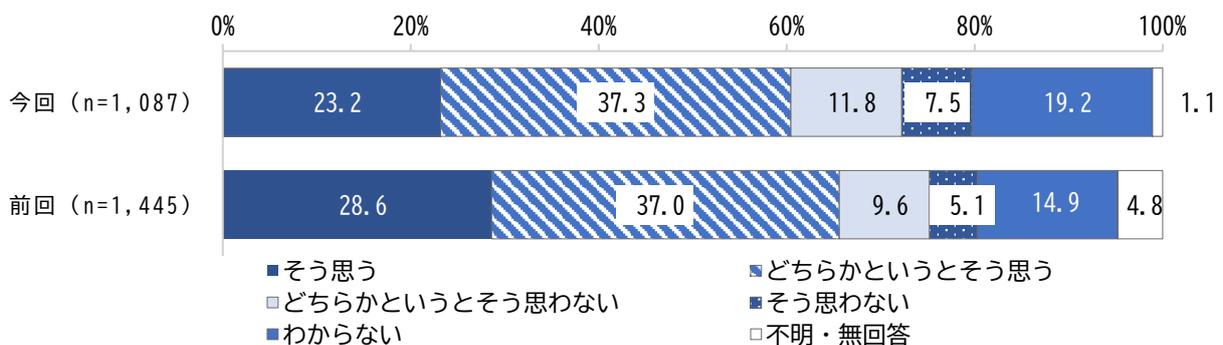
問 26 将来、お子さんにどのような人に育ててほしいと思いますか。（〇は3つまで）

将来、子どもにどのような人に育ててほしいと思うかについては、「人の意見に耳を傾け、柔軟に受け入れられる人」が72.3%で最も高く、次いで「公共心や社会常識、マナーを身につけた人」（69.4%）、「逆境に負けない忍耐力と自立心を身につけた人」（66.2%）と続いています。



問 27 あなたは、これからもお子さんに赤穂市で育ててほしいと思いますか。（1つに〇。また、その理由もご記入ください。）

これからも子どもに赤穂市で育ててほしいと思うかについては、「どちらかというそう思う」が37.3%で最も高く、次いで「そう思う」（23.2%）、「どちらかというそう思わない」（11.8%）と続いています。



問 28

最後に、教育・保育環境の充実など子育ての環境や支援に関してご意見がございましたら、ご自由にご記入ください。

保育園・幼稚園について	件数
入しやすい環境整備 (入所条件緩和、シンプルな運営体制、就労に影響が出ないように等)	13
幼稚園の充実(時間延長、子の体調不良時の対応等)	9
保育関係者の待遇改善や人員増	5
施設の質の向上(防犯対策、災害対策等)	4
保育所の充実(時間延長、土曜保育、午後保育等)	4
経済的負担の軽減	4
一時預かり利用の充実 (期間延長、時間単位預かり等)	2
施設の増設・定員増	1
その他(幼保一元化、手続きの簡素化、地域での連携強化等)	11

小中学校について	件数
アフタースクールや部活動の充実 (日割り料金導入、部活の地域移行、利用料値下げ、質の向上等)	34
費用の負担軽減	17
教育内容について (デジタル教材の有効活用希望、教育内容の再考の必要性等)	13
職員について(障がいについての無理解、生徒との関わり方の改善等)	7
PTAについて(必要性の再考、負担軽減希望等)	5
誰でも過ごせる居場所の充実	4
給食について(内容改善希望、アレルギー対応希望)	2
設備の改修・整備(トイレの改修)	1
その他(フリースクール導入、地域間格差是正、先生への感謝等)	22

子育て支援・サービス等について	件数
支援サービス充実 (無料の塾など支援、選択肢を増やして欲しい、子を預ける場所の増設等)	18
障がい児支援(施設の充実、早期発見への対策等)	7
経済的負担軽減(非課税世帯や母子家庭以外への平等な支援等)	5
相談窓口充実	2
情報提供について(口コミや情報が少ない)	1
雇用環境改善(子育てを重視した企業の協力希望)	1
その他 (親が働きやすい環境づくり、不登校児への対策、他市との比較改善、地域の大人との交流増加希望等)	9

公共施設・公共交通機関・安全対策について	件数
安全なまちづくり (通学路の整備、パトロールの強化、車の危険運転への対策等)	12
災害対策の強化	1

遊びの環境・子育て支援施設について		件数
施設の充実 （子どもが安心して使える場の増設、運動できる施設の増設、不登校児の居場所づくり等）	8	
公園の増設・整備	2	

まちづくりについて		件数
少子化対策および行政の改善要望	5	
その他 （障がい者・子ども・高齢者すべての人が生きやすい環境づくり、住みたいと思うまちづくり等）	5	

第3章

子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査（小中学生）

第3章 子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査 (小中学生)

調査概要

調査の目的： 「こども基本法」では、こども施策を策定し、実施し、評価するに当たっては、対象となるこども等の意見を反映させるために必要な措置を講ずることとされています。

本調査は、小学生、中学生に対して、生活状況や居場所、ヤングケアラーなどについての調査を行うとともに、率直な意見を聴取することにより、今後の子育て施策に関するニーズを把握することを目的としています。

調査の対象： 小学4年生児童、小学6年生児童、中学1年生生徒

調査の方法： 学校配布・回収（一部郵送配布・回収）
WEB 回答

調査の期間： 令和6年2月5日～2月16日

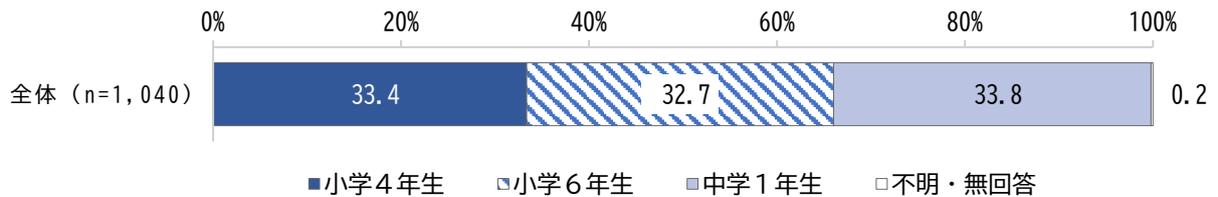
回収の結果：

配布数	回収数(有効回収数)		回収率(有効回収率)
1,190 件	合計	1,061 件 (1,040 件)	89.2% (87.4%)
	紙	379 件 (358 件)	31.8% (30.1%)
	WEB	682 件 (682 件)	57.3% (57.3%)

自身について

問1 あなたの学年を教えてください。(〇は1つ)

学年については、「中学1年生」が33.8%で最も高く、次いで「小学4年生」(33.4%)、「小学6年生」(32.7%)と続いています。



問2 あなたの性別を教えてください。(〇は1つ)

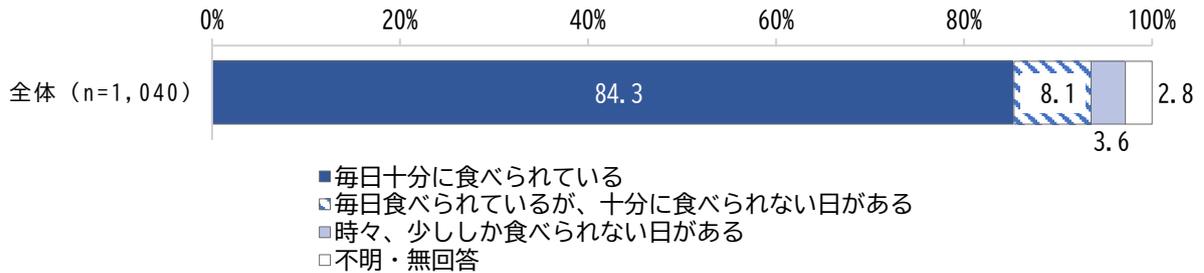
性別については、「男」が51.0%、「女」が46.9%となっています。



普段の生活について

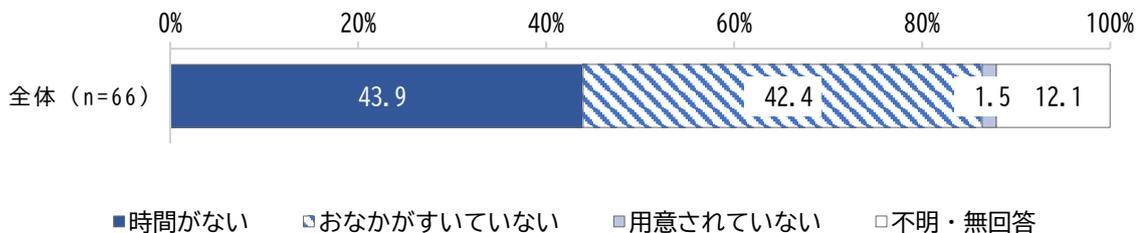
問3 あなたは、食事を毎日とれていますか。（○は1つ）

食事を毎日とれているかについては、「毎日十分に食べられている」が 84.3%で最も高く、次いで「毎日食べられているが、十分に食べられない日がある」（8.1%）、「時々、少ししか食べられない日がある」（3.6%）と続いています。



問4 あなたが毎日食事をとれない理由は何ですか。（○は1つ）

毎日食事をとれない理由については、「時間がない」が 43.9%で最も高く、次いで「おなかがすいていない」（42.4%）、「用意されていない」（1.5%）と続いています。



問5 あなたは、悩んだり、困ったりした時に相談できる人はいますか。（○は1つ）

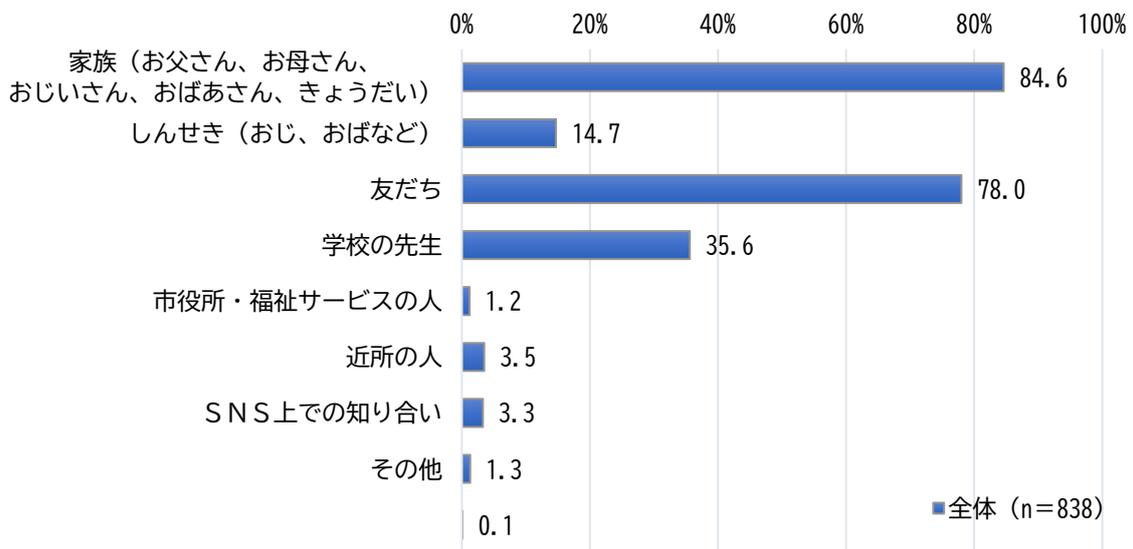
悩んだり、困ったりした時に相談できる人については、「いる」が 80.6%で最も高く、次いで「相談できる人は必要ない」（6.0%）、「ほしいけどいない」（2.5%）と続いています。



問6

問5で「1.（相談できる人が）いる」と回答した人にお聞きします。それは誰ですか。（あてはまる番号すべてに○）

相談相手が誰かについては、「家族（お父さん、お母さん、おじいさん、おばあさん、きょうだい）」が 84.6%で最も高く、次いで「友だち」（78.0%）、「学校の先生」（35.6%）と続いています。



問7

あなたは、家族と話す時間がありますか。（○は1つ）

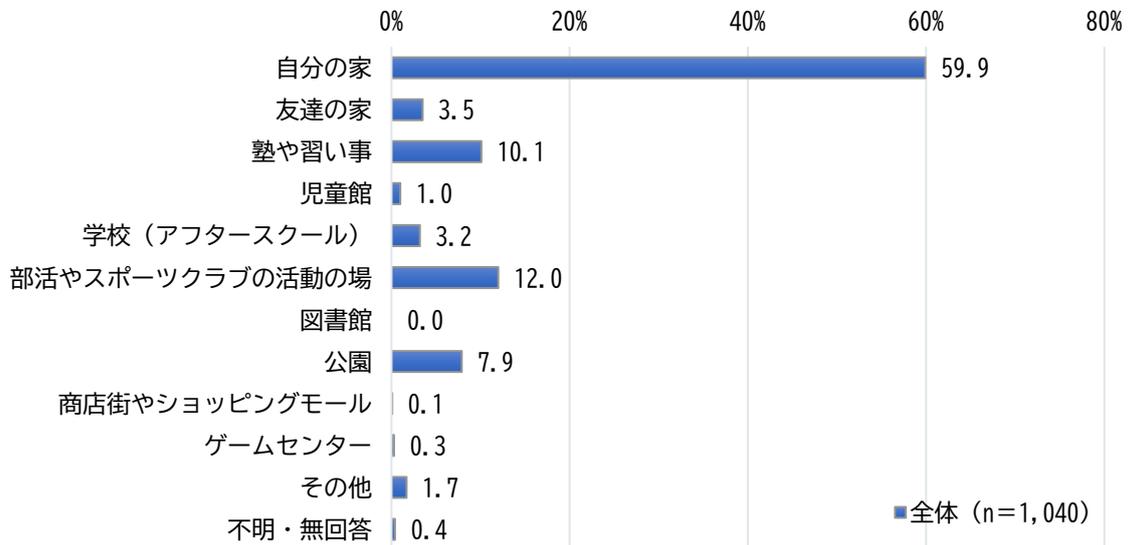
家族と話す時間については、「十分にある」が 46.3%で最も高く、次いで「ある」（44.5%）、「あまりない」（6.0%）と続いています。



問8

あなたは、平日（学校に行く日）の放課後（夕方6時くらいまで）は、どこで過ごしますか。一番多くいる場所に1つ〇をしてください。

平日の放課後は、どこで過ごすかについては、「自分の家」が59.9%で最も高く、次いで「部活やスポーツクラブの活動の場」（12.0%）、「塾や習い事」（10.1%）と続いています。



問9

地域に、ボランティア等による無料の学習塾があれば参加したいですか。（〇は1つ）

地域に無料の学習塾があれば参加したいかについては、「参加したくない」が60.7%、「参加したい」が38.6%となっています。



問 10

地域に、無料又は安価で食事ができる「こども食堂」があれば参加したいですか。(〇は1つ)

「こども食堂」があれば参加したいかについては、「参加したい」が53.9%、「参加したくない」が45.3%となっています。

**問 11**

あなたは、あなた専用のスマートフォン（スマホ）を持っていますか。(〇は1つ)

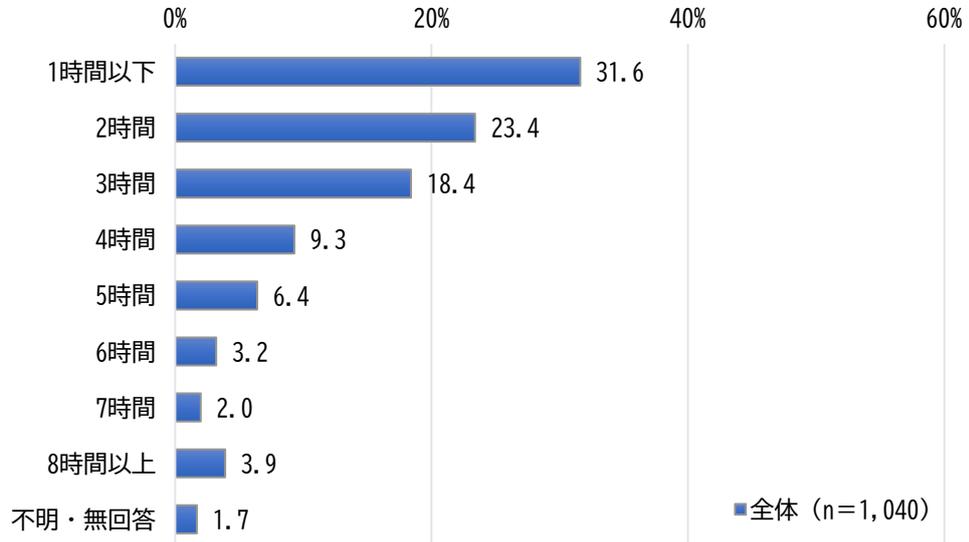
専用のスマートフォン（スマホ）を持っているかについては、「持っている」が63.9%で最も高く、次いで「ほしいが、持っていない」(27.5%)、「必要がないので持っていない」(8.2%)と続いています。



問 12

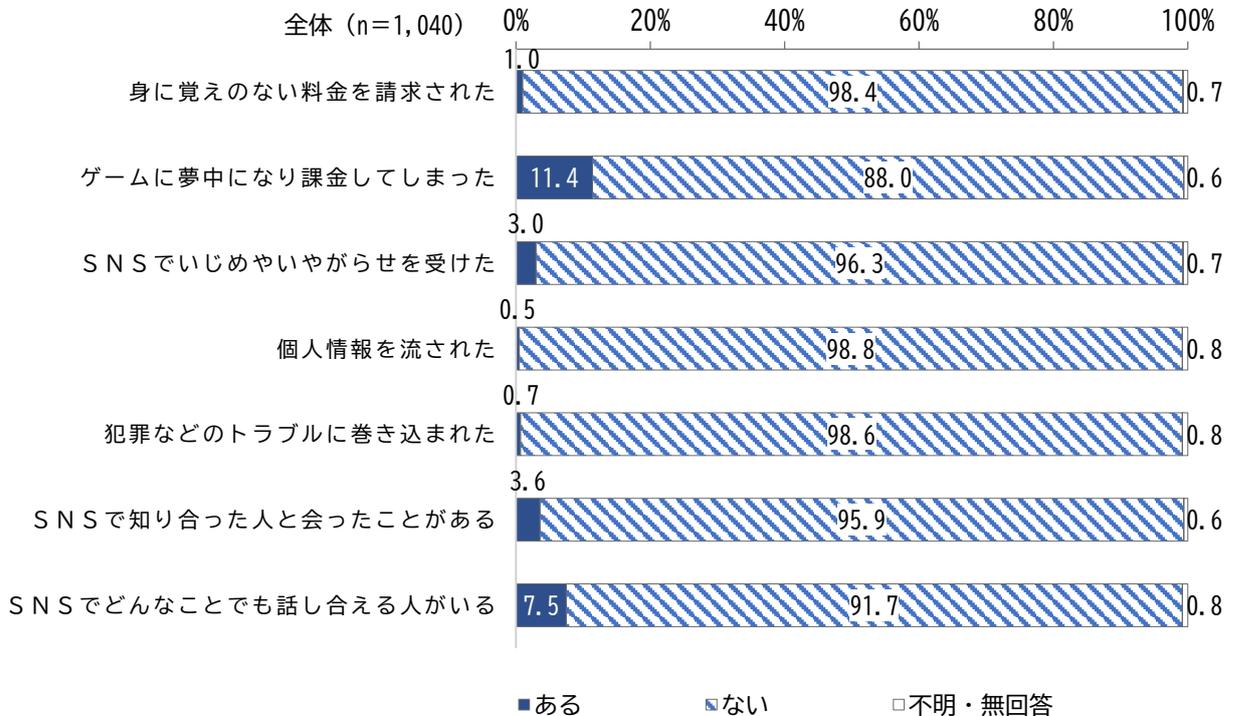
あなたは、スマートフォン（スマホ）などを使って、1日どのくらいインターネット（SNS、動画サイト、オンラインゲームなど）を利用していますか。1日だいたい（ ）時間

1日どのくらいインターネットを利用しているかについては、「1 時間以下」が 31.6%で最も高く、次いで「2 時間」（23.4%）、「3 時間」（18.4%）と続いています。



問 13

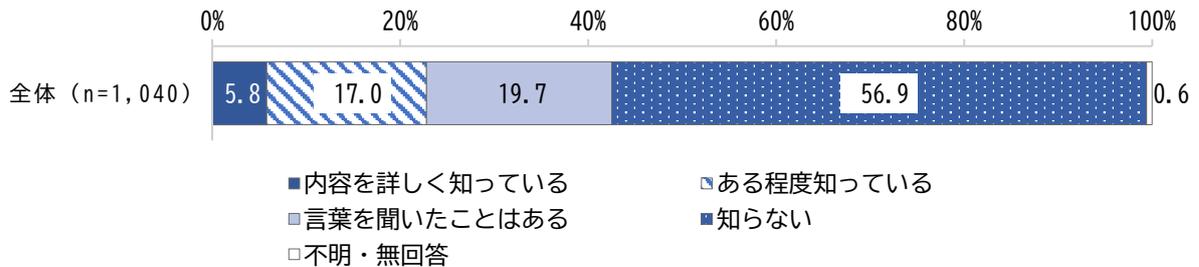
あなたは、インターネットで次のような経験をしたことはありますか。



ヤングケアラーについて

問 14 「ヤングケアラー」という言葉を知っていますか。(〇は1つ)

「ヤングケアラー」という言葉を知っているかについては、「知らない」が 56.9%で最も高く、次いで「言葉を聞いたことはある」(19.7%)、「ある程度知っている」(17.0%)と続いています。



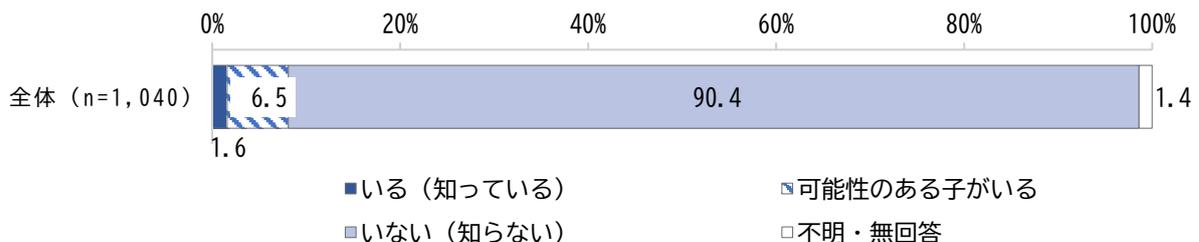
問 15 あなた自身は「ヤングケアラー」にあてはまると思えますか。(〇は1つ)

自身は「ヤングケアラー」にあてはまると思うかについては、「あてはまらない」が 65.9%、「あてはまる」が 1.8%となっています。



問 16 あなたの周りに「ヤングケアラー」と思われる人はいますか。(〇は1つ)

周りに「ヤングケアラー」と思われる人がいるかについては、「いない (知らない)」が 90.4%で最も高く、次いで「可能性のある子がいる」(6.5%)、「いる (知っている)」(1.6%)と続いています。



問 17

あなたが、毎日の生活で感じていることなどを自由に書いてください。

【小学4年生】

内容	件数
毎日の生活を楽しんでいる (満足している・幸せである・平和である)	80
友達と遊ぶのが楽しい	31
食事を楽しんでいる、感謝している	24
家族との時間が大切・仲が良い・感謝している	22
習い事やスポーツが楽しい・頑張っている	22
勉強を頑張っている	15
ゲーム・動画を楽しんでいる	14
習い事や学校、勉強が大変	10
家族や友達と問題がある	10
ストレスがある、しんどい、疲れる	5
朝早く起きるのがつらい	3
家族との時間が欲しい	2
わからない、思いつかない	3
その他	29

【その他】

- ・障がいのある人は大変だと知った
- ・公園を増やして欲しい
- ・毎日学校で遊んでいる
- ・家の手伝いをしたくない
- ・もっと手伝いをしたいけど忙しくて出来ない

【小学6年生】

内容	件数
毎日の生活を楽しんでいる (満足している・幸せである・平和である)	111
友達と遊ぶのが楽しい	26
家族との時間が大切・仲が良い・感謝している	10
朝早く起きるのがつらい、夜寝るのが遅い、睡眠不足	9
ゲーム・動画を楽しんでいる	7
ヤングケアラーについて	7
ストレスがある、しんどい、疲れる	6
習い事や学校、勉強が大変	5
食事を楽しんでいる、感謝している	4
習い事やスポーツが楽しい・頑張っている	4
家族や友達と問題がある	4
つまらない、退屈	3
悩みがある	3
勉強を頑張っている	2
自由な時間がもっと欲しい	1
わからない、思いつかない	4
その他	21

【その他】

- ・頑張っている
- ・自分でも家のことをしようと思った
- ・感謝して生きることが大切だと思う
- ・ゲームやインターネットをし過ぎている
- ・楽しい時も嫌なこともある

【中学1年生】

内容	件数
毎日の生活を楽しんでいる （満足している・幸せである・平和である）	96
友達と遊ぶのが楽しい、友達に恵まれている	18
朝早く起きるのがつらい、夜寝るのが遅い、睡眠不足	13
部活や習い事、スポーツが楽しい・頑張っている	10
家族との時間が大切・仲が良い・感謝している	5
ヤングケアラーについて	5
ストレスがある、しんどい、疲れる	4
悩みがある	4
習い事や学校、勉強が大変	3
食事を楽しんでいる、感謝している	3
勉強を頑張っている	3
つまらない、退屈	3
家族や友達と問題がある	1
自由な時間をもっと欲しい、時間に余裕が欲しい	1
わからない、思いつかない	4
その他	34

【その他】

- ・親の手伝いをしている
- ・学校の階段を登るのがしんどい
- ・自分のことは自分でしっかりする
- ・友達と仲良くしたい
- ・ゲームをやってみたい
- ・野球をするので公園に柵が欲しい
- ・母親を休ませてあげたい
- ・近所の家から子どもの泣き声がする
- ・個性を尊重した学校選びが出来るといいと思う
- ・赤穂は良い街だと思う
- ・先生が合わない

第4章

子どもの生活実態調査

(保護者)

第4章 子どもの生活実態調査（保護者）

調査概要

調査の目的： 近年、子どもの貧困やヤングケアラーが社会的にも問題となっているなか、子育て世帯の経済状況を含めた生活実態が、子どもの生活や成長、保護者の生活や意識、行動に与える影響等を検証し、「(仮称)赤穂市こども計画」策定に向けた基礎資料とすることを目的としています。

調査の対象：小学5年生児童・中学2年生生徒・高校2年生年代の保護者

調査の方法：学校配布・回収・WEB回答（小中学生の保護者）
 郵送配布・回収・WEB回答（一部小中学生と高校生年代の保護者）

調査の期間：令和6年2月5日～2月16日

回収の結果：

配布数	回収数(有効回収数)		回収率(有効回収率)
1,112 件	合計	774 件 (757 件)	69.6% (68.1%)
	紙	309 件 (293 件)	27.8% (26.3%)
	WEB	465 件 (464 件)	41.8% (41.7%)

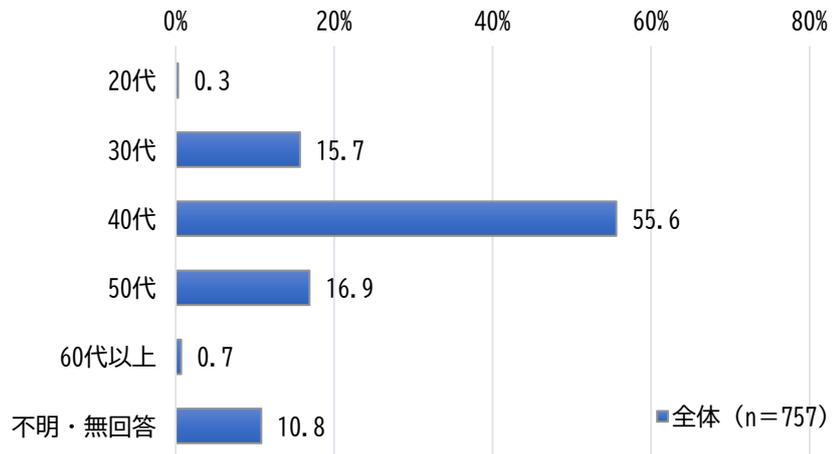
配布数	有効回収数		有効回収率
1,112 件	小学生	286 件	25.7%
	中学生	305 件	27.4%
	高校生	156 件	14.0%
	不明	10 件	0.9%

家庭の状態について

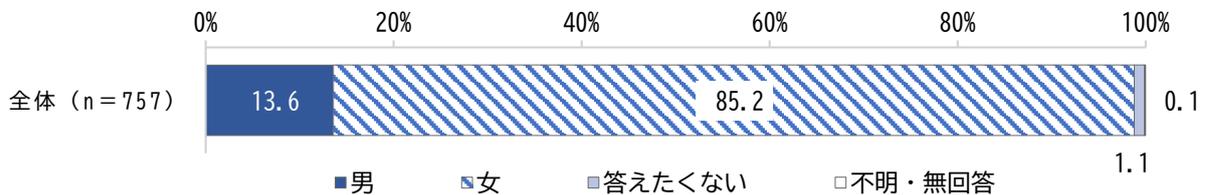
問1

あなたの年齢と性別をお答えください。
性別は該当する番号に○をしてください。

年齢については、「40代」が55.6%で最も高く、次いで「50代」（16.9%）、「30代」（15.7%）と続いています。



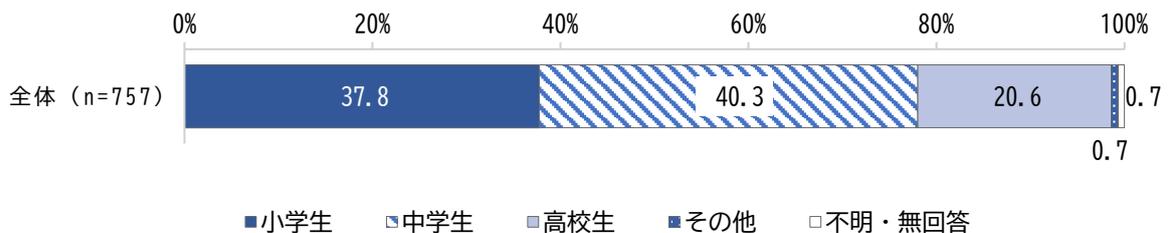
性別については、「男」が13.6%、「女」が85.2%となっています。



問2

あなたのお子さんは小学生ですか、それとも中学生・高校生ですか。（○は1つ）

子どもの学年については、「中学生」が40.3%で最も高く、次いで「小学生」（37.8%）、「高校生」（20.6%）と続いています。

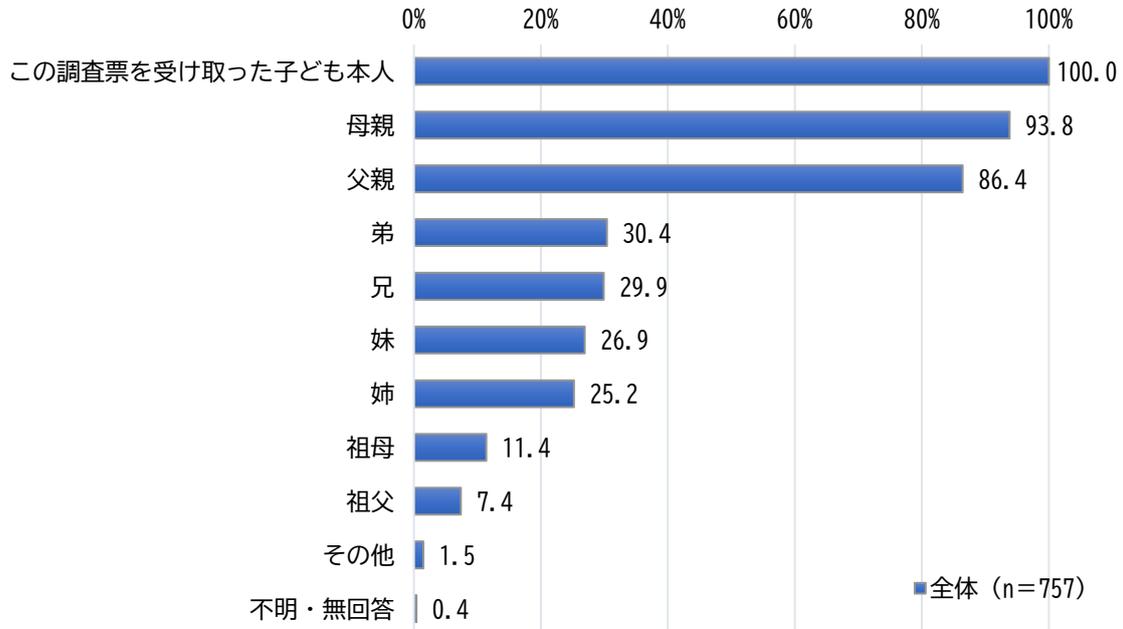


問3

あなたの家の世帯員について当てはまる番号すべてに○をしてください。
（選択肢はお子さんからみた続柄です）

家の世帯員については、「この調査票を受け取った子ども本人」が100.0%で最も高く、次いで「母親」（93.8%）、「父親」（86.4%）と続いています。

世帯人数は「4人」が45.2%で最も高く、次いで「5人以上」（32.1%）、「3人」（16.0%）と続いています。



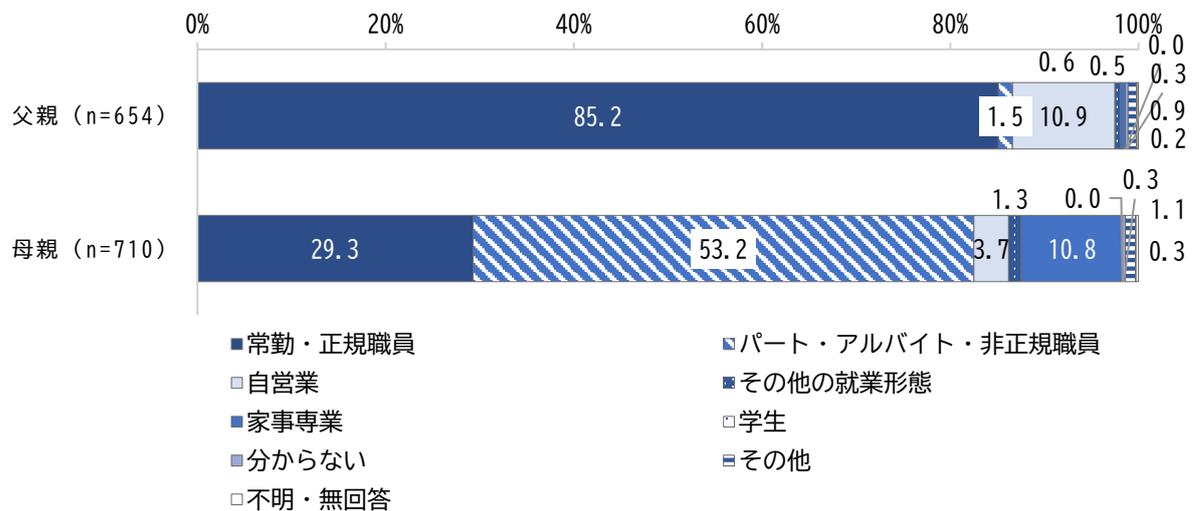
【世帯人数】



問4

保護者の方の職業について、それぞれ当てはまるものに1つ○をしてください。

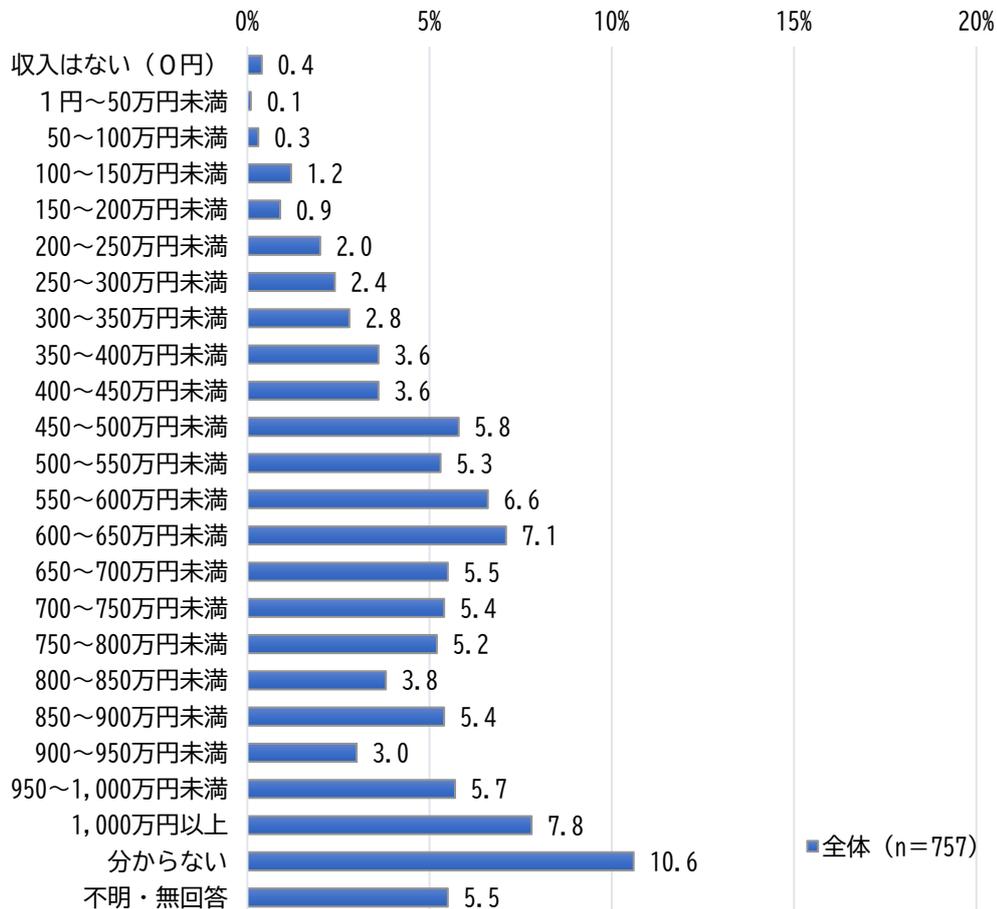
父親の職業については、「常勤・正規職員」が85.2%で最も高く、次いで「自営業」(10.9%)、「パート・アルバイト・非正規職員」(1.5%)と続いています。一方、母親の職業については、「パート・アルバイト・非正規職員」が53.2%で最も高く、次いで「常勤・正規職員」(29.3%)、「家事専業」(10.8%)と続いています。



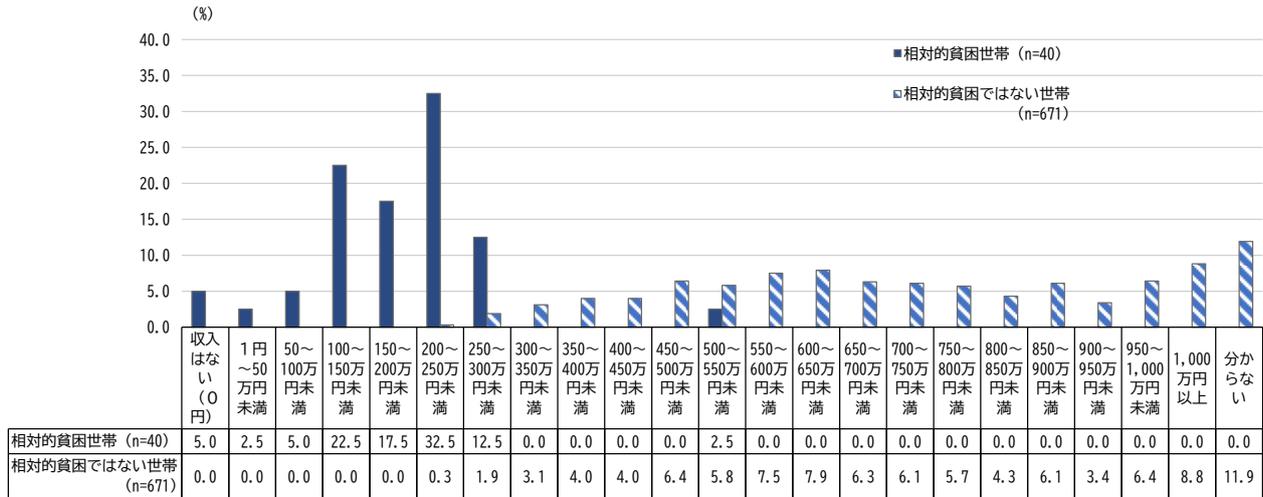
問5

子どもと生計を共にしている世帯全員の合計の年間収入（税込み）として、当てはまるものに1つ○をしてください。

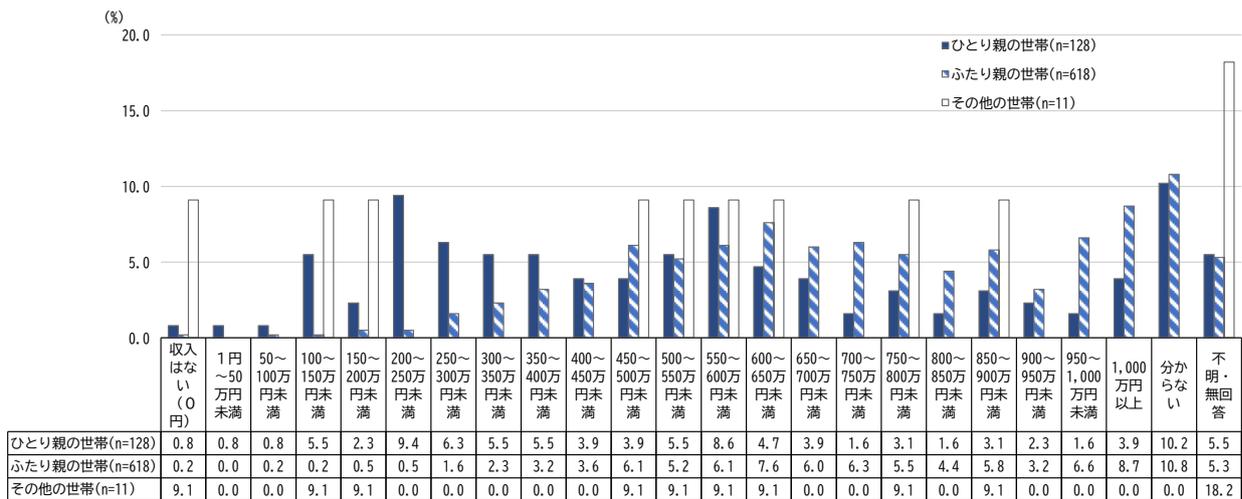
子どもと生計を共にしている世帯全員の合計の年間収入については、「1,000万円以上」が7.8%で最も高く、次いで「600～650万円未満」（7.1%）、「550～600万円未満」（6.6%）と続いています。



【相対的貧困状況別集計】



【家庭類型別集計】



(1) 本調査における相対的貧困世帯の定義

本調査における相対的貧困世帯とは、令和4年「国民生活基礎調査」(厚生労働省)において算出した貧困線※に対応する世帯収入を下回る世帯とします。

本調査では、保護者アンケートの問5において税込みの世帯収入を50万円区分で尋ねており、そこから国が令和4年「国民生活基礎調査」により算出した貧困線に対応する世帯収入を概算した上で、相対的貧困となる区分を選定します。

※貧困線 統計上生活に必要なものを購入できる最低限の収入を表す指標

（2）本調査における相対的貧困世帯数の算出方法

相対的貧困世帯の算出にあたって、令和4年「国民生活基礎調査」における所得五分位階級ごとに、平均可処分所得に対する平均所得の比となる係数を算出します。

所得五分位階級ごとの係数（平均可処分所得に対する平均所得の比の値）

	1世帯当たり平均所得 (a)	1世帯当たり平均可処分所得 (b)	所得五分位階級ごとの係数 (a/b)
第Ⅰ（～200万）	122.9	109.3	1.12
第Ⅱ（200～338万）	267.3	229.9	1.16
第Ⅲ（338～526万）	426.8	350.3	1.22
第Ⅳ（526～816万）	660.1	528.6	1.25
第Ⅴ（816万～）	1251.6	945.7	1.32

次に、令和4年「国民生活基礎調査」における貧困線（127万円）に世帯人員の平方根を乗じて世帯人員別に相対的貧困線を算出します。内閣府の算定基準に従い、この世帯収入を下回る回答者からなる集計区分を本調査における相対的貧困層としています。

世帯人員	相対的貧困線	係数	対応する世帯収入	相対的貧困層となる区分
2人	180万円	1.12	202万円	200万円未満
3人	220万円	1.16	256万円	250万円未満
4人	254万円	1.16	295万円	250万円未満
5人	284万円	1.16	330万円	300万円未満
6人	311万円	1.16	362万円	350万円未満
7人	336万円	1.16	391万円	350万円未満
8人	359万円	1.22	437万円	400万円未満
9人	381万円	1.22	464万円	450万円未満
10人	402万円	1.22	490万円	450万円未満

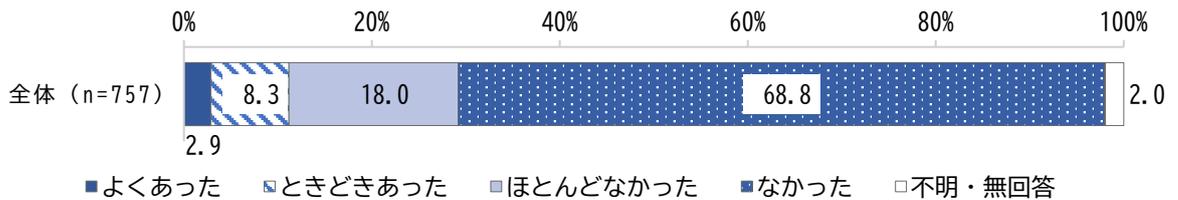
手順に基づき算出すると、相対的貧困層に該当する世帯は40世帯であり、相対的貧困率は6.0%となっています。なお、世帯人員や世帯年収が不明・無回答のため、判定できなかった世帯は46世帯です。

日常生活における支出について

問6

あなたの家庭で、過去1年間の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料が買えないことがありましたか。当てはまるものに1つ○をしてください。

過去1年間の間に、経済的理由で家族が必要とする食料が買えないことがあったかについては、「なかった」が68.8%で最も高く、次いで「ほとんどなかった」(18.0%)、「ときどきあった」(8.3%)と続いています。

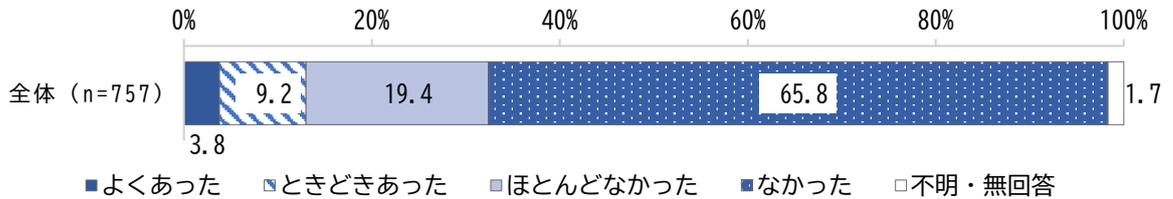


【相対的貧困状況・家庭類型別集計】

	(%)				
	よくあった	ときどきあった	ほとんどなかった	なかった	不明・無回答
全体(n=757)	2.9	8.3	18.0	68.8	2.0
相対的貧困世帯(n=40)	15.0	20.0	27.5	37.5	0.0
相対的貧困ではない世帯(n=671)	2.4	7.9	17.7	71.7	0.3
ひとり親世帯(n=128)	7.8	14.1	22.7	53.1	2.3
ふたり親世帯(n=618)	1.8	7.1	16.7	72.7	1.8
その他の世帯(n=11)	9.1	9.1	36.4	36.4	9.1

問7 あなたの家庭で、過去1年間の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする衣類が買えないことがありましたか。当てはまるものに1つ○をしてください。

過去1年間の間に、経済的理由で家族が必要とする衣類が買えないことがあったかについては、「なかった」が65.8%で最も高く、次いで「ほとんどなかった」(19.4%)、「ときどきあった」(9.2%)と続いています。



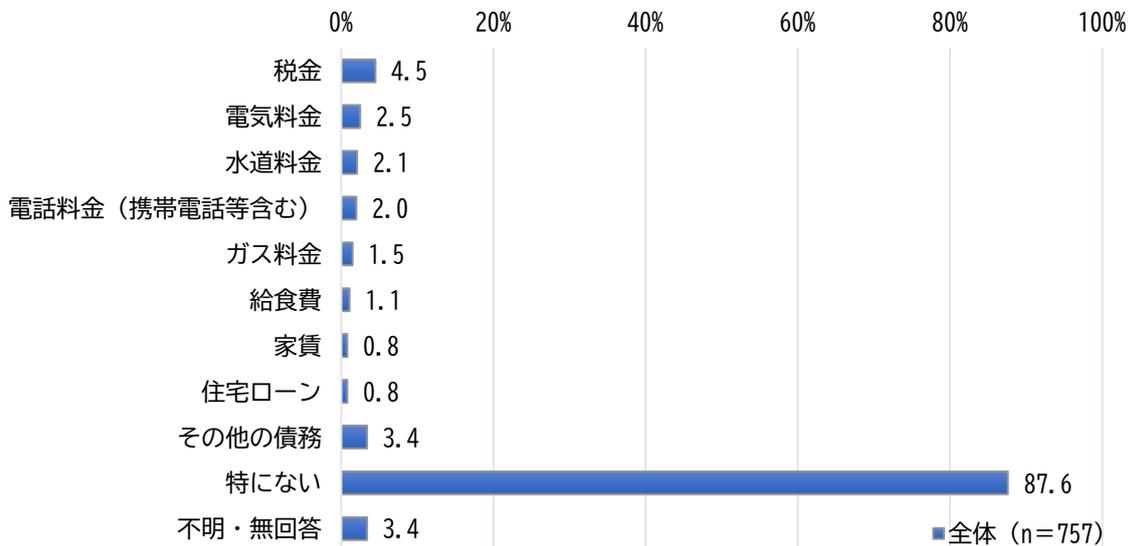
【相対的貧困状況・家庭類型別集計】

	（％）				
	よくあった	ときどきあった	ほとんどなかった	なかった	不明・無回答
全体(n=757)	3.8	9.2	19.4	65.8	1.7
相対的貧困世帯(n=40)	15.0	20.0	30.0	35.0	0.0
相対的貧困ではない世帯(n=671)	3.3	8.9	19.2	68.6	0.0
ひとり親世帯(n=128)	8.6	14.1	27.3	47.7	2.3
ふたり親世帯(n=618)	2.8	7.9	17.8	70.1	1.5
その他の世帯(n=11)	9.1	27.3	18.2	36.4	9.1

問8

公共料金等の支払いにおいて、過去1年間の間に、経済的な理由のために、以下の1～9を支払えなかったことがありますか。当てはまるものにすべて○をしてください。

公共料金等の支払いにおいて、過去1年間の間に、経済的な理由で以下の1～9を支払えなかったことがあるかについては、「税金」が4.5%で最も高く、次いで「電気料金」(2.5%)、「水道料金」(2.1%)と続いています。

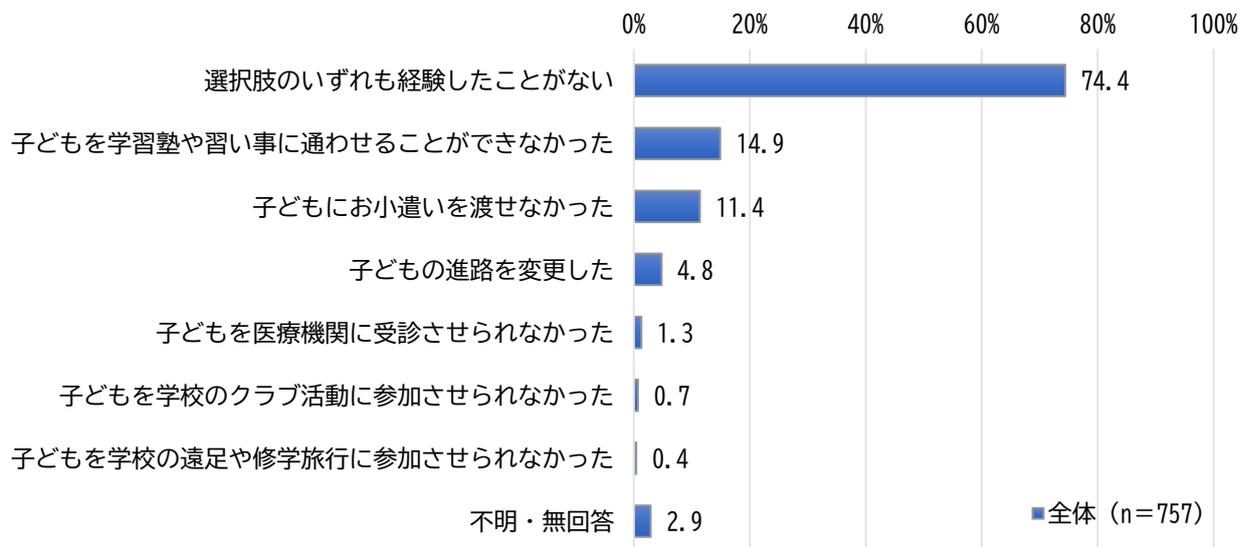


【相対的貧困状況・家庭類型別集計】

	(電話料金 携帯電話等含む)	電気料金	ガス料金	水道料金	家賃	住宅ローン	給食費	税金	その他の債務	特にない	不明・無回答
全体(n=757)	2.0	2.5	1.5	2.1	0.8	0.8	1.1	4.5	3.4	87.6	3.4
相対的貧困世帯(n=40)	15.0	17.5	12.5	15.0	0.0	2.5	5.0	12.5	7.5	70.0	0.0
相対的貧困ではない世帯(n=671)	1.3	1.8	0.9	1.5	0.9	0.6	0.7	4.3	3.4	90.3	1.6
ひとり親世帯(n=128)	6.3	3.9	3.9	6.3	1.6	0.0	2.3	8.6	5.5	78.9	3.1
ふたり親世帯(n=618)	1.1	2.3	1.0	1.1	0.6	1.0	0.8	3.6	2.8	89.8	3.2
その他の世帯(n=11)	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	9.1	18.2	63.6	18.2

問9 子どもの教育や活動に関する支出において、経済的な理由で、次のような経験をしたことはありますか。当てはまるものにすべて○をしてください。

子どもの教育や活動に関する支出において、経済的な理由で次のような経験をしたことがあるかについては、「選択肢のいずれも経験したことがない」が74.4%で最も高く、次いで「子どもを学習塾や習い事に通わせることができなかった」(14.9%)、「子どもにお小遣いを渡せなかった」(11.4%)と続いています。



【相対的貧困状況・家庭類型別集計】

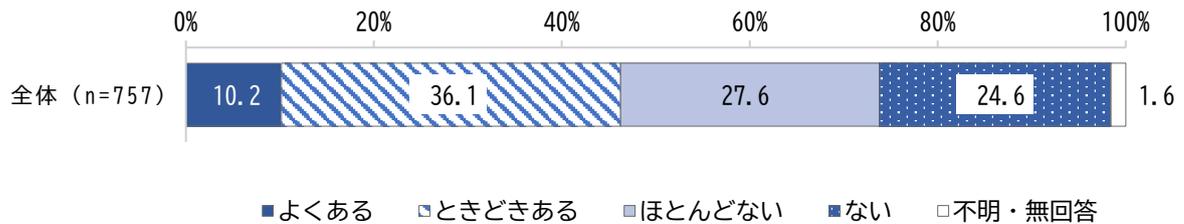
	子どもを医療機関に受診させられなかった	子どもの進路を変更した	子どもにお小遣いを渡せなかった	子どもを学校の遠足や修学旅行に参加させられなかった	子どもを学習塾や習い事に通わせることができなかった	子どもを学校のクラブ活動に参加させられなかった	選択肢のいずれも経験したことがない	不明・無回答
全体(n=757)	1.3	4.8	11.4	0.4	14.9	0.7	74.4	2.9
相対的貧困世帯(n=40)	0.0	5.0	35.0	2.5	37.5	5.0	37.5	2.5
相対的貧困ではない世帯(n=671)	1.3	5.1	10.6	0.3	14.2	0.4	78.2	0.3
ひとり親世帯(n=128)	1.6	6.3	23.4	0.8	30.5	2.3	57.0	3.9
ふたり親世帯(n=618)	1.3	4.5	8.6	0.3	11.8	0.3	78.3	2.4
その他の世帯(n=11)	0.0	0.0	27.3	0.0	9.1	0.0	54.5	18.2

日常生活におけるつながり・支援について

問 10

あなたは、忙しさのために、子どもと話しができないと思うことがありますか。
当てはまるものに1つ○をしてください。

忙しさのために、子どもと話しができないと思うことがあるかについては、「ときどきある」が36.1%で最も高く、次いで「ほとんどない」(27.6%)、「ない」(24.6%)と続いています。

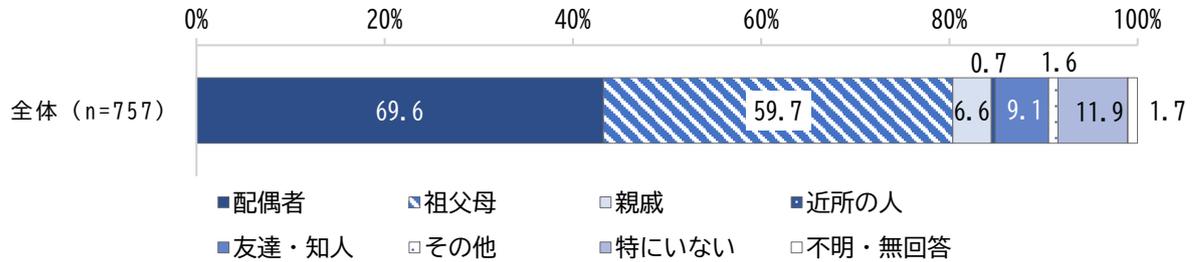


【相対的貧困状況・家庭類型別集計】

	(%)				
	よくある	ときどきある	ほとんどない	ない	不明・無回答
全体(n=757)	10.2	36.1	27.6	24.6	1.6
相対的貧困世帯(n=40)	15.0	37.5	17.5	30.0	0.0
相対的貧困ではない世帯(n=671)	10.6	35.9	28.6	24.9	0.0
ひとり親世帯(n=128)	16.4	42.2	24.2	14.8	2.3
ふたり親世帯(n=618)	9.1	34.8	28.3	26.4	1.5
その他の世帯(n=11)	0.0	36.4	27.3	36.4	0.0

問 11 家事や子育てを手伝ってくれる人（子どもは除く）はいますか。
当てはまるものにすべて○をしてください。

家事や子育てを手伝ってくれる人（子どもは除く）がいるかについては、「配偶者」が 69.6%で最も高く、次いで「祖父母」（59.7%）、「知人・友人」（9.1%）と続いています。

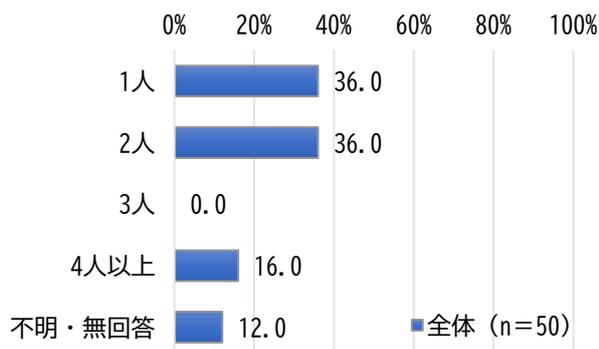


【相対的貧困状況・家庭類型別集計】

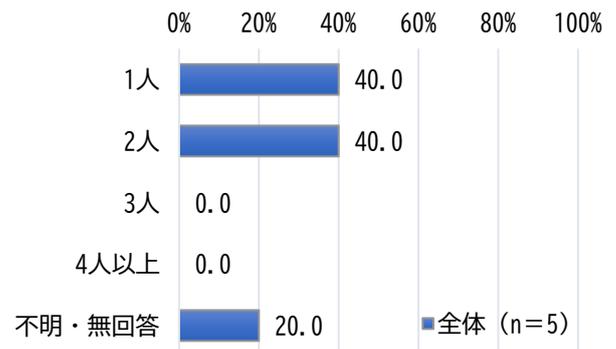
(%)

	配偶者	祖父母	親戚	近所の人	友達・知人	その他	特にないない	不明・無回答
全体(n=757)	69.6	59.7	6.6	0.7	9.1	1.6	11.9	1.7
相対的貧困世帯(n=40)	17.5	55.0	2.5	2.5	2.5	2.5	27.5	0.0
相対的貧困ではない世帯(n=671)	74.2	61.1	7.0	0.6	9.7	1.5	11.0	0.0
ひとり親世帯(n=128)	22.7	64.1	8.6	1.6	6.3	2.3	19.5	2.3
ふたり親世帯(n=618)	79.9	59.2	6.3	0.5	9.9	1.5	10.0	1.5
その他の世帯(n=11)	36.4	36.4	0.0	0.0	0.0	0.0	27.3	9.1

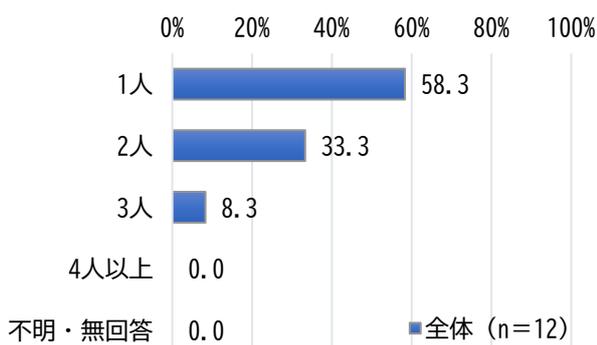
【親戚の人数】



【近所の人的人数】



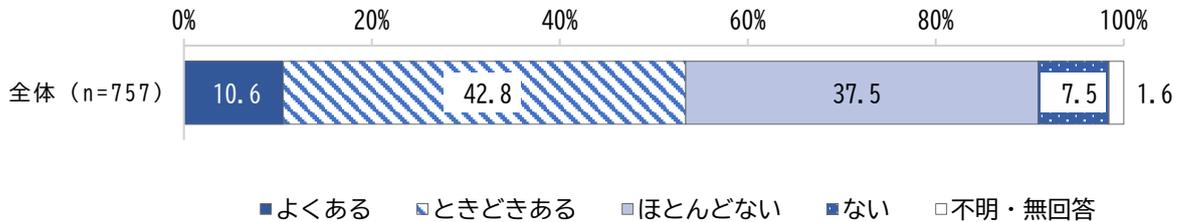
【その他の人数】



問 12

子どもに家事をしてもらうことは、どのくらいありますか。
当てはまるものに1つ○をしてください。

子どもに家事をしてもらうことがどのくらいあるかについては、「ときどきある」が42.8%で最も高く、次いで「ほとんどない」(37.5%)、「よくある」(10.6%)と続いています。



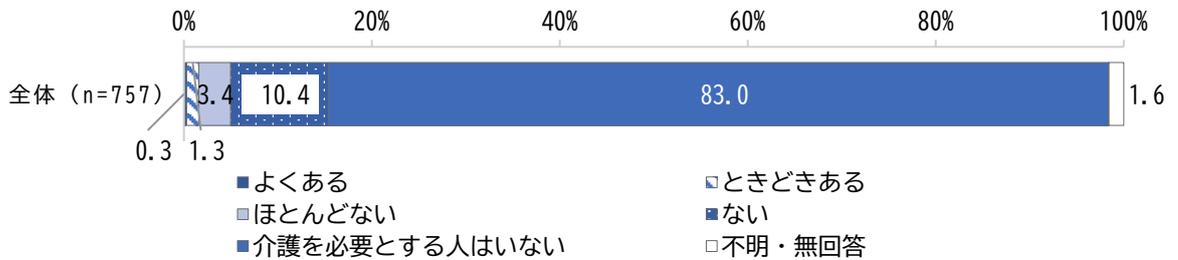
【相対的貧困状況・家庭類型別集計】

(%)

	よくある	ときどきある	ほとんどない	ない	不明・無回答
全体(n=757)	10.6	42.8	37.5	7.5	1.6
相対的貧困世帯(n=40)	20.0	35.0	40.0	5.0	0.0
相対的貧困ではない世帯(n=671)	9.8	44.0	38.3	7.9	0.0
ひとり親世帯(n=128)	13.3	38.3	38.3	7.8	2.3
ふたり親世帯(n=618)	9.9	43.4	37.9	7.4	1.5
その他の世帯(n=11)	18.2	63.6	9.1	9.1	0.0

問 13 子どもに、同居している要介護者の介護をしてもらうことは、どのくらいありますか。当てはまるものに1つ○をしてください。

子どもに、同居している要介護者の介護をしてもらうことがどのくらいあるかについては、「介護を必要とする人はいない」が 83.0%で最も高く、次いで「ない」（10.4%）、「ほとんどない」（3.4%）と続いています。



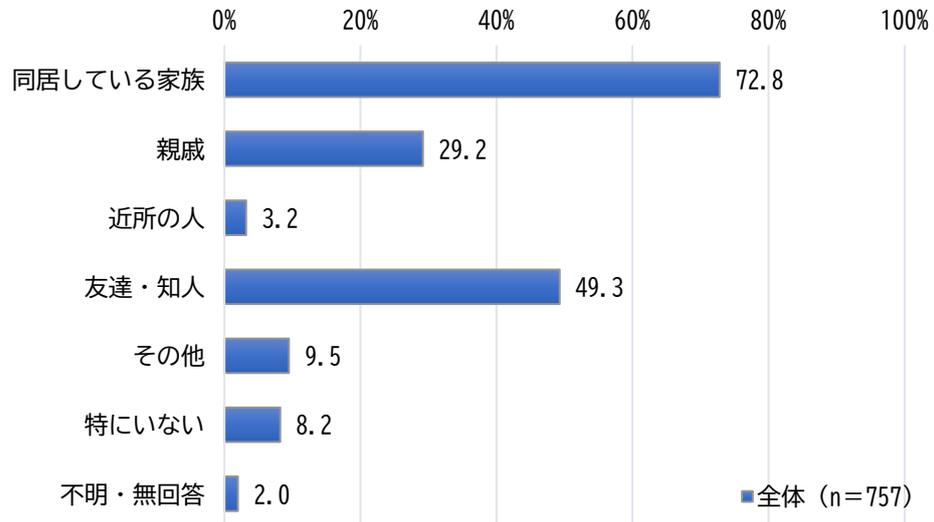
【相対的貧困状況・家庭類型別集計】

	（%）					
	よくある	ときどきある	ほとんどない	ない	介護を必要とする人	不明・無回答
全体(n=757)	0.3	1.3	3.4	10.4	83.0	1.6
相対的貧困世帯(n=40)	0.0	10.0	2.5	20.0	67.5	0.0
相対的貧困ではない世帯(n=671)	0.1	0.9	3.1	9.8	86.0	0.0
ひとり親世帯(n=128)	0.0	2.3	4.7	12.5	78.1	2.3
ふたり親世帯(n=618)	0.3	1.1	3.1	9.9	84.1	1.5
その他の世帯(n=11)	0.0	0.0	9.1	18.2	72.7	0.0

問 14

あなたが困ったときや悩みがあるときに、相談できる人はいますか。当てはまるものにすべて○をしてください。

困ったときや悩みがあるときに、相談できる人がいるかについては、「同居している家族」が72.8%で最も高く、次いで「友達・知人」(49.3%)、「親戚」(29.2%)と続いています。



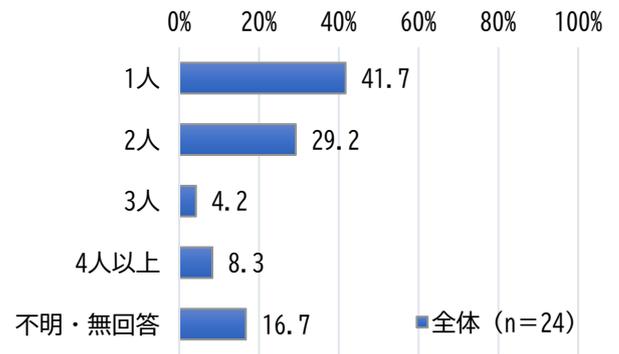
【相対的貧困状況・家庭類型別集計】

	(%)						
	同居している家族	親戚	近所の人	友達・知人	その他	特にいない	不明・無回答
全体(n=757)	72.8	29.2	3.2	49.3	9.5	8.2	2.0
相対的貧困世帯(n=40)	37.5	12.5	2.5	42.5	17.5	12.5	5.0
相対的貧困ではない世帯(n=671)	76.0	30.4	3.4	49.9	9.5	8.5	0.1
ひとり親世帯(n=128)	45.3	25.8	3.9	48.4	10.2	18.8	3.9
ふたり親世帯(n=618)	78.6	30.3	3.1	49.5	9.4	6.1	1.6
その他の世帯(n=11)	63.6	9.1	0.0	45.5	9.1	0.0	0.0

【親戚の人数】



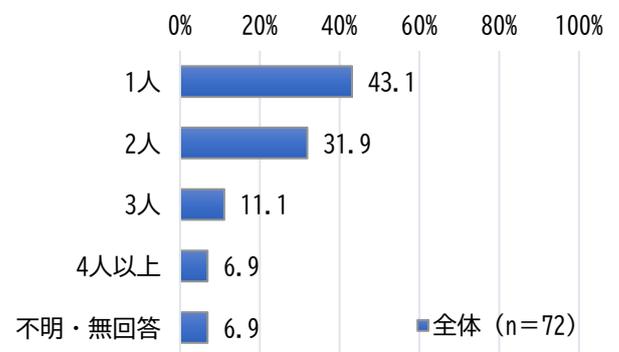
【近所の人的人数】



【友達・知人の人数】



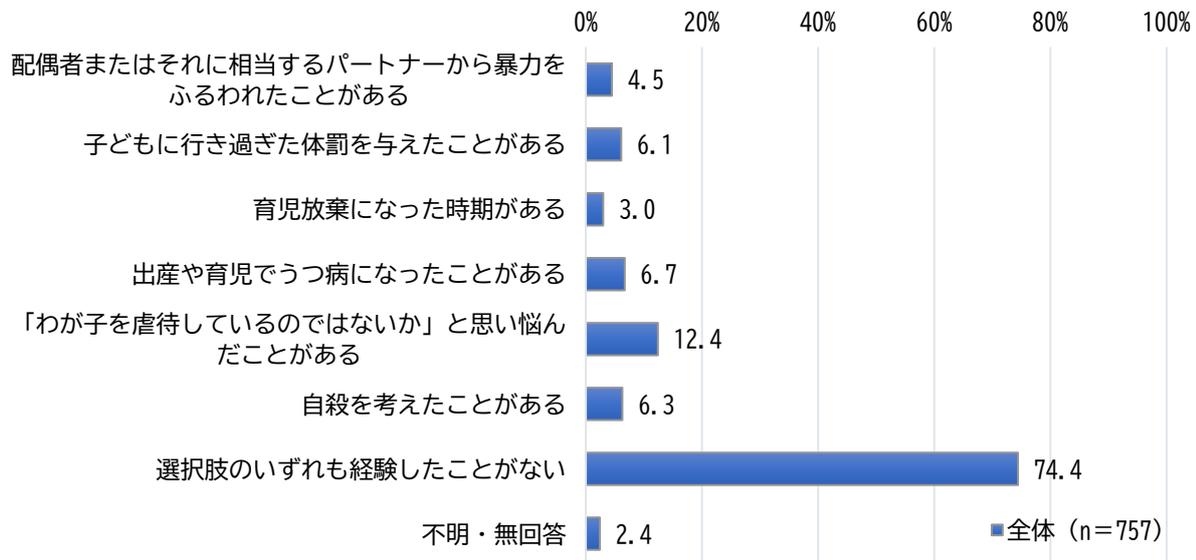
【その他の人数】



問 15

あなたは、子育てに関わってから、以下のような経験をしたことがありますか。当てはまるものにすべて○をしてください。

子育てに関わってから、以下のような経験をしたことがあるかについては、「選択肢のいずれも経験したことがない」が 74.4%で最も高く、次いで「わが子を虐待しているのではないかと心配になったことがある」(12.4%)、「出産や育児でうつ病になったことがある」(6.7%)と続いています。



【相対的貧困状況・家庭類型別集計】

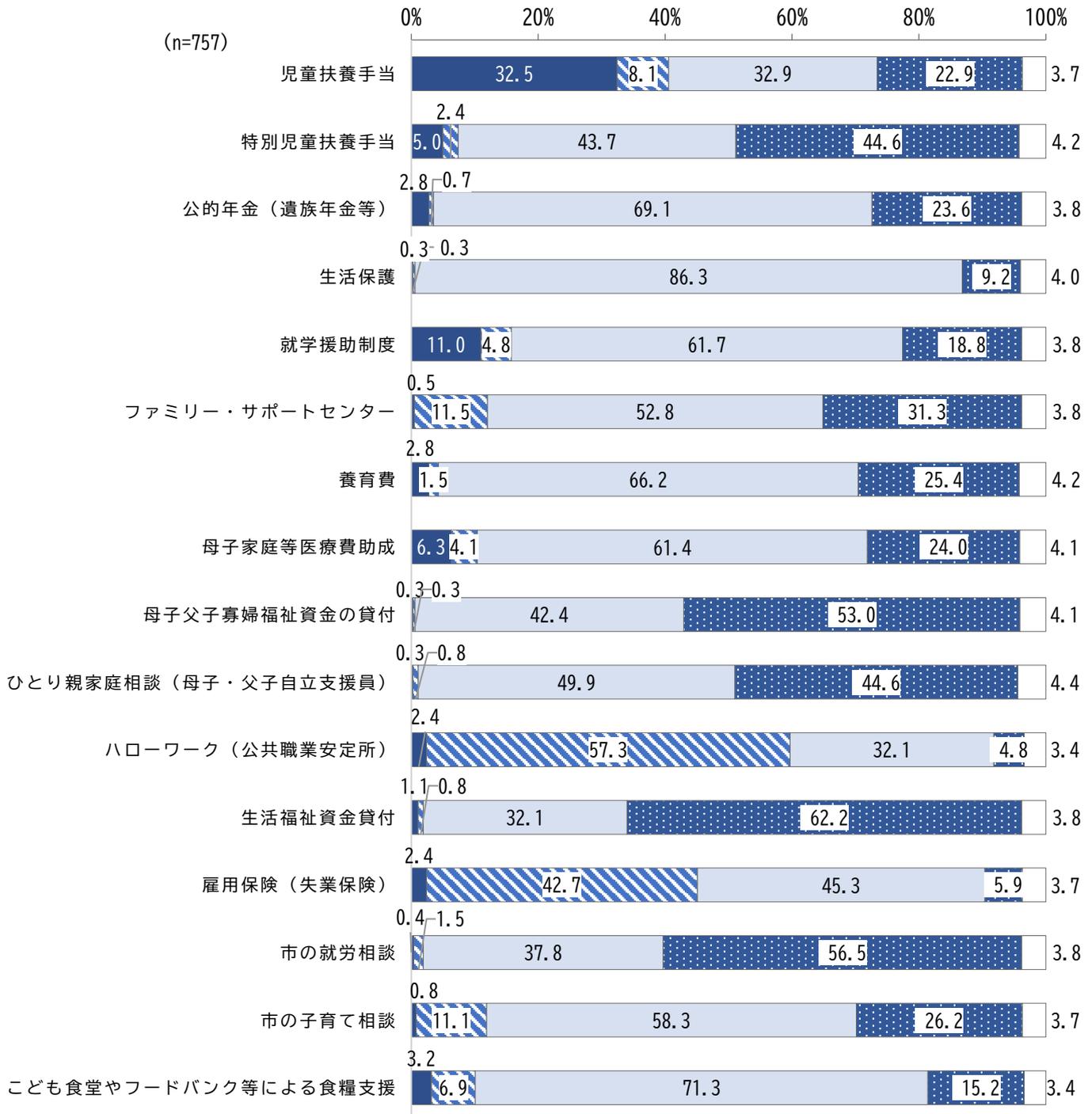
	配偶者またはそれに相当するパートナーから暴力をふるわれたことがある	子どもに行き過ぎた体罰を与えたことがある	育児放棄になった時期がある	出産や育児でうつ病になったことがある	「わが子を虐待しているのではないかと心配になったことがある	自殺を考えたことがある	選択肢のいずれも経験したことがない	不明・無回答
全体(n=757)	4.5	6.1	3.0	6.7	12.4	6.3	74.4	2.4
相対的貧困世帯(n=40)	22.5	15.0	10.0	7.5	17.5	15.0	62.5	0.0
相対的貧困ではない世帯(n=671)	3.7	5.8	2.7	6.7	12.5	6.1	76.2	0.4
ひとり親世帯(n=128)	14.8	10.2	5.5	5.5	16.4	12.5	61.7	4.7
ふたり親世帯(n=618)	2.4	5.2	2.4	7.0	11.5	5.2	76.9	1.9
その他の世帯(n=11)	0.0	9.1	9.1	9.1	18.2	0.0	81.8	0.0

公的な制度の認知、利用状況について

問 16

福祉、医療、年金などの制度について、認知状況及び現在の利用状況について、それぞれ当てはまるものに1つずつ○をしてください。

公的な制度の認知状況及び現在の利用状況についてしてみると、『利用したことがある（利用している+過去に使用したことがある）』が「ハローワーク（公共職業安定所）」で59.7%、「雇用保険（失業保険）」で45.1%、「児童扶養手当」で40.6%と高くなっています。一方で、『知らない』が「生活福祉資金貸付」で62.2%、「市の就労相談」で56.5%、「母子父子寡婦福祉資金の貸付」で53.0%となっています。



■利用している ■過去に利用したことがある □知っているが、利用したことがない ■知らない □不明・無回答

問 17

あなたの世帯は、健康保険に加入していますか。当てはまるものに○をしてください。

健康保険に加入しているかについては、「加入している」が97.9%、「加入していない」が2.0%となっています。



【相対的貧困状況・家庭類型別集計】

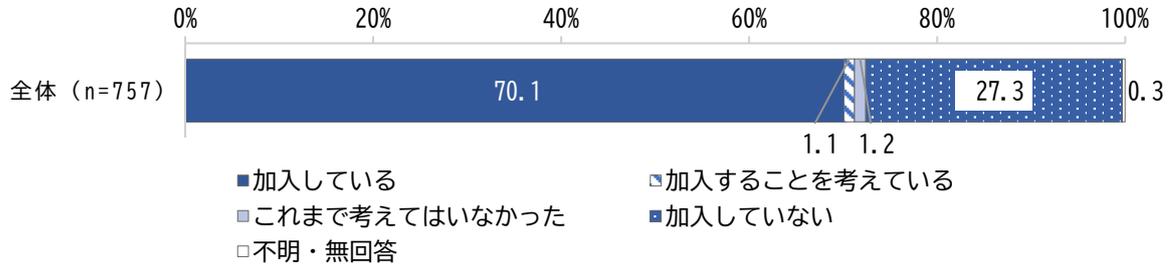
(%)

	加入している	加入していない	不明・無回答
全体(n=757)	97.9	2.0	0.1
相対的貧困世帯(n=40)	92.5	7.5	0.0
相対的貧困ではない世帯(n=671)	98.5	1.5	0.0
ひとり親世帯(n=128)	96.1	3.1	0.8
ふたり親世帯(n=618)	98.7	1.3	0.0
その他の世帯(n=11)	72.7	27.3	0.0

問 18

学資保険について、当てはまるものに○をしてください。

学資保険については、「加入している」が 70.1%で最も高く、次いで「加入していない」(27.3%)、「これまで考えてはいなかった」(1.2%)と続いています。



【相対的貧困状況・家庭類型別集計】

(%)

	加入している	加入することを考えている	これまで考えてはいなかった	加入していない	不明・無回答
全体(n=757)	70.1	1.1	1.2	27.3	0.3
相対的貧困世帯(n=40)	47.5	2.5	7.5	42.5	0.0
相対的貧困ではない世帯(n=671)	71.5	0.9	0.9	26.5	0.1
ひとり親世帯(n=128)	58.6	2.3	1.6	36.7	0.8
ふたり親世帯(n=618)	73.0	0.5	1.1	25.2	0.2
その他の世帯(n=11)	45.5	18.2	0.0	36.4	0.0

問 19

毎日の生活のことで感じていることや悩んでいることなど、自由にお書きください。

内容	件数
生活（家計）が苦しい	
子供の教育費が高い	23
生活費の高騰に困っている	19
医療費の負担が重い、負担軽減希望	13
行政への不満	
所得制限による不公平感を感じている	16
子育て支援の不足を感じている	3
子供について不安や心配、悩みがある	
学校への不満	4
子供とのコミュニケーションに悩んでいる	3
仕事と家事の両立が難しい、大変	12
その他	31

【その他】

- ・手続きの簡素化希望
- ・多子世帯への支援希望
- ・他県との支援の差への不満
- ・相談しやすい窓口づくりの要望
- ・広報不足の対策要望

第5章

子どもの生活実態調査

(子ども)

第5章 子どもの生活実態調査（子ども）

調査概要

調査の目的： 近年、子どもの貧困やヤングケアラーが社会的にも問題となっているなか、子育て世帯の経済状況を含めた生活実態が、子どもの生活や成長、保護者の生活や意識、行動に与える影響等を検証し、「(仮称)赤穂市こども計画」策定に向けた基礎資料とすることを目的としています。

調査の対象：小学5年生児童、中学2年生生徒、高校2年生年代

調査の方法：学校配布・回収・WEB回答（小中学生）
 郵送配布・回収・WEB回答（一部小中学生と高校生年代）

調査の期間：令和6年2月5日～2月16日

回収の結果：

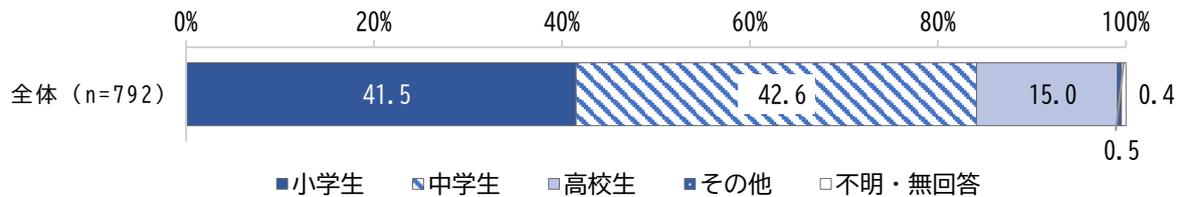
配布数	回収数(有効回収数)		回収率(有効回収率)
1,112 件	合計	827 件 (792 件)	74.4% (71.2%)
	紙	197 件 (162 件)	17.7% (14.6%)
	WEB	630 件 (630 件)	56.7% (56.7%)

配布数	有効回収数		有効回収率
1,112 件	小学生	329 件	29.6%
	中学生	337 件	30.3%
	高校生	119 件	10.7%
	不明	7 件	0.6%

自身について

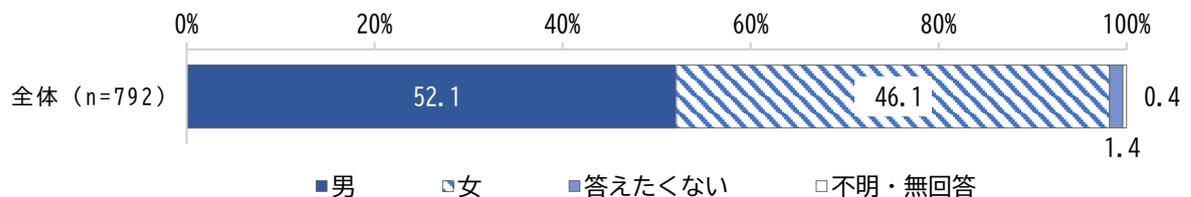
問1 あなたは小学生ですか、それとも中学生・高校生ですか。(○は1つ)

学年については、「小学生」が41.5%で最も高く、次いで「中学生」(42.6%)、「高校生」(15.0%)と続いています。



問2 あなたの性別を教えてください。(○は1つ)

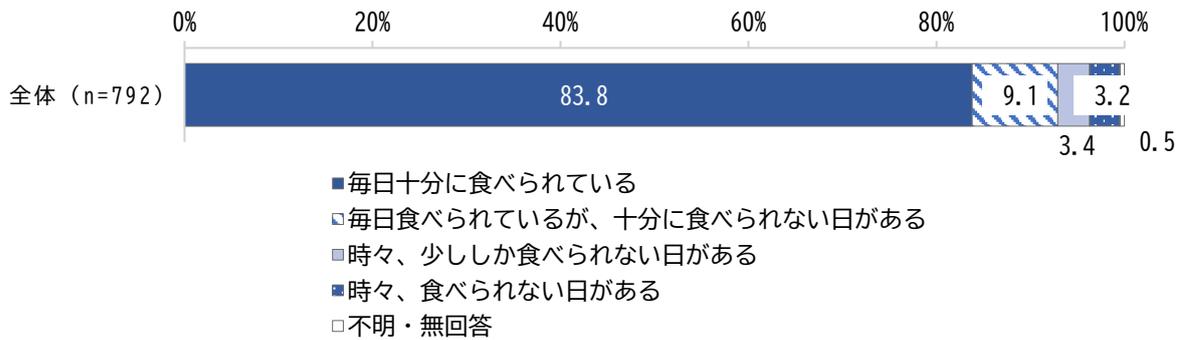
性別については、「男」が52.1%、「女」が46.1%となっています。



毎日の生活について

問3 あなたは、食事を毎日とれていますか。（○は1つ）

食事を毎日とれているかについては、「毎日十分に食べられている」が 83.8%で最も高く、次いで「毎日食べられているが、十分に食べられない日がある」（9.1%）、「時々、少ししか食べられない日がある」（3.4%）と続いています。



【相対的貧困状況・家庭類型・小中高生別集計】

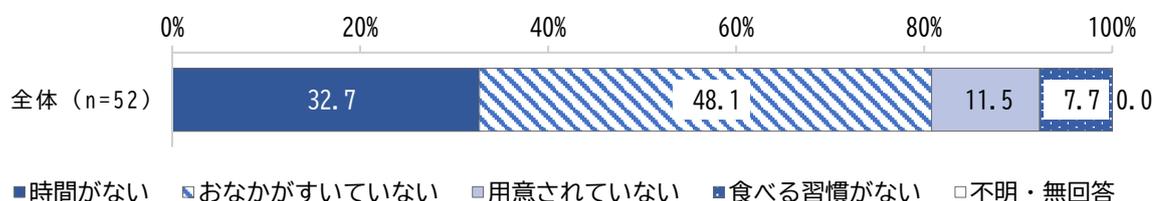
(%)

	毎日十分に食べられている	毎日食べられているが、十分に食べられない日がある	時々、少ししか食べられない日がある	時々、食べられない日がある	不明・無回答
全体(n=792)	83.8	9.1	3.4	3.2	0.5
相対的貧困世帯(n=30)	76.7	16.7	0.0	6.7	0.0
相対的貧困でない世帯(n=572)	85.1	7.7	3.7	2.8	0.7
ひとり親世帯(n=104)	83.7	7.7	2.9	3.8	1.9
ふたり親世帯(n=531)	84.9	8.3	3.6	2.8	0.4
その他の世帯(n=8)	87.5	12.5	0.0	0.0	0.0
小学生(n=329)	82.7	10.0	4.3	2.7	0.3
中学生(n=337)	84.0	8.9	3.0	4.2	0.0
高校生(n=119)	89.1	6.7	2.5	1.7	0.0

問4

あなたが毎日食事をとれない理由は何ですか。(〇は1つ)

毎日食事をとれない理由については、「おなかがすいていない」が48.1%で最も高く、次いで「時間がない」(32.7%)、「用意されていない」(11.5%)と続いています。



【相対的貧困状況・家庭類型・小中高生別集計】

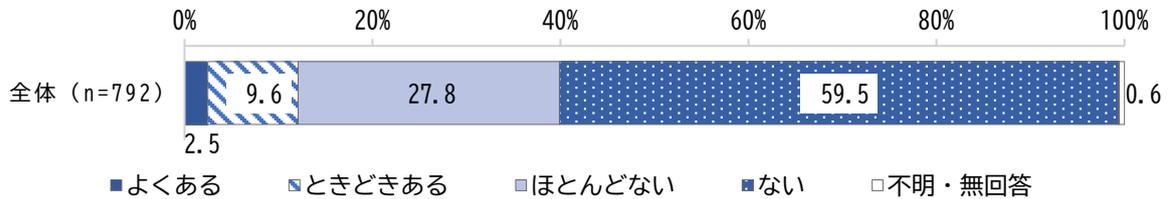
(%)

	時間がない	おなかがすいていない	用意されていない	食べる習慣がない	不明・無回答
全体(n=52)	32.7	48.1	11.5	7.7	0.0
相対的貧困世帯(n=2)	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0
相対的貧困でない世帯(n=37)	27.0	59.5	8.1	5.4	0.0
ひとり親世帯(n=7)	14.3	57.1	14.3	14.3	0.0
ふたり親世帯(n=34)	29.4	58.8	5.9	5.9	0.0
その他の世帯(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
小学生(n=23)	17.4	56.5	21.7	4.3	0.0
中学生(n=24)	50.0	37.5	0.0	12.5	0.0
高校生(n=5)	20.0	60.0	20.0	0.0	0.0

問5

あなたは、必要と思う服を買ってもらえないと思うことはありますか。（○は1つ）

必要と思う服を買ってもらえないと思うことがあるかについては、「ない」が 59.5%で最も高く、次いで「ほとんどない」（27.8%）、「ときどきある」（9.6%）と続いています。



【相対的貧困状況・家庭類型・小中高生別集計】

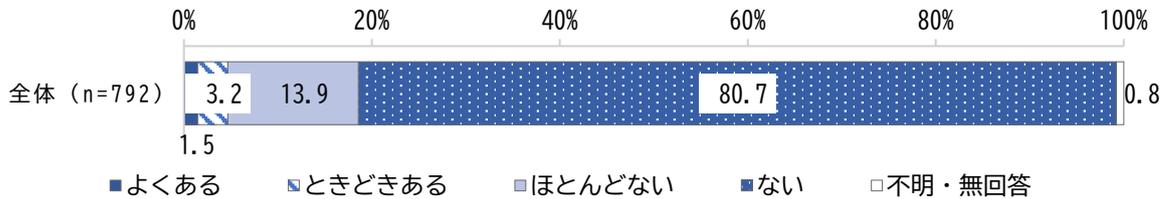
(%)

	よくある	ときどきある	ほとんどない	ない	不明・無回答
全体(n=792)	2.5	9.6	27.8	59.5	0.6
相対的貧困世帯(n=30)	0.0	13.3	33.3	53.3	0.0
相対的貧困でない世帯(n=572)	2.1	9.3	25.7	62.2	0.7
ひとり親世帯(n=104)	2.9	9.6	27.9	57.7	1.9
ふたり親世帯(n=531)	1.7	8.9	25.4	63.7	0.4
その他の世帯(n=8)	0.0	37.5	25.0	37.5	0.0
小学生(n=329)	2.4	10.0	29.2	58.1	0.3
中学生(n=337)	2.4	10.4	26.4	60.8	0.0
高校生(n=119)	3.4	6.7	28.6	60.5	0.8

問6

あなたは、学校で必要なもの（文房具など）を、買ってもらえないことはありますか。
（〇は1つ）

学校で必要なもの（文房具など）を、買ってもらえないことがあるかについては、「ない」が80.7%で最も高く、次いで「ほとんどない」（13.9%）、「ときどきある」（3.2%）と続いています。



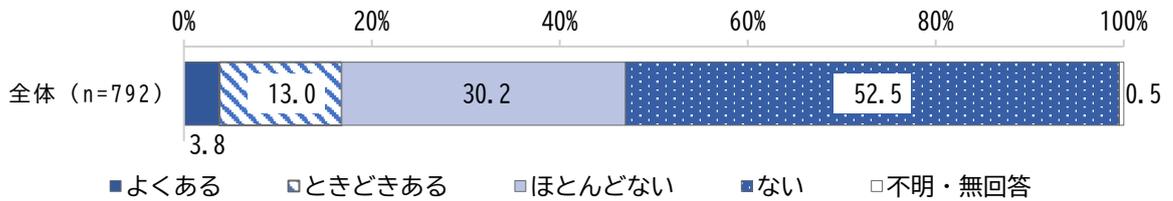
【相対的貧困状況・家庭類型・小中高生別集計】

(%)

	よくある	ときどきある	ほとんどない	ない	不明・無回答
全体(n=792)	1.5	3.2	13.9	80.7	0.8
相対的貧困世帯(n=30)	0.0	6.7	16.7	76.7	0.0
相対的貧困でない世帯(n=572)	1.0	2.4	13.3	82.5	0.7
ひとり親世帯(n=104)	0.0	6.7	17.3	74.0	1.9
ふたり親世帯(n=531)	1.3	1.9	13.2	83.1	0.6
その他の世帯(n=8)	0.0	0.0	12.5	87.5	0.0
小学生(n=329)	2.4	4.3	13.4	79.3	0.6
中学生(n=337)	0.9	2.4	15.7	80.7	0.3
高校生(n=119)	0.8	2.5	10.9	85.7	0.0

問7 あなたは、友だちづきあいをする上で必要なもの（おもちゃやゲームなど）を、買ってもらえないことはありますか。（〇は1つ）

友だちづきあいをする上で必要なもの（おもちゃやゲームなど）を、買ってもらえないことがあるかについては、「ない」が 52.5%で最も高く、次いで「ほとんどない」（30.2%）、「ときどきある」（13.0%）と続いています。



【相対的貧困状況・家庭類型・小中高生別集計】

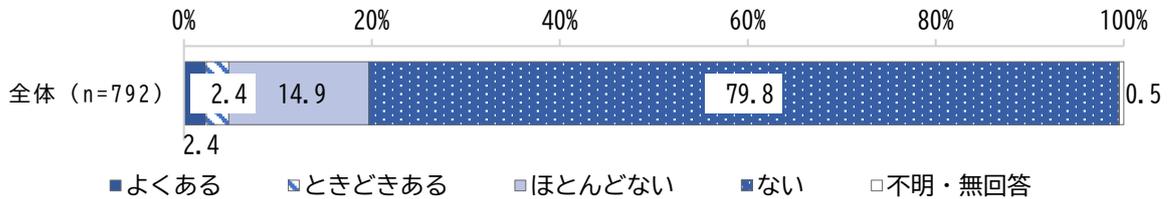
(%)

	よくある	ときどきある	ほとんどない	ない	不明・無回答
全体(n=792)	3.8	13.0	30.2	52.5	0.5
相対的貧困世帯(n=30)	6.7	16.7	30.0	46.7	0.0
相対的貧困でない世帯(n=572)	3.1	12.8	29.2	54.4	0.5
ひとり親世帯(n=104)	3.8	20.2	26.9	48.1	1.0
ふたり親世帯(n=531)	3.4	10.9	29.9	55.2	0.6
その他の世帯(n=8)	0.0	12.5	25.0	62.5	0.0
小学生(n=329)	5.8	15.2	31.0	48.0	0.0
中学生(n=337)	2.7	12.2	32.6	52.2	0.3
高校生(n=119)	1.7	10.1	22.7	65.5	0.0

問8

あなたは、生活をする上で必要なもの（自転車など）を、買ってもらえないことはありますか。（○は1つ）

生活をする上で必要なもの（自転車など）を、買ってもらえないことがあるかについては、「ない」が79.8%で最も高く、次いで「ほとんどない」（14.9%）、「よくある」「ときどきある」（2.4%）と続いています。



【相対的貧困状況・家庭類型・小中高生別集計】

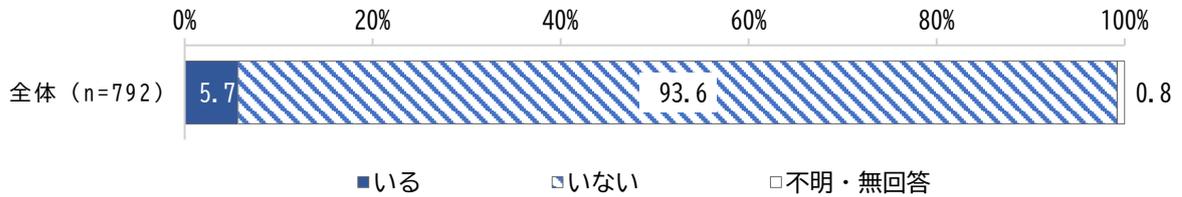
(%)

	よくある	ときどきある	ほとんどない	ない	不明・無回答
全体(n=792)	2.4	2.4	14.9	79.8	0.5
相対的貧困世帯(n=30)	3.3	3.3	23.3	70.0	0.0
相対的貧困でない世帯(n=572)	1.7	1.9	14.0	81.8	0.5
ひとり親世帯(n=104)	1.0	4.8	19.2	74.0	1.0
ふたり親世帯(n=531)	1.9	1.5	13.4	82.7	0.6
その他の世帯(n=8)	12.5	0.0	0.0	87.5	0.0
小学生(n=329)	4.0	3.6	19.5	72.9	0.0
中学生(n=337)	1.2	1.2	11.6	85.8	0.3
高校生(n=119)	1.7	2.5	11.8	84.0	0.0

問9

家族の中にあなたが中心となってお世話をしている人はいますか。（ここで「お世話」とは、ふつう大人が行うような家事や家族のお世話のことです。）（○は1つ）

家族の世話をしている人がいるかについては、「いない」が93.6%、「いる」が5.7%となっています。



【相対的貧困状況・家庭類型・小中高生別集計】

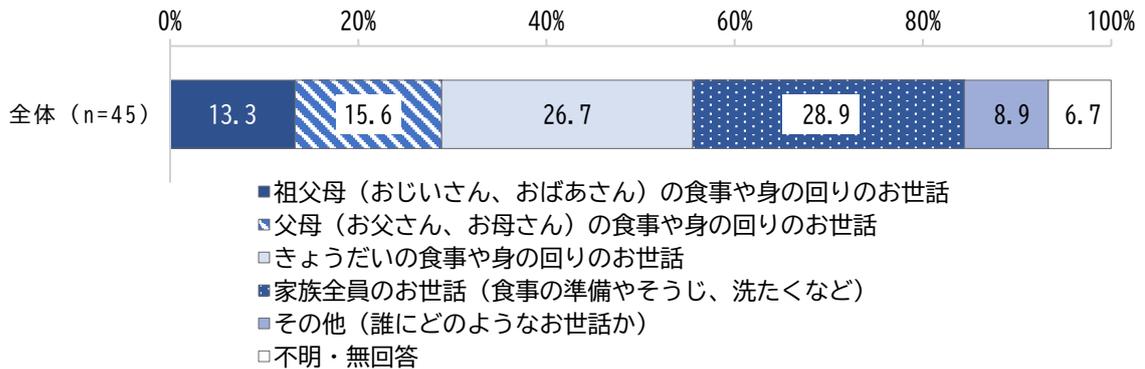
(%)

	いる	いない	不明・無回答
全体(n=792)	5.7	93.6	0.8
相対的貧困世帯(n=30)	3.3	96.7	0.0
相対的貧困でない世帯(n=572)	5.4	94.1	0.5
ひとり親世帯(n=104)	6.7	92.3	1.0
ふたり親世帯(n=531)	5.1	94.4	0.6
その他の世帯(n=8)	0.0	100.0	0.0
小学生(n=329)	7.0	92.4	0.6
中学生(n=337)	5.6	94.1	0.3
高校生(n=119)	2.5	97.5	0.0

問 10

【問9で「1.（世話をしている人が）いる」と答えた人にお聞きします。】
あなたは誰に、どのようなお世話をしていますか。（〇は1つ）

誰に、どのようなお世話をしているかについては、「家族全員のお世話（食事の準備やそうじ、洗たくなど）」が 28.9%で最も高く、次いで「きょうだいの食事や身の回りのお世話」（26.7%）、「父母（お父さん、お母さん）の食事や身の回りのお世話」（15.6%）と続いています。



【その他】

・祖父の病院への付き添い ・通訳 ・犬の世話

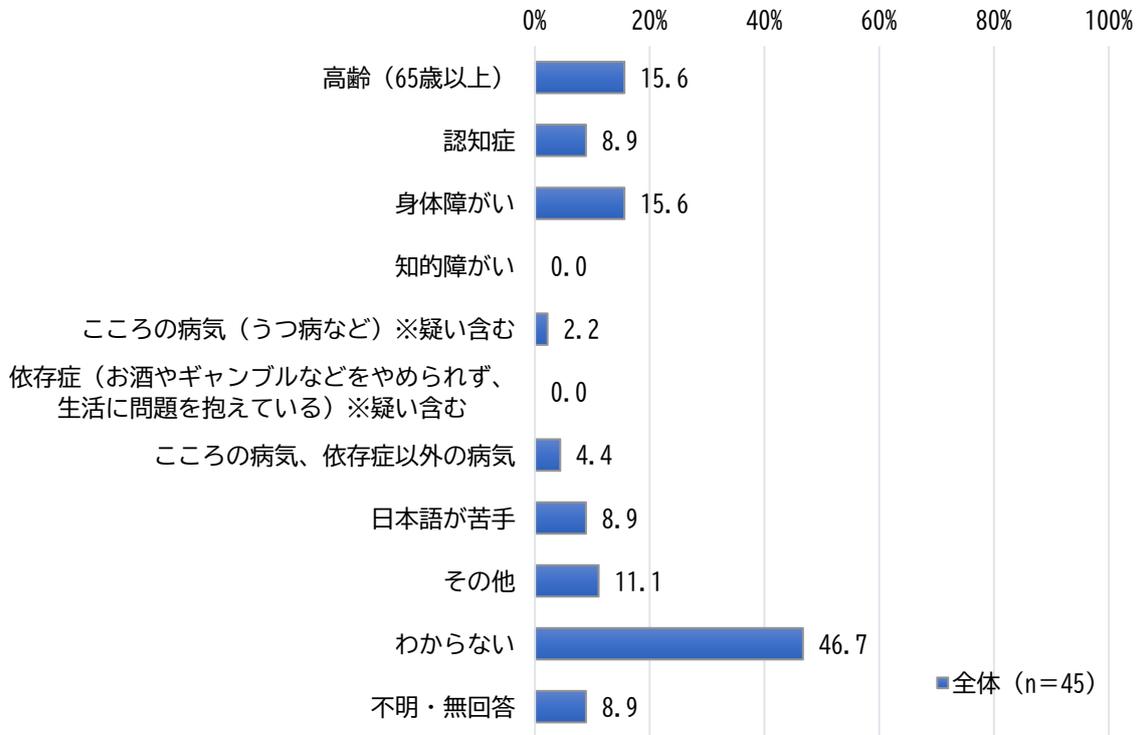
【相対的貧困状況・家庭類型・小中高生別集計】

(%)

	祖父母（おじいさん、おばあさん）の食事や身の回りのお世話	父母（お父さん、お母さん）の食事や身の回りのお世話	きょうだいの食事や身の回りのお世話	家族全員のお世話（食事の準備やそうじ、洗たくなど）	その他（誰にどのようなお世話か）	不明・無回答
全体(n=45)	13.3	15.6	26.7	28.9	8.9	6.7
相対的貧困世帯(n=1)	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
相対的貧困でない世帯(n=31)	16.1	12.9	25.8	32.3	6.5	6.5
ひとり親世帯(n=7)	28.6	28.6	14.3	14.3	14.3	0.0
ふたり親世帯(n=27)	14.8	7.4	29.6	33.3	3.7	11.1
その他の世帯(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
小学生(n=23)	8.7	26.1	26.1	26.1	4.3	8.7
中学生(n=19)	21.1	5.3	26.3	31.6	15.8	0.0
高校生(n=3)	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	33.3

問 11 【問9で「1.（世話をしている人が）いる」と答えた人にお聞きします。
お世話を必要としている人の状況について教えてください。
（あてはまる番号すべてに○）

世話を必要としている人の状況については、「高齢（65歳以上）」「身体障がい」が15.6%で最も高く、次いで「認知症」「日本語が苦手」（8.9%）と続いています。



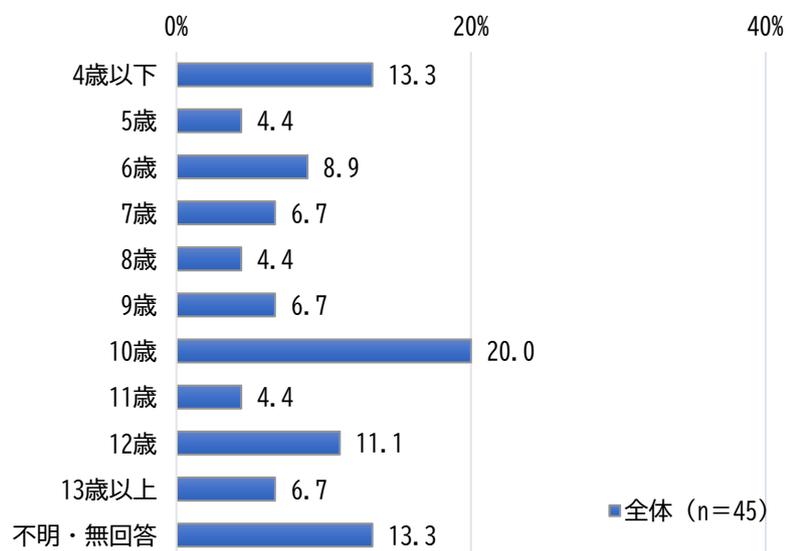
【相対的貧困状況・家庭類型・小中高生別集計】

	高齢（65歳以上）	認知症	身体障がい	知的障がい	こころの病気（うつ病など）	依存症	こころの病気、依存症以外の病気	日本語が苦手	その他	わからない	不明・無回答
全体(n=45)	15.6	8.9	15.6	0.0	2.2	0.0	4.4	8.9	11.1	46.7	8.9
相対的貧困世帯(n=1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
相対的貧困でない世帯(n=31)	19.4	6.5	22.6	0.0	0.0	0.0	3.2	6.5	6.5	45.2	9.7
ひとり親世帯(n=7)	28.6	14.3	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	71.4	0.0
ふたり親世帯(n=27)	14.8	3.7	18.5	0.0	0.0	0.0	3.7	3.7	11.1	37.0	14.8
その他の世帯(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
小学生(n=23)	8.7	4.3	8.7	0.0	4.3	0.0	0.0	4.3	0.0	56.5	13.0
中学生(n=19)	26.3	15.8	21.1	0.0	0.0	0.0	10.5	15.8	26.3	36.8	0.0
高校生(n=3)	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3

問 12

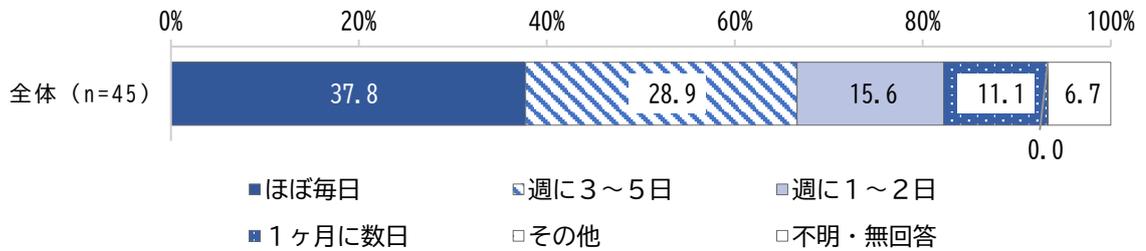
【問9で「1.（世話をしている人が）いる」と答えた人にお聞きします。】
あなたは何才からお世話をしていますか。（ ）才から

何才から世話をしているかについては、「10歳」が20.0%で最も高く、次いで「4歳以下」(13.3%)、「12歳」(11.1%)と続いています。



問 13 【問9で「1.（世話をしている人が）いる」と答えた人にお聞きします。】
 あなたはどのくらいお世話をしていますか。（○は1つ）

どのくらい世話をしているかについては、「ほぼ毎日」が 37.8%で最も高く、次いで「週に3～5日」（28.9%）、「週に1～2日」（15.6%）と続いています。



【相対的貧困状況・家庭類型・小中高生別集計】

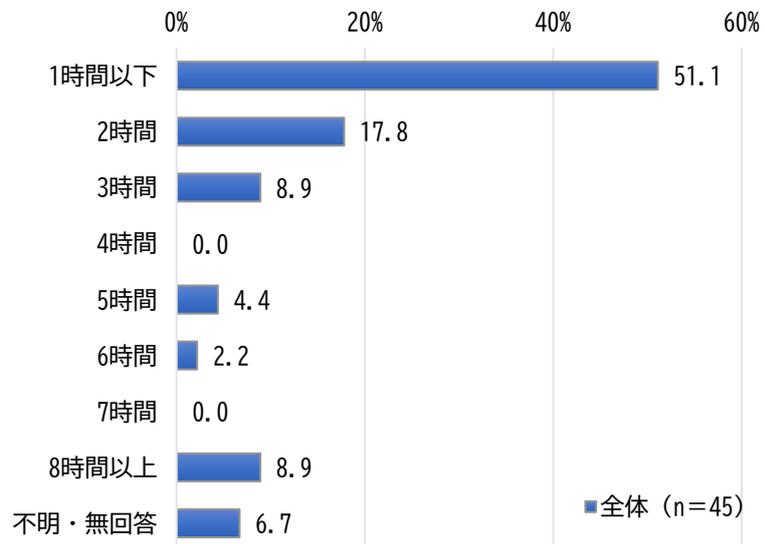
(%)

	ほぼ毎日	週に3～5日	週に1～2日	1ヶ月に数日	その他	不明・無回答
全体(n=45)	37.8	28.9	15.6	11.1	0.0	6.7
相対的貧困世帯(n=1)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
相対的貧困でない世帯(n=31)	38.7	29.0	19.4	6.5	0.0	6.5
ひとり親世帯(n=7)	14.3	42.9	42.9	0.0	0.0	0.0
ふたり親世帯(n=27)	44.4	22.2	14.8	7.4	0.0	11.1
その他の世帯(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
小学生(n=23)	26.1	30.4	21.7	13.0	0.0	8.7
中学生(n=19)	52.6	31.6	5.3	10.5	0.0	0.0
高校生(n=3)	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3

問 14

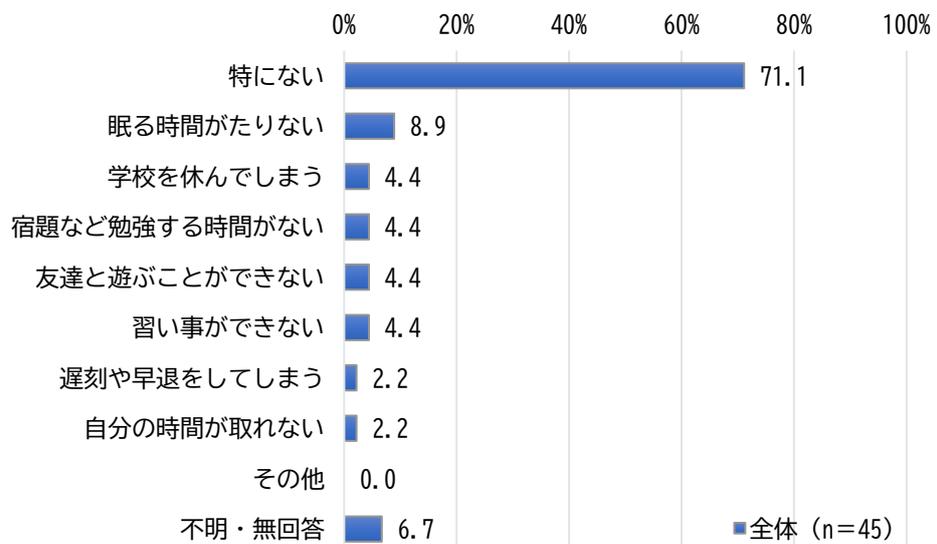
【問9で「1. (世話をしている人が) いる」と答えた人にお聞きします。】
 あなたは平日何時間くらいお世話をしていますか。1日()時間くらい

平日何時間くらい世話をしているかについては、「1時間以下」が51.1%で最も高く、次いで「2時間」(17.8%)、「3時間」「8時間以上」(8.9%)と続いています。

**問 15**

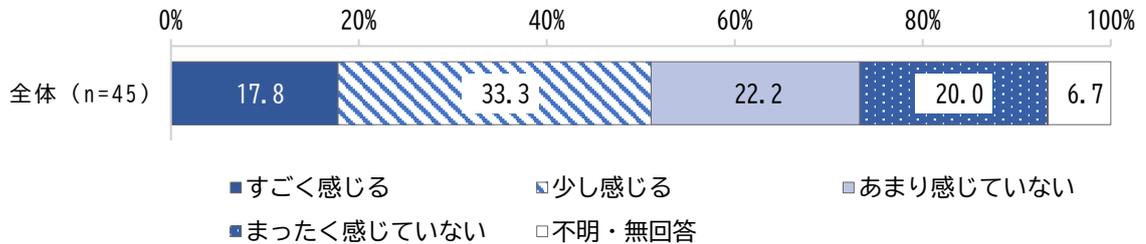
【問9で「1. (世話をしている人が) いる」と答えた人にお聞きします。】
 お世話をしていることで、以下のような経験をしたことはありますか。
 (あてはまる番号すべてに○)

世話をしていることで、以下のような経験をしたことがあるかについては、「特にない」が71.1%で最も高く、次いで「眠る時間がたりない」(8.9%)と続いています。



問 16 【問9で「1.（世話をしている人が）いる」と答えた人にお聞きします。】
お世話をすることに大変さを感じていますか。（○は1つ）

世話をすることに大変さを感じるかについては、「少し感じる」が 33.3%で最も高く、次いで「あまり感じていない」（22.2%）、「まったく感じていない」（20.0%）と続いています。



【相対的貧困状況・家庭類型・小中高生別集計】

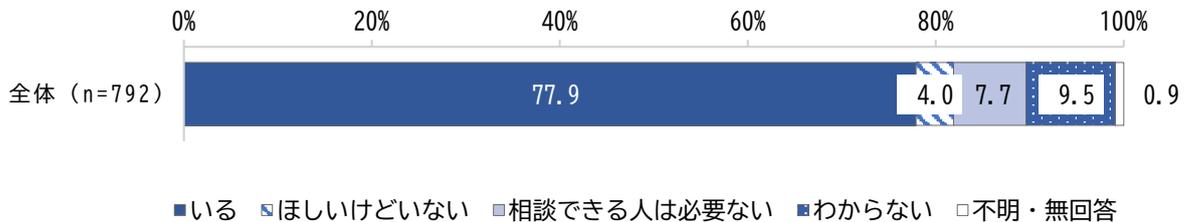
(%)

	すごく感じる	少し感じる	あまり感じていない	まったく感じていない	不明・無回答
全体(n=45)	17.8	33.3	22.2	20.0	6.7
相対的貧困世帯(n=1)	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
相対的貧困でない世帯(n=31)	19.4	35.5	25.8	12.9	6.5
ひとり親世帯(n=7)	14.3	28.6	28.6	28.6	0.0
ふたり親世帯(n=27)	18.5	33.3	22.2	14.8	11.1
その他の世帯(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
小学生(n=23)	21.7	34.8	13.0	21.7	8.7
中学生(n=19)	15.8	31.6	31.6	21.1	0.0
高校生(n=3)	0.0	33.3	33.3	0.0	33.3

問 17

あなたは、悩んだり、困ったりした時に相談できる人はいますか。(○は1つ)

悩んだり、困ったりした時に相談できる人がいるかについては、「いる」が 77.9%で最も高く、次いで「相談できる人は必要ない」(7.7%)、「ほしいけどいない」(4.0%)と続いています。



【相対的貧困状況・家庭類型・小中高生別集計】

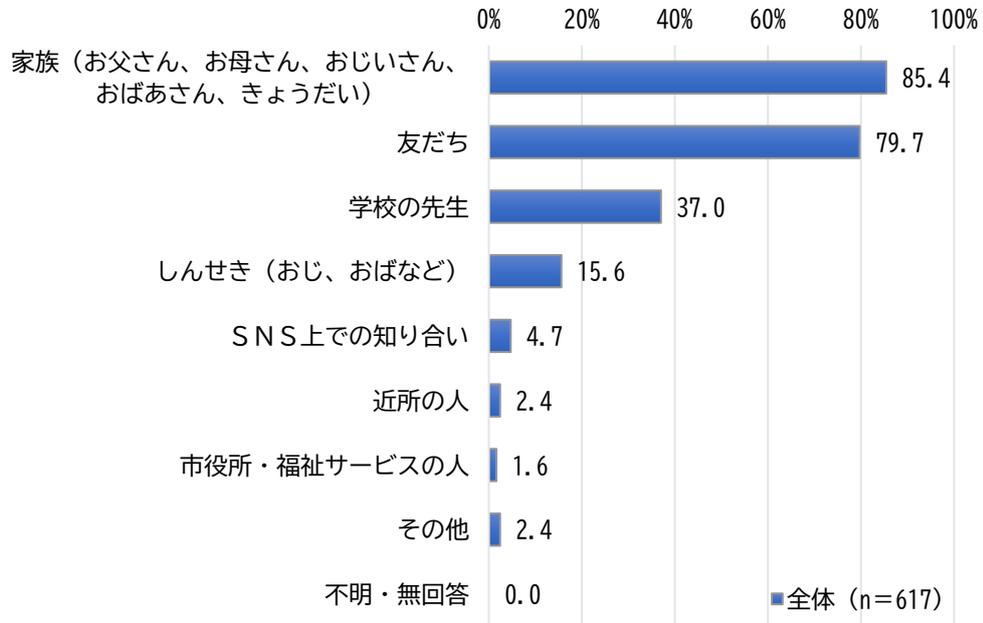
(%)

	いる	ほしいけどいない	相談できる人は必要ない	わからない	不明・無回答
全体(n=792)	77.9	4.0	7.7	9.5	0.9
相対的貧困世帯(n=30)	66.7	3.3	10.0	20.0	0.0
相対的貧困でない世帯(n=572)	80.1	3.5	7.0	8.4	1.0
ひとり親世帯(n=104)	77.9	3.8	5.8	9.6	2.9
ふたり親世帯(n=531)	79.3	3.6	7.3	9.0	0.8
その他の世帯(n=8)	87.5	0.0	12.5	0.0	0.0
小学生(n=329)	81.5	3.6	6.4	8.2	0.3
中学生(n=337)	75.4	4.5	9.2	10.7	0.3
高校生(n=119)	79.0	4.2	5.9	9.2	1.7

問 18

【問17で「1.（相談できる人が）いる」と回答した人にお聞きします。
それは誰ですか。（あてはまる番号すべてに○）

相談相手については、「家族（お父さん、お母さん、おじいさん、おばあさん、きょうだい）」が 85.4%で最も高く、次いで「友だち」（79.7%）、「学校の先生」（37.0%）と続いています。



【相対的貧困状況・家庭類型・小中高生別集計】

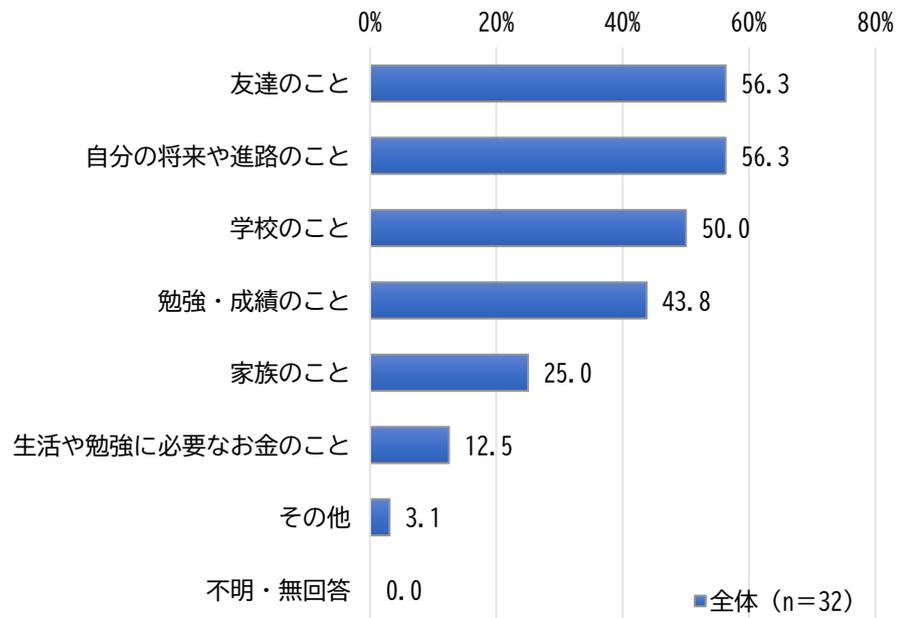
(%)

	家族	しんせき	友だち	学校の先生	市役所・福祉サービスの人	近所の人	SNS上での知り合い	その他	不明・無回答
全体(n=617)	85.4	15.6	79.7	37.0	1.6	2.4	4.7	2.4	0.0
相対的貧困世帯(n=20)	75.0	5.0	80.0	50.0	0.0	5.0	10.0	5.0	0.0
相対的貧困でない世帯(n=458)	85.8	16.4	79.5	37.1	2.0	2.2	4.1	2.4	0.0
ひとり親世帯(n=81)	75.3	14.8	81.5	43.2	1.2	2.5	6.2	1.2	0.0
ふたり親世帯(n=421)	87.4	16.2	78.9	36.3	1.9	2.1	3.8	2.6	0.0
その他の世帯(n=7)	100.0	14.3	71.4	42.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
小学生(n=268)	88.4	19.0	74.6	41.8	2.2	4.5	2.6	3.7	0.0
中学生(n=254)	79.5	12.6	85.4	35.4	1.6	1.2	7.1	1.2	0.0
高校生(n=94)	92.6	13.8	78.7	27.7	0.0	0.0	4.3	1.1	0.0

問 19

【問17で「2.（相談できる人が）ほしいけどいない」と回答した人にお聞きします。
もし相談する人がいた場合、どのようなことを相談したいですか。
（あてはまる番号すべてに○）

もし相談する人がいた場合、どのようなことを相談したいかについては、「友達のこと」「自分の将来や進路のこと」が 56.3%で最も高く、次いで「学校のこと」(50.0%)、「勉強・成績のこと」(43.8%)と続いています。



【相対的貧困状況・家庭類型・小中高生別集計】

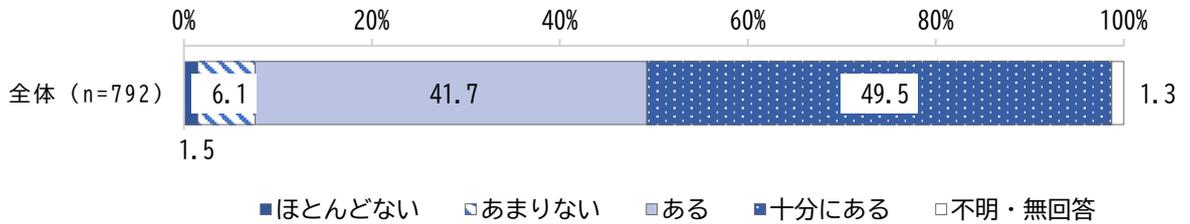
(%)

	家族のこと	学校のこと	友達のこと	勉強・成績のこと	生活や勉強に必要なお金のこと	自分の将来や進路のこと	その他	不明・無回答
全体(n=32)	25.0	50.0	56.3	43.8	12.5	56.3	3.1	0.0
相対的貧困世帯(n=1)	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
相対的貧困でない世帯(n=20)	25.0	55.0	55.0	50.0	20.0	55.0	5.0	0.0
ひとり親世帯(n=4)	50.0	50.0	25.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
ふたり親世帯(n=19)	21.1	63.2	63.2	57.9	21.1	57.9	5.3	0.0
その他の世帯(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	0.0	0.0
小学生(n=12)	25.0	50.0	58.3	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0
中学生(n=15)	26.7	46.7	53.3	53.3	13.3	66.7	6.7	0.0
高校生(n=5)	20.0	60.0	60.0	60.0	40.0	100.0	0.0	0.0

問 20

あなたは、家族と話す時間がありますか。あてはまる番号に1つ○をしてください。

家族と話す時間があるかについては、「十分にある」が 49.5%で最も高く、次いで「ある」(41.7%)、「あまりない」(6.1%)と続いています。



【相対的貧困状況・家庭類型・小中高生別集計】

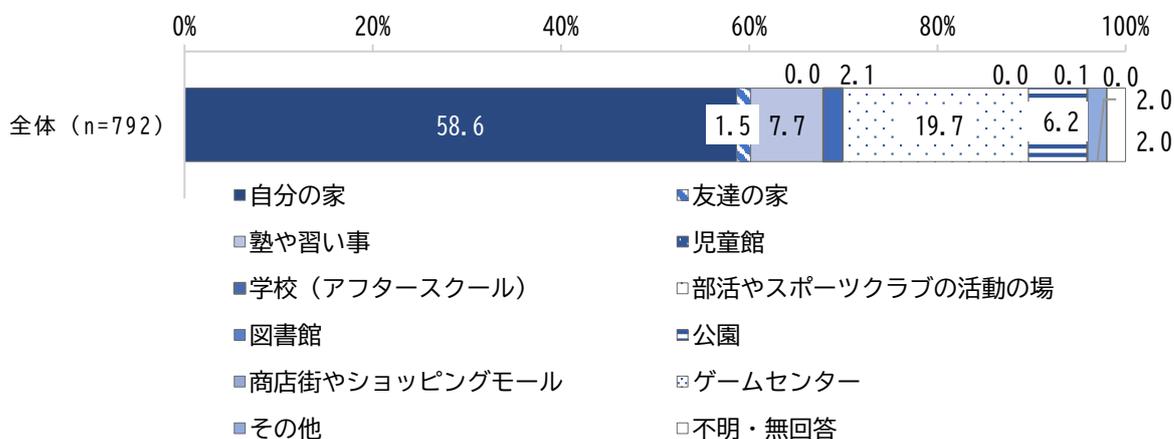
(%)

	ほとんどない	あまりない	ある	十分にある	不明・無回答
全体(n=792)	1.5	6.1	41.7	49.5	1.3
相対的貧困世帯(n=30)	0.0	3.3	36.7	60.0	0.0
相対的貧困でない世帯(n=572)	1.2	6.3	40.9	50.3	1.2
ひとり親世帯(n=104)	1.0	10.6	41.3	45.2	1.9
ふたり親世帯(n=531)	1.1	5.1	41.1	51.4	1.3
その他の世帯(n=8)	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0
小学生(n=329)	1.8	3.3	35.6	57.4	1.8
中学生(n=337)	1.8	5.9	46.3	46.0	0.0
高校生(n=119)	0.0	13.4	46.2	39.5	0.8

問 21

あなたは、平日（学校に行く日）の放課後（夕方6時くらいまで）は、どこで過ごしますか。一番多くいる場所に1つ○をしてください。

平日（学校に行く日）の放課後（夕方6時くらいまで）は、どこで過ごすかについては、「自分の家」が 58.6%で最も高く、次いで「部活やスポーツクラブの活動の場」（19.7%）、「塾や習い事」（7.7%）と続いています。



【相対的貧困状況・家庭類型・小中高生別集計】

(%)

	自分の家	友達の家	塾や習い事	児童館	学校（アフタースクール）	部活やスポーツクラブの活動の場	図書館	公園	商店街やショッピングモール	ゲームセンター	その他	不明・無回答
全体(n=792)	58.6	1.5	7.7	0.0	2.1	19.7	0.0	6.2	0.1	0.0	2.0	2.0
相対的貧困世帯(n=30)	63.3	3.3	10.0	0.0	3.3	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
相対的貧困でない世帯(n=572)	55.8	1.4	8.0	0.0	2.4	21.5	0.0	6.3	0.0	0.0	2.3	2.3
ひとり親世帯(n=104)	51.0	1.0	9.6	0.0	2.9	22.1	0.0	3.8	0.0	0.0	5.8	3.8
ふたり親世帯(n=531)	57.1	1.5	8.3	0.0	2.3	21.1	0.0	6.4	0.0	0.0	1.3	2.1
その他の世帯(n=8)	87.5	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
小学生(n=329)	63.5	2.7	13.1	0.0	1.5	1.2	0.0	13.7	0.0	0.0	1.8	2.4
中学生(n=337)	59.1	0.6	3.9	0.0	1.5	32.0	0.0	0.9	0.3	0.0	1.8	0.0
高校生(n=119)	45.4	0.8	4.2	0.0	5.9	37.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.5	4.2

問 22

あなたは、病院（歯医者を含む）に行きたかったが、我慢するように言われたことがありますか。（○は1つ）

病院（歯医者を含む）に行くことを我慢するように言われたかについては、「ない」が80.6%で最も高く、次いで「1～2回ある」（5.2%）、「何度かある」（2.4%）と続いています。



【相対的貧困状況・家庭類型・小中高生別集計】

(%)

	何度かある	1～2回ある	ない	わからない	不明・無回答
全体(n=792)	2.4	5.2	80.6	11.0	0.9
相対的貧困世帯(n=30)	6.7	6.7	80.0	6.7	0.0
相対的貧困でない世帯(n=572)	2.4	5.8	80.8	10.0	1.0
ひとり親世帯(n=104)	4.8	9.6	78.8	5.8	1.0
ふたり親世帯(n=531)	2.1	4.9	81.5	10.4	1.1
その他の世帯(n=8)	0.0	0.0	87.5	12.5	0.0
小学生(n=329)	2.4	6.7	78.1	11.2	1.5
中学生(n=337)	2.1	4.5	80.7	12.8	0.0
高校生(n=119)	3.4	3.4	87.4	5.9	0.0

問 23

あなたは、中学や高校あるいは大学などに進学したいが、お金のことで、進路を制限されていると感じることはありますか。(〇は1つ)

経済的理由で、進路を制限されていると感じることがあるかについては、「ない」が61.6%で最も高く、次いで「少し感じる」(11.1%)、「ある」(2.4%)と続いています。



【相対的貧困状況・家庭類型・小中高生別集計】

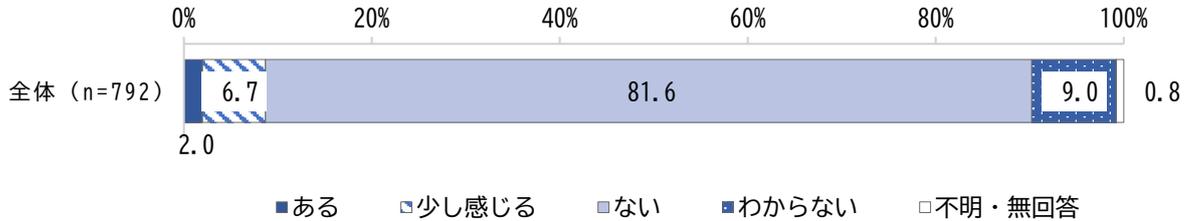
(%)

	ある	少し感じる	ない	わからない	不明・無回答
全体(n=792)	2.4	11.1	61.6	24.1	0.8
相対的貧困世帯(n=30)	3.3	16.7	50.0	30.0	0.0
相対的貧困でない世帯(n=572)	2.3	11.5	63.3	22.0	0.9
ひとり親世帯(n=104)	2.9	16.3	60.6	19.2	1.0
ふたり親世帯(n=531)	1.9	10.2	63.8	23.2	0.9
その他の世帯(n=8)	25.0	25.0	25.0	25.0	0.0
小学生(n=329)	1.5	6.1	58.4	32.5	1.5
中学生(n=337)	2.1	12.5	64.7	20.8	0.0
高校生(n=119)	5.9	21.8	62.2	10.1	0.0

問 24

あなたは、学習塾や習い事をしたいが、お金のことで、行くことや習うことが制限されていると感じることはありますか。（〇は1つ）

学習塾や習い事をしたいが、経済的理由で、行くことや習うことが制限されていると感じることがあるかについては、「ない」が 81.6%で最も高く、次いで「少し感じる」（6.7%）、「ある」（2.0%）と続いています。



【相対的貧困状況・家庭類型・小中高生別集計】

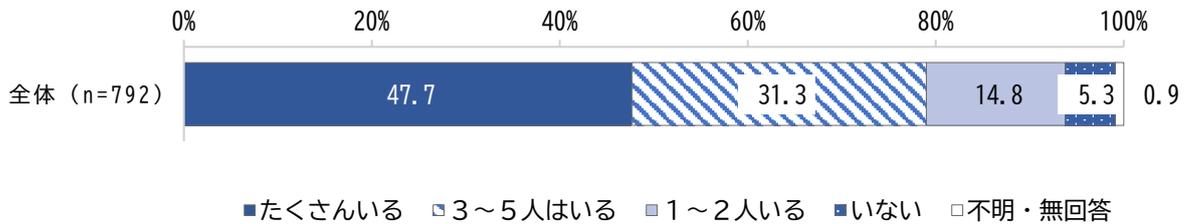
(%)

	ある	少し感じる	ない	わからない	不明・無回答
全体(n=792)	2.0	6.7	81.6	9.0	0.8
相対的貧困世帯(n=30)	6.7	10.0	80.0	3.3	0.0
相対的貧困でない世帯(n=572)	1.6	6.6	82.7	8.2	0.9
ひとり親世帯(n=104)	5.8	8.7	79.8	4.8	1.0
ふたり親世帯(n=531)	0.9	6.2	83.4	8.5	0.9
その他の世帯(n=8)	0.0	0.0	75.0	25.0	0.0
小学生(n=329)	2.1	7.6	74.8	14.0	1.5
中学生(n=337)	1.8	5.6	86.9	5.6	0.0
高校生(n=119)	2.5	7.6	84.9	5.0	0.0

問 25

あなたは、放課後や休日に、遊んだり一緒に過ごしたりする友達はいですか。
(○は1つ)

放課後や休日に、遊んだり一緒に過ごしたりする友達がいるかについては、「たくさんいる」が 47.7%で最も高く、次いで「3～5人はいる」(31.3%)、「1～2人いる」(14.8%)と続いています。



【相対的貧困状況・家庭類型・小中高生別集計】

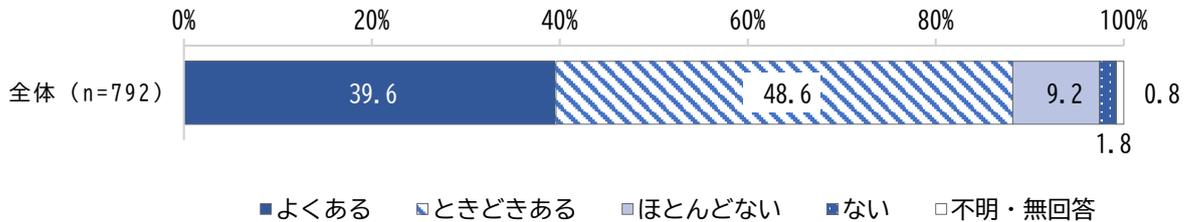
(%)

	たくさんいる	3～5人はいる	1～2人いる	いない	不明・無回答
全体(n=792)	47.7	31.3	14.8	5.3	0.9
相対的貧困世帯(n=30)	50.0	30.0	13.3	6.7	0.0
相対的貧困でない世帯(n=572)	45.6	34.4	14.9	4.0	1.0
ひとり親世帯(n=104)	44.2	36.5	15.4	1.9	1.9
ふたり親世帯(n=531)	46.5	32.8	14.7	5.1	0.9
その他の世帯(n=8)	37.5	37.5	25.0	0.0	0.0
小学生(n=329)	49.8	28.0	14.0	6.4	1.8
中学生(n=337)	50.7	31.5	14.2	3.6	0.0
高校生(n=119)	35.3	39.5	18.5	6.7	0.0

問 26

あなたは家族と外出したり旅行に行ったりする機会がありますか。（○は1つ）

家族と外出したり旅行に行ったりする機会があるかについては、「ときどきある」が48.6%で最も高く、次いで「よくある」（39.6%）、「ほとんどない」（9.2%）と続いています。



【相対的貧困状況・家庭類型・小中高生別集計】

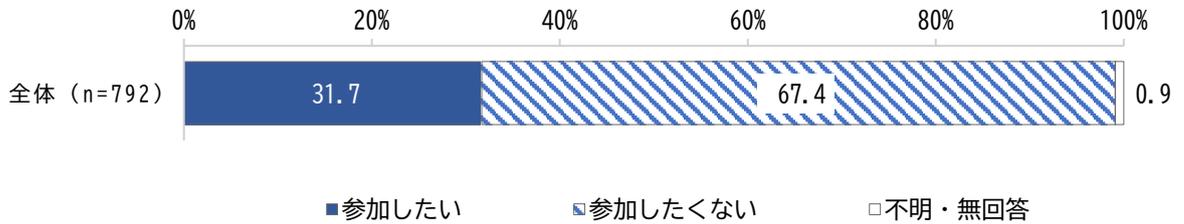
(%)

	よくある	ときどきある	ほとんどない	ない	不明・無回答
全体(n=792)	39.6	48.6	9.2	1.8	0.8
相対的貧困世帯(n=30)	36.7	50.0	13.3	0.0	0.0
相対的貧困でない世帯(n=572)	40.6	47.7	9.8	1.0	0.9
ひとり親世帯(n=104)	37.5	46.2	13.5	1.9	1.0
ふたり親世帯(n=531)	41.1	48.4	8.9	0.8	0.9
その他の世帯(n=8)	25.0	75.0	0.0	0.0	0.0
小学生(n=329)	47.1	42.6	7.6	1.2	1.5
中学生(n=337)	36.8	51.3	9.8	2.1	0.0
高校生(n=119)	26.9	59.7	11.8	1.7	0.0

問 27

地域に、ボランティア等による無料の学習塾があれば参加したいですか。(〇は1つ)

地域に無料の学習塾があれば参加したいかについては、「参加したくない」が 67.4%、「参加したい」が 31.7%となっています。



【相対的貧困状況・家庭類型・小中高生別集計】

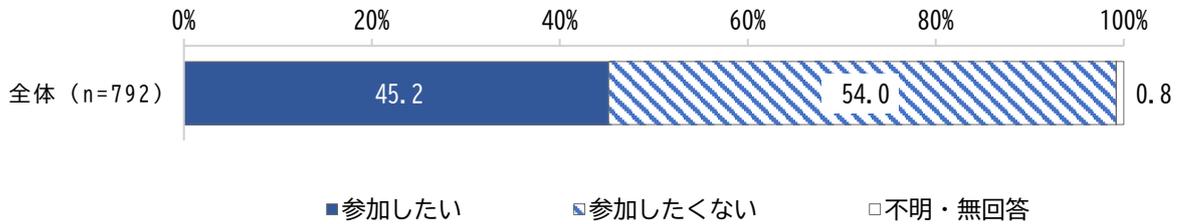
(%)

	参加したい	参加したくない	不明・無回答
全体(n=792)	31.7	67.4	0.9
相対的貧困世帯(n=30)	26.7	73.3	0.0
相対的貧困でない世帯(n=572)	32.9	66.1	1.0
ひとり親世帯(n=104)	32.7	65.4	1.9
ふたり親世帯(n=531)	31.6	67.4	0.9
その他の世帯(n=8)	50.0	50.0	0.0
小学生(n=329)	33.7	64.4	1.8
中学生(n=337)	33.8	66.2	0.0
高校生(n=119)	21.0	79.0	0.0

問 28

地域に、無料又は安価で食事ができる「こども食堂」があれば参加したいですか。
（〇は1つ）

地域に「こども食堂」があれば参加したいかについては、「参加したくない」が54.0%、「参加したい」が45.2%となっています



【相対的貧困状況・家庭類型・小中高生別集計】

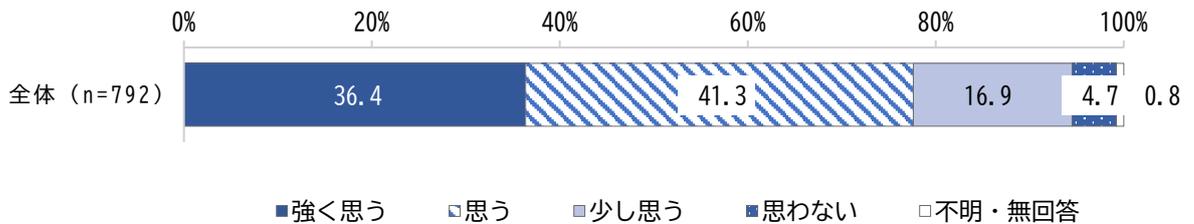
(%)

	参加したい	参加したくない	不明・無回答
全体(n=792)	45.2	54.0	0.8
相対的貧困世帯(n=30)	50.0	50.0	0.0
相対的貧困でない世帯(n=572)	44.4	54.7	0.9
ひとり親世帯(n=104)	41.3	57.7	1.0
ふたり親世帯(n=531)	44.8	54.2	0.9
その他の世帯(n=8)	62.5	37.5	0.0
小学生(n=329)	56.5	41.6	1.8
中学生(n=337)	39.8	60.2	0.0
高校生(n=119)	29.4	70.6	0.0

普段考えていることについて

問 29 がんばれば、良いことがあると思いますか。(〇は1つ)

がんばれば、良いことがあると思うかについては、「思う」が 41.3%で最も高く、次いで「強く思う」(36.4%)、「少し思う」(16.9%)と続いています。



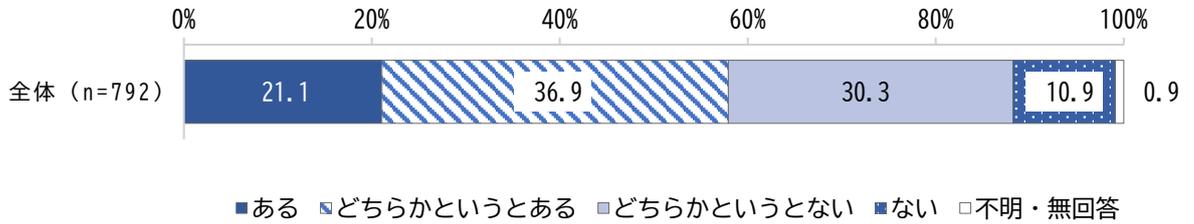
【相対的貧困状況・家庭類型・小中高生別集計】

(%)

	強く思う	思う	少し思う	思わない	不明・無回答
全体(n=792)	36.4	41.3	16.9	4.7	0.8
相対的貧困世帯(n=30)	16.7	50.0	33.3	0.0	0.0
相対的貧困でない世帯(n=572)	37.1	41.1	16.8	4.4	0.7
ひとり親世帯(n=104)	32.7	44.2	21.2	1.9	0.0
ふたり親世帯(n=531)	36.9	41.2	16.2	4.7	0.9
その他の世帯(n=8)	12.5	50.0	25.0	12.5	0.0
小学生(n=329)	46.2	35.9	13.1	3.0	1.8
中学生(n=337)	32.9	45.7	15.7	5.6	0.0
高校生(n=119)	20.2	44.5	30.3	5.0	0.0

問 30 自分に自信がありますか。（○は1つ）

自信があるかについては、「どちらかというところ」が 36.9%で最も高く、次いで「どちらかというところない」（30.3%）、「ある」（21.1%）と続いています。



【相対的貧困状況・家庭類型・小中高生別集計】

(%)

	ある	どちらかというところ	どちらかというところない	ない	不明・無回答
全体(n=792)	21.1	36.9	30.3	10.9	0.9
相対的貧困世帯(n=30)	16.7	46.7	33.3	3.3	0.0
相対的貧困でない世帯(n=572)	22.4	34.8	30.8	11.0	1.0
ひとり親世帯(n=104)	16.3	37.5	35.6	10.6	0.0
ふたり親世帯(n=531)	22.6	35.0	30.3	10.7	1.3
その他の世帯(n=8)	0.0	25.0	62.5	12.5	0.0
小学生(n=329)	25.5	41.3	23.4	7.9	1.8
中学生(n=337)	20.2	33.5	34.4	11.9	0.0
高校生(n=119)	11.8	35.3	37.8	14.3	0.8

問 31

自分は家族に大事にされていると思いますか。(〇は1つ)

家族に大事にされていると思うかについては、「強く思う」が 56.4%で最も高く、次いで「思う」(34.6%)、「少し思う」(7.6%)と続いています。



【相対的貧困状況・家庭類型・小中高生別集計】

(%)

	強く思う	思う	少し思う	思わない	不明・無回答
全体(n=792)	56.4	34.6	7.6	0.8	0.6
相対的貧困世帯(n=30)	56.7	36.7	6.7	0.0	0.0
相対的貧困でない世帯(n=572)	57.2	34.3	7.5	0.3	0.7
ひとり親世帯(n=104)	47.1	44.2	8.7	0.0	0.0
ふたり親世帯(n=531)	58.9	32.4	7.3	0.4	0.9
その他の世帯(n=8)	62.5	37.5	0.0	0.0	0.0
小学生(n=329)	61.7	29.8	6.1	0.9	1.5
中学生(n=337)	54.6	36.8	7.7	0.9	0.0
高校生(n=119)	47.9	41.2	10.9	0.0	0.0

問 32 不安や孤独を感じることはありますか。（○は1つ）

不安や孤独を感じることはあるかについては、「ない」が 37.2%で最も高く、次いで「どちらかというとない」(27.9%)、「どちらかというとある」(23.4%)と続いています。



【相対的貧困状況・家庭類型・小中高生別集計】

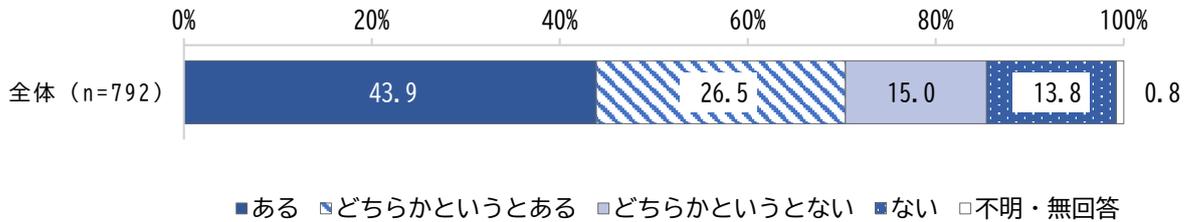
(%)

	ある	どちらかというとある	どちらかというとない	ない	不明・無回答
全体(n=792)	10.7	23.4	27.9	37.2	0.8
相対的貧困世帯(n=30)	10.0	30.0	36.7	23.3	0.0
相対的貧困でない世帯(n=572)	10.8	22.4	28.3	37.8	0.7
ひとり親世帯(n=104)	10.6	24.0	26.9	38.5	0.0
ふたり親世帯(n=531)	11.1	22.4	28.8	36.7	0.9
その他の世帯(n=8)	12.5	25.0	62.5	0.0	0.0
小学生(n=329)	8.8	21.9	27.1	40.4	1.8
中学生(n=337)	12.2	23.7	25.5	38.6	0.0
高校生(n=119)	11.8	25.2	37.8	25.2	0.0

問 33

あなたには将来の夢や目標がありますか。(〇は1つ)

将来の夢や目標があるかについては、「ある」が 43.9%で最も高く、次いで「どちらかというところがある」(26.5%)、「どちらかというところがない」(15.0%)と続いています。



【相対的貧困状況・家庭類型・小中高生別集計】

(%)

	ある	どちらかというところがある	どちらかというところがない	ない	不明・無回答
全体(n=792)	43.9	26.5	15.0	13.8	0.8
相対的貧困世帯(n=30)	40.0	43.3	10.0	6.7	0.0
相対的貧困でない世帯(n=572)	41.3	27.3	16.6	14.0	0.9
ひとり親世帯(n=104)	36.5	34.6	14.4	14.4	0.0
ふたり親世帯(n=531)	42.0	26.7	16.2	13.9	1.1
その他の世帯(n=8)	25.0	37.5	0.0	37.5	0.0
小学生(n=329)	62.0	21.3	6.4	8.5	1.8
中学生(n=337)	28.5	32.6	21.4	17.5	0.0
高校生(n=119)	37.8	24.4	20.2	17.6	0.0

問 34

【問33「あなたには将来の夢や目標がありますか。」で「4. ない」と答えた人におたずねします。】夢や目標がない理由は何ですか。（○は1つ）

夢や目標がない理由については、「具体的に何も思いうかばないから」が73.4%で最も高く、次いで「わからない」（15.6%）、「もう十分満足しているから」「夢や目標がかなりむずかしいと思うから」（5.5%）となっています。



【相対的貧困状況・家庭類型・小中高生別集計】

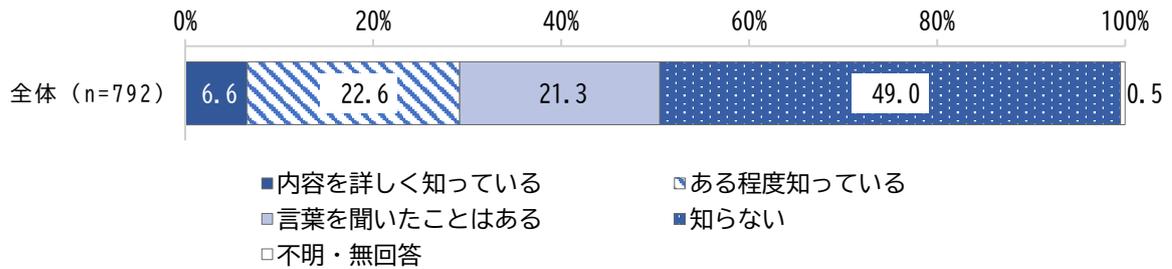
	（%）				
	もう十分満足しているから	夢や目標がかなりむずかしいと思うから	具体的に何も思いうかばないから	わからない	不明・無回答
全体(n=109)	5.5	5.5	73.4	15.6	0.0
相対的貧困世帯(n=2)	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
相対的貧困でない世帯(n=80)	3.8	6.3	73.8	16.3	0.0
ひとり親世帯(n=15)	0.0	0.0	80.0	20.0	0.0
ふたり親世帯(n=74)	4.1	6.8	75.7	13.5	0.0
その他の世帯(n=3)	0.0	0.0	66.7	33.3	0.0
小学生(n=28)	3.6	7.1	71.4	17.9	0.0
中学生(n=59)	6.8	3.4	78.0	11.9	0.0
高校生(n=21)	4.8	9.5	66.7	19.0	0.0

ヤングケアラーについて

問 35

「ヤングケアラー」という言葉を知っていますか。(〇は1つ)

「ヤングケアラー」という言葉を知っているかについては、「知らない」が 49.0%で最も高く、次いで「ある程度知っている」(22.6%)、「言葉を聞いたことはある」(21.3%)と続いています。



【相対的貧困状況・家庭類型・小中高生別集計】

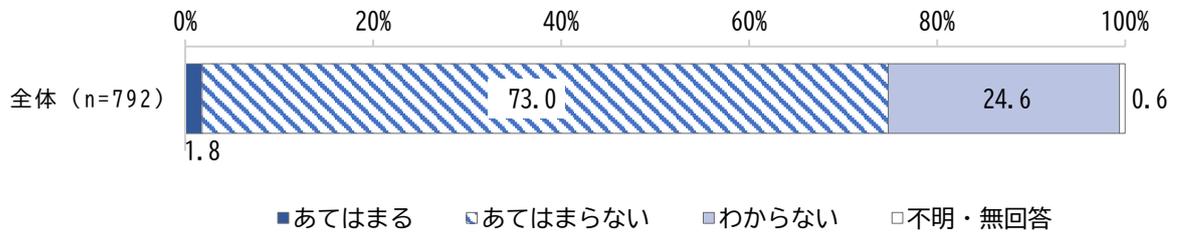
(%)

	内容を詳しく知っている	ある程度知っている	言葉を聞いたことはある	知らない	不明・無回答
全体(n=792)	6.6	22.6	21.3	49.0	0.5
相対的貧困世帯(n=30)	3.3	23.3	16.7	56.7	0.0
相対的貧困でない世帯(n=572)	6.6	24.7	21.0	47.2	0.5
ひとり親世帯(n=104)	4.8	26.9	20.2	47.1	1.0
ふたり親世帯(n=531)	7.0	23.7	20.7	48.0	0.6
その他の世帯(n=8)	0.0	12.5	12.5	75.0	0.0
小学生(n=329)	3.3	12.5	22.8	61.1	0.3
中学生(n=337)	6.5	27.3	21.1	44.8	0.3
高校生(n=119)	16.0	38.7	18.5	26.1	0.8

問 36

あなた自身は「ヤングケアラー」にあてはまると感じますか。（○は1つ）

自身は「ヤングケアラー」にあてはまると感じるかについては、「あてはまらない」が73.0%で最も高く、次いで「わからない」（24.6%）、「あてはまる」（1.8%）と続いています。



【相対的貧困状況・家庭類型・小中高生別集計】

(%)

	あてはまる	あてはまらない	わからない	不明・無回答
全体(n=792)	1.8	73.0	24.6	0.6
相対的貧困世帯(n=30)	0.0	83.3	16.7	0.0
相対的貧困でない世帯(n=572)	2.1	75.9	21.5	0.5
ひとり親世帯(n=104)	1.0	73.1	25.0	1.0
ふたり親世帯(n=531)	2.1	76.8	20.5	0.6
その他の世帯(n=8)	0.0	75.0	25.0	0.0
小学生(n=329)	2.1	69.6	27.7	0.6
中学生(n=337)	1.8	72.1	25.8	0.3
高校生(n=119)	0.8	85.7	11.8	1.7

問 37

あなたの周りに「ヤングケアラー」と思われる人はいますか。(○は1つ)

周りに「ヤングケアラー」と思われる人がいるかについては、「いない(知らない)」が 89.3%で最も高く、次いで「可能性のある子がいる」(7.3%)、「いる(知っている)」(3.0%)と続いています。



【相対的貧困状況・家庭類型・小中高生別集計】

(%)

	いる(知っている)	可能性のある子がいる	いない(知らない)	不明・無回答
全体(n=792)	3.0	7.3	89.3	0.4
相対的貧困世帯(n=30)	3.3	3.3	93.3	0.0
相対的貧困でない世帯(n=572)	3.5	7.0	89.2	0.3
ひとり親世帯(n=104)	0.0	6.7	92.3	1.0
ふたり親世帯(n=531)	3.8	7.0	88.9	0.4
その他の世帯(n=8)	12.5	0.0	87.5	0.0
小学生(n=329)	2.4	8.8	88.4	0.3
中学生(n=337)	2.7	5.6	91.4	0.3
高校生(n=119)	5.9	8.4	84.9	0.8

問 38

あなたが、毎日の生活で感じていることや悩んでいることを自由に書いてください。

内容	件数
毎日が楽しい・満足している	46
学校や習い事に関すること (勉強が難しい、ついていけない、習い事が多い、もっと自由時間が欲しい等)	25
人間関係の悩み (孤独に感じる、嫌なことを言われる、人と比べてしまう等)	22
商業施設や公園の新設要望 (大型商業施設や映画館、遊具や公園の新設等)	17
精神的・肉体的健康の悩み (疲れている、ストレスがある、障がいがある等)	12
家庭内の悩み (家計が苦しい、親との時間が少ない、兄弟げんか等)	12
日常生活や環境に関すること (電車の増便希望、通学路の整備等)	10
家族への感謝	8
睡眠の悩み (寝る時間が遅い、朝が苦手等)	8
将来の不安	4
その他	27

【その他】

- ・ お金が欲しい
- ・ 友だちと遊ぶ時間がない
- ・ 時間が欲しい
- ・ 友人にヤングケアラーがいる
- ・ 学校でマスクが外せない

第6章

子どもたちの生活実態に係る社会 資源調査

第6章 子どもの生活実態に係る社会資源調査

調査概要

調査の目的： 第4章及び第5章の「子どもの生活実態調査」結果を補完するとともに、日常の業務のなかで感じている困窮家庭の子どもや保護者並びにヤングケアラーに対する課題等を把握するため、子どもと日々接する機会が多い学校園所や事業所等から率直な意見を聴取することを目的としています。

調査の対象： 赤穂市内の子どもと日々接する機会が多い学校園所や事業所等

調査の方法： 直接配布・回収
郵送配布・回収

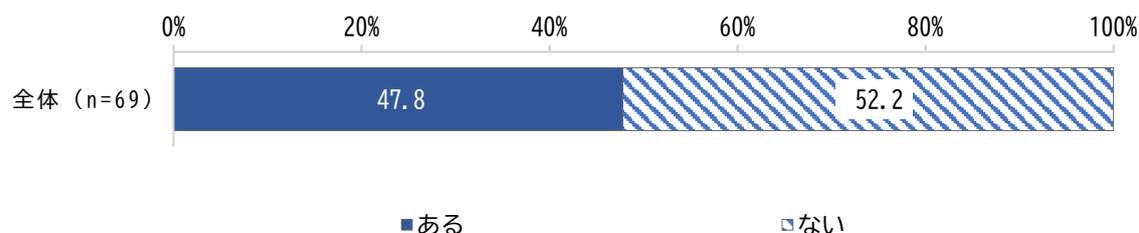
調査の期間： 令和6年6月21日～7月21日

回収の結果：	配布数	回収数(有効回収数)	回収率(有効回収率)
	71件	69件(69件)	97.2%(97.2%)

問1

貴機関において、日々の業務の中で、経済的に困窮していると思われる家庭（困窮家庭）の子どもや保護者に接することがありますか。（1つに○）

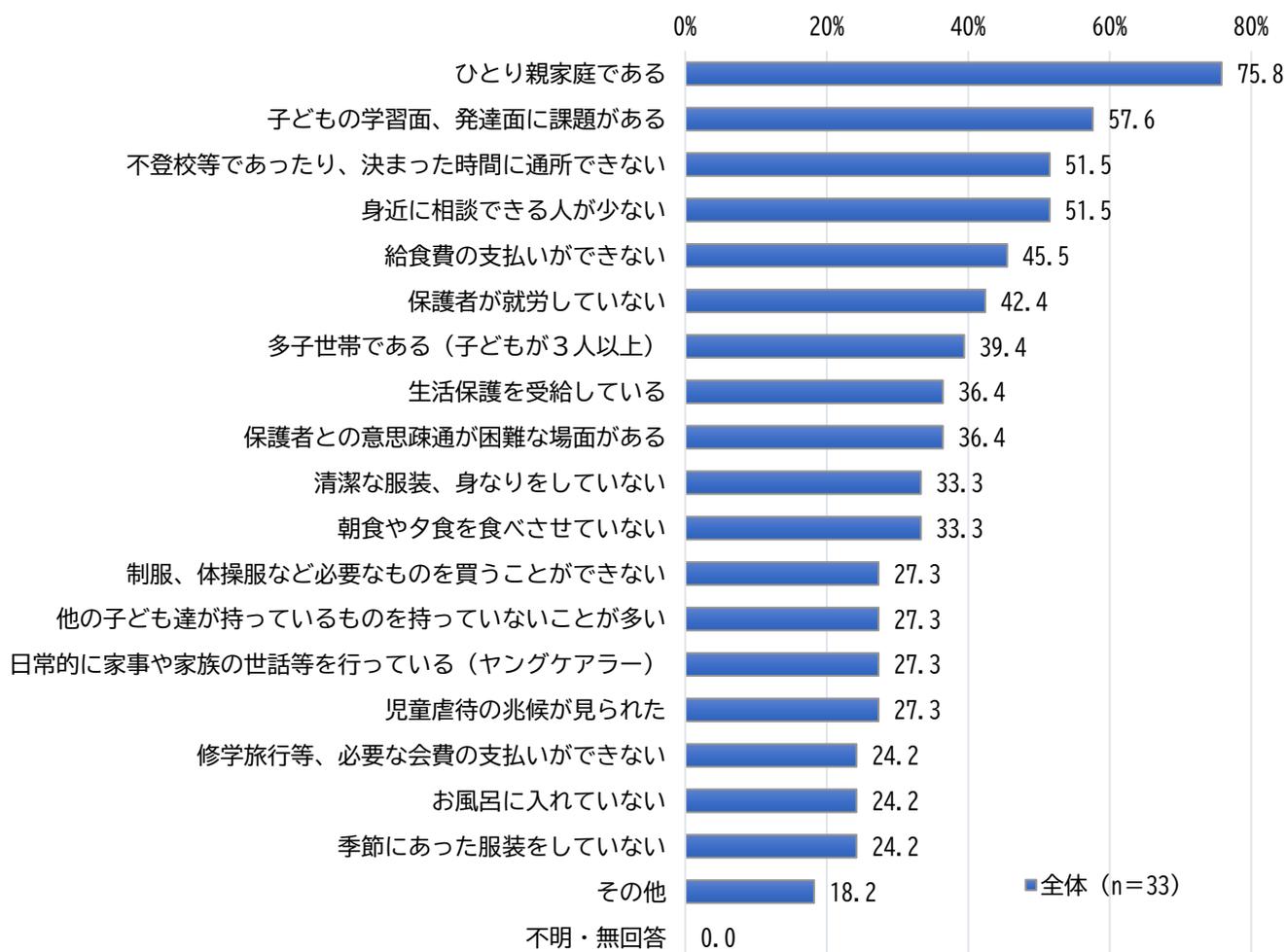
日々の業務の中で、困窮家庭の子どもや保護者に接することがあるかについては、「ない」が52.2%、「ある」が47.8%となっています。



問2

【問1で「1. ある」と答えた方】
 困窮家庭には、具体的にどのような状況がありますか。（当てはまるものすべてに○）

具体的な状況については、「ひとり親家庭である」が75.8%で最も高く、次いで「子どもの学習面、発達面に課題がある」(57.6%)、「不登校等であったり、決まった時間に通所できない」「身近に相談できる人が少ない」(51.5%)と続いています。



その他の回答

- ・経済的な理由から、おむつの使用回数を減らして欲しいとの要望があった。
- ・保護者が若年者であり、実際の世話を祖父母、中学生の叔母が担っている。
- ・多子である分、手当もあり、生活が困窮するほど収入に困っているわけではないと思われるが、支出の優先順位が適切ではないようで、常に集金等が遅れる。
- ・地域の中で孤立している。
- ・保護者の浪費が激しく、家に食べる物がなく、フードパントリー等から食料支援を受けるなど、児童の養育に十分にあてられてない。
- ・保護者が病気療養中で、就労できない状況にある。

問3

【問1で「1. ある」と答えた方】

これまでに困窮家庭の子どもと関わる中で、特に印象に残った子どもの状況について具体的に教えてください。(過去3年間程度でお答えください)(自由記述)

回答団体数：30

・入所して3ヶ月目になる2歳児男児であるが、いまだに登所時の母親との離れ際に「ママくる？」と何度も聞いて泣くことがほとんどで、保育所にいる間も、次の活動に切り替わるタイミング等で「ママくる？」と泣くことが多いため、情緒が不安定なのが気になる。また、保育所も休み始めると1週間ほど長期になることがあるので休み中の生活リズム等がどうなっているか、また、他児に比べ、経験不足な面が感じられる。

・(以前の機関で)父子家庭の保護者が夜間に仕事に行っている間、2歳児の園児は高校生のきょうだいと家にいたが、保護者が帰宅すると、2歳児の園児一人で風呂場に入った事があると聞いた。その時は特に何もなかったとの事だが、命に係わる危険な事態になっていてもおかしくないと感じた。

- ・両親ともに若年(10代)で出産。
- ・父親の実家で、祖父母が世話をしている。
- ・父親は就労していない。
- ・生活リズムの確立が難しく、登園しにくい。

- ・朝食を食べさせて貰ってないため、登園し保育室に入ると同時に「お腹すいた」と訴えてくる。
- ・汚れたり、伸びきったりした服や靴下を履いている。

- ・愛着に課題がある。
- ・きょうだい達はお風呂に入っていると思われるが、本児が入っているかの確認ができないためか、体が汚れていたり体臭が残っていたりすることがある。

- ・パジャマのようなものを着て登園してくる。
- ・家庭でテレビ(ネット系)を長時間見ていたり、ゲームをし続けている様子で、テレビかゲームの話題が会話の大部分を占める。

- ・保護者が精神的に不安定で虐待傾向にあるため、子どもも情緒が不安定な場面がある。
- ・自然学校に係る経費を払ったり、準備物を用意したりことが難しい。

- ・子どもの状況については、衣食住で特に困っている様子は見受けられなかった。

- ・子どもが親から離れて暮らしたいと思っているが、その場合、児童手当が親に入らない、対象外となるので、中学を卒業しても自立が出来なくて悩んでいた子どもが印象に残っています。

- ・両親が離婚し、祖父が中心的な療育者となっている世帯。食事が十分にとれておらず、子ども食堂等と連携して支援を行った。
- ・両親が就労不安定、借金があり生活に困窮しているが、犬等のペットを多頭飼っているためペットの飼育費もかさんでいる。

- ・家庭として支援者に頼みごとがあるときに、保護者ではなく子どもが連絡してくる。
- ・歯磨きの習慣がなく、多くの虫歯で歯が減っていくが、医療にかかっていない。
- ・洗濯しないままの服を着まわすため、たとえお風呂に入っても匂いが強い。

- ・保護者がローン未返済・部屋が片付いていない。育児環境が不衛生。
- ・若年で妊娠出産後、パートナーやその両親の養育能力も低く、おむつが長時間変えられていないことや食生活・生活リズムの乱れがある。

- ・住宅内に家財や飲食物等が散乱し、子どもの養育環境としてあまりにも不適切であると思われる環境下で生活している状況。
- ・支援があることを頼りにしているがため、問題の根本の解決方法等を探そうとしない、現状への危機感が薄くなってしまっている状況。

- ・生活のリズムが著しく乱れている傾向にある。
- ・就寝や起床時間が不規則である。
- ・朝食を食べてこない。
- ・清潔感の欠如 等。

- ・父は病気の為、仕事を辞め、生活保護を受けている。園児は、発達的に支援の必要がある。姉が園への送迎をしている。
- ・入浴して来なく、においがある。かみがベタベタしている。
- ・タオルや服の不衛生さがある。水筒を洗っていない。

- ・家族が事故をおこしたり、入院したりしても、子ども（保護者も）は絶対にそのことを言おうとしない。

- ・妹、弟の世話をするために欠席する（別の理由をつけて）こと。
- ・家計を支えるため就労（アルバイト等）しているため欠席が多い。
- ・学校で必要な物品の購入ができていない。

- ・電気、ガス、水道が止められている。（超貧困家庭）
- ・子どもたち（4～5才）は、社会経験が全く足りておらず、曜日、時間の感覚すら備わっていなかった。
- ・お金の使い方を知らなかった。

- ・主任民生児童委員さんが連れて来られて、親に食事をつくってもらえなく、栄養状態が悪い印象であった。

<ul style="list-style-type: none"> ・父子家庭の多子世帯で、父は仕事をしているが、生活費を出さず、子育て給付金などあてにして生活していた。子どもは、「いじめ」を受けたり、地域になじめない、不登校になってしまう。
<ul style="list-style-type: none"> ・季節にあった服装をしてこない（寒い日に短パン、素足、首元のあいた服など）・近くにいと、体臭がひどく、家でお風呂に入っていないと考えられる子どもがいた。 ・12時に帰ってもお昼ごはんを食べずに再び来館する子がいた。
<ul style="list-style-type: none"> ・父子家庭で祖母、幼弟、体調を崩した父親の面倒を見る高等部の生徒です。父親の病院の付き添い、幼弟の保育所送迎、祖母の看病等一人で抱え、生活している状況でも、誰にも相談できずにいます。
<ul style="list-style-type: none"> ・保護者（母）の情緒が非常に不安定であり、学校と家庭との連携が著しく困難でした。親子関係も危うい状況であり、児童の情緒も不安定でした。児童の成長を考える上で、児童が落ち着いて生活できる環境が大切であると感じます。（現在は、母と子が別れて生活をしている状況です。）
<ul style="list-style-type: none"> ・支払いの遅れや未払い（教材・給食費等）・虐待恐れ相談（子育て支援課）。
<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝保護者が遅れて連れて来る。 ・欠席しても連絡がない。 ・教材費等の支払が間に合わない。 ・家庭学習ができない。
<ul style="list-style-type: none"> ・朝食や昼食が用意されておらず、簡単な軽食を自分で作っている。 ・起床時の服装のまま、登校しようとする。 ・水筒が用意されておらず、ペットボトルのお茶を持参する。 ・エプロンが洗濯されていない。 ・上靴が小さく汚れたままで、適切な大きさの物に買い換えてもらえていない。
<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度、常時ではないが、中学生による幼稚園の送り迎えが見受けられた。 ・給食以外の飲食について、家庭で行われているか分からない。子ども食堂や関係機関の協力を得てはいるが、お風呂に入る習慣もなく体臭や衣類から発せられる匂いが気になる。母と中学生の2人暮らしであるが、母からは「困ったことがあったら言いなさい」と本人には言っているが、本人からのSOSの声は母へは上がらない。
<ul style="list-style-type: none"> ・親の借金で転校してきたと思われる生徒が在籍している。お金を支払うときに生徒が休みがちである。また、その日に支払うと言っていたが、できないときもあったため、生徒が気にしているのではないかと想像している。これ以上支払額が増えると、余計に支払うことができにくくなるためどうするか保護者と話し合っている。
<ul style="list-style-type: none"> ・多子世帯で義務教育世代の子どもが未就学児童を世話している。
<ul style="list-style-type: none"> ・食糧難、住居環境（ゴミ屋敷状態）悪化。

問4	<p>【問1で「1. ある」と答えた方】</p> <p>困窮家庭の子どもや保護者に対し、これまでどのような支援を行っていますか。 (過去3年間程度で具体的に記入してください。)(自由記述)</p>
-----------	---

◎子どもへの支援

回答団体数：28

<ul style="list-style-type: none"> ・安心して保育所で過ごせるようにありのままを受け入れて丁寧にかかわっている。集団での遊びや生活の楽しさを少しでも感じてその子にとって保育所は楽しい所、居心地の良い場所になるようにかかわっている。
<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の支援。
<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の自立に向けての支援。 ・幼稚園でできる様々な体験の確保。 ・友達関係の構築。
<ul style="list-style-type: none"> ・朝食を食べてきていない園児には、園で常時ストックしている熱中症対策ラムネを食べさせた。 ・給食をすぐに食べてしまうため、最初から多めに配膳したり、おかわりを多めに入れたりしていた。
<ul style="list-style-type: none"> ・愛情をもった個別の声かけやかかわりを意識している。 ・持ってくる物、生活習慣面等、本児自身に、自分で気をつけられるような指導をしている。
<ul style="list-style-type: none"> ・一日の生活の流れがわかりやすいよう、スケジュール表を準備し、見通しを持って生活できるようにしたり、基本的な生活習慣が身につくよう、手順表や絵カードを準備したりして、視覚的にわかりやすいものを用意してかかわった。 ・友だちとの関わりの中で、言葉を補うサポートや相手の気持ちに気づけるようなサポートを行った。
<ul style="list-style-type: none"> ・SSWや子育て支援課と密接に連絡をとり、適切な支援方法についてその都度協議している。
<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な声かけ等による家庭状況の把握。 ・その子に応じた相談や学習・生活の支援。
<ul style="list-style-type: none"> ・学校や幼稚園などとの情報共有を行っている。

<ul style="list-style-type: none"> ・これまで具体的な支援を行ったことがなかったため、何か出来ることはないかと考えていたところ、昨年より赤穂市の子育て支援事業に参加することで、食材の配布を主に行っています。子どもたちには、固定日に限ることなく日常から自由に入出りを可としていることで近隣の子どもたちが対象になりますが、よく話しかけてくれています。例えば帰宅時間が決められている子どもは「今、何時ですか？」等と確認等が度々あり、「水をください」等の休憩にも活用してもらっています。拠所つて、安心して遊べる等の支援の効果も有ります。
<ul style="list-style-type: none"> ・教育支援資金の貸付。 ・学生服等リユース事業を通じて制服、体操服の提供。 ・食料提供。 ・両親が就労中の居場所の確保（特に土曜日や祝日に利用できる保育サービス）。
<ul style="list-style-type: none"> ・訪問や電話、健診で状況確認。 ・社会資源の紹介。 ・関係機関との連携。
<ul style="list-style-type: none"> ・日常的に困っていること、今の気持ちなどを傾聴し、希望する支援等につながるよう仲介役を担う。 ・食料支援を行う・子ども食堂等居場所の紹介をするとともに支援者に繋ぐ。
<ul style="list-style-type: none"> ・保育所で過ごす時間だけでも、生活のリズムを安定した状態に整え、温かい関わりをもち、清潔が保たれた状態で心地よく過ごせるように心がけている。
<ul style="list-style-type: none"> ・園で服やタオルを洗ったり、シャンプーやボディーソープで身体を洗ったりして、清潔面の支援をした。 ・園で水筒を洗った。
<ul style="list-style-type: none"> ・かばん、制服等貸し出し。
<ul style="list-style-type: none"> ・傾聴と必要な物品の調達の支援。
<ul style="list-style-type: none"> ・児童養護施設のため一時保護、ショートステイ、養育相談など。
<ul style="list-style-type: none"> ・食事の提供。
<ul style="list-style-type: none"> ・こども→子育て支援課へ 保護者→社会福祉課へつなぐ 地域の民生委員は季節の野菜など届けながら、安否の確認やお困り事を聴取する。福祉サービス。 ・制服などの支援。 ・フードバンクの紹介。
<ul style="list-style-type: none"> ・気になる子がいれば子育て支援課に報告する。

<ul style="list-style-type: none"> ・家庭訪問に定期的に行く。 ・授業の様子や行事の予定等登校したくなるような情報の提供。 ・生徒本人の困り感を聴き、相談にのる。 ・他機関と連携し、本人、及び家族の状態の把握につとめる。
<ul style="list-style-type: none"> ・児童への登校支援・児童への学習支援。
<ul style="list-style-type: none"> ・学習に必要なものを学校から貸し出す。 ・休み時間等を使って学習保障をする。
<ul style="list-style-type: none"> ・給食でしっかりと栄養がとれるよう、給食の時間までに家庭訪問または電話連絡にて登校を促している。 ・家庭訪問時に、自分で水筒を洗い、お茶を入れるよう伝えている。
<ul style="list-style-type: none"> ・担任から本人への聞き取りを行うとともに、学年の教員が面接を実施するなど、生徒本人の「困り感」を共有しつつ、保護者面談を行い、必要に応じて関係機関との連携がとれるよう配慮している。
<ul style="list-style-type: none"> ・登校しやすい環境を整え支援している。状況に応じて別室対応も行った。
<ul style="list-style-type: none"> ・福祉行政、医療機関等と連携。 ・SC・SSWと連携し、地域との関係改善を行う。

◎保護者への支援

回答団体数：28

<ul style="list-style-type: none"> ・ 母親は求職中であるが、なかなか仕事も決まらない状況である。そのことについては、子育て支援課さんにお任せしているので、あえて声をかけていないが、保育所としては、とにかく子どもが安心して保育所に来れるように毎日、親子をやさしく受け入れている状況である。できるだけ、送迎時にこちらからも保育所の様子を積極的に伝えながら、コミュニケーションをとり、少しでも家での様子が分かれば…と思っている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ こまめな声掛け、ファミリーサポートなどの紹介。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 面談の実施。 ・ 幼稚園の職員との信頼関係構築。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者は、困窮だという様子を見せようとならないことが多い。フードバンクに行っていることも周囲の情報で耳にするというのが現状である。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 行事や持ってくる物等は、できるだけ前日や直前にメモをそえて直接伝えるよう心がけている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 親子のふれあいやかわりについて具体的にアドバイスしたり、発達について心配なことなどの相談にのったりした。また、病院の予約の手続について一緒に確認しながら進めたり、発達検査を幼稚園でできるようにセッティングしたりした。 ・ おたよりの大事なところにマーカーを入れて渡したり、内容を具体的にメモして渡し、詳しく丁寧に伝えたりした。
<ul style="list-style-type: none"> ・ SSWや子育て支援課と密接に連絡をとり、適切な支援法についてその都度協議している。 ・ SSWやSCを紹介している。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 行政をはじめ、福祉機関との連携支援。 ・ 教員との相談及びカウンセリング等相談機関の情報提供。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 父親の就労状況と合わせて、経済的に困っている場合は、社会福祉課の生活困窮の担当の方に相談したり、必要な関係機関に連絡を入れたりするなど、個々に対応をお願いしている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもへの支援と同様ですが、これまで具体的な支援を行ったことがなかったため、昨年より赤穂市の子育て支援事業に参加することで、食材の配布及び相談を主に行っています。保護者への支援と云う意味では、未だ手探りの状態にあることは否めませんが、これから徐々に保護者との接触も増やす機会を作りたいと思います。力不足で申し訳ないです。

<ul style="list-style-type: none"> ・教育支援資金の貸付。 ・学生服等リユース事業を通じた制服、体操服の提供。 ・食料提供・就労支援（就労継続支援A型の利用へつなげる）、利用できそうな制度やサービス等の情報提供。
<ul style="list-style-type: none"> ・食料支援（フードバンク等へのつなぎ、訪問時に持参）。 ・就労支援。 ・給付金等の情報提供。 ・家計改善支援。 ・自宅の掃除手伝い。
<ul style="list-style-type: none"> ・話を傾聴・育児相談。 ・手当等の社会資源の案内。 ・子育て支援課との同行訪問。
<ul style="list-style-type: none"> ・行政、社協等の事業、サービス等について確認し、利用できる情報の提供、また関係団体へつなぐ。 ・食材の提供、支援団体とつなぐ。 ・困り感、希望することを傾聴し助言を行う。 ・子どもの関わり方について助言、必要に応じ専門機関等につなぐ。
<ul style="list-style-type: none"> ・子育ての不安や負担が少しでも軽減するように、送迎時にできるだけ声かけをおこない、コミュニケーションをとることで相談等にのるよう努めている。
<ul style="list-style-type: none"> ・個別に声かけをした。個人面談をして、信頼関係をつくる様にした。
<ul style="list-style-type: none"> ・制服のリサイクルの紹介（赤穂市社会福祉協議会）。
<ul style="list-style-type: none"> ・保護者との接触が無いため、支援はできない。
<ul style="list-style-type: none"> ・住宅支援（公）など声をかけたが、年金を納めていないとのことですのですすめられず。
<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と接することがないため、支援はしていない。
<ul style="list-style-type: none"> ・兵庫県のヤングケアラー相談を通じ、宅食（最長6ヶ月間）利用できるようになった。 ・家庭訪問を繰り返す中で、保護者とつながることができ、家庭の状況や困っていることを知ることができた。
<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の精神的な安定に関する支援（カウンセリング）（しかし、これは、学級担任にとっては、かなりの労力でした。）
<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉協議会リユース品提供の福祉サービスの紹介。

<ul style="list-style-type: none">・教材費等の支払期限を延長する。・福祉等の相談窓口を紹介する。
<ul style="list-style-type: none">・相談機関の紹介を行っている。・申請文書など書き方のサポートを行っている。
<ul style="list-style-type: none">・担任から本人への聞き取りを基に、担任が家庭訪問を行ったり、学年担当や校長が保護者と面談を実施したりするなど、保護者の「困り感」に寄り添い、共有しつつ関係機関との連携がとれるように働きかけている。
<ul style="list-style-type: none">・必要に応じて相談を受け、関係機関等を紹介している。
<ul style="list-style-type: none">・福祉行政、医療機関等と連携。・SC・SSWと連携し、地域との関係改善を行う。

問5

困窮家庭の子どもや保護者を支援する中で、これまでに効果的だったと感じる取組みがあれば教えてください。（自由記述）

回答団体数：33

<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションを図ること。送迎時に声をかけたり、毎日の連絡ノートで子どもの様子を伝えることで、お母さんからコメントを書いてきてくれるようになった。
<ul style="list-style-type: none"> ・学習用品購入時の補助。
<ul style="list-style-type: none"> ・とてもデリケートな面ですので、残念ですが、効果的だったと感じる取組みは特にありません。
<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園や学校にいるときは、家庭の困窮に関わりなく遊びや学習など様々な活動に安心して取り組めるよう配慮した。 ・保護者に対しては、信頼関係を築けるように努め、福祉などの相談機関につないだり、関係機関と連携して保護者に対応するようにした。
<ul style="list-style-type: none"> ・一人親ランドセル補助金。 ・子ども食堂。 ・女子トイレに生理用品を置く。 ・着なくなった体操服や制服、ランドセルを再利用する。
<ul style="list-style-type: none"> ・おたよりをわかりやすく伝える。メモを渡し、個別に知らせる。 ・親子のかかわりの具体的なアドバイスをする。 ・医療機関への連絡（予約）を一緒に行う。 ・子どもの成長を一緒に喜び合う。
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の中でのつながりの強さ。 ・孤独にしない取組。
<ul style="list-style-type: none"> ・行政及び福祉機関との連携。
<ul style="list-style-type: none"> ・困窮家庭の子どもや保護者に接していませんが、そのようなケースがあった場合は、事業所だけで抱え込むのではなく、関係機関と連携を取り合い、それぞれが専門性を発揮するなど、役割分担していくことが重要だと考えています。
<ul style="list-style-type: none"> ・少し意味合いが違いますが、困窮家庭でなくても子どもが精神的に圧迫されている子どもがいることが気になりますので、困窮家庭に拘ることのない活動も視野に入れることで子どもたちに対して、平等感を与えていることは効果があると考えています。
<ul style="list-style-type: none"> ・食糧提供。

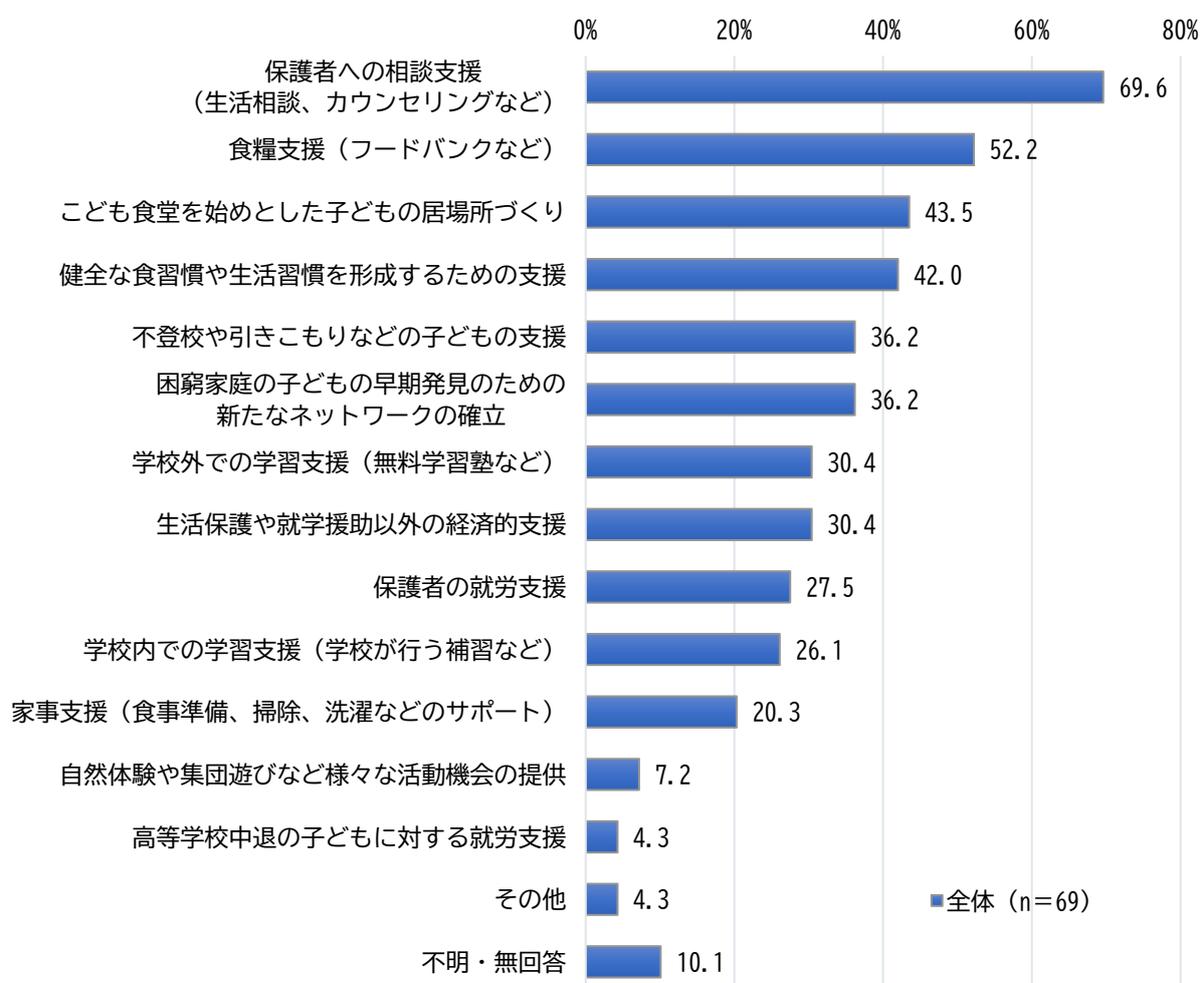
<ul style="list-style-type: none"> ・毎回、まずは保護者との信頼関係を築くことに力を注いでいる。すぐに解決できる小さな困りごと（郵便物の内容確認、ごみの分別等）の支援を根気よく行うことで、大きな課題へのアドバイスに耳を傾けてもらえるようになることも多い。
<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に状況確認（訪問等）。 ・社会資源に関する情報提供。 ・関係機関との連携。
<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣の見直し、定着を図るため、家事支援等の第三者の定期的な介入。 ・所属機関の協力を得ながらの生活改善等の家庭支援。 ・公的扶助等の社会資源の活用。
<ul style="list-style-type: none"> ・気になる子について、職員会議等で話し合っ、職員間で共有し、対策を話し合うことで、支援が出来た。 ・家庭訪問をした事をきっかけに、登園出来たり、集金できたりした。
<ul style="list-style-type: none"> ・以前経済的に支援が必要な児童がいた。服などアフター支援員の不要になったものなど提供したことがある。学校で必要なものなど都合がつくものがあれば持たせたことがある。（工作などで使う空き箱、などお金がかからないものだが。）
<ul style="list-style-type: none"> ・児童相談所を通じて子どもを一時的に預かり、親の就労支援等を行い生活のたてなおしを図る。
<ul style="list-style-type: none"> ・興味のある内容の話をする。
<ul style="list-style-type: none"> ・今までこの件に関する経験はありませんが、効果があるのではと思う事を書かせて頂きます。子ども、家庭の貧困問題が取り上げられ、行政や民間団体による様々な支援の輪が広がってきている。しかし支援は善意に基づいているものである。だからと言って常に効果的又安全とは限らない。ひとつの支援をきっかけに、対象の子ども、家族のかかえる問題の総合的な解決につながればと思います。困窮家庭の問題について、関わった経験はありませんが解決に少しでも役立てばと書かせてもらいます。食を通じた子どもの支援として注目されている「子ども食堂」については小学生又中学生の保護者を対象に食堂の認知や利用について調査の実施、さらに子ども食堂を利用している子ども、保護者に対しての調査を実施してニーズの確認をしてはどうでしょうか。個人情報もあるので難しいとは思いますが「確認」は必要だと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもについては、声をかけつづけることで、よく話をしてくれる（生活状況等）ようになった。
<ul style="list-style-type: none"> ・情報提供（掲示）をしている。※ただし、効果は分からない。
<ul style="list-style-type: none"> ・医療、福祉と連携し、家庭を建て直すことができた。母親、本人も医療機関とつながることができ、福祉サービス（訪問看護）を受けることができ、生徒が登校できるようになった。

<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と学校との関係がうまくいくと、児童の情緒も安定してくる傾向が見られました。まずは、保護者との連携を密にして、保護者とコミュニケーションがとりやすい環境づくりが大切だと感じましたが、いつもそれが可能とは限りませんでした。
<ul style="list-style-type: none"> ・就学支援制度の丁寧な説明による制度利用者の増加。
<ul style="list-style-type: none"> ・全て個別対応になります。 ・効果的だったと感じたことはありません。
<ul style="list-style-type: none"> ・子ども食堂の利用の呼びかけ。 ・社会福祉協議会による食材の提供。 ・要・準要保護申請への呼びかけ。
<ul style="list-style-type: none"> ・食糧支援（教職員の家でとれた野菜を夜に困窮家庭の玄関前にこっそりと置いたことがあります。）
<ul style="list-style-type: none"> ・日頃からの学校・家庭・地域の細やかな連携が不可欠。些細な児童の変化に気づき、連携して早期対応を行うことが可能。
<ul style="list-style-type: none"> ・家庭の状況から見て、保護者が行政機関やその他の関係機関との連携を必要としている場合に、SSWを介して他機関との連携を図り、福祉面での支援が可能になった事案があった。
<ul style="list-style-type: none"> ・フードバンク、子ども食堂の紹介。
<ul style="list-style-type: none"> ・学校では、経済的援助を行うことができないので、関係機関を紹介し、援助をもらった。
<ul style="list-style-type: none"> ・SSWを中心に、市の福祉部局、保健所等連携をとり家庭の支援と、子どもの支援を両方から行う。様々な支援があるが、十分に把握できていない保護者も居るので、いつにどのような支援があるのかを具体的にサポートしていく。
<ul style="list-style-type: none"> ・食糧支援。

問6

困窮家庭の子どもや保護者に対し、どのような支援が必要だと思いますか。(5つまで○)

困窮家庭の子どもや保護者に対し、どのような支援が必要だと思うかについては、「保護者への相談支援（生活相談、カウンセリングなど）」が69.6%で最も高く、次いで「食糧支援（フードバンクなど）」（52.2%）、「子ども食堂を始めとした子どもの居場所づくり」（43.5%）と続いています。



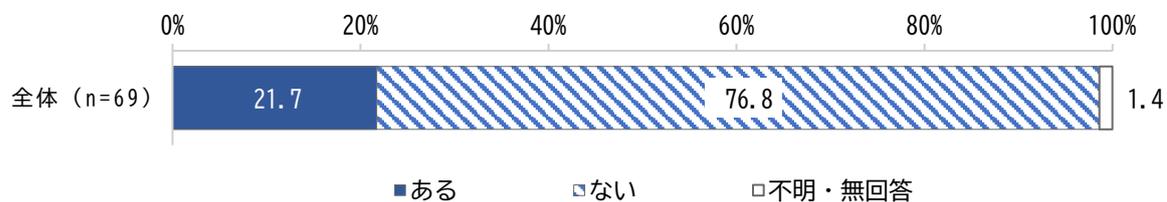
その他の回答

- ・一団体等による支援だけでなく、複数の機関がそれぞれの役割を認識し、適切な時期、支援を協力して行うこと。
- ・貧困家庭の子どもがヤングケアラーにならないためにボランティアなど家事、送迎などの地域毎の支援の仕組。
- ・金銭管理の仕方、お金の使い方をわかってもらう。

問7

貴機関において、日常的に家事や家族の世話等を行っていると思われる子ども（ヤングケアラー）に接することがありますか。（1つに〇）

日常的に家事や家族の世話等を行っていると思われる子ども（ヤングケアラー）に接することがあるかについては、「ない」が76.8%、「ある」が21.7%となっています。



問8	【問7で「1. ある」と答えた方】 貴機関において、ヤングケアラーと思われる子どもであると気づいたきっかけを教えてください。（自由記述）
-----------	---

回答団体数：15

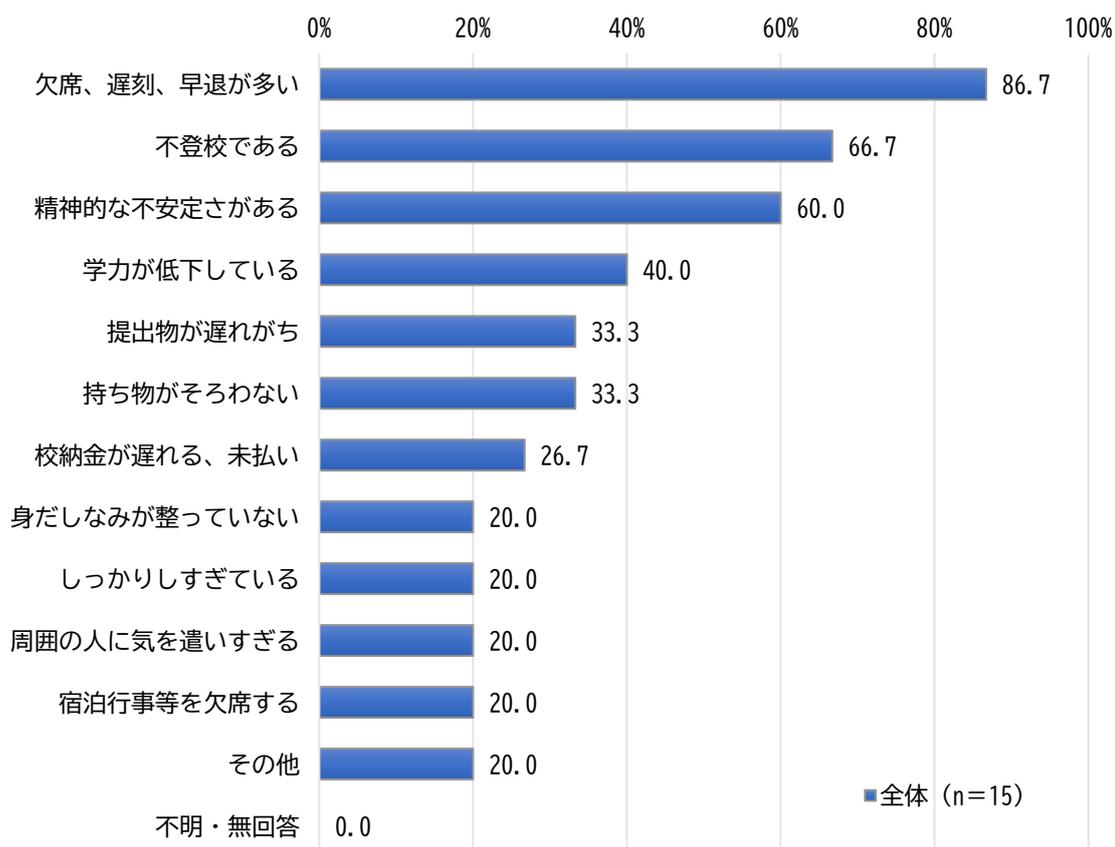
・保健室に来た際に、家での様子について話をした時に気付いた。
・児童からの聞き取り及び保護者面談。
・関係機関からの情報提供。
・家庭訪問による保護者からの家庭状況の聞き取り。
・保育所に通所している弟を毎日送迎し、持ち物の準備・片付けなどの世話をしてくれている。
・姉が弟の園への送迎をしている。話題の中で「弟の食事の世話をしている」と姉が言っている。
・保護者との連絡のなかで。
・会話の中で「ゴミ出し」を日常的に行っていることがわかった。「手伝い」の認識がある（本人たち）（小4、小3の兄弟）が保護者ができることを考える。ランドセルを背負いゴミを持つ姿に同級生も違和感を持っている。
・対話する中で。
・民生委員からの情報や警察などからの連絡（子どもが補導される）から知った。
・学校や関係機関からの話。
・小学校から年下の兄弟のお世話をして遅刻が多いと地域サポート会議で名前があった。
・本人の訴えから気づくことができた。
・欠席日数が多く、規則正しい生活習慣が身についていない。 ・家庭内にいる姪の育児に関わることが多い。
・学校を欠席する理由を「弟の世話」と発言した。

問9

【問7で「1. ある」と答えた方】

ヤングケアラーには、具体的にどのような状況がありますか。
(当てはまるものすべてに○)

ヤングケアラーの具体的な状況については、「欠席、遅刻、早退が多い」が86.7%で最も高く、次いで「不登校である」(66.7%)、「精神的な不安定さがある」(60.0%)と続いています。



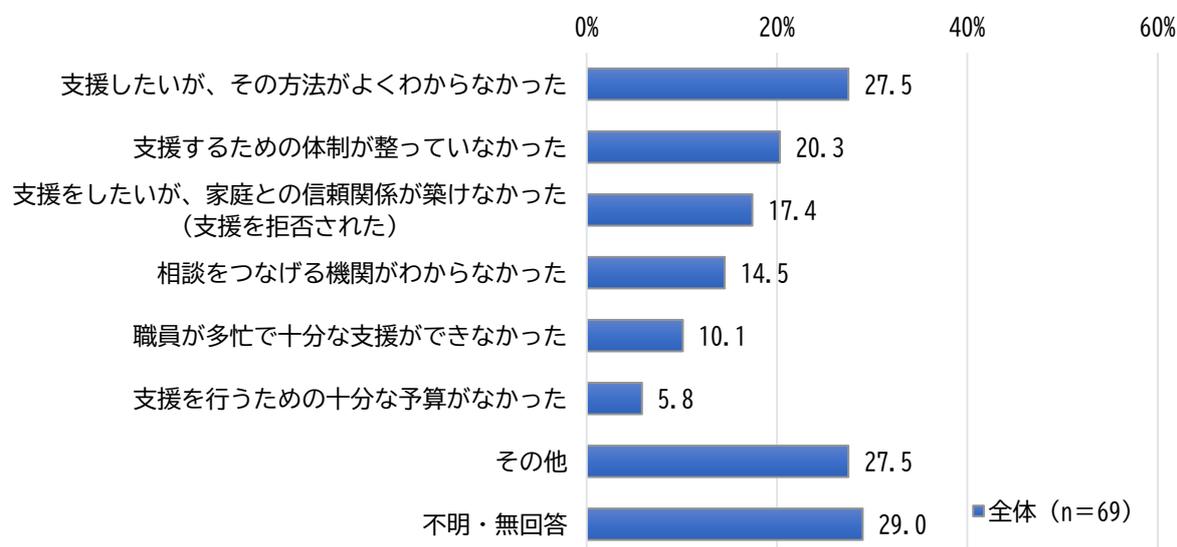
その他の回答

- ・きょうだいの身の回りの世話をすることが恒常的になっている（世話が問題でなく保護者がすべきとこまで過度に関わっていることが問題と思われる。）
- ・食事が適当、部屋に閉じ込もっている。
- ・ひとり親家庭。

問 10

困窮家庭の子どもや保護者及びヤングケアラーに対する支援を行う中で、特に悩んだり困ったことはどのようなことですか。（当てはまるものすべてに○）

支援を行う中で、特に悩んだり困ったことについては、「支援したいが、その方法がよくわからなかった」が27.5%で最も高く、次いで「支援するための体制が整っていなかった」(20.3%)、「支援をしたいが、家庭との信頼関係が築けなかった（支援を拒否された）」(17.4%)と続いています。



その他の回答

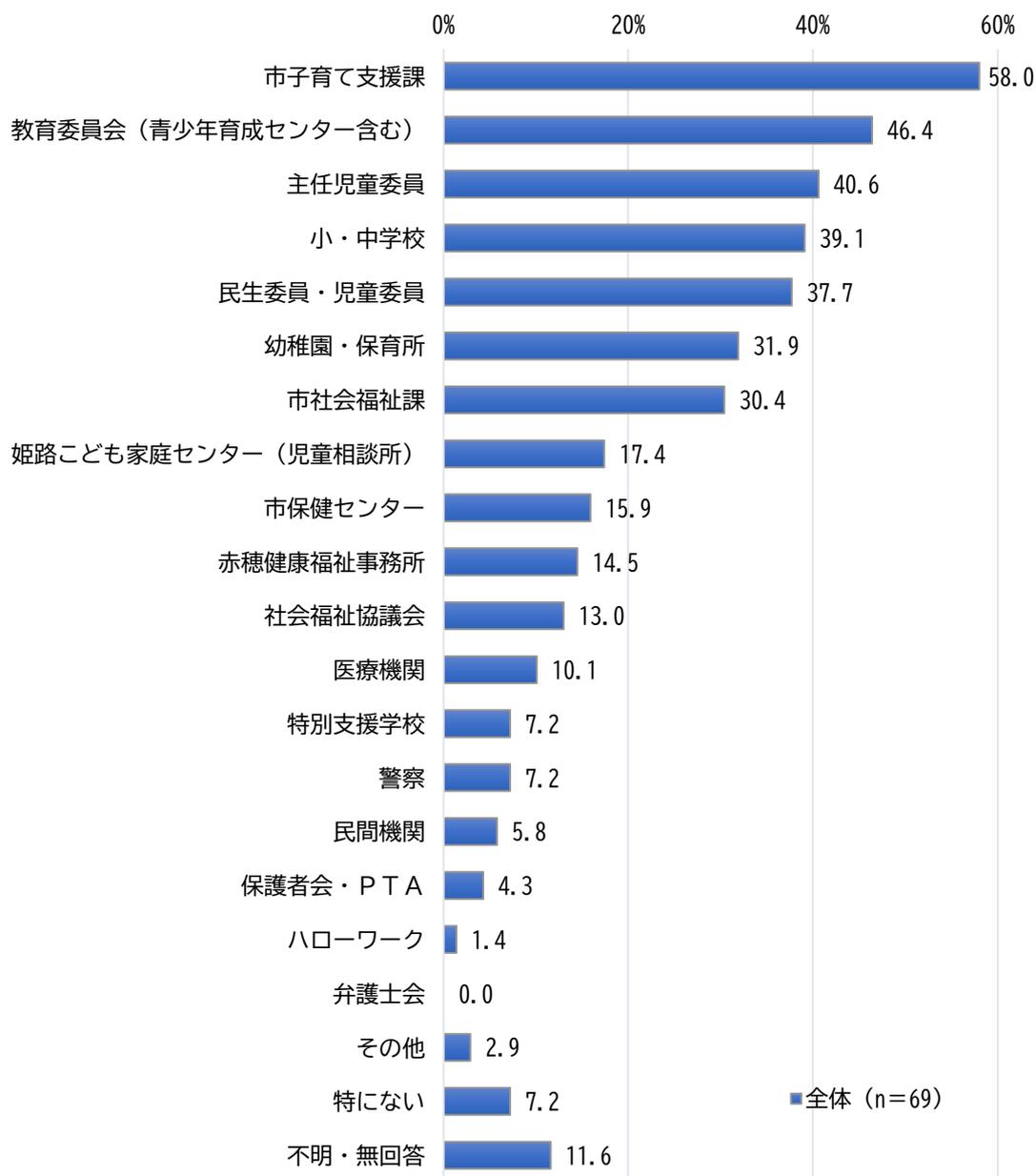
- ・関係機関との連絡が取りにくかった。保育所での様子は聞かれるが、関係機関が保護者とどのような面談をしたのかは聞かないと教えてもらえない。
- ・過去にヤングケアラーと思っても、保護者が認めていないので、話をすることや支援をすることは難しかった。
- ・保護者がその時何が一番困っているのかを理解することができなかった。
- ・①（支援したいが、その方法がよくわからなかった）とつながることではあるが、今、与えたり手出しをしたりすることが望ましい支援なのか、その家庭が自立にむけて継続的に救われる支援として何ができるかに悩む。
- ・その都度、学校園（組織）として、できる限りの対応をし、保護者や子どもが少しでも安心して学校生活を送ることができるよう努めた。
- ・こちらは、支援したい・支援しようとしているが、保護者の方があまり望んでいない。
- ・既に他機関には相談済で、「支援策がない」「断られた」と言われ、紹介できる相談先がなかった。
- ・食料や制度の支援ではなく、用途が不明確な「お金」を希望された。
- ・他機関と情報共有すると、内容が異なっていた（本心を打ち明けていない（打ち明けられていない））。
- ・保護者の確認ミスや自己責任であっても、「対応が遅い」「何とかしろ」という要求があった。
- ・養育能力が低い家庭への児に必要な訪問頻度。

<ul style="list-style-type: none"> ・子どもがヤングケアラーの状態となっていることに対し保護者の理解が得られなかった（現状の認識のなさ）。
<ul style="list-style-type: none"> ・祖父母などは話を聞いてくれるが、息子（児童の父）たちの考えなのでと言われることもあった。
<ul style="list-style-type: none"> ・初め、支援を拒否されることがあったが、次第に信頼関係ができ、困り事を言ってくれるようになった（時間がかかった）。
<ul style="list-style-type: none"> ・訪問時、保護者との会話があいさつくらいで相談には、ならなかった。
<ul style="list-style-type: none"> ・SCやSSW、市との連携を図り取組を進めるが、家庭生活に係るケアを学校で担っていくのは難しく、負担が大きい。
<ul style="list-style-type: none"> ・これまでも、現在も、具体的な支援が必要な児童はいない。
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の体調や家庭内の状況を把握することが難しく、対応が遅れてしまうこともあり得る。また、保護者自身がヤングケアラーについてまったく理解していない事案もある。

問 11

困窮家庭の子どもや保護者及びヤングケアラーに対する支援を行う上で、連携している機関や団体などがありますか。(当てはまるものすべてに○)

支援を行う上で、連携している機関や団体などについては、「市子育て支援課」が58.0%で最も高く、次いで「教育委員会（青少年育成センター含む）」(46.4%)、「主任児童委員」(40.6%)と続いています。



その他の回答

・子ども食堂、フードバンク

問 12

困窮家庭の子どもや保護者の支援について、ご意見等があればご自由にお書きください。(自由記述)

回答団体数：30

- ・とても難しい問題ではあるが、もしも、そのような家庭などの情報を得た時は、一人ではできることが限られるのですぐに相談し、連携できる機関と協力しながら支援できればと思う。また、保育所としてできることはお預かりしているお子さんが健全な生活と安心して楽しく過ごせるようサポートしていければと思っている。
- ・幸いなことにここ最近は困窮家庭に実際に出会ったことはありませんが、虐待の家庭のケースについて、市の子育て支援課に相談したときに、相談員の方の人数が少ないと思いました。大変、激務な仕事だと思いますので、適切な支援が出来るよう充実していただきたいと思っています。
- ・保護者が隠そうとしたり、自分がこのような状況（ヤングケアラー）に当てはまるという意識がない方が多いため、関わりが難しい。
- ・普段から子どもや保護者の様子等について少しの変化も見逃さないよう職員間で情報共有を行うとともに、関係機関と連携をとり必要に応じて紹介を行う。
- ・気になる子どもや家庭があるとき、子どもも保護者も実情を言いにくい雰囲気があり、何もありませんと言われることがあった。子どもや保護者との信頼関係を壊さないように、必要な支援は受けるべきであることを伝えることの難しさを感じる。気軽にだれもがその支援を受けているような、オープンな雰囲気が広がればよいと感じる。
- ・幼稚園職員として、どのあたりまで踏み込んでかかわっていくのがよいのか、難しいと感じる。こちらが必要だと思うこと（かかわり・アドバイス・個別の対応）でも、その家庭からするとほしくないと思うところもある様子。加減が難しい。
・専門機関との連携も家庭によってどの程度までの連携がよいのか、迷うところもある。
- ・マズローの欲求5段階説に従うと、生理的欲求や安全の欲求などが満たされなければ、いくら小学校で承認欲求や自己実現欲求を育てようとしても支援が届かなくなる。そう考えると、生活基盤の強化は何より必要である。そのためにも、貧困の連鎖が起きないように、早期の手厚い支援が望まれる。
- ・困窮家庭と言われる家庭において、保護者に疾病や生活の困難につながる障がい特性があることから、就労が難しく生活が困窮している方もいれば、お金の管理のバランスが悪いため、必要な支払いが滞ってしまったり、結果的に借り入れが多くなってしまったりすることから、生活がしんどい家庭があると思われる。それぞれの、生活上のしんどさの背景を見極めて、適切な支援につながって欲しいところだが、当事者自身が声を上げる場合、どこにどのように伝えれば良いのかわからないケースも多いと思われるので、当事者がヘルプを出して支援を見つけるための、一本化された総合的な受付窓口が必要と考える。総合的な受付窓口から、必要な支援につながるしくみ作りをお願いしたい。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 困窮家庭の保護者が自発的に他機関にヘルプを出せる環境か、もしくは該当者の考え方によって「ヘルプを出さない」選択をあえてする家庭の子どもを支える環境はあるのか？色々と難しい課題が潜んでいると思います。 例えば「食事がとれていない理由＝困窮」とも限らない「衣服が汚れている＝困窮」とも限らない。お金があっても食事を与えられない、風呂等に入らない家庭もあると思います。理由が何なのかをきちんと知る必要もあると思いますが、子どもにとっては「子どもに降りかかっている事実そのもの」が問題であると思うので、できればこの「困りごと」にピントを合わせながら対応できる環境も同時にあったらいいなと思います。「医療ケア児」「貧困問題」「虐待」「育児放棄」「ヤングケアラー」色々な理由があると思いますがどんな理由であっても「こんな困りごとがあったらサポートしますよ。」という発信と共に子どもにでもわかりやすく利用しやすいものであるといいと思います。普段から困っていなくても行くことのできるなじみの場所になれば困ったときに子どもの判断で利用ができるのかなとも思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 普段保護者とかかわるなかで、当事業所を利用しているお子さんに関する困りごとや悩みごとだけでなく、家庭内での困りごとも含め何でも気軽に相談できる関係性を築くことで、早期の支援につながるのではないかと思う。相談を受けた際に、できるだけ早い対応につながるよう、相談の場の情報を知っておく必要があると感じる。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者の金銭感覚に疑問を感じることもある（子どものために使ってほしい） ・ 保護者が多忙であることは理解できるが、書類作成や提出締切が守れない等、ルーズな面が見受けられるケースもあり、支援が停滞、遅れることがある。それにより子どもへ必要な支援が行き届かなかったことを、支援者へ責任転嫁されることもある。 ・ 各機関で関わっているケースを話し合う場（ケース検討のような場）はあるのか。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活困窮は直ぐに抜け出せるものでなく、各種サービスや支援を利用しながら、徐々に状況の改善、脱却に向け努力していくしかないと思います。 また、状況が改善されたとしても、それを維持できるだけの力を同時に養えるよう、支援機関が協力し家庭を支えていく必要があると思います。 ・ 親子双方がヤングケアラーということに気づいていない状況もあり、ヤングケアラーの状態になっていることの認識をしっかりとってもらうこと、解決に向け、行政を始めとする様々な支援サービスを頼ってよいことを伝え、考え方、行動を変えていく必要があるかと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・ プライバシー保護の関係でどこまで介入出来るかすごく迷うところです。自主的に相談してもらえる様、信頼関係を構築していくことが基本だと思う。孤立しない状態が大切です。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 経済的には困っていないが、児童のこと（生活、学習全般）には「人まかせ」の保護者が増えてきているように思う。親世代への教育的な支援も必要ではないかと考える。SSWの先生との意見交換を行っている。今後も続けていきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 早期発見。子どもが「支援してほしい」と言える関係をもつ。「何をしてほしいのか」が発言できる人や場所を明確にしてほしい。

<ul style="list-style-type: none"> ・小学校区に1つ学習支援や子ども食堂などの子どもが行きやすい居場所づくりを設置してほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・なかなかそういう方に接する事がないので、分からないのですが、ヤングケアラーの立場の方も身分が、そうであると言う事が分かっていないように思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・家事支援のサービスを格安で受けられるように、学校でのアンケート等で「家庭で困っている事がないか」等と聞いてもらって発見につなげる。
<ul style="list-style-type: none"> ・困窮家庭やヤングケアラーは、直接相談などが無い限り、私が発見することはできないと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・学校での対応では限界がある。特別支援学校にはスクールソーシャルワーカーが配置されていない。多くの福祉機関、行政機関が存在する中で、どこに問い合わせをしたら個々の問題に対応してもらえるのか分からない。 ・家庭全体の支援が必要な場合多くの方々と連携し合い、学校ができることを積極的に取り組んで行きたいと思っています。今後ともよろしくお願いします。
<ul style="list-style-type: none"> ・多くの事例を考えてみますと、保護者の情緒面に課題が見られる場合が多いです。病院との連携が不可欠であると考えますが、保護者がそのことについて自覚できていない場合もあります。「赤穂市役所子育て支援課」や「姫路こども家庭センター」の皆様にはたいへんお世話になっていますが、連携する幅や連携する人員を拡大する必要があると考えます。
<ul style="list-style-type: none"> ・学校だけでの支援には限界があり、不十分なため、今後も関係機関との情報連携・行動連携の充実が必要である。
<ul style="list-style-type: none"> ・教職員は該当児童にかかわろうとしているが、時間的な制約もあり十分な対応ができない。
<ul style="list-style-type: none"> ・児童の学習や学校生活に係るケアは、学校が担うべき部分と考えるが、家庭生活や就労に係るケア、またその実態把握について学校が担うには負担が大きい。市の福祉課や子育て支援課等が積極的に動いてくださっているが、まず、家庭の生活状況をよくしていくことが優先課題となるので、それぞれの機関の役割や関わり方についてフローチャートのような形でまとめ、関係機関の相互理解を図れるようにすることが大切なのではないかと考える。
<ul style="list-style-type: none"> ・困窮家庭、ヤングケアラーを確認できた場合には、外部の機関や団体と連携を密にして、その解消に努めたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・学校は、子どもの不安や不安定さ、変化に一番気付きやすい場所である。ただ、困窮家庭やヤングケアラーの課題は、学校だけで解決できることではないので、福祉、医療などの機関との連携が大事である。 ・学校は、さまざまな課題がある家庭で過ごす児童も含め、全ての児童が「子どもらしく、のびのびと、安心して、楽しく学校生活を送ることができる」環境を整えることが大事だと考える。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・子どもの「困り感」と保護者の「困り感」に差異を感じる。必ずしも、保護者が関係機関との連携を必要としているケースばかりではない（過去に、関係機関とうまくいかなかった、もめた事案がある等）。・学校としては、子どもたちのためになることは、担任や学年団を中心として、全職員で共通理解を図りつつ対応しているが、全容がつかめない場合もある。 |
| <ul style="list-style-type: none">・子ども家庭センターと情報共有をした方が良い。必要な情報が入りにくい。後になってから分かったことがある。 |
| <ul style="list-style-type: none">・学校が行える支援には限界があり、無力さを感じることもある。 |
| <ul style="list-style-type: none">・相談窓口がどこになるのかが分かりにくい。現状であれば SSW に依頼し子育て支援課、福祉、保健所等と連携をとって進めて行く。個々により状況が違うので臨機応変に対応をしていかなければならない。 |

第7章

こども・若者に関する調査

第7章 子ども・若者に関する調査

調査概要

調査の目的： 「こども基本法」では、こども施策を策定し、実施し、評価するに当たっては、対象となるこども等の意見を反映させるために必要な措置を講ずることとされています。

本調査は、こども・若者の生活状況や意識、将来の生活設計などを把握するとともに、率直な意見を聴取することにより、「(仮称)赤穂市こども計画」策定に向けた基礎資料とすることを目的としています。

調査の対象： 赤穂市内在住の15～39歳の若者のうち無作為で抽出した1,000人

調査の方法： 郵送配布
WEB 回答

調査の期間： 令和6年6月21日～7月21日

回収の結果：

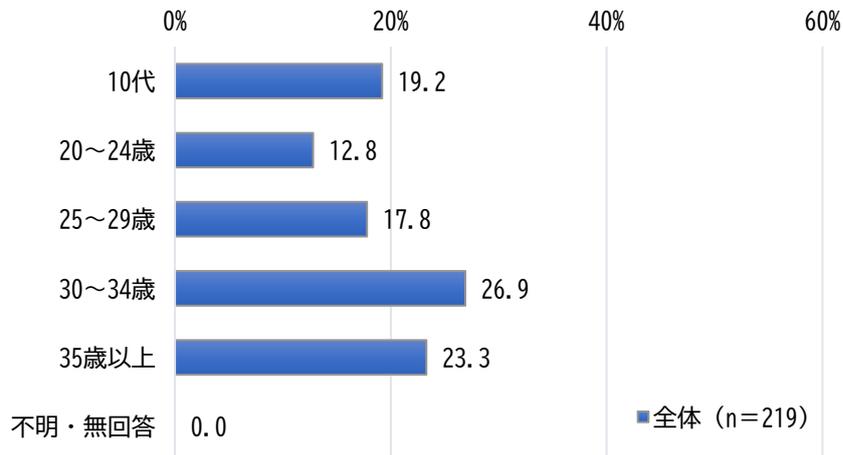
配布数	回収数(有効回収数)	回収率(有効回収率)
1,000件	219件(219件)	21.9%(21.9%)

自身の状況について

問 1

令和6年4月1日時点でのあなたの年齢を教えてください。

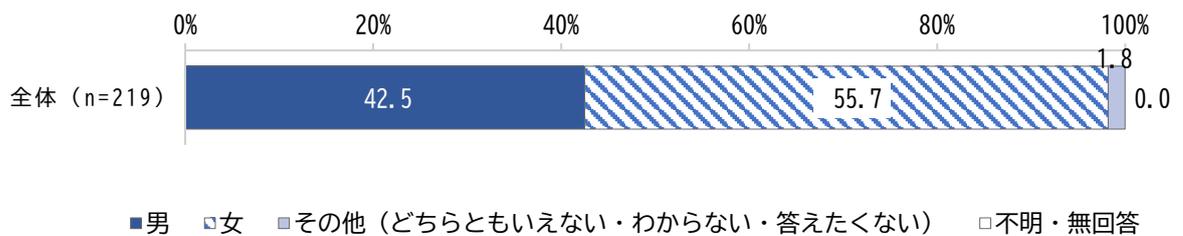
年齢については、「30～34歳」が26.9%で最も高く、次いで「35歳以上」(23.3%)、「10代」(19.2%)と続いています。



問 2

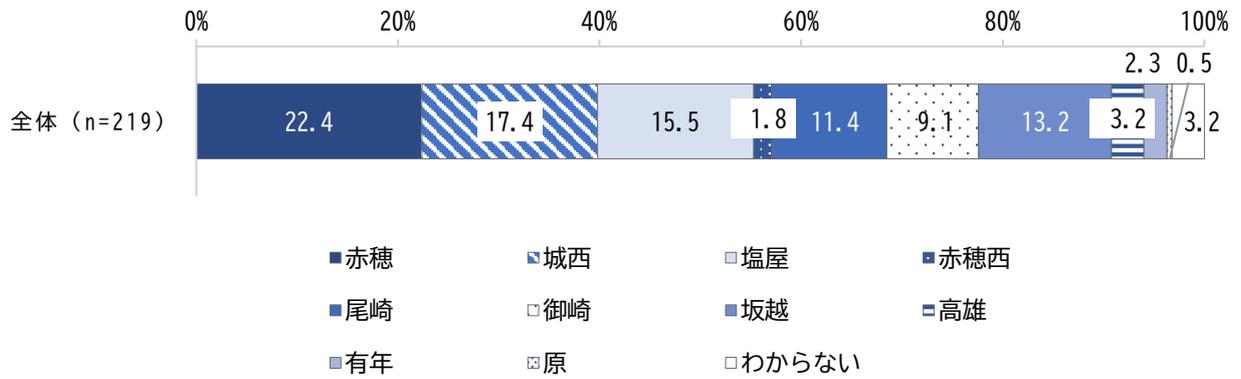
あなたの性別を教えてください。(○は1つ)

性別については、「男」が42.5%、「女」が55.7%となっています。



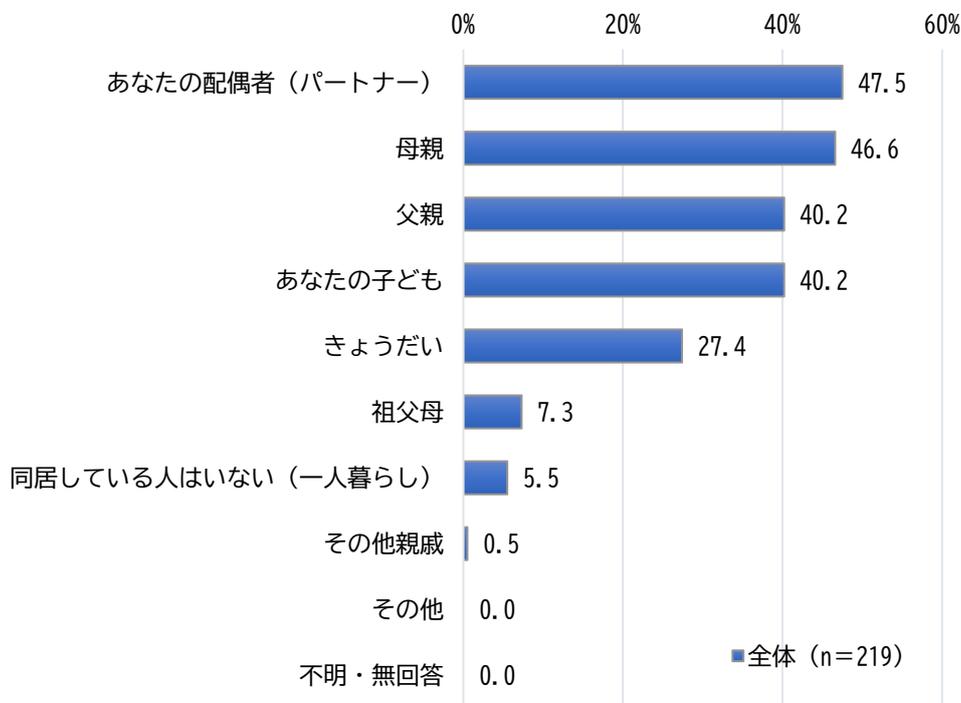
問3 お住まいの小学校区についてお答えください。(1つに○)

お住まいの小学校区については、「赤穂」が 22.4%で最も高く、次いで「城西」(17.4%)、「塩屋」(15.5%)と続いています。



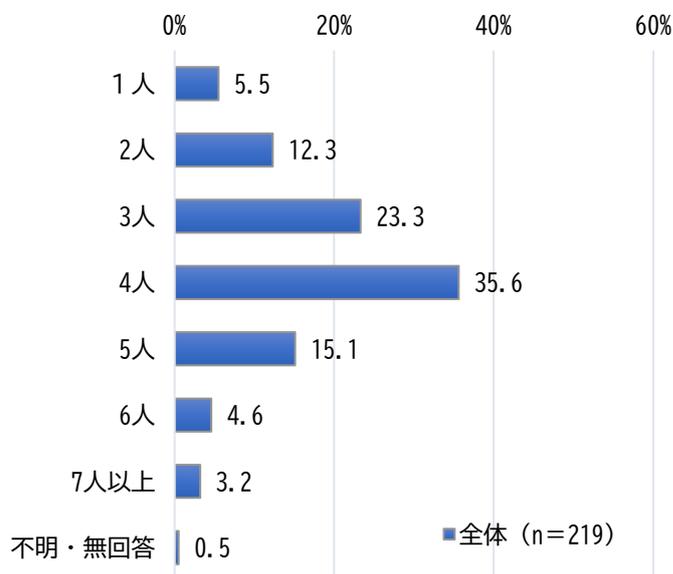
問4 現在、あなたが一緒に住んでいる人をすべて選んでください。(あてはまるものすべてに○)

一緒に住んでいる人については、「あなたの配偶者 (パートナー)」が47.5%で最も高く、次いで「母親」(46.6%)、「父親」「あなたの子ども」(40.2%)と続いています。



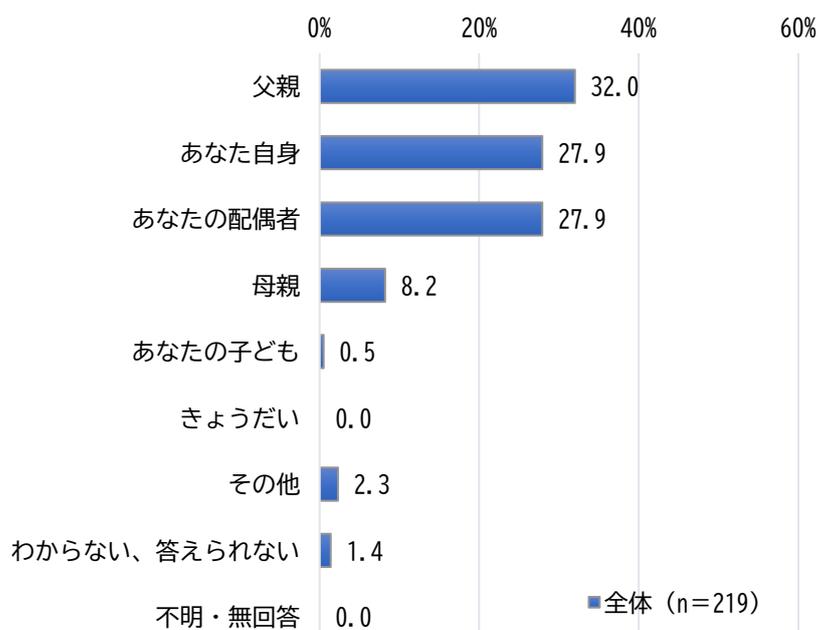
問5 一緒に住んでいる家族は、全部で何人ですか。(数値を記入)

一緒に住んでいる家族の人数については、「4人」が 35.6%で最も高く、次いで「3人」(23.3%)、「5人」(15.1%)と続いています。



問6 生計を支えている方は主にどなたですか。また、仕送りで生計を立てている方は、その仕送りを主にしてくれている人をお答えください。(1つに○)

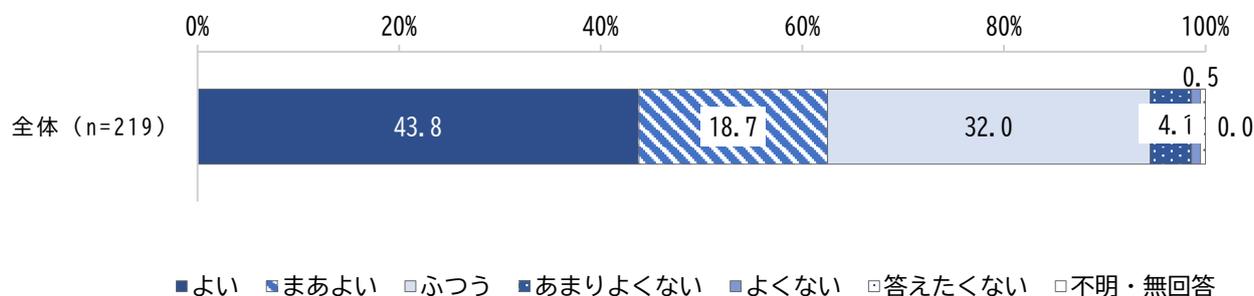
主に生計を支えている人については、「父親」が 32.0%で最も高く、次いで「あなた自身」「あなたの配偶者」(27.9%)、「母親」(8.2%)と続いています。



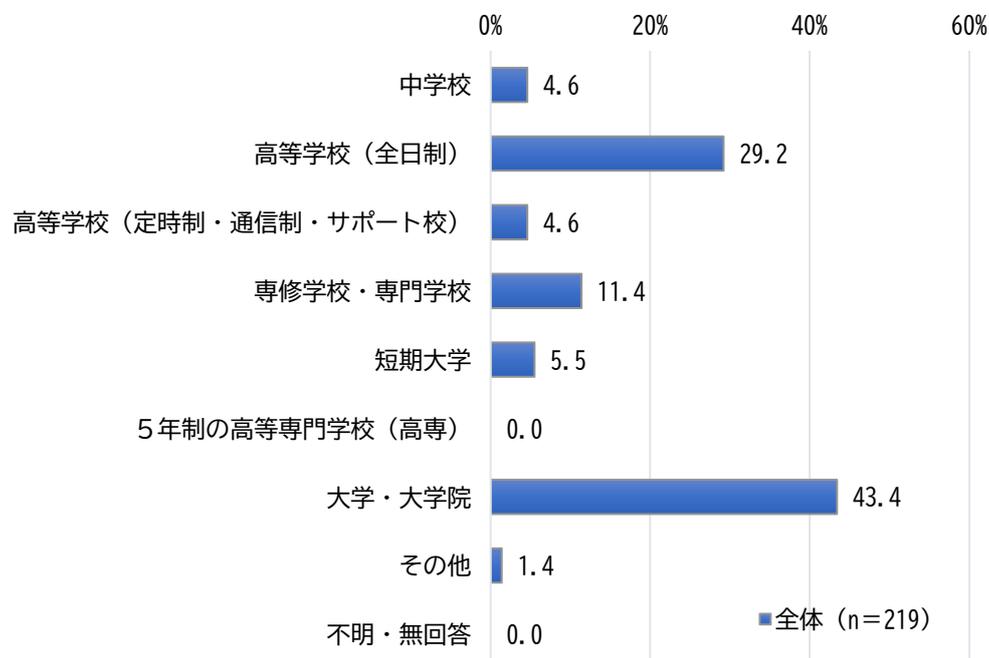
【その他】・共働き ・折半

問7 あなたの健康状態について教えてください。(1つに○)

健康状態については、「よい」が43.8%で最も高く、次いで「ふつう」(32.0%)、「まあよい」(18.7%)と続いています。


問8 あなたが最後に卒業（中退を含む）した学校はどこですか。在学中の方は、現在在学している学校をお答えください。(1つに○)

最後に卒業した学校については、「大学・大学院」が43.4%で最も高く、次いで「高等学校（全日制）」(29.2%)、「専修学校・専門学校」(11.4%)と続いています。

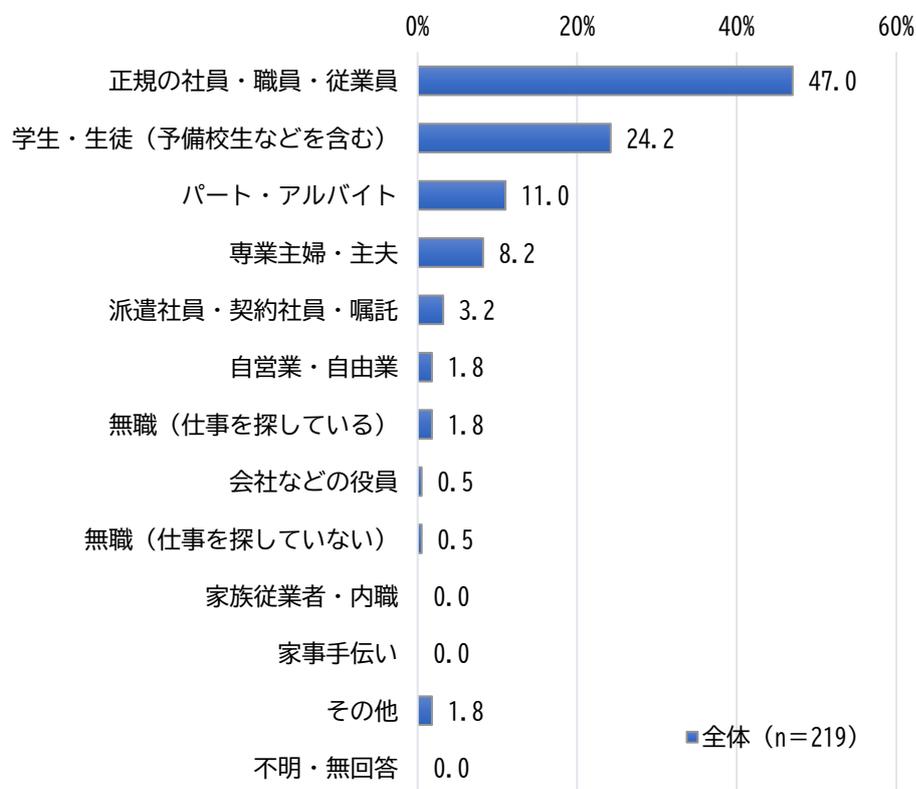


【その他】・特別支援学校

問9

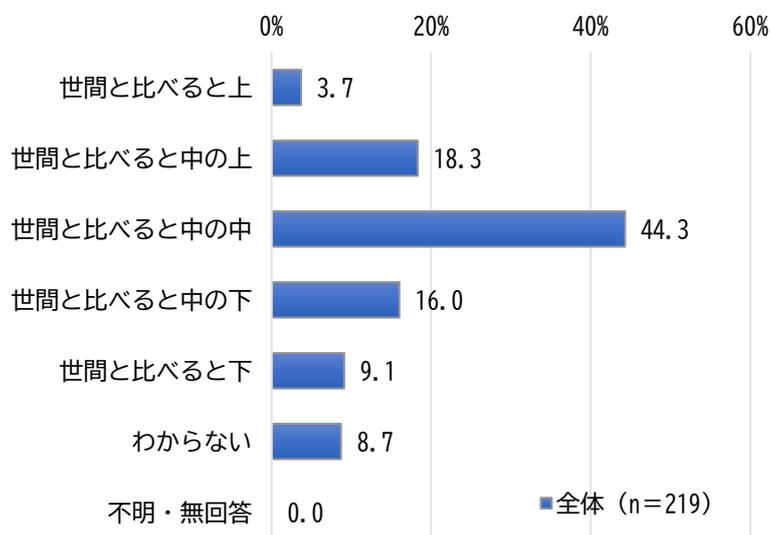
あなたの現在の仕事をお答えください。(あてはまるものすべてに○)

現在の仕事については、「正規の社員・職員・従業員」が 47.0%で最も高く、次いで「学生・生徒（予備校生などを含む）」(24.2%)、「パート・アルバイト」(11.0%)と続いています。

**問10**

あなたの現在の生活水準（衣・食・住・レジャーなどの物質的な生活水準）は、世間一般と比べて、上から下までのどれにあたると思いますか。あなたの実感でお答えください。(1つに○)

現在の生活水準については、「世間と比べると中の中」が 44.3%で最も高く、次いで「世間と比べると中の上」(18.3%)、「世間と比べると中の下」(16.0%)と続いています。

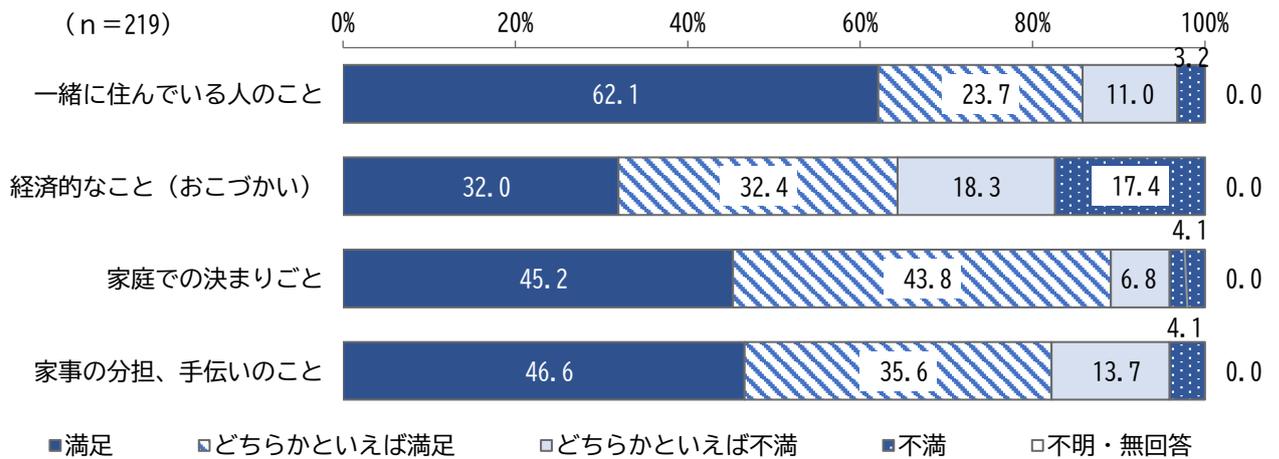


普段の生活について

問 11

あなたは、家での生活に満足していますか。
(それぞれについて、あてはまる番号1つに○)

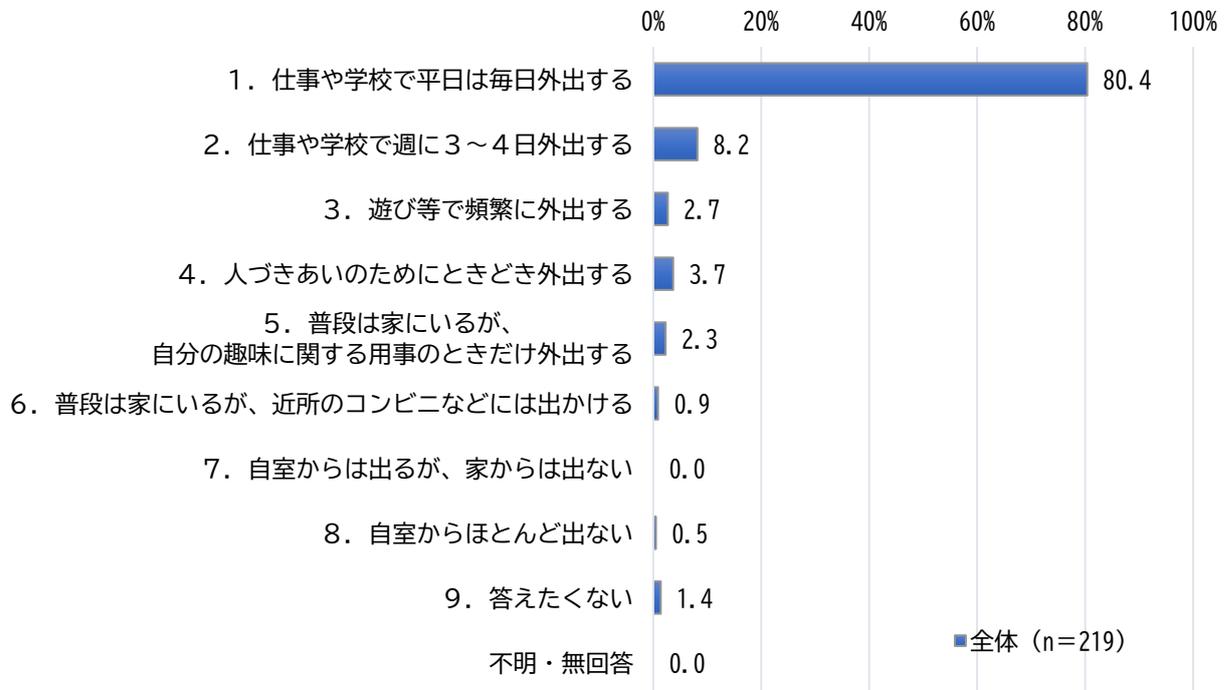
生活の満足度については、「満足」+「どちらかといえば満足」が「一緒に住んでいる人のこと」で 85.8%、「経済的なこと（おこづかい）」で 64.4%、「家庭での決まりごと」で 89.0%、「家事の分担、手伝いのこと」で 82.2%となっており、「経済的なこと（おこづかい）」を除いて8割を超えています。



問 12

あなたは普段、どのくらい外出していますか。(1つに○)

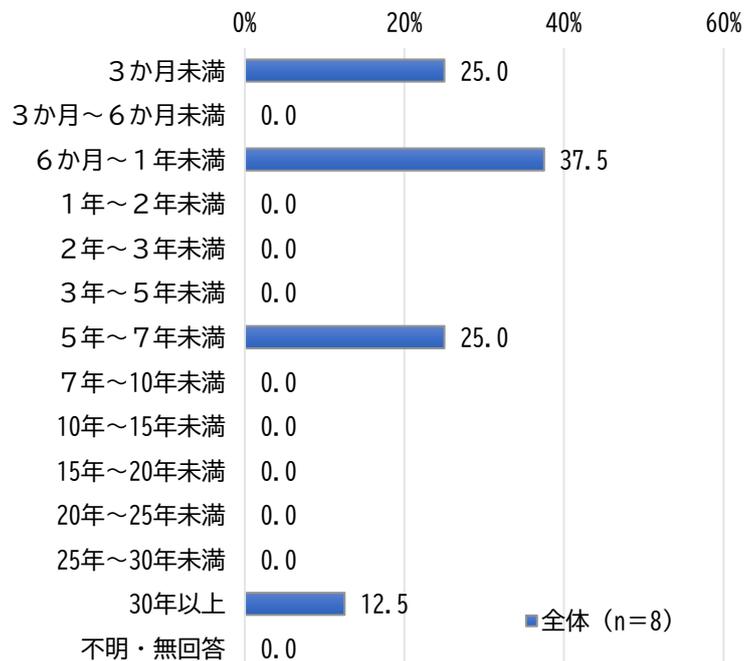
普段の外出頻度については、「仕事や学校で平日は毎日外出する」が 80.4%で最も高く、次いで「仕事や学校で週に3～4日外出する」(8.2%)、「人づきあいのためにときどき外出する」(3.7%)と続いています。

**問 13**

【問12で「5.」～「8.」に○をつけた方にうかがいます。】

あなたの外出状況が現在の状態となって、どのくらい経ちますか。(1つに○)

外出状況が現在の状態になってどのくらい経過したかについては、「6か月～1年未満」が 37.5%で最も高く、次いで「3か月未満」「5年～7年未満」(25.0%)、「30年以上」(12.5%)と続いています。



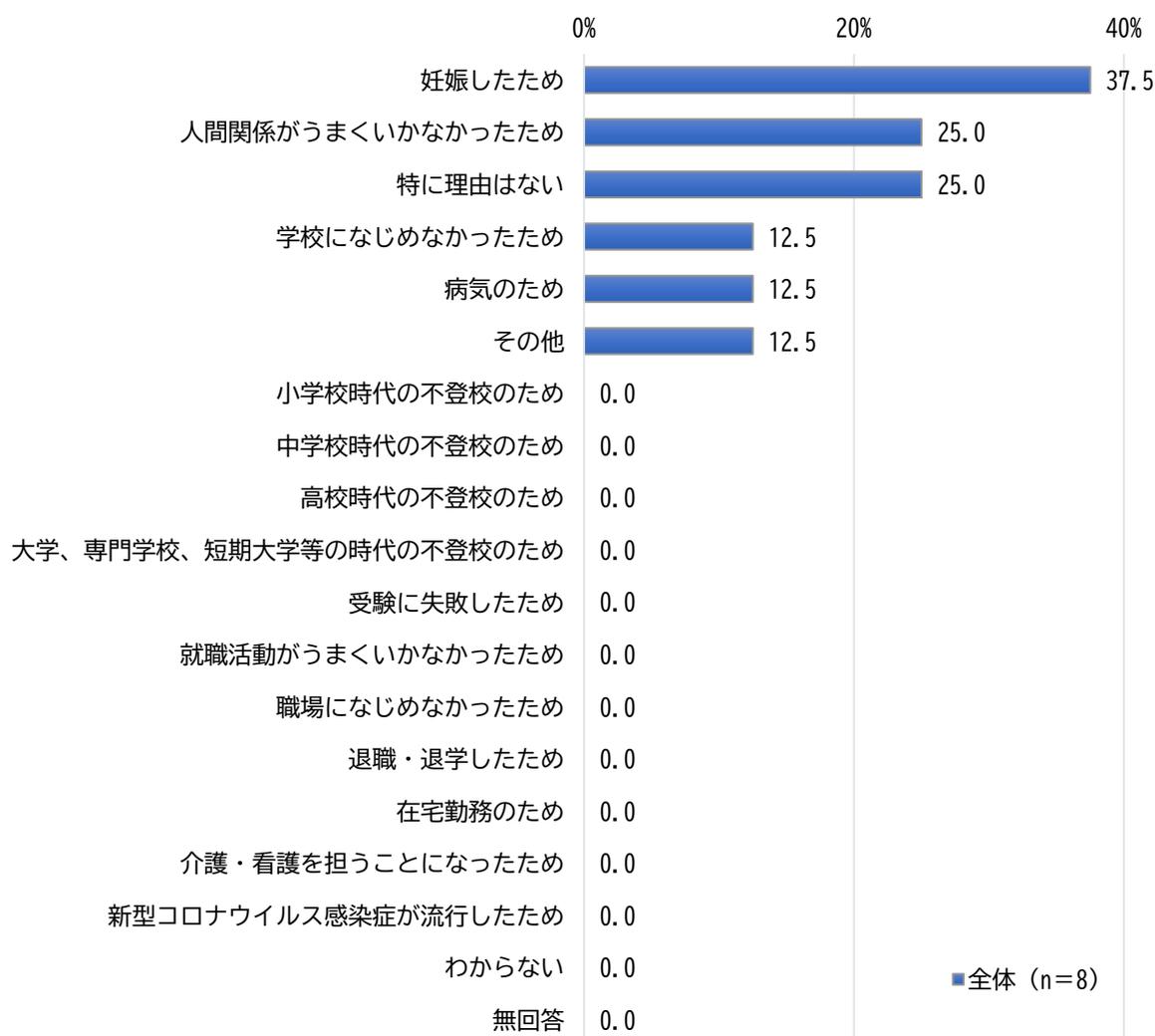
問 14

【問12で⑤～⑧に○をつけた方にうかがいます。】

あなたの外出状況が現在の状況になった主な理由は何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

外出状況が現在の状況になった主な理由については、「妊娠したため」が 37.5%で最も高く、次いで「人間関係がうまくいかなかったため」「特に理由はない」(25.0%)、「学校になじめなかったため」「病気のため」(12.5%)と続いています。



【その他】・育児のため

「居場所」について

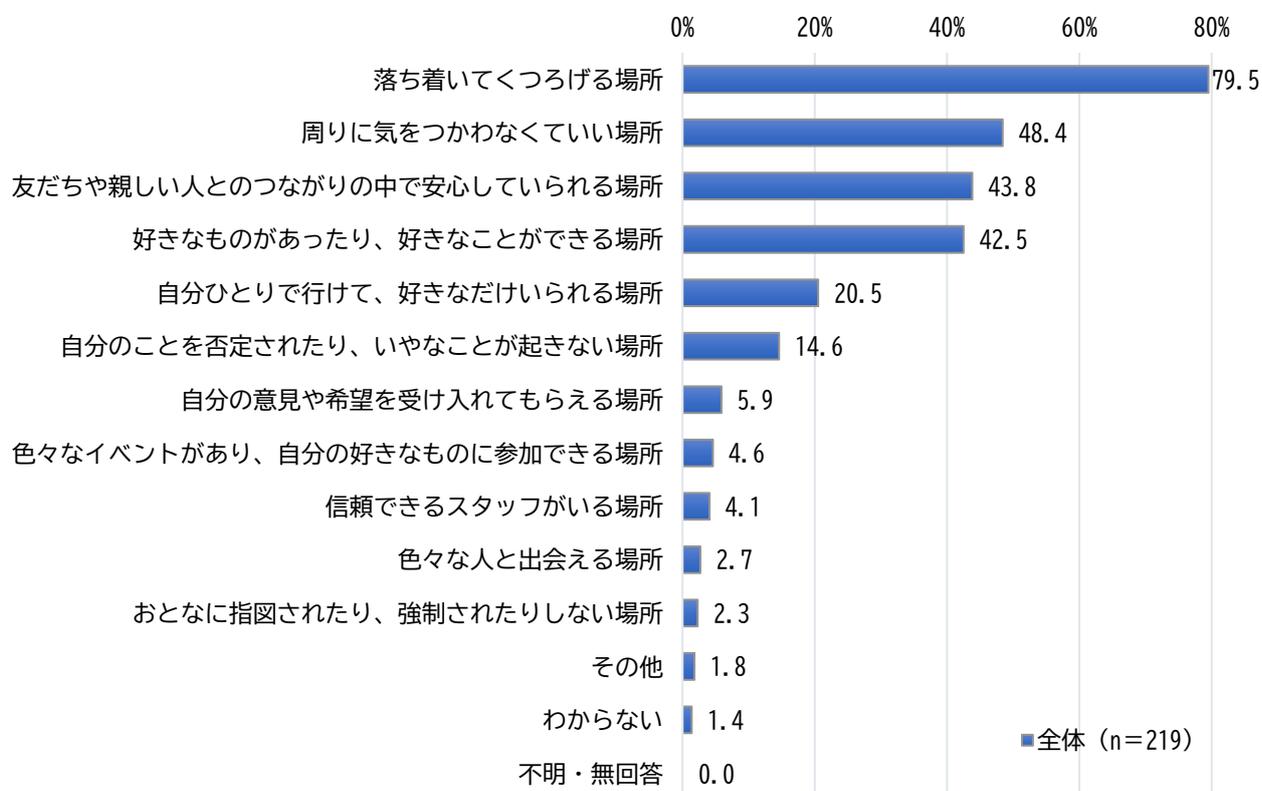
問 15 あなたは、孤独であると感じることがありますか。(1つに○)

孤独であると感じることがあるかについては、「ない」が 37.0%で最も高く、次いで「ほとんどない」(28.3%)、「たまにある」(21.5%)と続いています。



問 16 あなたは、「居場所」とはどんなところだと思いますか。(あてはまるもの3つまでに○)

どんなところを居場所だと思うかについては、「落ち着いてくつろげる場所」が 79.5%で最も高く、次いで「周りに気をつかわなくていい場所」(48.4%)、「友だちや親しい人とのつながりの中で安心していられる場所」(43.8%)と続いています。

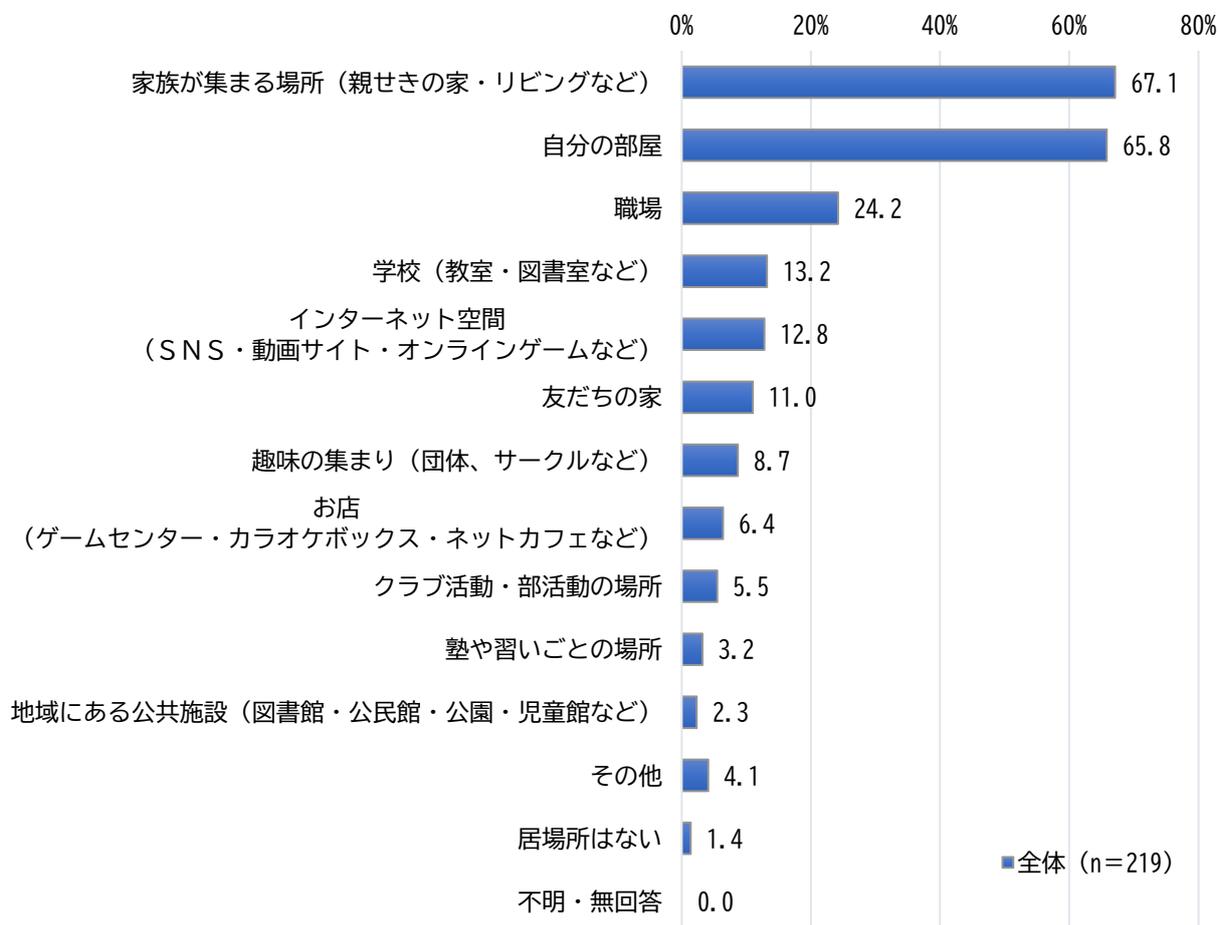


【その他】・家族がいるところ ・家 ・人から干渉されない所

問 17

あなたにとっての「居場所」は、次のうちどこですか。（あてはまるもの3つまでに○）

居場所については、「家族が集まる場所（親せきの家・リビングなど）」が67.1%で最も高く、次いで「自分の部屋」（65.8%）、「職場」（24.2%）と続いています。



【その他】

- ・一人で入るお風呂、トイレ ・車の中
- ・友人や家族という空間そのもの ・兄弟と一緒にの寝室

家族、友人等とのかかわりについて

問 18

あなたが先週1週間で、家族と一緒に朝食や夕食を食べた日数を教えてください。
(1つに○)

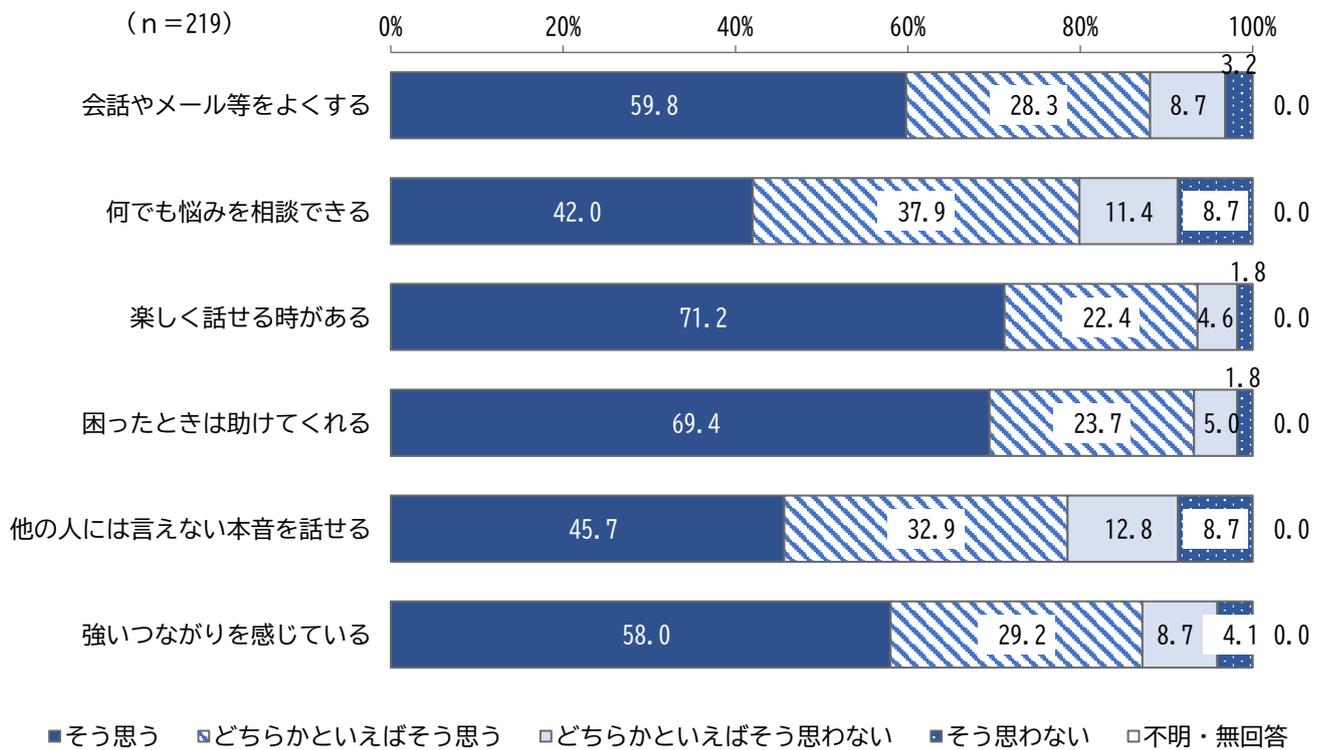
家族と一緒に食事をした日数については、「毎日」が63.9%で最も高く、次いで「週に5、6日」(13.7%)、「週に3、4日」「家族と一緒に食事をしていない」(7.8%)と続いています。



問 19 家族とあなたのかかわりはどのようなものですか。
 (それぞれについて、あてはまる番号1つに○)

項目別にみると、「(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う)」については、「楽しく話せる時がある」が93.6%で最も高く、次いで「困ったときは助けてくれる」(93.1%)、「会話やメール等をよくする」(88.1%)と続いています。

(「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない)」については、「他の人には言えない本音を話せる」が21.5%で最も高く、次いで「何でも悩みを相談できる」(20.1%)、「強いつながりを感じている」(12.8%)と続いています。

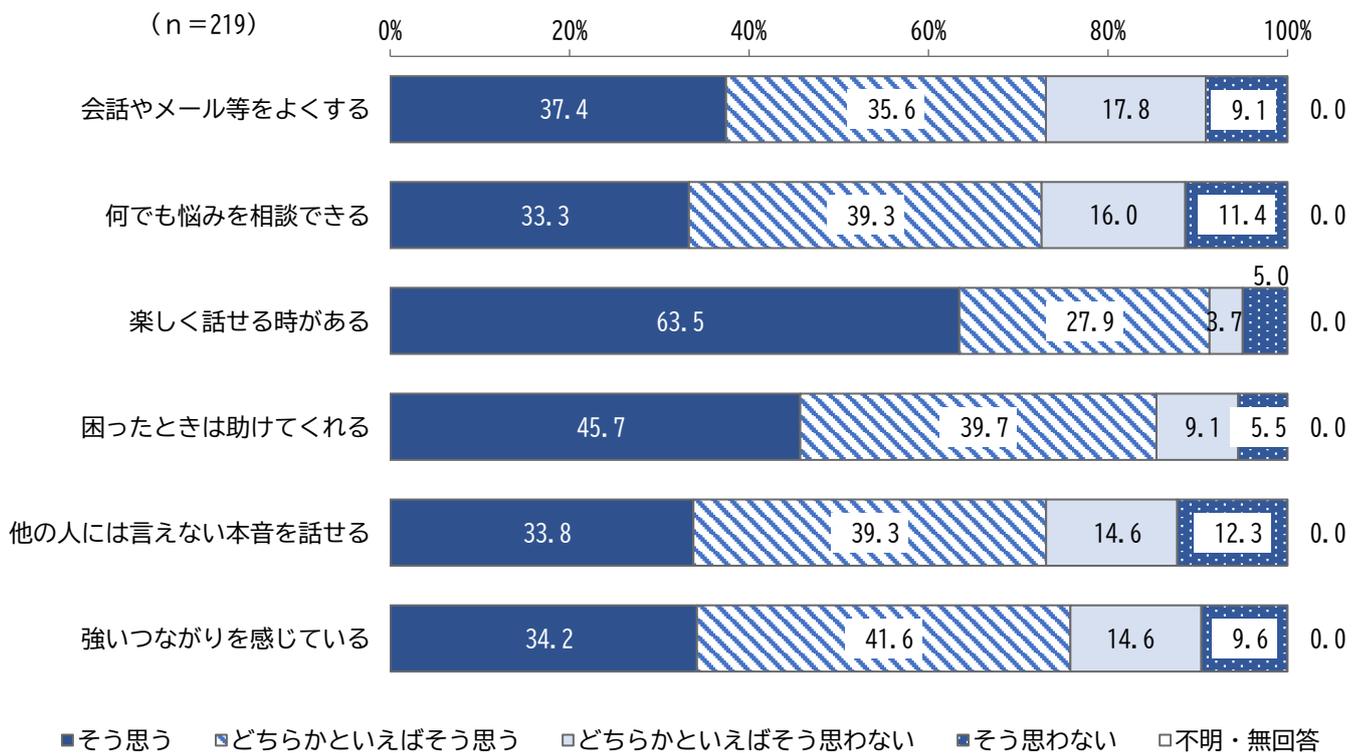


問 20

友人・知人とあなたのかかわりはどのようなものですか。
 (それぞれについて、あてはまる番号1つに○)

項目別にみると、「(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)については、「楽しく話せる時がある」が 91.4%で最も高く、次いで「困ったときは助けてくれる」(85.4%)、「強いつながりを感じている」(75.8%)と続いています。

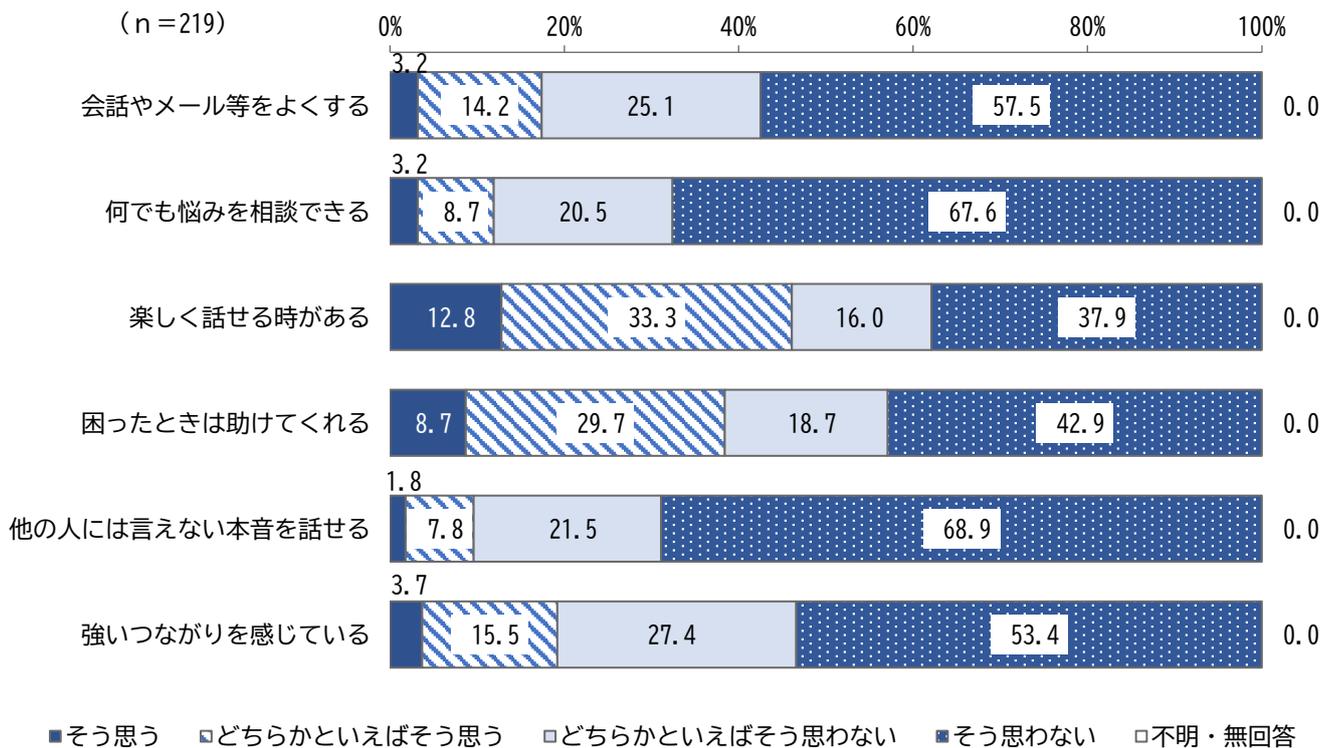
(「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)については、「何でも悩みを相談できる」が 27.4%で最も高く、次いで「会話やメール等をよくする」「他の人には言えない本音を話せる」(26.9%)と続いています。



問 21 地域の人（近所の人など）とあなたのかかわりはどのようなものですか。
（それぞれについて、あてはまる番号1つに○）

項目別にみると、「（そう思う）+（どちらかといえばそう思う）」については、「楽しく話せる時がある」が46.1%で最も高く、次いで「困ったときは助けてくれる」（38.4%）、「強いつながりを感じている」（19.2%）と続いています。

（「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」）については、「他の人には言えない本音を話せる」が90.4%で最も高く、次いで「何でも悩みを相談できる」（88.1%）、「会話やメール等をよくする」（82.6%）と続いています。

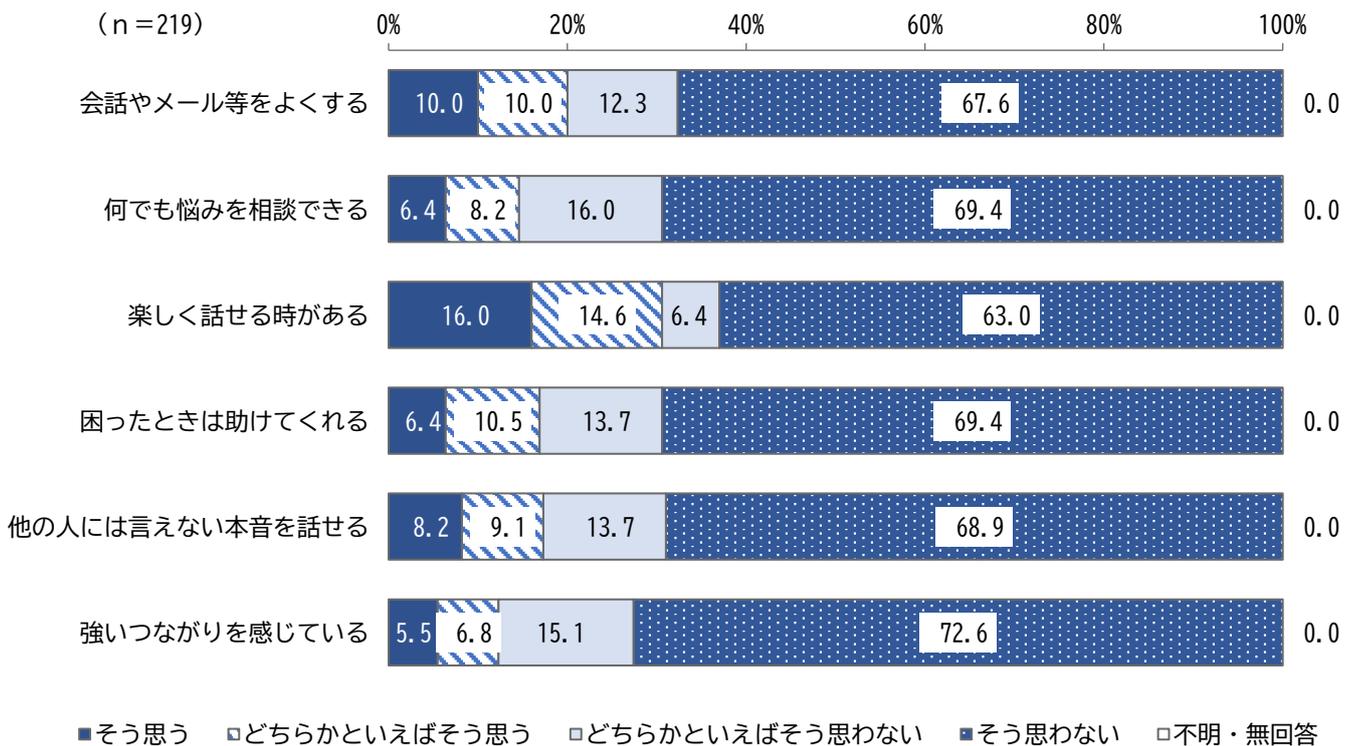


問 22

インターネット上での知り合いやコミュニティ（具体的には面識がない、あるいは数回会ったことがあるが、基本的にはネット中心の付き合いの人）とあなたのかかわりはどのようなものですか。（それぞれについて、あてはまる番号1つに○）

項目別にみると、「（「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」）については、「楽しく話せる時がある」が 30.6%で最も高く、次いで「会話やメール等をよくする」（20.0%）、「他の人には言えない本音を話せる」（17.3%）と続いています。

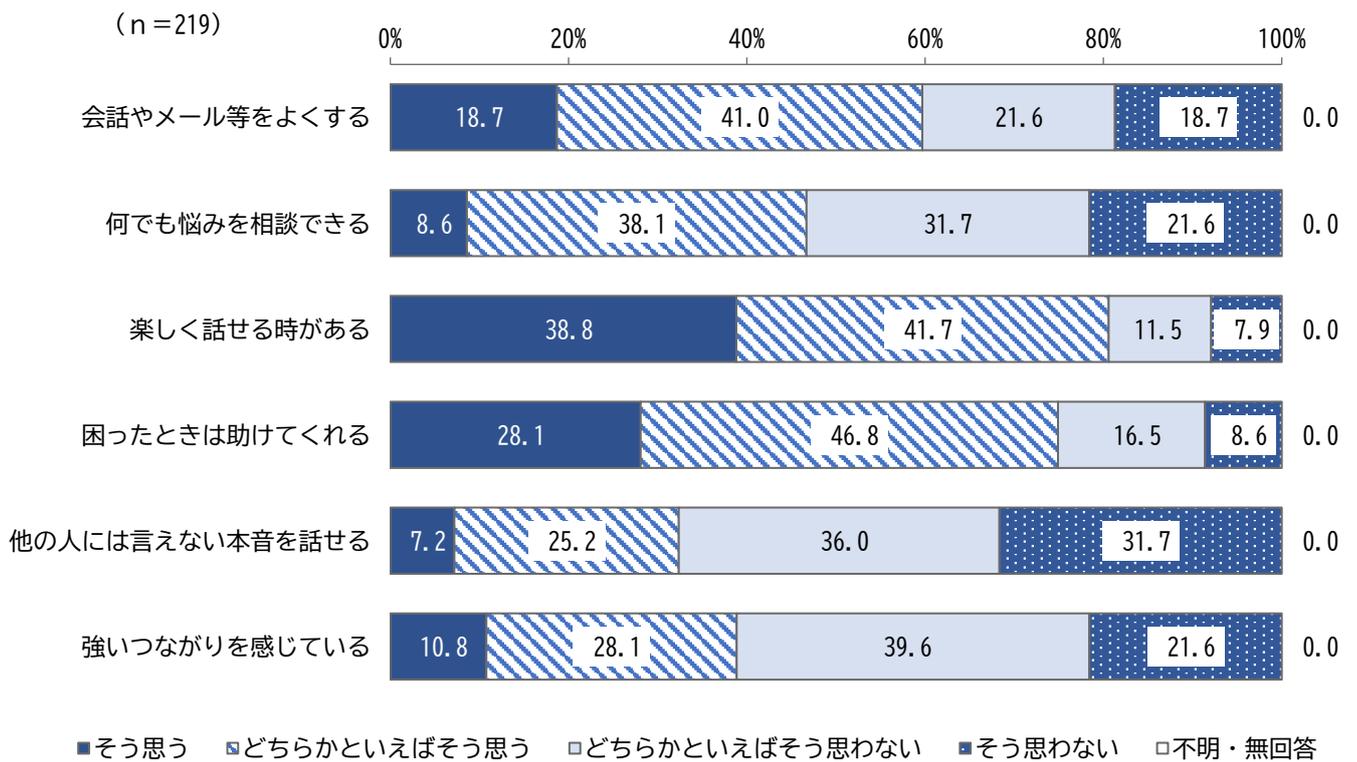
（「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」）については、「強いつながりを感じている」が 87.7%で最も高く、次いで「何でも悩みを相談できる」（85.4%）、「困ったときは助けてくれる」（83.1%）と続いています。



問 23 職場の方（上司、同僚、部下など）とあなたのかかわりはどのようなものですか。
（それぞれについて、あてはまる番号1つに○）

項目別にみると、「（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）については、「楽しく話せる時がある」が80.5%で最も高く、次いで「困ったときは助けてくれる」（74.9%）、「会話やメール等をよくする」（59.7%）と続いています。

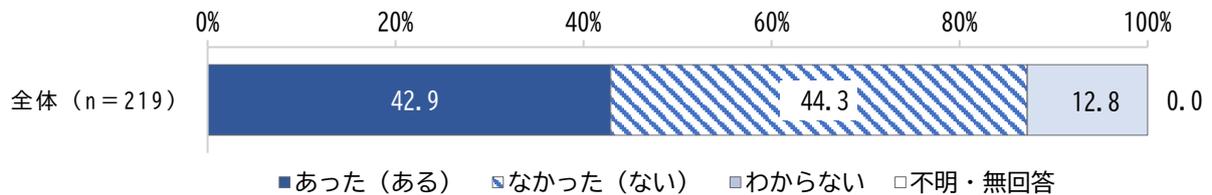
（「「そう思わない」＋「どちらかといえばそう思わない」）については、「他の人には言えない本音を話せる」が67.7%で最も高く、次いで「強いつながりを感じている」（61.2%）、「何でも悩みを相談できる」（53.3%）と続いています。



問 24

あなたは今までに、社会生活や日常生活を円滑に送ることができなかった経験がありましたか。または、現在、社会生活や日常生活を円滑に送れていない状況にありますか。
(1つに○)

今まで、あるいは現在において社会生活や日常生活を円滑に送ることができなかった経験については、「なかった(ない)」が 44.3%で最も高く、次いで「あった(ある)」(42.9%)、「わからない」(12.8%)と続いています。

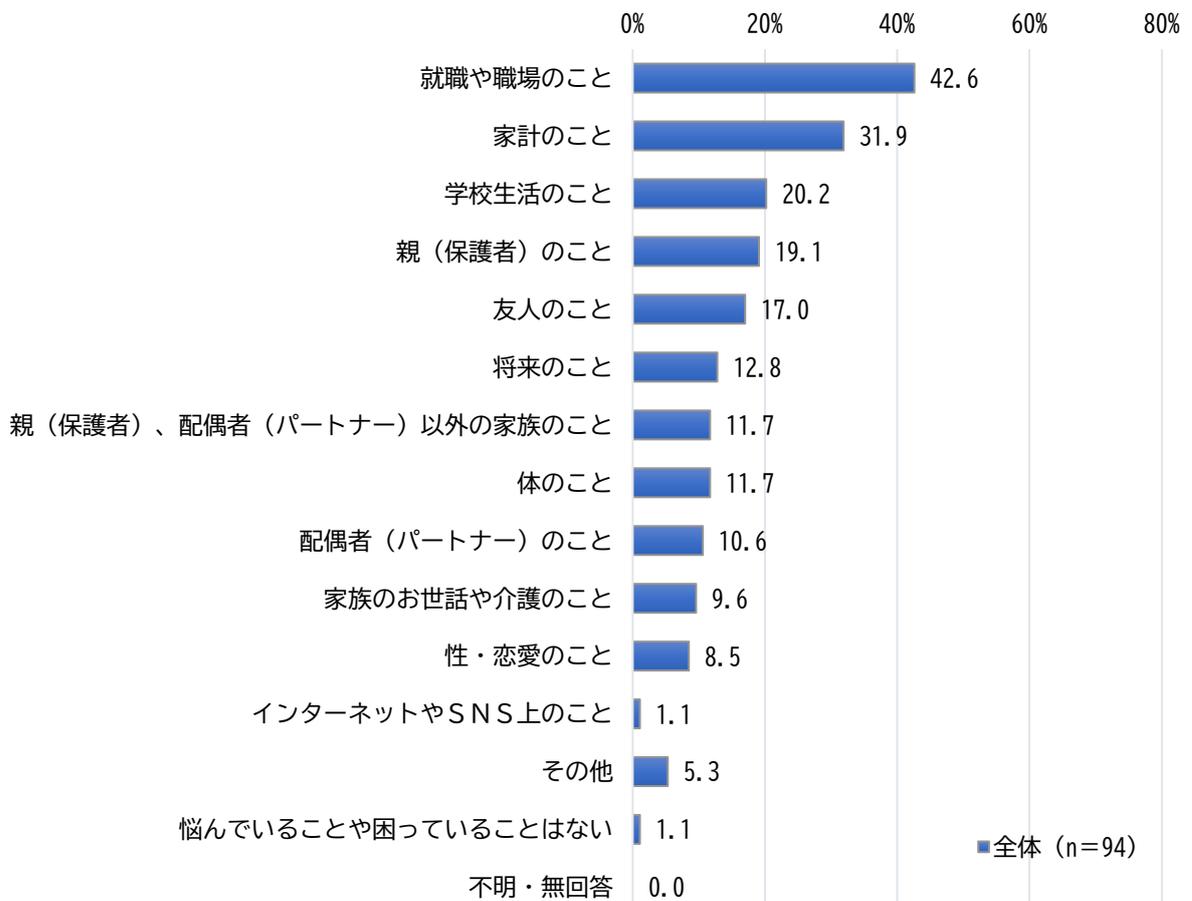


問 25

【問24で「1. あった(ある)」に○を付けた方にうかがいます。】

社会生活や日常生活を円滑に送ることができなかった(送れていない)主な原因は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

社会生活や日常生活を円滑に送ることができなかった(送れていない)主な原因については、「就職や職場のこと」が 42.6%で最も高く、次いで「家計のこと」(31.9%)、「学校生活のこと」(20.2%)と続いています。

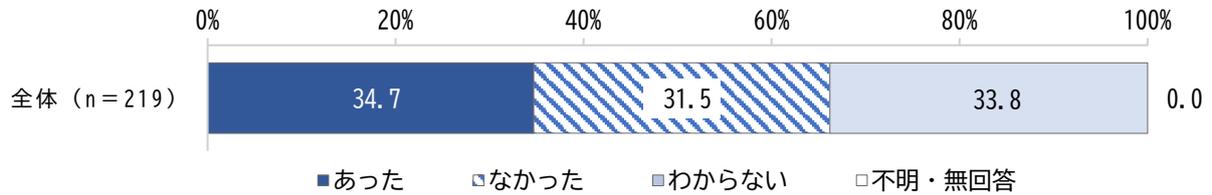


【その他】・赤穂市の幼保一体じゃないこと ・自分の責任

問 26

あなたは今までに、社会生活や日常生活を円滑に送ることができなかった状態が改善した・解決した経験がありましたか。(1つに○)

社会生活や日常生活を円滑に送ることができなかった状態が改善した・解決した経験については、「あった」が34.7%で最も高く、次いで「わからない」(33.8%)、「なかった」(31.5%)と続いています。

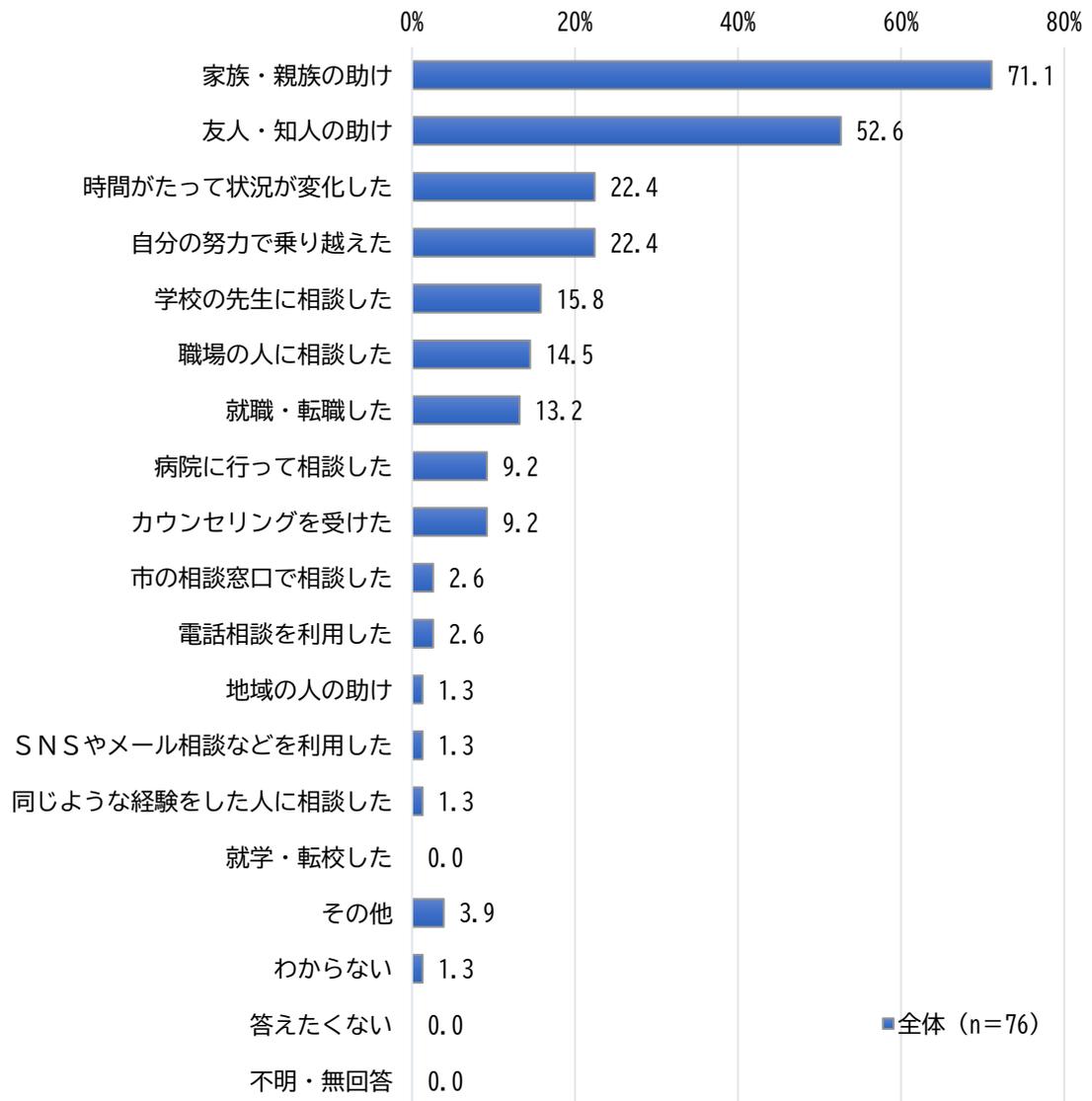


問 27

【問26で「1. あった」に○を付けた方にかがいます。】

状態が改善した・解決したきっかけや、改善・解決に役立ったことは何だと思えますか。（あてはまるものすべてに○）

状態が改善した・解決したきっかけや、改善・解決に役立ったことについては、「家族・親族の助け」が 71.1%で最も高く、次いで「友人・知人の助け」（52.6%）、「時間がたって状況が変化した」「自分の努力で乗り越えた」（22.4%）と続いています。

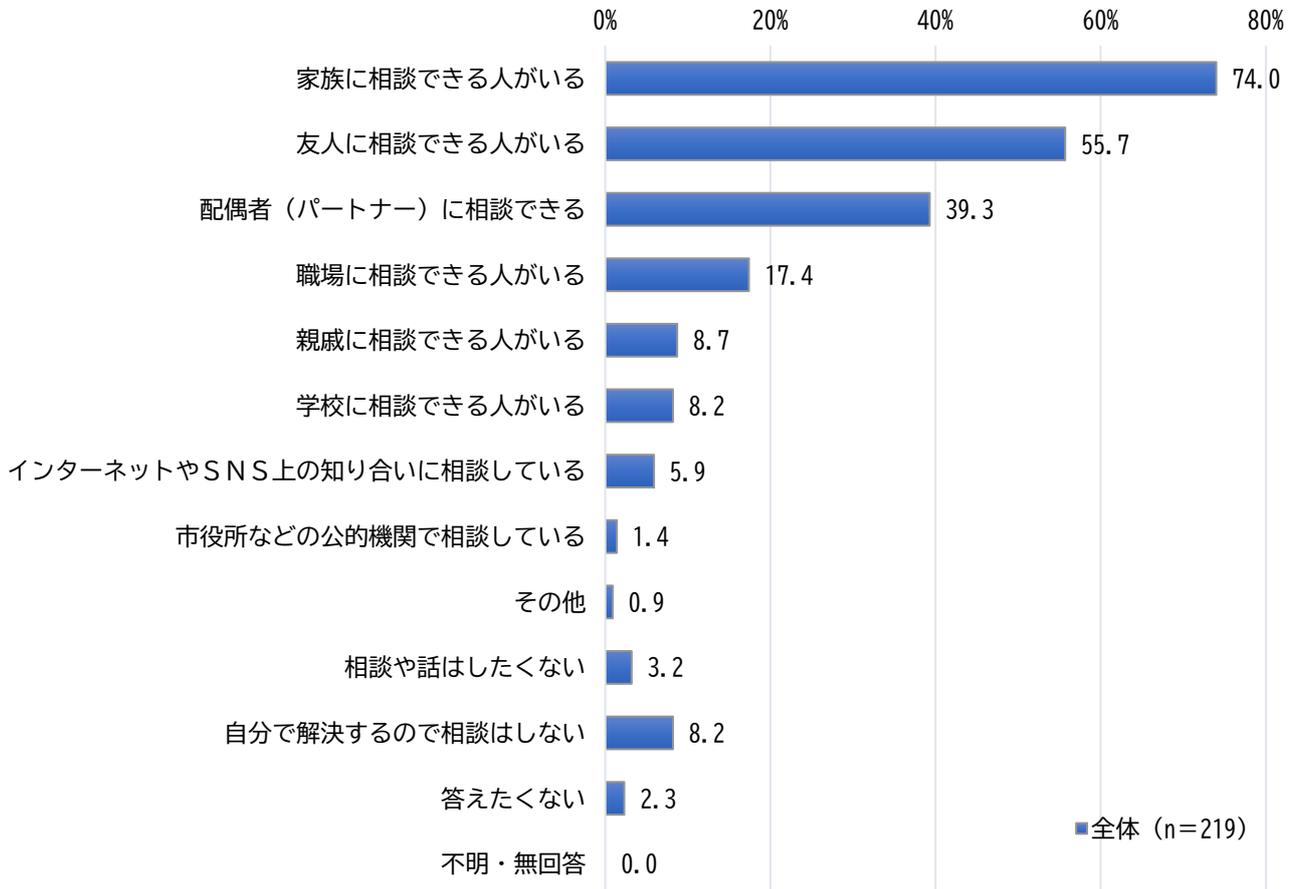
**【その他】**

- ・環境が変わった、あるいは変えた
- ・書籍やインターネットメディアを通じて他者の思考を参考にした

問 28

あなたは、悩みや困りごとについて、相談に乗ってくれたり話を聞いてくれる人がいますか。（あてはまるものすべてに○）

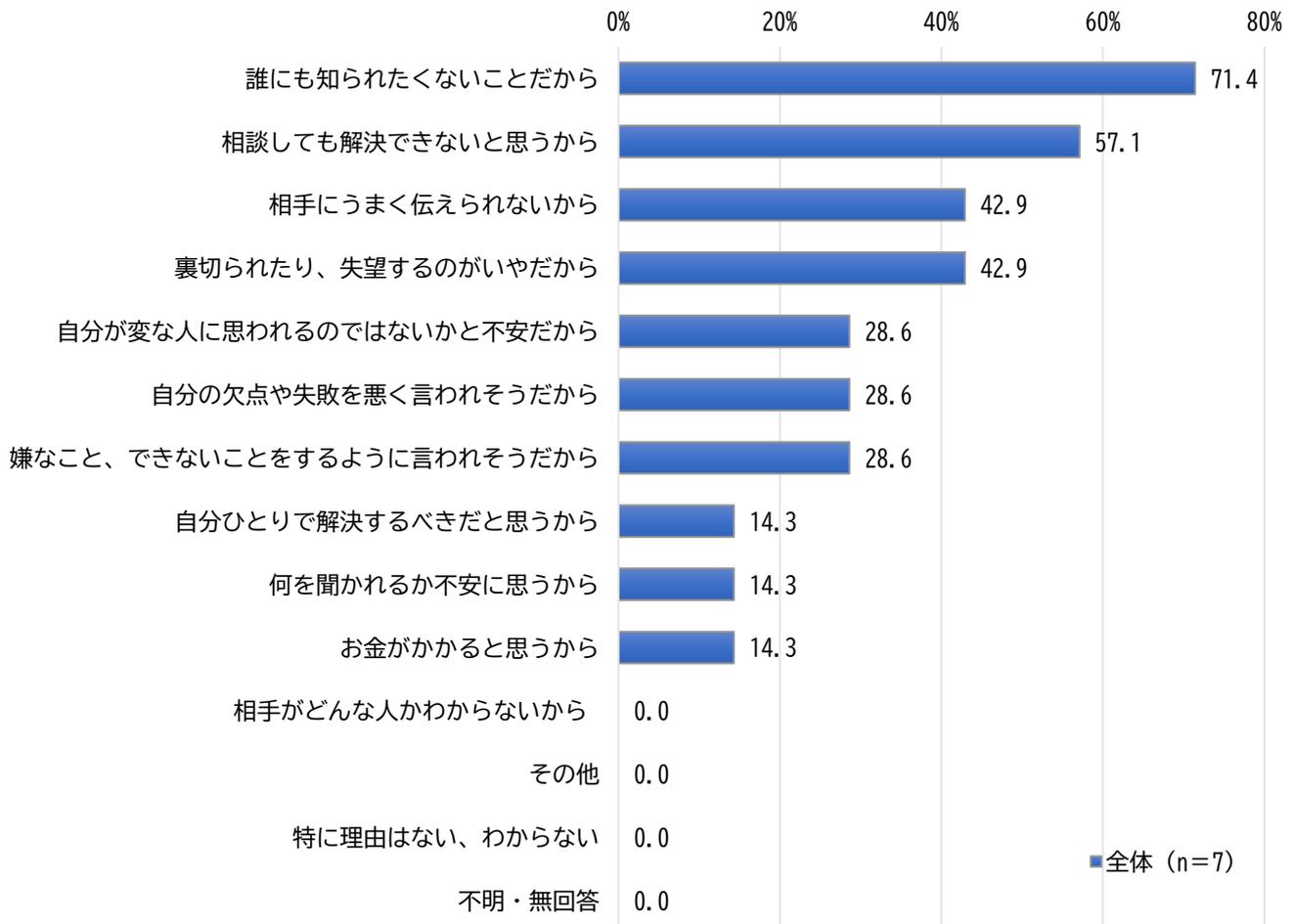
悩みや困りごとについて、相談に乗ってくれたり話を聞いてくれる人については、「家族に相談できる人がいる」が74.0%で最も高く、次いで「友人に相談できる人がいる」(55.7%)、「配偶者（パートナー）に相談できる」(39.3%)と続いています。



問 29

【問28で「10. 相談や話はしたくない」に○を付けた方にうかがいます。】
 あなたが、相談したくない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

相談したくない理由については、「誰にも知られたくないことだから」が 71.4%で最も高く、次いで「相談しても解決できないと思うから」(57.1)、「相手にうまく伝えられないから」「裏切られたり、失望するのがいやだから」(42.9%)と続いています。



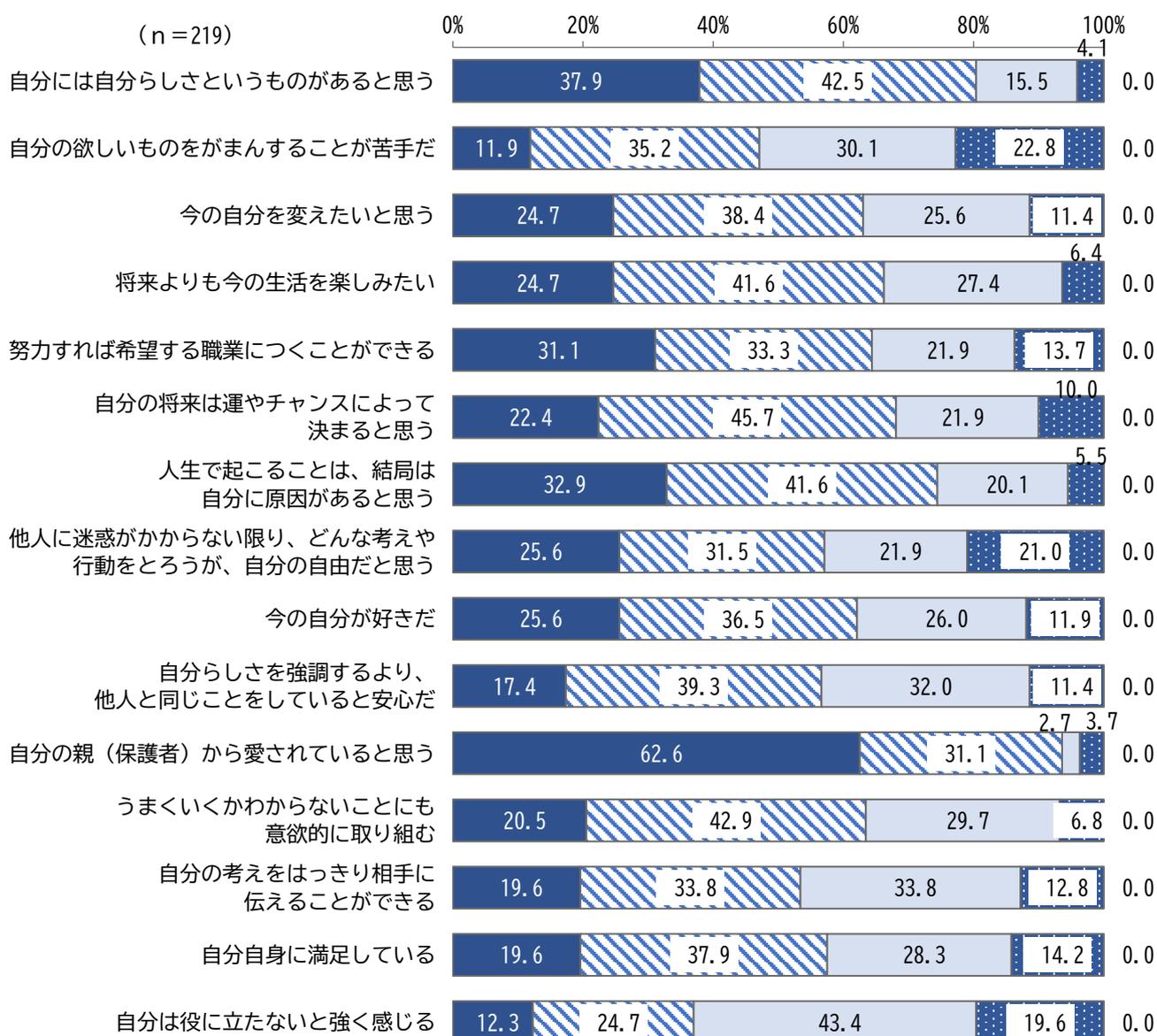
自身の今・将来について

問 30

あなた自身について、次のうちあてはまるものを教えてください。
(それぞれについて、あてはまる番号1つに○)

項目別にみると、「あてはまる」+「どちらかといえばあてはまる」については、「自分の親（保護者）から愛されていると思う」が93.7%で最も高く、次いで「自分には自分らしさというものがあると思う」（80.4%）、「人生で起こることは、結局は自分に原因があると思う」（74.5%）と続いています。

（「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」）については、「自分は役に立たないと強く感じる」が63.0%で最も高く、次いで「自分の欲しいものをがまんすることが苦手だ」（52.9%）、「自分の考えをはっきり相手に伝えることができる」（46.6%）と続いています。

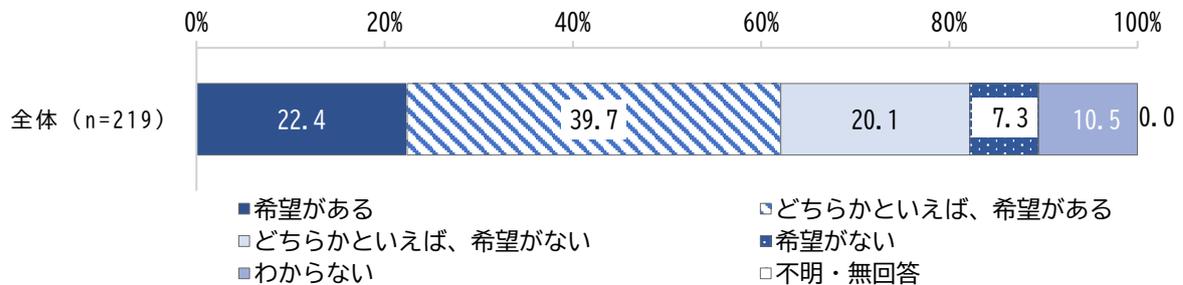


■あてはまる □どちらかといえばあてはまる □どちらかといえばあてはまらない ■あてはまらない □不明・無回答

問 31

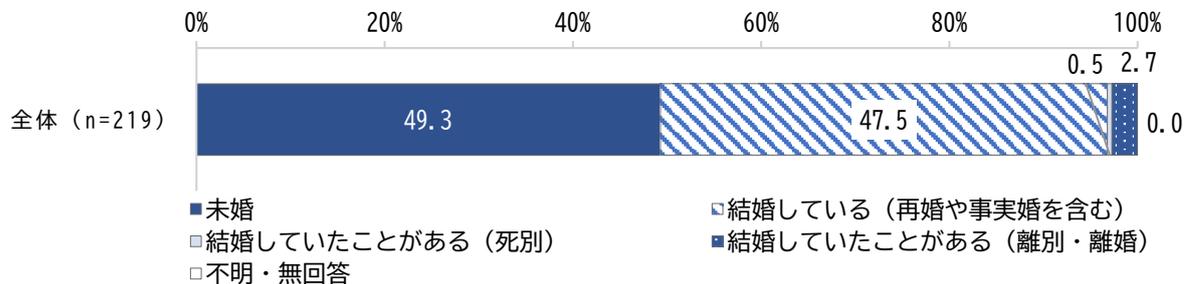
あなたは、自分の将来について明るい希望を持っていますか。(1つに○)

自分の将来について明るい希望を持っているかについては、「どちらかといえば、希望がある」が 39.7%で最も高く、次いで「希望がある」(22.4%)、「どちらかといえば、希望がない」(20.1%)と続いています。

**問 32**

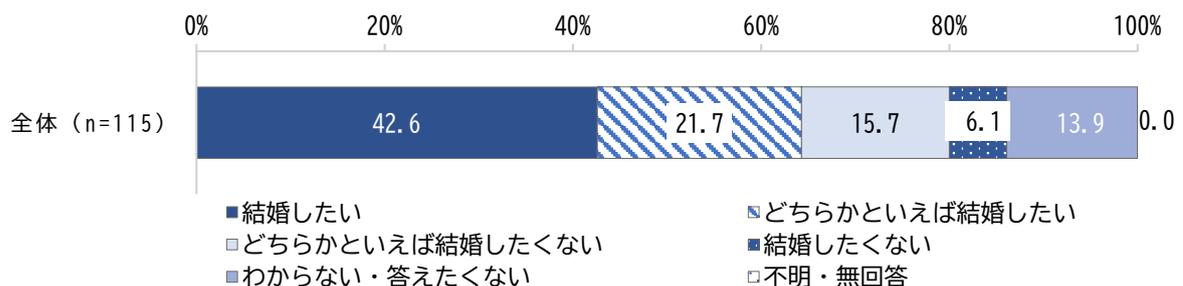
あなたの現在の婚姻状況についてお尋ねします。(1つに○)

現在の婚姻状況については、「未婚」が 49.3%で最も高く、次いで「結婚している(再婚や事実婚を含む)」(47.5%)、「結婚していたことがある(離別・離婚)」(2.7%)と続いています。

**問 33**

【問32で「2. 結婚している」以外を選んだ方にうかがいます】
あなたは今後、結婚したいと思っていますか。(1つに○)

今後、結婚したいと思っているかについては、「結婚したい」が 42.6%で最も高く、次いで「どちらかといえば結婚したい」(21.7%)、「どちらかといえば結婚したくない」(15.7%)と続いています。

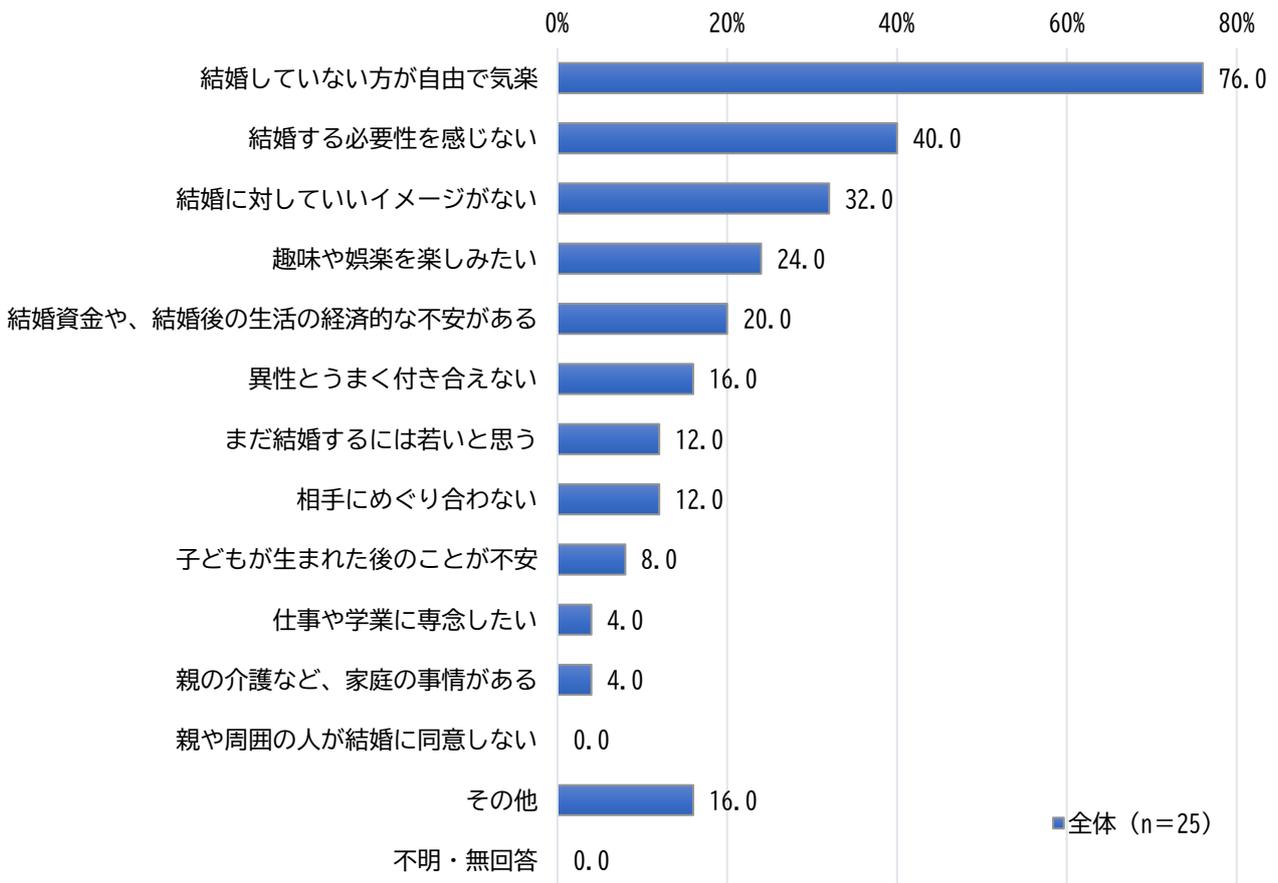


問 34

【問33で「3. どちらかといえば結婚したくない」または「4. 結婚したくない」を選んだ方】

あなたがそう思った理由は何ですか。（あてはまるもの3つまでに○）

結婚したくないと思った理由については、「結婚していない方が自由で気楽」が76.0%で最も高く、次いで「結婚する必要性を感じない」（40.0%）、「結婚に対していいイメージがない」（32.0%）と続いています。



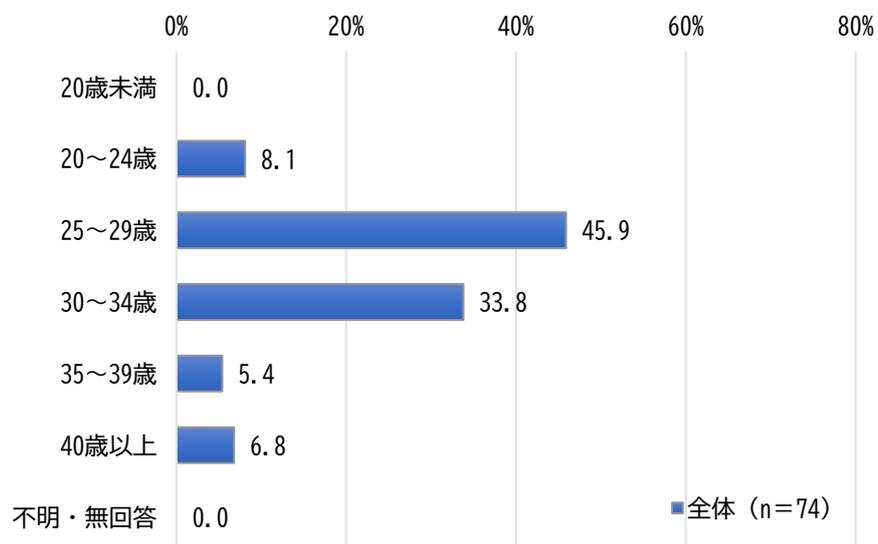
【その他】

- ・相手の人生を壊したくない
- ・子どもたちが最優先、再婚になった場合、子どもたちがどんな気持ちになるかわからない不安
- ・恋愛に対して悪い思い出がある

問 35

【問33で「1. 結婚したい」または「2. どちらかといえば結婚したい」に○を付けた方】
あなたは、何歳くらいで結婚したいと思っていますか。（数値を記入）

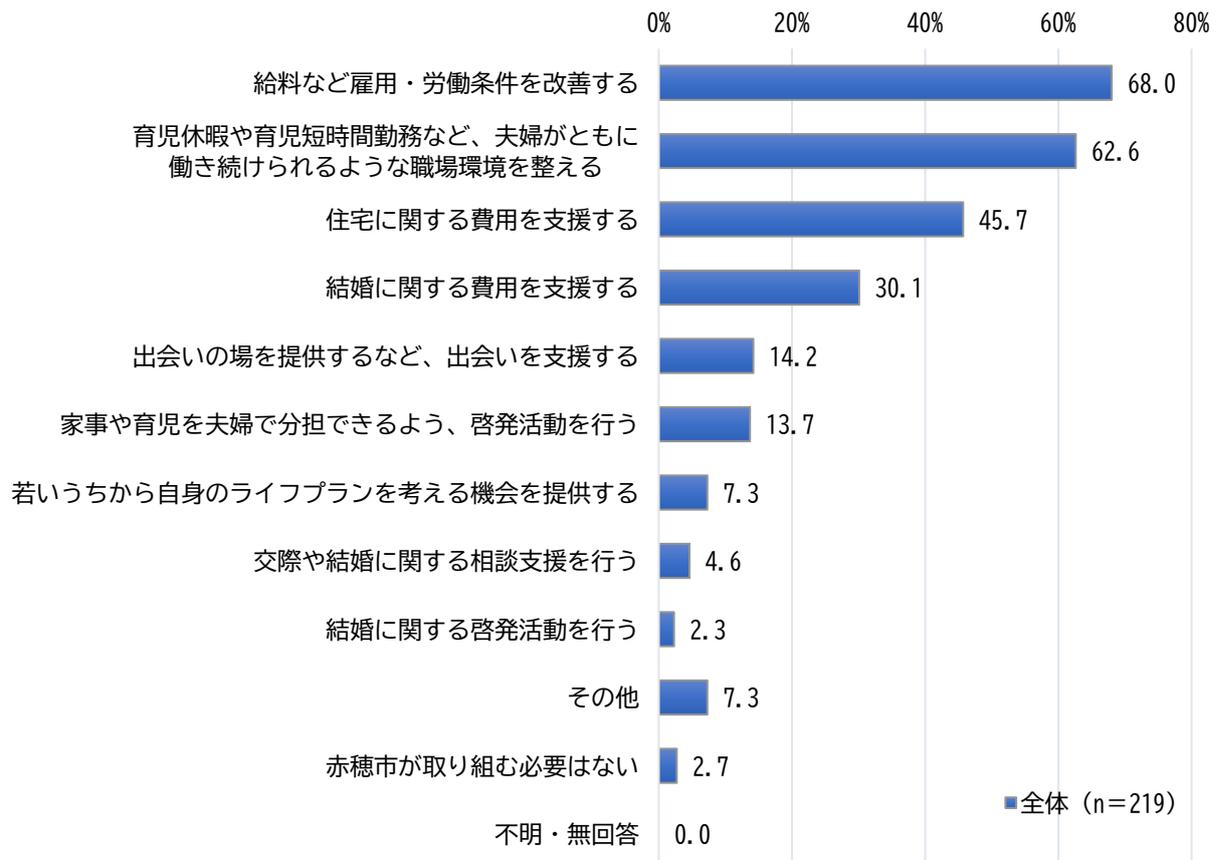
何歳くらいで結婚したいと思っているかについては、「25～29歳」が45.9%で最も高く、次いで「30～34歳」（33.8%）、「20～24歳」（8.1%）と続いています。



問 36

結婚を望む方が結婚できるような環境を整えるために、赤穂市（市役所）はどのような取組を行うべきだと思いますか。（あてはまるもの3つまでに○）

結婚を望む方が結婚できるような環境を整えるために、赤穂市（市役所）はどのような取組を行うべきだと思うかについては、「給料など雇用・労働条件を改善する」が68.0%で最も高く、次いで「育児休暇や育児短時間勤務など、夫婦がともに働き続けられるような職場環境を整える」（62.6%）、「住宅に関する費用を支援する」（45.7%）と続いています。



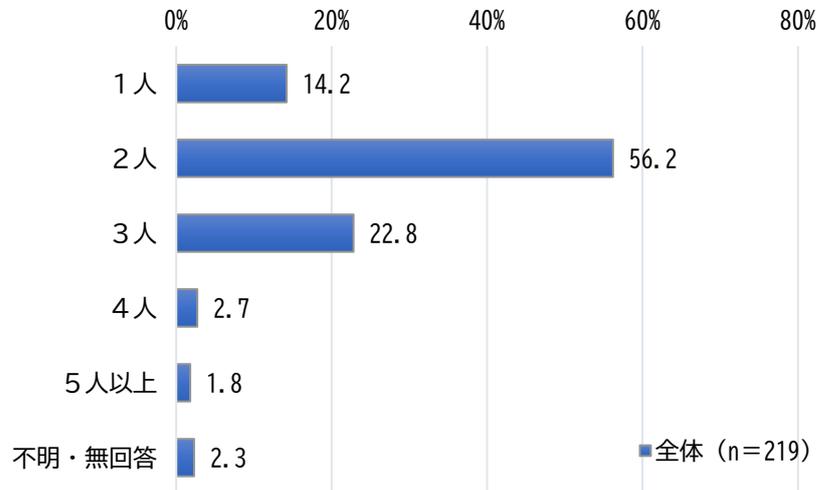
【その他】

- ・人口(移住者)を増やす政策を行う。
- ・交通の利便性向上。
- ・子育てや医療に関する経済的支援
- ・障がい児を育てる親への配慮

問 37

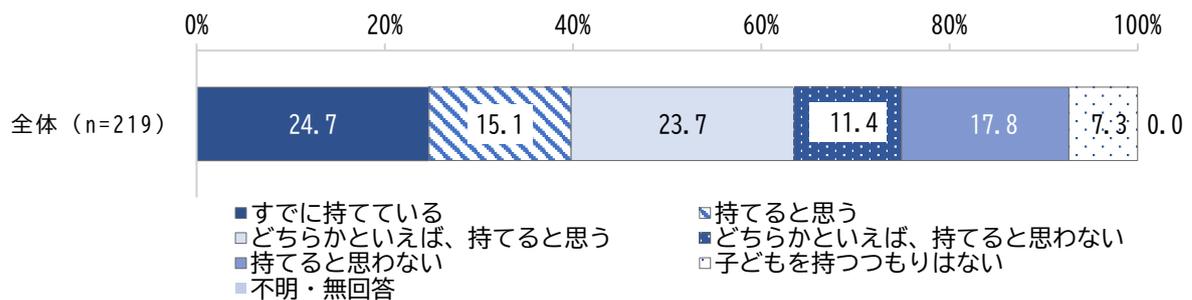
あなたが理想とする（可能なら持ちたいと思う）お子さんの数は、今いるお子さんも含めて何人ですか。（数字を記入）

理想とするこどもの数については、「2人」が 56.2%で最も高く、次いで「3人」（22.8%）、「1人」（14.2%）と続いています。

**問 38**

あなたは今後、理想とする数のお子さんを持つと思いますか。（1つに○）

今後、理想とする数のお子さんを持つと思うかについては、「すでに持っている」が 24.7%で最も高く、次いで「どちらかといえば、持つと思う」（23.7%）、「持つと思う」（11.4%）、「持つと思わない」（17.8%）と続いています。



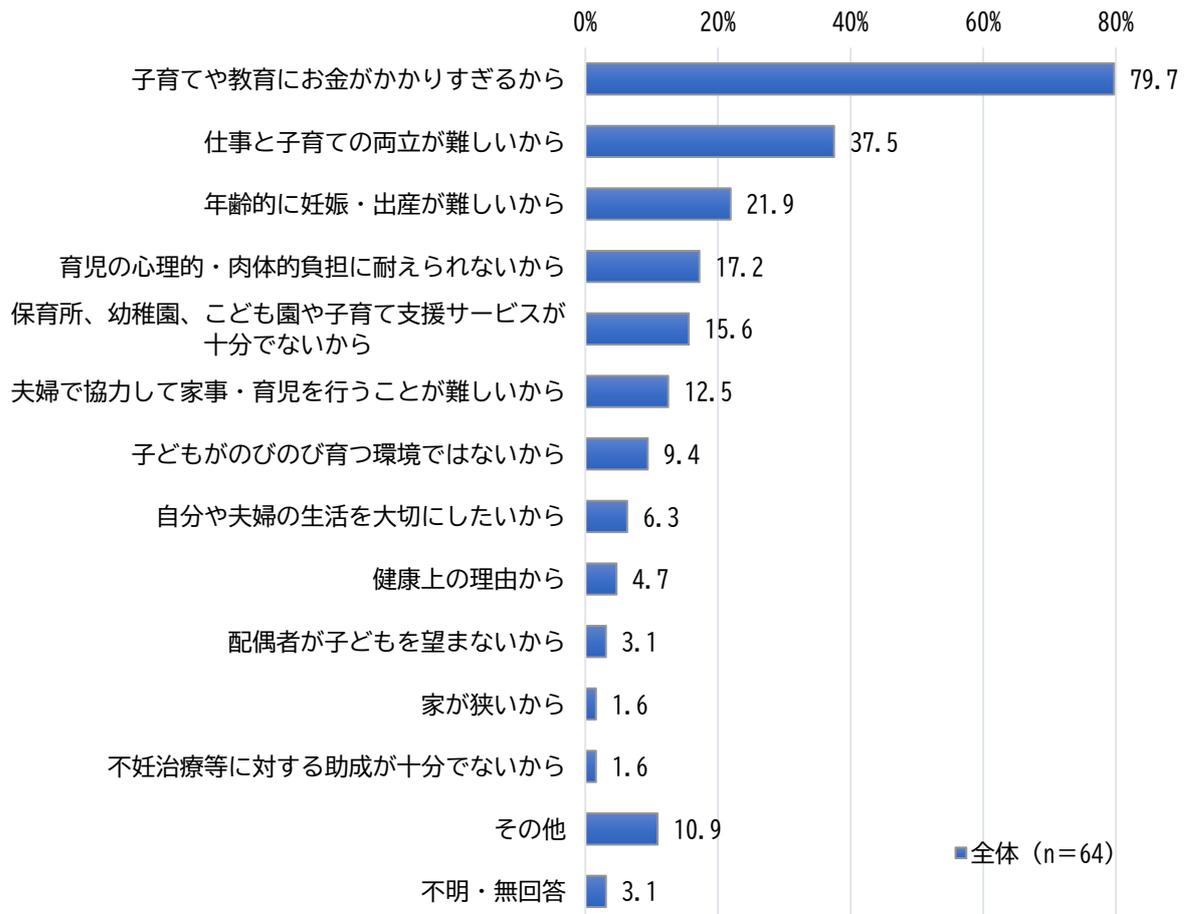
問 39

【問38で「4. どちらかといえば、持てると思わない」または「5. 持てると思わない」に○を付けた方】

理想とするお子さんの数を持ってそうにないと思う理由は何ですか。

(あてはまるもの3つまでに○)

理想とするお子さんの数を持ってそうにないと思う理由については、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が79.7%で最も高く、次いで「仕事と子育ての両立が難しいから」(37.5%)、「年齢的に妊娠・出産が難しいから」(21.9%)と続いています。



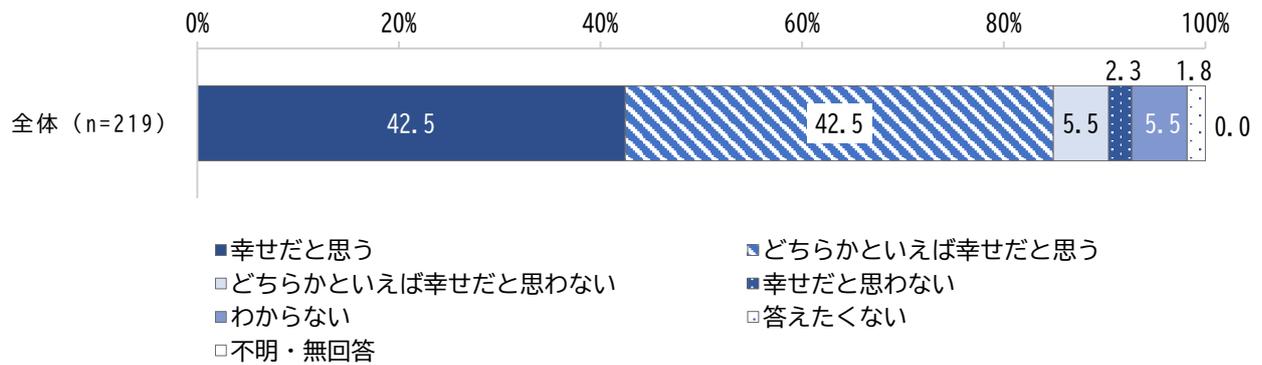
【その他】

- ・不安しかないから
- ・まだ現実味がないことだから
- ・不妊治療を受けたいが、赤穂市内に受けたい治療をしている病院がない
- ・子どもの命に責任が取れる自信がないから
- ・結婚できるかわからない

問 40

今、自分が幸せだと思いますか。あなたの実感をお答えください（1つに○）

今、自分が幸せだと思うかについては、「幸せだと思う」「どちらかといえば幸せだと思う」が 42.5%で最も高く、次いで「どちらかといえば幸せだと思わない」「わからない」（5.5%）、「幸せだと思わない」（2.3%）と続いています。

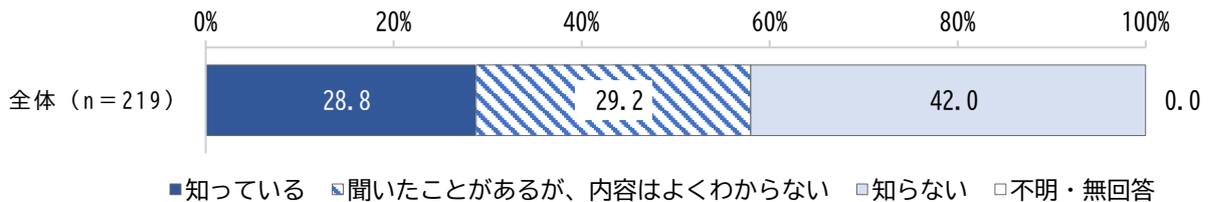


子ども・若者の意見反映について

問 41

あなたは、すべての子どもには「意見を表明する権利」（子どもが、自分に関係のあることについて自由に意見を表すことができる権利）があるということを知っていますか。（1つに○）

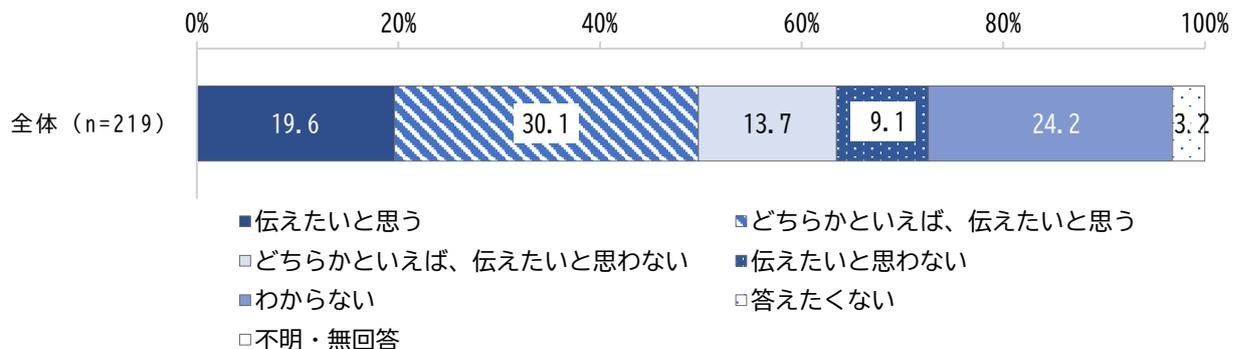
すべての子どもには「意見を表明する権利」があるということを知っているかについては、「知らない」が42.0%で最も高く、次いで「聞いたことがあるが、内容はよくわからない」（29.2%）、「知っている」（28.8%）と続いています。



問 42

あなたは、赤穂市に自分の意見を伝えたいと思いますか。（1つに○）

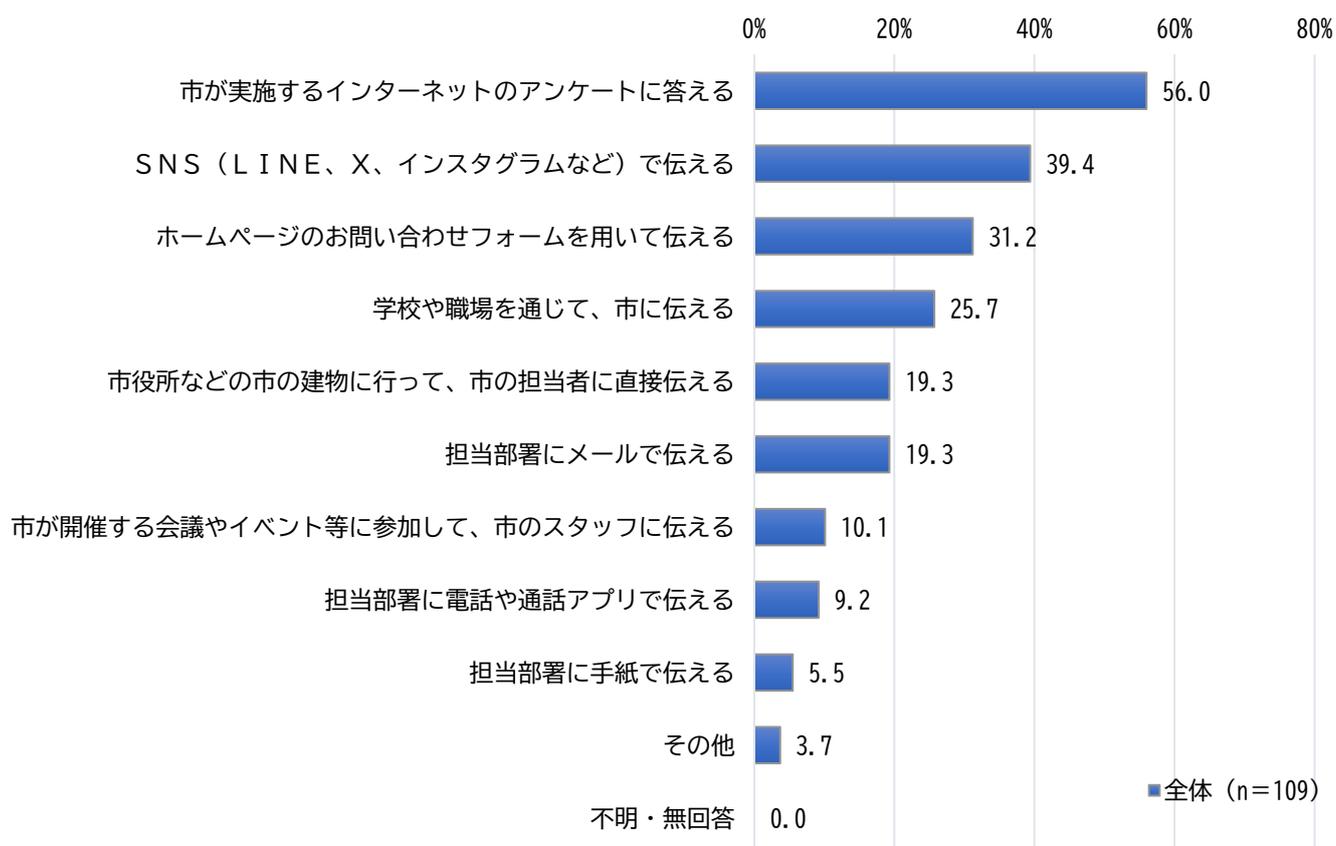
赤穂市に自分の意見を伝えたいと思うかについては、「どちらかといえば、伝えたいと思う」が30.1%で最も高く、次いで「わからない」（24.2%）、「伝えたいと思う」（19.6%）と続いています。



問 43

【問42で「1. 伝えたいと思う」、「2. どちらかといえば、伝えたいと思う」に○を付けた方】
どのような方法や手段であれば、自分の意見が伝えやすいと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

どのような方法や手段であれば、自分の意見が伝えやすいと思うかについては、「市が実施するインターネットのアンケートに答える」が56.0%で最も高く、次いで「SNS（LINE、X、インスタグラムなど）で伝える」（39.4%）、「ホームページのお問い合わせフォームを用いて伝える」（31.2%）と続いています。



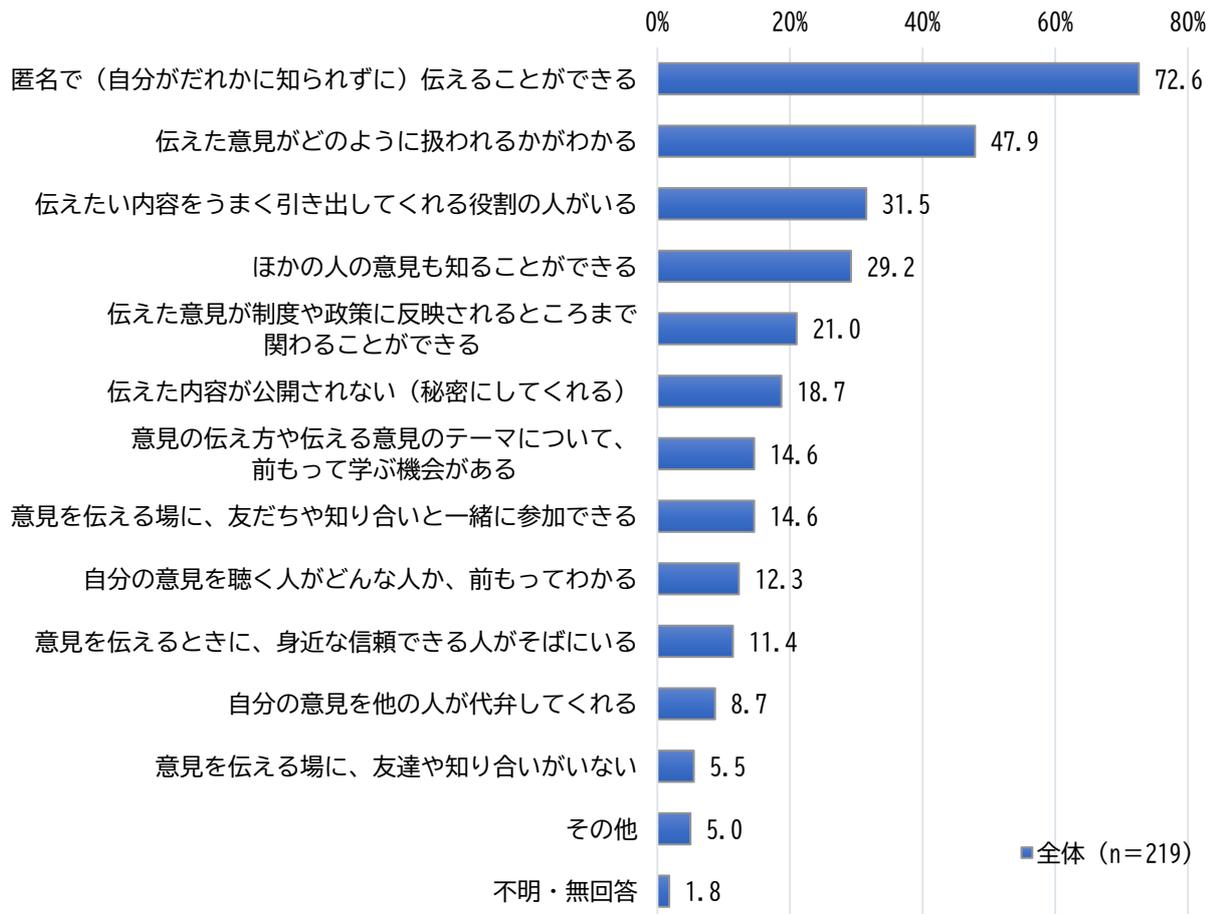
【その他】

- ・市長との対話
- ・匿名で伝えることができる方法であれば良い
- ・市内の企業学校と連携して意見交換会のようなフォーラムを開く（業務・授業の一環として）

問 44

どんな工夫やルールがあれば、赤穂市に対して、自分の意見を伝えやすいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

どんな工夫やルールがあれば、赤穂市に対して、自分の意見を伝えやすいと思うかについては、「匿名で（自分がだれかに知られずに）伝えることができる」が 72.6%で最も高く、次いで「伝えた意見がどのように扱われるかがわかる」（47.9%）、「伝えたい内容をうまく引き出してくれる役割の人がいる」（31.5%）と続いています。



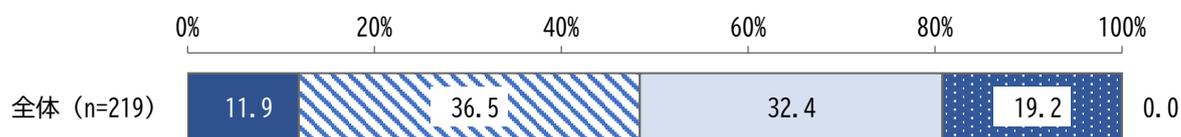
【その他】

- ・ 保守的で閉鎖的な赤穂市民の体質が変わるとは思えず諦めており、大都市からの変化に期待している
- ・ インターネットや SNS を多用するが、自分が意見を言ってもどうせ駄目だと思って行動しない人もいるなかで、足を使って困っている人、そうで無い人にかかわらず、地道にいろんな声を拾っていくべき
- ・ 伝えて検討した結果や検討状況を教えてくれる
- ・ 意見が反映される可能性が見えること
- ・ 市役所職員さんと市民との信頼関係を産むことがこの事に繋がると思います
- ・ 意見を伝えても来年には人が変わる、なんてことがよくあるので不毛に感じる

問 45

あなたは、赤穂市が子どもや若者が希望を持って暮らしていくことができるまちだと思いますか。(1つに○)

赤穂市が子どもや若者が希望を持って暮らしていくことができるまちだと思うかについては、『そう思う(そう思う+どちらかといえばそう思う)』が48.4%で、『そう思わない(そう思わない+どちらかといえばそう思わない)』が51.6%となっています。

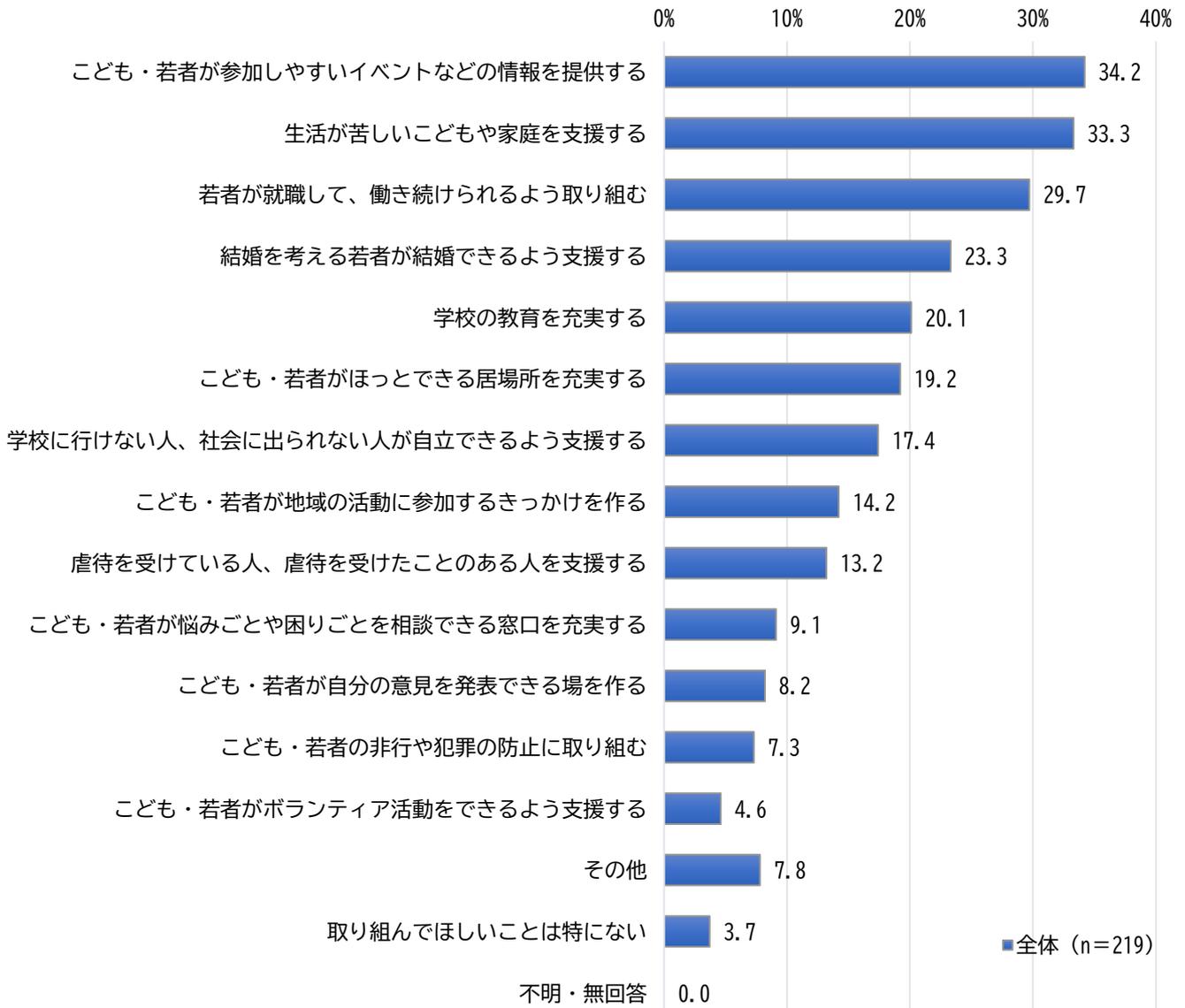


■そう思う □どちらかといえばそう思う □どちらかといえばそう思わない ■そう思わない □不明・無回答

問 46

あなたは、子ども・若者への支援について、赤穂市にどのようなことに取り組んでほしいですか。（特に取り組んでほしいと思うこと3つまでに○）

子ども・若者への支援について、赤穂市にどのようなことに取り組んでほしいかについては、「子ども・若者が参加しやすいイベントなどの情報を提供する」が 34.2%で最も高く、次いで「生活が苦しい子どもや家庭を支援する」(33.3%)、「若者が就職して、働き続けられるよう取り組む」(29.7%)と続いています。



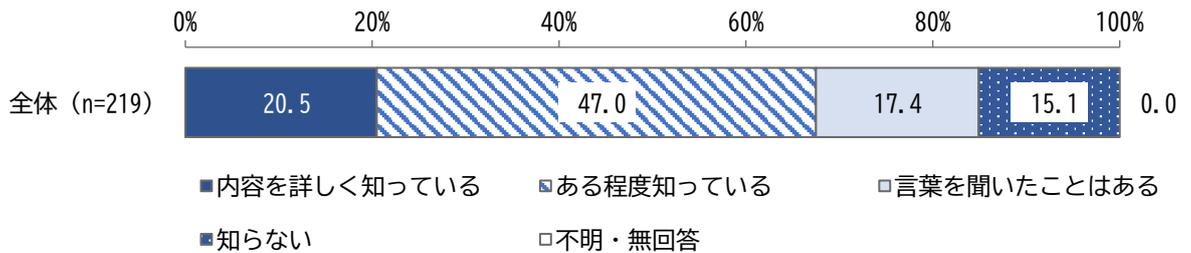
【その他】

- ・住宅購入支援の充実
- ・進学希望者への交通費補助
- ・住み続けたいと思える取り組み
- ・育児補助金やサービスの充実
- ・児童施設の補修と設備改善
- ・遊びに行ける施設や若者向け商業施設の増設
- ・市全体の活性化と交通改善
- ・子育て家庭への資金支援

ヤングケアラーについて

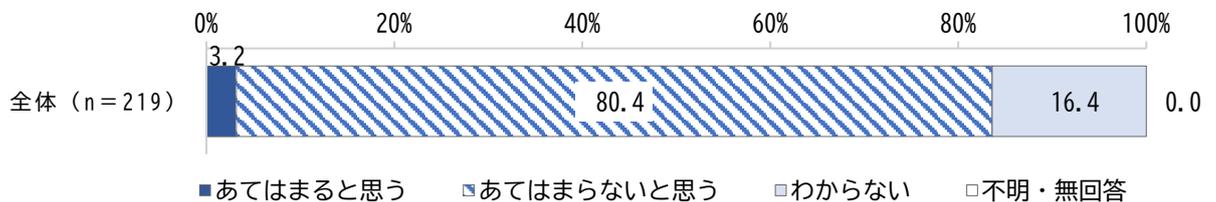
問 47 「ヤングケアラー」という言葉を知っていますか。(1つに○)

「ヤングケアラー」という言葉を知っているかについては、「ある程度知っている」が47.0%で最も高く、次いで「内容を詳しく知っている」(20.5%)、「言葉を聞いたことはある」(17.4%)と続いています。



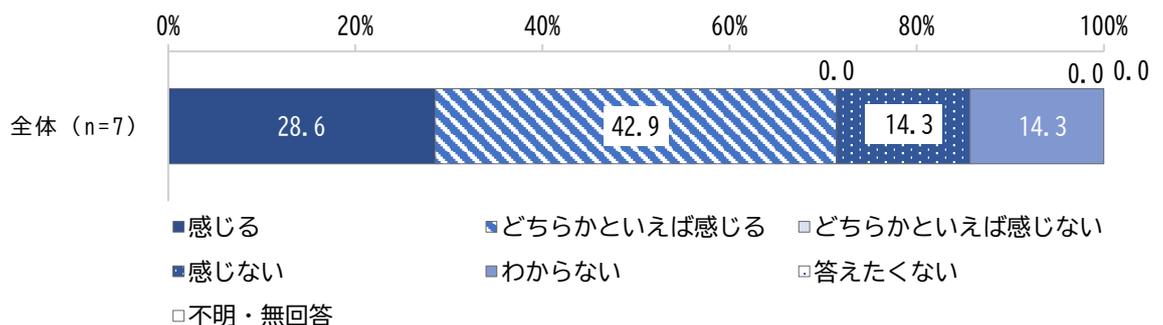
問 48 あなた自身は「ヤングケアラー」にあてはまると思えますか。(1つに○)

自身が「ヤングケアラー」にあてはまると思うかについては、「あてはまらないと思う」が80.4%で最も高く、次いで「わからない」(16.4%)、「あてはまると思う」(3.2%)と続いています。



問 49 【問48で「1. あてはまると思う」に○を付けた方】
あなたは、家事や家族等のお世話を負担に感じますか。(1つに○)

家事や家族等の世話を負担に感じるかについては、「どちらかといえば感じる」が42.9%で最も高く、次いで「感じる」(28.6%)、「感じない」「わからない」(14.3%)と続いています。



問 50

最後に、こども・若者支援に関してご意見がございましたら、ご自由に記入してください。

内容	件数
子育て・教育支援 (給食費・保育料の補助、保育士の確保と待遇改善、教育施設の改善)	20
若者支援 (若者の文化支援、キャリア・結婚支援、労働環境改善、若者向け施設の誘致)	13
地域活性化 (観光資源の活用、地域のブランド化、イベント開催、地域コミュニティの充実、安心できるまちづくり)	11
経済支援・補助金 (支援金・補助金の拡充、減税)	7
医療 (医療施設の拡充、医療アクセスの改善、医療費負担の軽減)	4
その他の意見 (アンケートについての感想・要望、職員への感謝・激励)	12

資料編

赤穂市 子ども・子育て支援事業に 関するニーズ調査

就学前児童保護者対象調査



● 調査ご協力をお願い

皆さまには、日頃から市政に関するご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。このたび、令和7年度から11年度を計画期間とする新たなプランの策定にあたり、子育て中の世帯の皆さまの子育ての実態や子育て支援に関するニーズを把握するため、アンケート調査を実施することになりました。

赤穂市におけるより良い子育ての環境を整備していくための基礎となる重要な調査です。つきましては、ご多忙のことと存じますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をお願い申し上げます。

なお、ご回答いただいた調査内容は、統計的に処理しますので、ご回答いただいた内容で個人が特定されることはありません。

令和6年2月

赤穂市

【ご記入に当たってのお願い】

■ 回答方法

● このアンケートは、WEBフォームでも回答が可能です。
WEBフォームを運ばれる場合、スマートフォン、PCから右のQRコード、または、<https://survey.jp/s.php?clear=&ako=208> にアクセスしてください。また、このページの左上にあるコード(8桁の英数字)が必要となります。WEBフォームで回答された方は、紙のアンケートを提出する必要はありません。

- 1 アンケートには、調査用紙を持ち帰ったお子さん、もしくはあて名のお子さんについて記入してください。
- 2 アンケートには、お子さんの保護者の方が記入してください。
- 3 回答は、選択肢に○をつけて選んでいただく場合と、数字などを記入していただく場合があります。
- 4 選択肢の場合、選んでいただく数が設問によって異なりますので注意書きに従ってください。また「その他」を選ばれた場合は、() 内に具体的な内容を記入してください。
- 5 時間(時刻)を回答いただく場合は、24時間制(例：午後6時→18時)で記入してください。
- 6 設問によって回答いただく方が限られる場合がありますので、ことわり書きや矢印に従って回答してください。特にことわりがない場合は、次の設問にお進みください。
- 7 本調査の結果や自由記述の趣旨については、市のホームページ等を通じて公表する場合があります。(個人が特定されるようなことはありません)

回答は、お手数ですが、**2月16日(金)**までにご提出ください。

○用紙で回答する方→保育所、幼稚園で調査票を受け取った方は、配布した封筒に入れ、保育所、幼稚園にご提出。郵送で調査票を受け取った方は、返信用封筒に入れ、郵送でご返送ください。

赤穂市健康福祉部 子育て支援課 電話：0791-43-6808 FAX：0791-43-7138
赤穂市教育委員会 ことも育成課 電話：0791-43-7065 FAX：0791-43-6895

お子さんご家族の状況について

問1 お住まいの小学校区はどこですか。(1つに○)

1 赤穂	2 城西	3 堀屋	4 赤穂西	5 尾崎
6 徳崎	7 坂越	8 高雄	9 有年	10 原

問2 調査票を受け取ったお子さんの生年月月をご記入ください。([] 内に数字を記入)

平成 [] 年 [] 月 生まれ
令和

※ここから先、すべての質問の「お子さん」とは、調査票を持ち帰ったお子さん、もしくはあて名のお子さんです。

問3 お子さんのきょうだいは何人いらっしゃいますか。お子さんを含めた人数をご記入ください。([] 内に数字を記入)

きょうだい数 [] 人

問4 この調査票にご回答いただく方はどなたですか。お子さんから見た関係でお答えください。(1つに○)

1 母親	2 父親	3 その他 ()
------	------	-----------

問5 この調査票にご回答いただいている方の配偶者についてお答えください。(1つに○)

1 配偶者がいる	2 配偶者がいない
----------	-----------

問6 お子さんの子育てや教育を主に行っているのはどなたですか。お子さんから見た関係でお答えください。(1つに○)

1 父母ともに	2 主に母親	3 主に父親
4 主に祖父母	5 その他 ()	

問7 お子さんの子育てや教育に日常的に関わっている方はどなた(施設)ですか。お子さんから見た関係でお答えください。(あてはまるすべてに○)

1 父母ともに	2 母親	3 父親	4 祖父母
5 幼稚園	6 保育所	7 その他 ()	

問8 お子さんの子育てや教育に、最も大きく影響すると思われる環境はどれですか。(あてはまるすべてに○)

1 家庭	2 地域	3 幼稚園
4 保育所	5 その他 ()	

問9 日頃、お子さんをみてもらえる親族・知人はいいますか。(あてはまるすべてに○)

1 日常的に祖父母等の親族にみてもらえる
2 緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる
3 日常的に子どもをみてもらえる友人・知人がいる
4 緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる
5 いずれもない

問9-1 問9で「1」または「2」を選択した方にお伺いします。祖父等の親族にお子さんをみてもらっている状況についてお答えください。(あてはまるすべてに○)

- | | |
|---|---|
| 1 | 祖父等の親族の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる |
| 2 | 祖父等の親族の身体的・精神的負担が大きく心配である |
| 3 | 祖父等の親族の時間的制約が大きく心配である |
| 4 | 自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい |
| 5 | 子どもの教育や発達にとってふさわしい環境であるが、少し不安がある |
| 6 | その他 () |

問9-2 問9で「3」または「4」を選択した方にお伺いします。友人・知人にお子さんをみてもらっている状況についてお答えください。(あてはまるすべてに○)

- | | |
|---|--|
| 1 | 友人・知人の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる |
| 2 | 友人・知人の身体的・精神的負担が大きく心配である |
| 3 | 友人・知人の時間的制約が大きく心配である |
| 4 | 自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい |
| 5 | 子どもの教育や発達にとってふさわしい環境であるが、少し不安がある |
| 6 | その他 () |

問10 周囲の人に支えてもらって子育てをしているという実感がありますか。(1つに○)

- | | | | | | | | |
|---|-------|---|--------|---|--------|---|------|
| 1 | 大いにある | 2 | まあまあある | 3 | ほとんどない | 4 | 全くない |
|---|-------|---|--------|---|--------|---|------|

問11 お子さんの子育てや教育をする上で、気軽に相談できる先はありますか。(1つに○)

- | | | | |
|---|-------------|---|-----------|
| 1 | ある ⇒ 問11-1ハ | 2 | ない ⇒ 問12ハ |
|---|-------------|---|-----------|

問11-1 問11で「1」を選択した方にお伺いします。お子さんの子育てや教育に関して、気軽に相談できる先は、誰(どこ)ですか。(あてはまるすべてに○)

- | | | | |
|----|-------------------|----|------------------|
| 1 | 配偶者・パートナー | 2 | 祖父等の親族 |
| 3 | 隣近所の人 | 4 | 友人・知人 |
| 5 | 職場の人 | 6 | 保育所、幼稚園の保護者仲間 |
| 7 | 児童館、母親クラブ等の仲間 | 8 | 保育所、幼稚園の先生 |
| 9 | 子育て応援隊 | 10 | 子育て学習センター |
| 11 | かかりつけの医師 | 12 | 市役所の子育て相談窓口 |
| 13 | 民生委員・児童委員、主任児童委員 | 14 | 保健センター |
| 15 | 専門カウンセリング(臨床心理士等) | 16 | 子ども家庭センター(児童相談所) |
| 17 | 保健所 | 18 | ベビーシッター |
| 19 | 電話相談 | 20 | 育児書・育児雑誌 |
| 21 | インターネット | 22 | その他 () |

問12 あなたは子育てについて全体的にどのような感じていますか。(1つに○)

- | | | | |
|---|-------------|---|--------------|
| 1 | とても楽しい | 2 | 楽しい |
| 3 | 少し不安や負担を感じる | 4 | とても不安や負担を感じる |
| 5 | どちらとも言えない | | |

問13 あなたは、子育てについてどのような不安や負担を感じることがありますか。(あてはまるすべてに○)

- | | |
|----|-----------------------------|
| 1 | 子どもの健康や発達に不安を感じる |
| 2 | 地域医療体制への不安を感じる |
| 3 | 保育サービスや施設が利用しにくい |
| 4 | 安全な遊び場や児童館など、子どもの居場所が身近にない |
| 5 | 安全な通園ができる歩道や防犯施設等の整備が進んでいない |
| 6 | 子どもの教育やいじめなどが心配 |
| 7 | 子どもに関する犯罪や事故が増加していると感じる |
| 8 | 身近に自然や伝統文化とふれあう機会がない |
| 9 | 子育て(教育)にかかる経済的負担が大きい |
| 10 | 仕事と子育ての両立が難しい |
| 11 | 相談相手や手助けしてくれる人がいない |
| 12 | 自分のための時間がもてない |
| 13 | 育児やしつけの仕方に不安を感じる |
| 14 | 配偶者・パートナーの協力が少ない |
| 15 | 保護者同士の交流・付き合いが難しい |
| 16 | その他 () |
| 17 | 特になし |

問14 ご近所や地域の人々とお付き合いはどのような状況ですか。(1つに○)

- | | | | |
|---|-----------|---|-----------------------|
| 1 | 親しい | 2 | 付き合いがありやや親しい |
| 3 | 少々付き合いがある | 4 | 付き合いはほとんどなく、あいさつをする程度 |
| 5 | わからない | | |

お子さんの保護者の就労状況について

問15 お子さんの保護者の就労状況(自営業、家族従事者含む)について、①現在の状況と、②1年以内の見込み(実現見込みがある)をお答えください。(父親・母親それぞれ該当する番号に○。ひとり親家庭の方は、該当する部分のみお答えください。)

※ 産休・育休・介護休業中の方は、休業に入る前の状況についてお答えください。
 ※ ②1年以内の見込みについて、現在と同様の就労状況が想定される場合は、同じ番号を選択してください。

質問	父親・母親の就労状況・就労希望 (それぞれについて1つに○)			
	1 フルタイム 【週5日・ 1日8時間程度】	2 パート・ アルバイト 【1日4時間以上】	3 パート・ アルバイト 【1日4時間未満】	4 専業主婦 (夫)又は就労 していない
①現在の状況	(1)父親 1	2	3	4
(2)母親	1	2	3	4
②1年以内の見込み	(1)父親 1	2	3	4
(2)母親	1	2	3	4

問15-1 問15の①で「1」～「3」を選択した方にお伺いします。家を出る時間と帰宅時間を【 】内に数字でご記入ください。

※ 一定でない場合は、もっとも多い就労パターンについてご記入ください。

※ 時間帯は24時間制でご記入ください。

(1)父親	家を出る時間：[]時 []分	帰宅時間：[]時 []分
(2)母親	家を出る時間：[]時 []分	帰宅時間：[]時 []分

問15-2 問15の②で「4」を選択した方にお伺いします。1年よりも先、将来的な就労予定はありますか。(1つに○。【 】内に数字をご記入ください。)

(1)父親	1 子育てや家事などに専念したい(就労の予定はない)	
	2 1年より先、一番下の子が[]歳になったときに就労したい	
	3 すぐにも、もしくは1年以内に就労したい	希望する就労形態 ① フルタイム(1週5日程度、1日8時間程度の労働) ② パートタイム、アルバイト等(①以外) ⇒1週間あたり []日、1日あたり []時間
(2)母親	1 子育てや家事などに専念したい(就労の予定はない)	
	2 1年より先、一番下の子が[]歳になったときに就労したい	
	3 すぐにも、もしくは1年以内に就労したい	希望する就労形態 ① フルタイム(1週5日程度、1日8時間程度の労働) ② パートタイム、アルバイト等(①以外) ⇒1週間あたり []日、1日あたり []時間

平日の定期的な教育・保育事業の利用について

問16 お子さんは現在、幼稚園や保育所などの「定期的な教育・保育の事業」を利用されていますか。(1つに○)

1 利用している⇒(問16-1～問16-4へ) 2 利用していない⇒(問16-5へ)

問16-1 問16で「1」を選択した方にお伺いします。お子さんは、平日どのような教育・保育の事業を利用されていますか。年間を通じて「定期的に」利用されている事業をお答えください。(あてはまるすべてに○)

- 1 幼稚園 (通常の就園時間を利用)
- 2 幼稚園の預かり保育 (通常の就園時間を延長して預かる事業のうち定期的な利用のみ)
- 3 認可保育所 (国が定める最低基準に適合した施設で都道府県等の認可を受けた定員20人以上のもの)
- 4 認定こども園 (幼稚園と保育施設の機能を併せもつ施設)
- 5 小規模保育施設 (国が定める最低基準に適合した施設で市町村の認可を受けた定員が6～19人のもの)
- 6 家庭的保育 (保育者の自宅等で5人以下の子どもを保育する事業)
- 7 事業所内保育施設 (企業が主に従業員用に運営する認可保育施設)
- 8 自治体の認証・認定保育施設 (認可保育所ではないが、自治体が認証・認定した施設)
- 9 その他の認可外保育所 (都道府県等の認可を受けていない保育施設)
- 10 居宅訪問型保育 (ベビーシッターのような保育者が子どもの居宅で保育する事業)
- 11 ファミリー・サポート・センター (地域住民が子どもを預かる事業)
- 12 その他 ()

問16-2 問16で「1」を選択した方にお伺いします。問16-1で○をつけた事業を、現在、どのくらい利用されていますか。また、希望としては、どのくらい利用したいですか。【 】内に数字を記入)

(1)現在	1週あたり []日 []時間 []時～ []時
(2)希望	1週あたり []日 []時間 []時～ []時

問16-3 問16で「1」を選択した方にお伺いします。現在、利用されている教育・保育事業の場所はどこですか。(1つに○。赤穂市外を選択された方は、利用している市町名を()内にご記入ください。)

1 赤穂市内	2 赤穂市外 (市・町)
--------	--------------

問 16-4 問 16 で「1」を選択した方にお伺いします。事業を利用されている理由は何ですか。
(あてはまるすべてに○)

- | | |
|--------------------|--------------------------|
| 1 現在就労している | 2 就労予定がある、または求職中である |
| 3 家族・親族を介護しなければならぬ | 4 病気や障がいがある |
| 5 学生である | 6 1～5までの事情はないが、子どもの教育のため |
| 7 その他 () | |

問 16-5 問 16 で「2」を選択した方にお伺いします。事業を利用していない理由は何ですか。
(あてはまるすべてに○)

- ※「8」と回答された方は、併せて「8」より利用しようと考えているかを、「1」内に数字でご記入ください。
- | |
|---------------------------------------|
| 1 (子どもの母親が父親が就労していないなどの理由で) 利用する必要がない |
| 2 子どもの祖父母や親戚の人がみている |
| 3 近所の人や父母の友人・知人がみている |
| 4 利用したいが、保育・教育の事業に空きがない |
| 5 利用したいが、経済的な理由で事業を利用できない |
| 6 利用したいが、延長・夜間などの時間帯の条件が合わない |
| 7 利用したいが、事業の質や場所など、納得できる事業がない |
| 8 子どもがまだ小さいため、「1」歳くらいになったら利用しようと考えている |
| 9 その他 () |

すべての方にお尋ねします。

問 17 現在、利用している、利用していないかわからず、お子さんの平日の幼稚園や保育所利用などのうち、「定期的に」利用したいものをお答えください(あてはまるすべてに○)
※これらを利用するためには、一定の利用者負担が発生します。
※保護者の就労状況は問わないことを前提にお答えください。

- 【幼児教育無償化の内容】(令和5年9月時点)
- 3～5歳児の幼稚園、保育所、認定こども園等の利用は全世帯無償
 - 0～2歳児の幼稚園、保育所、認定こども園等の利用は住民税非課税世帯が無償
 - 認可外保育施設等では、保育の必要性の認定を受けた0～2歳児の住民税非課税世帯は42,000円/月まで、3～5歳児は37,000円/月まで無償

◆事業選択肢

- | |
|---|
| 1 幼稚園 (通常の就園時間の利用) |
| 2 幼稚園の預かり保育 (通常の就園時間を延長して預かる事業のうち定期的な利用のみ) |
| 3 認可保育所 (国が定める最低基準に適合した施設で都道府県等の認可を受けた定員20人以上のもの) |
| 4 認定こども園 (幼稚園と保育施設の機能を併せもつ施設) |
| 5 小規模保育施設 (国が定める最低基準に適合した施設で市町村の認可を受けた定員が6～19人のももの) |
| 6 家庭的保育 (保育者の居宅等で5人以下の子どものみを保育する事業) |
| 7 事業所内保育施設 (企業が主に従業員用に運営する認可保育施設) |
| 8 自治体の認証・認定保育施設 (認可保育所ではないが、自治体が認証・認定した施設) |
| 9 その他の認可外保育所 (都道府県等の認可を受けていない保育施設) |
| 10 居宅訪問型保育 (ベビーシッターのような保育者が子どもの居宅で保育する事業) |
| 11 ファミリー・サポート・センター (地域住民が子どもを預かる事業) |
| 12 その他 () |
| 13 利用しない |

問 17-1 教育・保育事業を利用したい場所についてお伺いします。(1つに○。赤穂市外を選択された方は、利用したい市町名を()内にご記入ください。

- | | |
|--------|------------|
| 1 赤穂市内 | 2 赤穂市外 () |
| | 市・町 |

問 17-2 問 17 で「1」または「2」を選択し、かつ「3」～「12」も選択した方にお伺いします。特に幼稚園(幼稚園の預かり保育をあわせて利用する場合を含む)の利用を強く希望しますか。(1つに○)

- | | |
|------|-------|
| 1 はい | 2 いいえ |
|------|-------|

地域子育て支援事業の利用について

問 18 下記の事業で知っているものや、これまでに利用したことがあるもの、今後利用したいと思うものをお答えください。(①)~(⑭)の事業ごとに、A~Cのそれぞれ1つに○)

	A	B	C
	知っている	利用したことがある	今後利用したい
①母親クラブ	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ
②保健センターの育児相談	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ
③赤穂市子育て世代包括支援センター「えるふるあふルーム」	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ
④プレママ・プレパパクラス	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ
⑤新生児訪問	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ
⑥子育て応援隊さろん・キッズさろん	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ
⑦保育所キンダースクール	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ
⑧児童館	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ
⑨幼稚園未満児保育	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ
⑩市役所の子育ての相談窓口	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ
⑪子育てショートステイ事業	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ
⑫子育て学習センター	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ
⑬ファミリー・サポート・センター	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ
⑭乳幼児一時預かり事業	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ
⑮乳児・幼児保育事業	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ
⑯幼児二人同乗用自転車購入費助成事業	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ
⑰チャイルドシート購入費助成事業	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ
⑱あこら子育て応援Book「びよびよ」	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ
⑳子育て応援アプリ「赤穂すくすくキッズ」	はい・いいえ	はい・いいえ	はい・いいえ

問 19 問 18の①から⑱までの事業について、「A 知っている」で「はい」、「B 利用したことがある」で「いいえ」を選択した事業について、利用していない理由をお聞かせください。(あてはまるすべてに○)

1 就労・就園のため行く時間がない	2 遠い、駐車場が少ないなど利便性が悪い
3 同年代の利用が少ない	4 既存のグループが気になる
5 利用方法がわからない	6 特になし
7 その他 ()	

土曜・休日や長期休暇中の「定期的な」教育・保育事業の利用について

問 20 お子さんについて、土曜日と日曜日・祝日に、問 16-1 に記載の「定期的な」教育・保育事業の利用希望がありますか。(一時的な利用は除きます。)

(それぞれ1つに○。希望がある場合は、利用したい時間帯を [] 内に数字でご記入ください。なお、これらの事業の利用には、一定の利用者負担が発生します。)

※時間帯は、24時間制でご記入ください。

※親族・知人による預かりは含みません。

(1) 土曜日

1 利用する必要はない

2 ほぼ毎週利用したい → 利用したい時間帯 [] 時~[] 時まで

3 月に1~2回は利用したい → 利用したい時間帯 [] 時~[] 時まで

(2) 日曜日・祝日

1 利用する必要はない

2 ほぼ毎週利用したい → 利用したい時間帯 [] 時~[] 時まで

3 月に1~2回は利用したい → 利用したい時間帯 [] 時~[] 時まで

問 20-1 問 20の(1)または(2)で「3」を選択した方にお伺いします。毎週ではなく、たまに利用したい理由は何か。(あてはまるすべてに○)

1 月に数回仕事が入るため

2 平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため

3 親族の介護や手伝いが必要のため

4 息抜きのため

5 その他 ()

問 21 「幼稚園」を利用されている方にお伺いします。幼稚園の夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中に、教育・保育事業の利用希望がありますか。(1つに○。希望がある場合は、利用したい時間帯を [] 内に数字でご記入ください。なお、これらの事業の利用には、一定の利用者負担が発生します。)

※ 時間帯は、24時間制でご記入ください。

1 利用する必要はない

2 休みの期間中、ほぼ毎日利用したい → 利用したい時間帯 [] 時~[] 時まで

3 休みの期間中、週に数日利用したい → 利用したい時間帯 [] 時~[] 時まで

問 21-1 問 21で「3」を選択した方にお伺いします。毎日ではなく、たまに利用したい理由は何か。(あてはまるすべてに○)

1 週に数回仕事が入るため

2 買い物などの用事をまとめて済ませるため

3 親など親族の介護や手伝いが必要のため

4 息抜きのため

5 その他 ()

問 22 すべての方にお伺いします。お子さんについて、国が検討している「こども誰でも通園制度（仮称）」が創設された場合、利用したいと思いませんか。（1つに○。利用したい場合は、[] 内に日数・時間帯をご記入ください。）

※「こども誰でも通園制度（仮称）」は、月一定時間までの利用可能枠の中で、就労要件を問わず時間単位等で柔軟に利用できる新たな通園給付です。
 ※利用には、保育料などの一定の費用がかかる場合があります。

1	利用したい	⇒	1週あたり [] 日	利用したい時間帯	[] 時～ [] 時まで
2	利用したいとは思わない				

病気の際の対応について

問 23 定期的に幼稚園・保育所などを利用している方にお伺いします。この1年間に、お子さんが病気やケガで通常の利用ができなかったことはありますか。（1つに○）

1	あった⇒問 23-1ハ	2	なかった⇒問 24ハ
---	-------------	---	------------

問 23-1 問 23 で「1」を選択した方にお伺いします。その際、どのように対応しましたか。（あてはまるすべてに○。それぞれの日数も [] 内に数字でご記入ください。半日対応の場合も1日とカウントしてください。）

	1年間の対応	日数
1	父親が休んだ ⇒問 23-2ハ	[] 日
2	母親が休んだ ⇒問 23-2ハ	[] 日
3	親族（同居者を含む）・知人に子どもをみてもらった	[] 日
4	父親又は母親のうち就労していない方が子どもをみた	[] 日
5	病児・病後児保育を利用した	[] 日
6	ベビーシッターを利用した	[] 日
7	ファミリー・サポート・センターを利用した	[] 日
8	仕方なく子どもだけで園守番をさせた	[] 日
9	その他（)	[] 日

問 23-2 問 23-1 で「1 父親が休んだ」「2 母親が休んだ」を選択した方にお伺いします。できれば「病児・病後児のための保育施設等を利用したい」と思われたことはありますか。（1つに○。「1」を選択した場合は日数もご記入ください。）

1	できれば利用したかった	⇒ () 日くらい
2	利用したいとは思わなかった	⇒問 23-3ハ

問 23-3 問 23-2 で「2」を選択した方にお伺いします。利用したいと思わなかった理由は何か。（あてはまるすべてに○）

1	病児・病後児を他人にみてもうるのは不安	2	事業の質に不安がある
3	事業の利便性（利用時間・日数、場所など）がよくない	4	利用料がかかる・高い
5	利用料がわからない	6	親が仕事を休んで対応する
7	その他（具体的に：)		

不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について

問 24 保護者の私用や通院、不定期の就労などの目的で、お子さんが不定期に利用している事業はありますか。（あてはまるすべてに○。また、該当する日数にはおおよそ1年間の利用日数を [] 内に数字でご記入ください。半日対応の場合も1日とカウントしてください。）

	(1) 利用している事業	(2) 日数
1	一時預かり（私用等理由を問わずに保育所等で一時的に子どもを保育する事業）	[] 日
2	幼稚園の預かり保育 （通常の就園時間を延長して預かる事業のうち、不定期に利用する場合）	[] 日
3	ファミリー・サポート・センター（地域住民が子どもを預かる事業）	[] 日
4	ベビーシッター	[] 日
5	その他（)	[] 日
6	利用していない ⇒問 24-1ハ	

問 24-1 問 24 で「6」を選択した方にお伺いします。利用していない理由は何ですか。（あてはまるすべてに○）

1	特に利用する必要がないから	2	利用したい事業が地域にないから
3	地域の事業の質に不安があるから	4	地域の事業の利便性がよくないから
5	利用料がかかる・利用料が高いから	6	利用料がわからないから
7	自分が事業の対象者になるのかわからないから	8	どのような事業があるかわからないから
9	その他（)		

育児と就労の両立について

問 28 お子さんが生まれた時、父母のいずれか、もしくは双方が育児休業を取得しましたか。
(それぞれ1つに○。ひとり親家庭の方は、該当する部分のみお答えください。)

(1) 父親	(2) 母親
1 働いていなかった⇒問 29 へ	1 働いていなかった⇒問 29 へ
2 取得した(取得中である)⇒問 28-1 へ	2 取得した(取得中である)⇒問 28-1 へ
3 取得していない⇒理由を選択し、問 29 へ	3 取得していない⇒理由を選択し、問 29 へ
取得していない理由 (下からあてはまる番号をすべて選び、ご記入ください)	取得していない理由 (下からあてはまる番号をすべて選び、ご記入ください)

- 育児休業を取りにくい職場の雰囲気があった
- 仕事が忙しかった
- (産後) 仕事に早く復帰したかった
- 仕事に戻るのが難しそうだった
- 昇給・昇格などが遅れそうだった
- 収入減となり、経済的に苦しくなる
- 保育所などに預けることができた
- 配偶者が育児休業制度を利用した
- 配偶者が無職、祖父母などの親族にみてもらえらるなど、制度を利用する必要がなかった
- 育児休業制度を知らなかった
- 職場に育児休業の制度がなかった(就業規則に定めがなかった)
- 有期雇用(アルバイト・パートを含む)のため育児休業の取得要件を満たさなかった
- その他(具体的に)

問 28-1 問 28 で「2」を選択した方にお伺いします。育児休業取得後、職場に復帰しましたか。
(それぞれ1つに○。ひとり親家庭の方は、該当する部分のみお答えください。)

(1) 父親	(2) 母親
1 育児休業取得後、職場に復帰した⇒問 28-2~5 へ	1 育児休業取得後、職場に復帰した⇒問 28-2~5 へ
2 現在も育児休業中である⇒問 29 へ	2 現在も育児休業中である⇒問 29 へ
3 育児休業中に離職した⇒問 29 へ	3 育児休業中に離職した⇒問 29 へ

問 28-2 問 28-1 で「1」を選択した方にお伺いします。育児休業から職場に復帰したのは、年度初めの保育所入所にあわせたタイミングでしたか。あるいはそれ以外でしたか。

(1つに○※ 年度初めを希望して復帰したが、入所できなかった場合は「1」を選択してください。)

(1) 父親	(2) 母親
1 年度初めの入所にあわせたタイミングだった	1 年度初めの入所にあわせたタイミングだった
2 それ以外だった	2 それ以外だった

問 28-3 問 28-1 で「1」を選択した方にお伺いします。育児休業からは、「実際に」お子さんが何歳何ヶ月の時に職場復帰しましたか。また、お勤め先の育児休業の制度の期間内で、何歳何ヶ月のときまで取りましたか。([] 内に数字を記入)

(1)父親 実際の取得期間 [] 歳 [] ヶ月	希望 [] 歳 [] ヶ月
(2)母親 実際の取得期間 [] 歳 [] ヶ月	希望 [] 歳 [] ヶ月

問 28-4 問 28-1 で「1」を選択した方にお伺いします。お勤め先に、育児のために3歳まで休暇を取得できる制度があった場合、「希望」としてはお子さんが何歳何ヶ月のときまで取りましたか。([] 内に数字を記入。ひとり親家庭の方は、該当する部分のみお答えください。)

(1) 父親	(2) 母親
[] 歳 [] ヶ月	[] 歳 [] ヶ月

問 28-5 問 28-3 で実際の復帰と希望が異なる方にお伺いします。希望の時期に職場復帰しなかった理由を教えてください。(AまたはBのいずれかを選択した上で、選択肢よりあてはまる番号をすべて回答欄にご記入ください。)

(1) 父親	(2) 母親
A・B	A・B
A 希望より早く復帰した方	B 希望より遅く復帰した方
1 希望する保育所に入るため	1 希望する保育所に入らなかったため
2 配偶者や家族の希望があったため	2 自分や子どもなどの体調が悪くなったため
3 経済的な理由で早く復帰する必要があったため	3 配偶者や家族の希望があったため
4 人事異動や業務の節目の時期に合わせるため	4 職場の受け入れ態勢が整っていなかったため
5 その他()	5 子どもをみてくれる人がいなかったため
	6 その他()

問 29 子どもと一緒の時間や親の介護、自己実現のための時間が十分に取れている(仕事と生活の調和がはかられている)と思いますか。(父親・母親それぞれ1つに○)

(1) 父親	(2) 母親
1 はかられている	2 はかられていない
2 はかられていない	1 はかられている
	2 はかられていない

赤穂市での子育てについて

問 30 下記の分野のうち、行政の取り組みに対してどのよう感じていますか。取り組みは多岐に渡りますが、全体的な満足度をお答えください。(①~⑩、それぞれ1つに○)

	大変満足	満足	普通	やや不満	わからない
①幼稚園、保育所の充実	1	2	3	4	5
②子育て学習センターや児童館など子育て支援施設の充実	1	2	3	4	5
③アフタースクールの実施	1	2	3	4	5
④ファミリー・サポート・センター事業、一時保育事業の実施	1	2	3	4	5
⑤病児・病後児保育事業の実施	1	2	3	4	5
⑥幼稚園における預かり保育事業の充実	1	2	3	4	5
⑦子育て支援に関する情報提供の強化	1	2	3	4	5
⑧仕事と子育ての両立の推進	1	2	3	4	5
⑨子育て相談事業の充実	1	2	3	4	5
⑩子どもの安全を守る生活環境の整備	1	2	3	4	5



赤穂市 子ども・子育て支援事業に 関するニーズ調査

小学生保護者対象調査

● 調査ご協力をお願い

皆さまには、日頃から市政に関するご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。このたび、令和7年度から11年度を計画期間とする新たなプランの策定にあたり、子育て中の世帯の皆さまの子育ての実態や子育て支援に関するニーズを把握するため、アンケート調査を実施することとなりました。

赤穂市におけるより良い子育ての環境を整備していくための基礎となる重要な調査です。つきましては、ご多忙のことと存じますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をお願い申し上げます。

なお、ご回答いただいた調査内容は、統計的に処理しますので、ご回答いただいた内容で個人が特定されることはありません。

令和6年2月

赤穂市

【ご記入に当たってのお願い】

■ 回答方法

● このアンケートは、WEBフォームでも回答が可能です。

WEBフォームを選択される場合、スマートフォン、PCから右のQRコード、または、<https://wsurvey.jp/s.php?clear=&id=ako-209> にアクセスしてください。また、このページの右上にあるコード(8桁の英数字)が必要です。

1 アンケートには、調査用紙を持ち帰ったお子さん、もしくはあて名のお子さんについて記入してください。

2 アンケートにはお子さんの保護者の方が記入してください。

3 回答は、選択肢に○をつけて選んでいただく場合と、数字などを記入していただく場合があります。

4 選択肢の場合、選んでいただく数が設問によって異なりますので注意書きに従ってください。

また「その他」を選択した場合は、() 内に具体的な内容を記入してください。

5 時間(時刻)を回答いただく場合は、24時間制(例：午後6時→18時)で記入してください。

6 設問によっては回答いただく方が限られる場合がありますので、ことわり書きや矢印に従って回答してください。特にことわりのない場合は、次の設問にお進みください。

7 本調査の集計結果や自由記述の趣旨については、市のホームページ等を通じて公表する場合があります。個人が特定されるようなことはありません。

回答は、お手数ですが、**2月16日(金)**までにご提出ください。

○ 学校で調査票を受け取り、紙で回答する方は、配布した封筒に入れ学校にご提出ください。

○ 郵送で調査票を受け取った方は、返信用封筒に入れ、郵送でご返送ください。

○ WEBで回答された方は、紙のアンケートを提出する必要はありません。

お子さんとご家族の状況について

問1 お住まいの小学校区はどちらですか。(1つに○)

1 赤穂	2 城西	3 堀屋	4 赤穂西	5 尾崎
6 御崎	7 坂越	8 高雄	9 有年	10 原

問2 調査票を受け取ったお子さんの生年月月をご記入ください。([] 内に数字を記入)

平成 [] 年 [] 月 生まれ

※ここから先、すべての質問の「お子さん」とは、調査票を持ち帰ったお子さん、もしくはあて名のお子さんです。

問3 お子さんのきょうだいは何人いらっしゃいますか。お子さんを含めた人数をご記入ください。([] 内に数字を記入)

きょうだい数 [] 人

問4 この調査票にご回答いただく方はどなたですか。お子さんから見た関係でお答えください。(1つに○)

1 母親	2 父親	3 その他 ()
------	------	-----------

問5 この調査票にご回答いただいている方の配偶者についてお答えください。(1つに○)

1 配偶者がいる	2 配偶者がいない
----------	-----------

問6 お子さんの子育てや教育を主にやっているのはどなたですか。お子さんから見た関係でお答えください。(1つに○)

1 父母ともに	2 主に母親	3 主に父親
4 主に相父母	5 その他 ()	

問7 お子さんの子育てや教育に日常的に関わっている方はどなた(施設)ですか。お子さんから見た関係でお答えください。(あてはまるすべてに○)

1 父母ともに	2 母親	3 父親
4 相父母	5 小学校	6 アフタースクール
7 放課後子ども教室	8 その他 ()	

問8 お子さんの子育てや教育に、最も大きく影響すると思われる環境はどれですか。(あてはまるすべてに○)

1 家庭	2 地域	3 小学校
4 アフタースクール	5 放課後子ども教室	6 その他 ()

問9 周囲の人（近隣、友人）に支えてもらって子育てをしているという実感がありますか。（1つに○）

1 大いにある	2 まあまあある	3 ほとんどない	4 全くない
---------	----------	----------	--------

問10 お子さんの子育て（教育を含む）をする上で、気軽に相談できる先はありますか。（1つに○）

1 ある⇒問10-1へ	2 ない⇒問11へ
-------------	-----------

問10-1 問10で「1」を選択した方にお伺いします。お子さんの子育てや教育に関して、気軽に相談できる先は、誰（どこ）ですか。（あてはまるすべてに○）

1 配偶者・パートナー	2 祖父母等の親族
3 隣近所の人	4 友人・知人
5 職場の人	6 学校の保護者仲間
7 児童館、母親クラブ等の仲間	8 学校の先生
9 子育て応援隊	10 かりつけの医師
11 市役所の子育て相談窓口	12 民生委員・児童委員、主任児童委員
13 保健センター	14 専門カウンセリング（臨床心理士等）
15 子ども家庭センター（児童相談所）	16 保健所
17 電話相談	18 育児書・育児雑誌
19 インターネット	20 その他（ ）

問11 あなたは子育てについて全体的にどのように感じていますか。（1つに○）

1 とても楽しい	2 楽しい
3 少し不安や負担を感じる	4 とても不安や負担を感じる
5 どちらとも言えない	

問12 あなたは、子育てについてどのような不安や負担を感じていますか。（あてはまるすべてに○）

1 子どもの健康や発達に不安を感じる
2 地域医療体制への不安を感じる
3 保育サービスや施設が利用しにくい
4 安全な遊び場や児童館など、子どもの居場所が身近にない
5 安全な通学ができて歩道や防犯施設等の整備が進んでいない
6 子どもの教育やいじめなどが心配
7 子どもに関する犯罪や事故が増加していると感じる
8 身近に自然や伝統文化とふれあう機会がない
9 子育て（教育）にかかる経済的負担が大きい
10 仕事と子育ての両立が難しい
11 相談相手や手助けしてくれる人がいない
12 自分のための時間もとれない
13 育児やしつけの仕方に不安を感じる
14 配偶者・パートナーの協力が少ない
15 保護者同士の交流・付き合いが難しい
16 その他（ ）
17 特になし

問13 ご近所や地域の人々との付き合いはどのような状況ですか。（1つに○）

1 親しい	2 付き合いがありやや親しい
3 少々付き合いがある	4 付き合いはほとんどなく、あいさつをする程度
5 わからない	

小学校での放課後の過ごし方について

問14 お子さんの放課後（平日の小学放終了後）の過ごし方についてお伺いします。〔(1) 現在放課後において過ごしている場所〕と〔(2) 今後の希望場所〕を、下の【選択肢】欄から3つまで選び、週あたりの日数をお答えください。（□内に数字を記入）

(1) 現在過ごしている場所		(2) 今後の希望場所	
場所 (番号を記入)	週あたりの日数 (数字を記入)	希望場所 (番号を記入)	週あたりの希望日数 (数字を記入)
□	週 □日□くらい	□	週 □日□くらい
□	週 □日□くらい	□	週 □日□くらい
□	週 □日□くらい	□	週 □日□くらい

【選択肢】

- 1 自宅
- 2 相父母宅や友人・知人宅
- 3 習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）
- 4 児童館
- 5 放課後子ども教室※1
- 6 アフタースクール※2 ⇒ (1) または (2) で選択した場合、問14-1へ
- 7 ファミリー・サポート・センター
- 8 その他（公民館、公園など）

※1 「放課後子ども教室」…地域の方々の協力を得て、放課後に小学校で学習・スポーツ・遊びなどを体験する施設です。保護者の協力の有無に関わらず、すべての小学生が利用でき、市内では赤穂西小、高連小、有年小、唐小で実施しています。

※2 「アフタースクール」…保護者が就労等により居間監視にない場合など一定の条件を満たせば、指導員の下、子どもたちの生活の場を提供するものです。市内では、赤穂小、新西小、高連小、赤穂西小、尾崎小、飯崎小、飯盛小、高尾小、有年小で実施しています。

問14-1 問14で「6」を選択した方にお伺いします。お子さんについて、土曜日、日曜日、日曜日・祝日及び長期休暇（春・夏・冬休み）に、アフタースクールの利用希望はありますか。事業の利用には、一定の利用料がかかります。（それぞれ1つに○。また利用したい時間帯を（ ）内に（例）8時～18時のように24時間制で記入）

(1) 土曜日	1 低学年（1～3年生）の間は利用したい	☐	利用したい時間帯	（ ）時 から（ ）時
	2 高学年（4～6年生）の間は利用したい	☐	（ ）時 から（ ）時	まで
	3 利用する必要はない	☐		
(2) 日曜日・祝日	1 低学年（1～3年生）の間は利用したい	☐	利用したい時間帯	（ ）時 から（ ）時
	2 高学年（4～6年生）の間は利用したい	☐	（ ）時 から（ ）時	まで
	3 利用する必要はない	☐		
(3) 長期休暇	1 低学年（1～3年生）の間は利用したい	☐	利用したい時間帯	（ ）時 から（ ）時
	2 高学年（4～6年生）の間は利用したい	☐	（ ）時 から（ ）時	まで
	3 利用する必要はない	☐		

4

問14-2 問14で「6」を選択しなかった方にお伺いします。アフタースクールを利用していない理由は何か。（あてはまるすべてに○）

- お子さんの身の回りの世話を主にしている方が
- 1 現在就労していないから
 - 2 就労しているが、アフタースクールを知らなかったから
 - 3 就労しているが、近くにアフタースクールの開所時間がないから
 - 4 就労しているが、アフタースクールの開所時間が短いから
 - 5 就労しているが、アフタースクールの利用料がかかるから
 - 6 就労しているが、子どもは放課後に習い事をしていないから
 - 7 就労しているが、放課後の短時間なら子どもだけでも大丈夫だと思うから
 - 8 就労しているが、他に子どもの身の回りの世話をしてくれる人がいるから
 - 9 就労しているが、他の施設に預けているから
 - 10 就労しているが、アフタースクールに空きがないから
 - 11 その他（ ）

病気の際の対応について

問15 この1年間に、お子さんが病気やケガで学校を休まなければならなかったことはありませんか。（1つに○）

- 1 あった⇒問15-1へ
- 2 なかった⇒問16へ

問15-1 問15で「1」を選択した方にお伺いします。その際、どのように対応しましたか。（あてはまるすべてに○。それぞれの日数も〔 〕内に数字でご記入ください。半日対応の場合も1日とカウントしてください。）

	1年間の対応		日数
	⇒問15-2へ	⇒問15-2へ	
1 父親が休んだ	☐	☐	〔 〕日
2 母親が休んだ	☐	☐	〔 〕日
3 親族（同居者を含む）・知人に子どもをみてもらった	☐	☐	〔 〕日
4 父親又は母親のうち就労していない方が子どもをみた	☐	☐	〔 〕日
5 病児・病後児保育を利用した	☐	☐	〔 〕日
6 ベビーシッターを利用した	☐	☐	〔 〕日
7 ファミリー・サポート・センターを利用した	☐	☐	〔 〕日
8 仕方なく子どもだけで留守番をさせた	☐	☐	〔 〕日
9 その他（ ）	☐	☐	〔 〕日

5

育児と就労の両立について

問18 お子さんが生まれた時、父母のいずれか、もしくは双方が育児休業を取得しましたが、(それぞれ1つに○。ひとり親家庭の方は、該当する部分のみお答えください。)

(1) 父親	(2) 母親
1 働いていなかった⇒問19ハ	1 働いていなかった⇒問19ハ
2 取得した(取得中である)⇒問18-1ハ	2 取得した(取得中である)⇒問18-1ハ
3 取得していない⇒理由を選択し、問19ハ	3 取得していない⇒理由を選択し、問19ハ
→取得していない理由 (下からあてはまる番号までを並び、ご記入ください)	→取得していない理由 (下からあてはまる番号までを並び、ご記入ください)
1 育児休業を取りにくい職場の雰囲気があった	2 仕事が忙しかった
3 (産休後に) 仕事に早く復帰したかった	4 仕事に戻るのが難しそうだった
5 昇給・昇格などが遅れそうだった	6 収入減となり、経済的に苦しくなる
7 保育所などに預けることができた	8 配偶者が育児休業制度を利用した
9 配偶者が無職、祖父母などの親族にみてもらえらるなど、制度を利用する必要がなかった	10 育児休業制度を知らなかった
11 職場に育児休業の制度がなかった(就業規則に定めがなかった)	12 有期雇用(アルバイト・パートを含む)のため育児休業の取得要件を満たさなかった
13 その他(具体的に)	

問18-1 問18で「2」を選択した方にお伺いします。育児休業取得後、職場に復帰しましたが、(それぞれ1つに○。ひとり親家庭の方は、該当する部分のみお答えください。)

(1) 父親	(2) 母親
1 育児休業取得後、職場に復帰した⇒問18-2～5ハ	1 育児休業取得後、職場に復帰した⇒問18-2～5ハ
2 現在も育児休業中である⇒問19ハ	2 現在も育児休業中である⇒問19ハ
3 育児休業中に離職した⇒問19ハ	3 育児休業中に離職した⇒問19ハ

問18-2 問18-1で「1」を選択した方にお伺いします。育児休業から職場に復帰したのは、年度初めの保育所入所にあわせたタイミングでしたか。あるいはそれ以外でしたか。

(1つに○) ※ 年度初めを希望して復帰したが、入所できなかった場合は「1」を選択してください。

(1) 父親	(2) 母親
1 年度初めの入所にあわせたタイミングだった	1 年度初めの入所にあわせたタイミングだった
2 それ以外だった	2 それ以外だった

問18-3 問18-1で「1」を選択した方にお伺いします。育児休業からは、「実際に」お子さんが何歳何ヶ月の時に職場復帰しましたか。また、お勤め先の育児休業の制度の期間内で、何歳何ヶ月のときまで取りたいですか。〔 〕内に数字を記入)

(1) 父親	実際の取得期間 [] 歳 [] ヶ月	希望 [] 歳 [] ヶ月
(2) 母親	実際の取得期間 [] 歳 [] ヶ月	希望 [] 歳 [] ヶ月

問18-4 問18-1で「1」を選択した方にお伺いします。お勤め先に、育児のために3歳まで休暇を取得できる制度があった場合、「希望」としてはお子さんが何歳何ヶ月のときまで取りたいですか。〔 〕の中に数字をご記入ください。(ひとり親家庭の方は、該当する部分のみお答えください。)

(1) 父親	(2) 母親
[] 歳 [] ヶ月	[] 歳 [] ヶ月

問18-5 問18-3で実際の復帰と希望が異なる方にお伺いします。希望の時期に職場復帰しなかった理由を教えてください。(AまたはBのいずれかを選択した上で、選択肢よりあてはまる番号をすべて回答欄にご記入ください。)

A・B	(1) 父親	(2) 母親
A・B	A・B	A・B
A	希望より早く復帰した方	B 希望より遅く復帰した方
1	希望する保育所に入るため	1 希望する保育所に入らなかったため
2	配偶者や家族の希望があったため	2 自分や子どもなどの事情が思わしくなかったため
3	経済的な理由で早く復帰する必要があったため	3 配偶者や家族の希望があったため
4	人事異動や業務の節目の時期に合わせるため	4 職場の受け入れ態勢が整っていなかったため
5	その他()	5 子どもをみてくれる人がいなかったため
		6 その他()

問19 子どもと一緒に時間や親の介護、自己実現のための時間が十分に取れている(仕事と生活の調和がはかられている)と思いますか。(父親・母親それぞれ1つに○)

(1) 父親	(2) 母親
1 はかられている	1 はかられている
2 はかられていない	2 はかられていない

お子さんの安全について

問20 子どもの健全育成や非行防止のために、どのようなことに力をいれるべきだと思われるかを。(〇は3つまで)

- 1 家庭でのしつけやこころの教育を充実する
- 2 学校での生徒指導や教育を強化する
- 3 学校や地域、行政、警察などが連携し、指導体制を充実する
- 4 青少年が高齢者や大人など、地域の人ひととふれあう機会をふやす
- 5 青少年に及ぼす影響の大きい雑誌やビデオなどの販売、ちらし等を排除する
- 6 万引きなどを防止するための管理体制を強化する
- 7 青少年の非行防止・健全育成のための相談体制を強化する
- 8 今のままでよい
- 9 その他 ()

問21 子どもの安全を守るために、特に重要と思われることは次のうちどれですか。(〇は3つまで)

- 1 地域の交通安全活動の充実・強化
- 2 歩行者や自転車のための交通安全施設(ガードレール・歩道)の整備
- 3 地域ぐるみでのパトロールなど子どもを犯罪から守るための取り組み
- 4 公園遊具の安全性の確保
- 5 不審者の侵入防止など、学校の安全対策
- 6 通学路や子どもたちの遊び場の安全対策
- 7 犯罪にあいそうになった時の対応についての教育
- 8 その他 ()

赤穂市での子育てについて

問22 下記の分野のうち、行政の取り組みに対してどのように感じていますか。取り組みは多岐に渡りますが、全体的な満足度をお答えください。(①~⑥、それぞれ1つに〇)

	大変満足	満足	普通	やや不満	不満	わからない
①幼稚園、保育所の充実	1	2	3	4	5	6
②子育て学習センターや児童館など子育て支援施設の充実	1	2	3	4	5	6
③アフタースクールの実施	1	2	3	4	5	6
④ファミリー・サポート・センター事業、一時預かり事業の推進	1	2	3	4	5	6
⑤育児・病後児保育事業の実施	1	2	3	4	5	6
⑥幼稚園における預かり保育事業の充実	1	2	3	4	5	6
⑦子育て支援に関する情報提供の強化	1	2	3	4	5	6
⑧仕事と子育ての両立の推進	1	2	3	4	5	6
⑨子育て相談事業の充実	1	2	3	4	5	6
⑩子どもの安全を守る生活環境の整備	1	2	3	4	5	6
⑪子育て世帯の経済的負担の軽減	1	2	3	4	5	6
⑫働がいがある子どもの早期発見・早期支援	1	2	3	4	5	6
⑬ひとり親世帯への経済的負担の軽減	1	2	3	4	5	6
⑭妊産婦・新生児訪問指導の充実	1	2	3	4	5	6
⑮保健センターの充実	1	2	3	4	5	6
⑯小児医療体制の充実	1	2	3	4	5	6
⑰特色ある学校づくりの推進	1	2	3	4	5	6
⑱量から心と健康なからだの育成をめざした教育の推進	1	2	3	4	5	6
⑲虐待の予防と早期発見への取り組みの強化	1	2	3	4	5	6
⑳児童・青少年の健全育成のための環境整備	1	2	3	4	5	6

問23 地域に、ボランティア等による無料の学習塾があったら、お子さんを参加させたいと思いますか。【1つに○】

1. 参加させたい	2. 参加させたくない	3. わからない
-----------	-------------	----------

問24 地域に、無料又は安価で子どもに食事の提供を行う「子ども食堂」に、お子さんを参加させたいと思いますか。【1つに○】

1. 親子で参加したい	2. 子どもだけで参加させたい
3. 参加させたくない	4. わからない

問25 赤穂市は、子育てしやすい環境にあると思いますか。(1つに○。また、その理由もご記入ください。)

1 そう思う	2 どちらかというと思う	3 どちらかというと思うわない
4 そう思わない	5 わからない	
⇒その理由 ()		

問26 将来、お子さんにどのような人になってほしいと思いますか。(○は3つまで)

1 ふるさとや日本の自然や文化、伝統を愛し、大切にする人
2 逆境に負けない忍耐力と自立心を身につけた人
3 公共心や社会常識、マナーを身につけた人
4 専門的な知識や技能を身につけた人
5 人の意見に耳を傾け、柔軟に受け入れられる人
6 自分の意見を持ち、リーダーシップや行動力がある人
7 その他 ()

問27 あなたは、これからお子さんに赤穂市で育ててほしいと思いますか。(1つに○。また、その理由もご記入ください。)

1 そう思う	その理由を記入してください。 ()
2 どちらかというと思う	
3 どちらかというと思うわない	
4 そう思わない	
5 わからない	

問28 最後に、教育・保育環境の充実など子育ての環境や支援に関してご意見がございましたら、ご自由にご記入ください。

--

調査にご協力いただきまして、ありがとうございます。
2月16日(金)までにWEBでの回答又は小学校へご提出ください。



あこうし 赤穂市 子育て支援事業に
かん 関するニース調査
小中 小学生対象調査

● 調査ご協力をお願い

このアンケートは、みなさんの生活の様子などをお聞きするものです。みなさんの声をもとに、赤穂市が子どもたちができることを考えていきますので、ご協力をお願いします。
みなさんが安心していきいきと暮らせるような赤穂市をつくるために、このアンケートですの
で、ぜひ協力をしてください。

令和6年2月

赤穂市

【ご記入に当たってのお願い】
■ 回答方法

- このアンケートは、WEBフォームでも回答が可能です。タブレット、スマホ等から右のQRコードまたは、以下の
<https://wsurveys.jp/shp?clear=1&a=akoz210>
にアクセスしてください。また、このページの右上にあるコード(8桁の英数字)が必要となります。
- この用紙には、名前を書かないでください。
- 回答は、自分自身が思うことをお書きください。
- 調査の集計結果や自由記述の趣旨については、市のホームページ等を通じて公表する場合があります。(個人が特定されるようなことはありません)



回答は、お手数ですが、2月16日(金)までにご提出ください。
WEBで回答された方は、紙のアンケートを提出する必要はありません。
○ 学校で調査票を受け取り、紙で回答される方は、配布した封筒に入れ、学校にご提出ください。
○ 郵送で調査票を受け取り、紙で回答される方は、返信用封筒に入れ、切手を貼らずにご返送ください。

赤穂市健康福祉部 子育て支援課 電話：0791-43-6808 F.A.X：0791-43-7138

子どものニース調査 (子どもアンケート)

【アンケートに答える前に読んでください】

- ① このアンケートは、赤穂市が子どもたちのために荷が重くならないように、みなさんの生活の様子や感じておられることなどについておたずねするものです。
- ② 答えは、あてはまる番号に○をしてください。○は、1つだけ○をつけるものと、あてはまる全部に○をつけるものがあります。
- ③ テストではありませので、みなさんが思うとおりに答えてください。
- ④ 答えたくない、答えるに困る場合は、無理に答えずとも大丈夫です。回答にかかる時間は約10分です。
- ⑤ 名前は書かなくて大丈夫です。

問1 あなたの学年を教えてください。(○は1つ)

1 小学4年生	2 小学6年生	3 中学1年生
---------	---------	---------

問2 あなたの性別を教えてください。(○は1つ)

1 男	2 女	3 答えたくない
-----	-----	----------

普段の生活についてお聞きします

問3 あなたは、食事を毎日とれていますか。(○は1つ)

1. 毎日十分に食べられている	問5へ進んでください
2. 毎日食べられているが、十分に食べられない日がある	
3. 時々、少ししか食べられない日がある	
4. 時々、食べられない日がある	

問4 あなたが毎日食事をとれない理由はなんですか。(○は1つ)

1. 時間が足りない	2. おなかがすいていない
3. 用意されていない	4. 食べる習慣がない

問5 あなたは、悩んだり、困ったりした時に相談できる人はいますか。(○は1つ)

1. いる	2. ほしいけどいない	3. 相談できる人は必要ない	4. わからない
-------	-------------	----------------	----------

問6 問5で「1. (相談できる人が) いる」と回答した人にお聞きします。それは誰ですか。
(あてはまる番号すべてに○)

- | | |
|-------------------------------------|-------------------|
| 1. 家族 (お父さん、お母さん、おじいさん、おばあさん、きょうだい) | 2. しんせき (おじ、おばなど) |
| 3. 友だち | 4. 学校の先生 |
| 5. 市役所・福祉サービスの人 | 6. 近所の人 |
| 7. SNS上での知り合い | 8. その他 () |

問7 あなたは、家族と話す時間がありますか。(○は1つ)

1. ほとんどない	2. あまりない	3. ある	4. 十分にある
-----------	----------	-------	----------

問8 あなたは、平日 (学校に行く日) の放課後 (夕方6時くらいまで) は、どこで過ごしますか。一番多くいる場所に1つ○をしてください。

- | | |
|-----------------------|--------------------|
| 1. 自分の家 | 2. 友達の家 |
| 3. 塾や習い事 | 4. 児童館 |
| 5. 学校 (アフタースクール) | 6. 部活やスポーツクラブの活動の場 |
| 7. 図書館 | 8. 公園 |
| 9. 商店街やショッピングモール | 10. ゲームセンター |
| 11. その他 (具体的に教えてください) | |

問9 地域に、ボランティア等による無料の学習室があれば参加したいですか。(○は1つ)

1 参加したい	2 参加したくない
---------	-----------

問10 地域に、無料又は安価で食事ができる「子ども食堂」があれば参加したいですか。(○は1つ)

1 参加したい	2 参加したくない
---------	-----------

問11 あなたは、あなた専用のスマートフォン (スマホ) を持っていますか。(○は1つ)

1 持っている	2 ほしいが、持っていない	3 必要がないので持っていない
---------	---------------	-----------------

問12 あなたは、スマートフォン (スマホ) などを使って、1日どのくらいインターネット (SNS、動画サイト、オンラインゲームなど) を利用していますか。

1 日いたい	_____ 時間
--------	----------

問13 あなたは、インターネットで次のような経験をしたことはありますか。

(1) 身に覚えのない料金を請求された	1. ある	2. ない
(2) ゲームに夢中になり課金してしまった	1. ある	2. ない
(3) SNSでいじめやいやがらせを受けた	1. ある	2. ない
(4) 個人情報 を流された	1. ある	2. ない
(5) 犯罪などのトラブルに巻き込まれた	1. ある	2. ない
(6) SNSで知り合った人と会ったことがある	1. ある	2. ない
(7) SNSでどんなことでも話し合える人がいる	1. ある	2. ない

ヤングケアラーについて、あなたが考えていることを教えてください

問14 「ヤングケアラー」という言葉を知っていますか。(○は1つ)

1. 内容を詳しく知っている	2. ある程度知っている	3. 言葉は聞いたことはある	4. 知らない
----------------	--------------	----------------	---------

※ヤングケアラー：本来大人がするような家族のお世話や家事を日常的に任されている子どものことです。お世話などをすることにより、学校の成績や友人関係に影響があります。

家族に代わり、初いきようだいの世話をしている。
 障がいや病気のある家族に代わり、黄い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている。

障がいや病気のある家族に代わり、黄い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている。

障がいや病気のある家族に代わり、黄い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている。

障がいや病気のある家族に代わり、黄い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている。

障がいや病気のある家族に代わり、黄い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている。

障がいや病気のある家族に代わり、黄い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている。

障がいや病気のある家族に代わり、黄い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている。

障がいや病気のある家族に代わり、黄い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている。

ヤングケアラーについて (子ども家庭庁) (<https://www.cfa.go.jp/policies/young-career/>) 参照
2024-01-10) を加工して作成

問15 あなた自身は「ヤングケアラー」にあてはまると感じますか。(○は1つ)

- | | | |
|----------|------------|----------|
| 1. あてはまる | 2. あてはまらない | 3. わからない |
|----------|------------|----------|

問16 あなたの周りに「ヤングケアラー」と思われる人はいいますか。(○は1つ)

- | | | |
|---------------|---------------|---------------|
| 1. いる (知っている) | 2. 可能性のある子がいる | 3. いない (知らない) |
|---------------|---------------|---------------|

問17 あなたが、毎日の生活で感じていることなどを自由に書いてください。

--

ご協力ありがとうございました。



赤穂市観光マスコミキャラクター 輝たくん



赤穂市 子どもの生活実態調査 (保護者用)

● 調査ご協力をお願い

皆さまには、日頃から市政に関するご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。
この調査は、本市に住む「小学5年生と中学2年生、高校2年生」及び「その保護者」の方を対象に、家庭や生活の状況などをお聞きし、これからの赤穂市の子ども・子育て支援施策に役立てるために実施するものです。
ご多用のことは存じますが、趣旨をご理解いただき、ご協力をお願いいたします。なお、ご回答いただいた調査内容は、統計的に処理しますので、ご回答いただいた内容で個人が特定されることはありません。

令和6年2月

赤穂市

【ご記入に当たってのお願い】

■ 回答方法

- このアンケートは、WEBフォームでも回答が可能です。
WEBフォームを選ばれる場合、スマートフォン、PCからの右のQRコード、または、<https://survey.jp/s.php?clear=kaako-211> にアクセスしてください。また、アンケート1ページの上にあるコード(8桁の英数字)が必要です。
- 1 アンケートには、調査用紙を持ち帰ったお子さん、もしくはあて名のお子さんについて記入してください。
- 2 アンケートには、お子さんの保護者の方が記入してください。
- 3 回答は、選択肢に○をつけて選んでいただく場合と、数字などを記入していただく場合があります。
- 4 選択肢の場合、選んでいただく数が設問によって異なりますので注意書きに従ってください。また「その他」を選ばれた場合は、()内に具体的な内容を記入してください。
- 5 本調査の結果や自由記述の趣旨については、市のホームページ等を通じて公表する場合があります。(個人が特定されるようなことはありません)

回答は、お手数ですが、**2月16日(金)**までに提出ください。

○WEBで回答された方は、紙のアンケートを提出する必要はありません。

○学校で調査票を受け取り、紙で回答される方は、配布した封筒に入れ学校にご提出ください。

○郵送で調査票を受け取り、紙で回答される方は、返信用封筒に入れ切手を貼らずにご返送ください。

赤穂市健康福祉部 子育て支援課 電話：0791-43-6808 F A X：0791-43-7138

子どもの生活実態調査 (保護者アンケート)

【回答にあたって】

- ①この調査の中の「子ども」とは、調査用紙を持ち帰ったお子さん、もしくは宛名のお子さんのことを指しています。
- ②回答は、あてはまる番号を○で囲んでください。○の数は、設問毎に1つの場合と複数の場合があります。
- ③答えたくない、答えにくい質問には、無理にお答えいただく必要はありません。回答に要する時間は約10分程度です。

◎家庭の状況についておうかがいします。

問1 あなたの年齢と性別をお答えください。性別は該当する番号に○をしてください。

年齢	_____ 歳		
性別	1. 女	2. 男	3. 答えたくない

問2 あなたのお子さんは小学生ですか、それとも中学生、高校生ですか。(○は1つ)

1. 小学生	2. 中学生	3. 高校生	4. その他
--------	--------	--------	--------

問3 あなたの家の世帯員について当てはまる番号すべてに○をしてください。(選択肢はお子さんからみた続柄です。)

1. この調査票を受け取った子ども本人	2. 父親	3. 母親
4. 兄()人	5. 姉()人	6. 弟()人
7. 妹()人	8. 祖父	9. 祖母
10. その他()人		

問4 保護者の方の職業について、それぞれ当てはまるものに1つ○をしてください。

①父親の職業(1つに○)	②母親の職業(1つに○)
1. 常勤・正規職員	1. 常勤・正規職員
2. パート・アルバイト・非正規職員	2. パート・アルバイト・非正規職員
3. 自営業	3. 自営業
4. その他の就業形態	4. その他の就業形態
5. 家事専業	5. 家事専業
6. 学生	6. 学生
7. 分からない	7. 分からない
8. その他()	8. その他()

問5 子どもと生計を共にしている世帯全員の合計の年間収入（税込み）として、当てはまるものに1つ○をしてください。

※世帯全員とは、問2で答えた方全員のことで、
 ※収入には、月給や賞与などの働いて得た収入だけでなく、株主配当や副収入、手当も含まれます。
 ※児童手当や就学奨励、生活保護などの公的な補助手当は除いた額をお答えください。

1. 収入はない(0円)	2. 1円～50万円未満	3. 50～100万円未満
4. 100～150万円未満	5. 150～200万円未満	6. 200～250万円未満
7. 250～300万円未満	8. 300～350万円未満	9. 350～400万円未満
10. 400～450万円未満	11. 450～500万円未満	12. 500～550万円未満
13. 550～600万円未満	14. 600～650万円未満	15. 650～700万円未満
16. 700～750万円未満	17. 750～800万円未満	18. 800～850万円未満
19. 850～900万円未満	20. 900～950万円未満	21. 950～1,000万円未満
22. 1,000万円以上	23. 分からない	

◎日常生活における支出についておうかがいします。

問6 あなたの家庭で、過去1年間の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料が買えないことがありましたか。当てはまるものに1つ○をしてください。

1. よくあった	2. とときどきあった	3. ほとんどなかった	4. なかった
----------	-------------	-------------	---------

問7 あなたの家庭で、過去1年間の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする衣類が買えないことがありましたか。当てはまるものに1つ○をしてください。

1. よくあった	2. とときどきあった	3. ほとんどなかった	4. なかった
----------	-------------	-------------	---------

問8 公共料金等の支払いにおいて、過去1年間の間に、経済的な理由のために、以下の1～9を支払えなかったことがありますか。当てはまるものにすべて○をしてください。

1. 電話料金(携帯電話等含む)	2. 電気料金	3. ガス料金	4. 水道料金
5. 家賃	6. 住宅ローン	7. 給食費	8. 税金
9. その他の債務	10. 特になし		

問9 子ども教育や活動に関する支出において、経済的な理由で、次のような経験をしたことはありますか。当てはまるものにすべて○をしてください。

1. 子どもを医療機関に受診させられなかった
2. 子どもの進路を変更した
3. 子どもにお小遣いを渡せなかった
4. 子どもを学校の遠足や修学旅行に参加させられなかった
5. 子どもを学習塾や習い事に通わせることができなかった
6. 子どもを学校のクラブ活動に参加させられなかった
7. 1～6のいずれも経験したことがない

◎日常生活におけるつながり・支援についておうかがいします。

問10 あなたは、忙しさのために、子どもと話しができないと思うことがありますか。当てはまるものに1つ○をしてください。

1. よくある	2. とときどきある	3. ほとんどない	4. ない
---------	------------	-----------	-------

問11 家事や子育てを手伝ってくれる人(子どもは除く)はいいますか。当てはまるものにすべて○をしてください。

1. 配偶者	2. 祖父母	3. 親戚(人)	4. 近所の人(人)
5. 友達・知人	6. その他(間柄)	7. 特になし	

問12 子どもに家事をしてもらうことは、どのくらいありますか。当てはまるものに1つ○をしてください。

1. よくある	2. とときどきある	3. ほとんどない	4. ない
---------	------------	-----------	-------

問13 子どもに、同居している養介護者の介護をってもらうことは、どのくらいありますか。当てはまるものに1つ○をしてください。

1. よくある	2. とときどきある	3. ほとんどない
4. ない	5. 介護を必要とする人はいない	

問14 あなたが困ったときや悩みがあるときに、相談できる人はいいますか。当てはまるものにすべて○をしてください。

1. 同居している家族	2. 親戚(人)	3. 近所の人(人)
4. 友達・知人(人)	5. その他(間柄)	6. 特になし

問15 あなたは、子育てに関わってから、以下のような経験をしたことがありますか。当てはまるものにすべて○をしてください。

1. 配偶者またはそれに相当するパートナーから暴力をふるわれたことがある
2. 子どもに行き過ぎた体罰を与えたことがある
3. 育児放棄になった時期がある
4. 出産や育児でうつ病になったことがある
5. 「わが子を虐待しているのではないかと思い悩んだことがある
6. 自殺を考えたことがある
7. 1～6のいずれも経験したことがない

◎各種公的な制度の認知、利用状況について、おうちが詳しいです。

問16 福祉、医療、年金などの制度について、認知状況及び現在の利用状況について、それぞれ当てはまるものに1つずつ○をしてください。

	利用している	過去に利用したことがある	利用したことがない	知らない
(1) 児童扶養手当	1	2	3	4
(2) 特別児童扶養手当	1	2	3	4
(3) 公的年金（遺族年金等）	1	2	3	4
(4) 生活保護	1	2	3	4
(5) 就学援助制度	1	2	3	4
(6) ファミリー・サポートセンター	1	2	3	4
(7) 養育費	1	2	3	4
(8) 母子家庭等医療費助成	1	2	3	4
(9) 母子父子寡婦福祉資金の貸付	1	2	3	4
(10) ひとり親家庭相談（母子・父子自立支援員）	1	2	3	4
(11) ハローワーク（公共職業安定所）	1	2	3	4
(12) 生活福祉資金貸付	1	2	3	4
(13) 雇用保険（失業保険）	1	2	3	4
(14) 市の就労相談	1	2	3	4
(15) 市の子育て相談	1	2	3	4
(16) こども食堂やフードバンク等による食糧支援	1	2	3	4

問17 あなたの世帯は、健康保険に加入していますか。当てはまるものに○をしてください。

1. 加入している 2. 加入していない

問18 学資保険について、当てはまるものに○をしてください。

1. 加入している 2. 加入することを考えている
3. これまで考えてはいなかった 4. 加入していない

問19 毎日の生活のことで感じていることや悩んでいることなど、自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

2月16日（金）までにご提出ください。



あこうし 赤穂市 子どもの生活実態調査 (子ども用)

● 調査ご協力をお願い ●

このアンケートは、みなさんの生活の様子や授業についての思いなどをお聞きするものです。みなさんの声をもとに、赤穂市が子どもたちにできることを考えていきますので、ご協力をお願いします。みなさんが安心していきいきと暮らせるような赤穂市をつくるために、行うアンケートですので、ぜひ協力をしてください。

令和6年2月

赤穂市

【ご記入に当たってお願い】

■ 回答方法

- このアンケートは、WEBフォームでも回答が可能です。タブレット、スマホ等から右のQRコード、または、以下の <https://wsurvey.jp/s.php?clear=1&a=ako-212> にアクセスしてください。また、アンケート1ページの左上にあるコード(8桁の英数字)が必要となります。
- この用紙には、名前を書かないでください。
- 回答は、自分自身が思うことお答えください。
- 調査の集計結果や自治体の動向については、市のホームページ等を通じて公表する場合があります。(個人が特定されるようなことはありません)



回答は、お手紙ですが、2月16日(金)までにご提出ください。WEBで回答された方は、紙のアンケートを提出する必要はありません。○ 学校で調査票を受け取り、紙で回答される方は、封筒した封筒に入れ学校にご提出ください。○ 郵送で調査票を受け取り、紙で回答される方は、返信用封筒に入れ切手を貼らずにご送送ください。

赤穂市健康福祉部 子育て支援課 電話：0791-43-6808 FAX：0791-43-7138

子どもの生活実態調査 (子どもアンケート)

【アンケートに答える前に読んでください】

- ① このアンケートは、赤穂市が子どもたちのために荷が重なることを考えるために、みなさんの生活の様子や感じていることなどについておたずねするものです。
- ② 答えは、あてはまる番号に○をしてください。○は、1つだけ○をつけるものと、あてはまる全部に○をつけるものがあります。
- ③ テストではありませので、みなさんが思うとおりに答えてください。
- ④ 答えたくない、答えにくい質問は、無理に答えなくても大丈夫です。回答にかかる時間は約10分です。
- ⑤ 名前は書かないでください。また、おうちの人の人に見せなくても大丈夫です。

問1 あなたは小学生ですか、それとも中学生・高校生ですか。(○は1つ)

1. 小学生 2. 中学生 3. 高校生 4. その他

問2 あなたの性別を教えてください。(○は1つ)

1. 男 2. 女 3. 答へたくない

◎ 毎日の生活について教えてください。

問3 あなたは、食事を毎日とれていますか。(○は1つ)

1. 毎日十分に食べられている。 2. 毎日食べられているが、十分に食べられない日がある。 3. 時々、少ししか食べられない日がある。 4. 時々、食べられない日がある。

問4 あなたが毎日食事をとれない理由は何か。(○は1つ)

1. 時間がない 2. おなかがいらいらい 3. 用意されていない 4. 食べる習慣がない

問5 あなたは、必要と感う飯を買ってもらえないと感うことはありますか。(○は1つ)

1. よくある 2. とときある 3. ほとんどない 4. ない

問6 あなたは、学校で必要なもの(文房具など)を、買ってもらえないことはありませんか。(○は1つ)

1. よくある 2. ときどきある 3. ほとんどない 4. ない

問7 あなたは、友達とつきあいをする上で必要なもの(おもちゃやゲームなど)を、買ってもらえないことはありませんか。(○は1つ)

1. よくある 2. ときどきある 3. ほとんどない 4. ない

問8 あなたは、生活をする上で必要なもの(自転車など)を、買ってもらえないことはありませんか。(○は1つ)

1. よくある 2. ときどきある 3. ほとんどない 4. ない

問9 家族の中にあなたが中心となってお世話をしている人はいますか。(ここで「お世話」とは、かつう夫人が行ったような家事や家族のお世話のことです。)(○は1つ)

1. いる 2. いない → 問17へ

問10 問9で「1.(世話をしている人が)いる」と答えた人にお聞きします。あなたは誰に、どのようなお世話をしていますか。(○は1つ)

1. 祖父母(おじさん、おばあさん)の食事や身の回りのお世話
 2. 父母(お父さん、お母さん)の食事や身の回りのお世話
 3. きょうだいの食事や身の回りのお世話
 4. 家族全員のお世話(食事の準備やそうじ、洗濯など)
 5. その他(誰にどのようなお世話が)

問11 問9で「1.(世話をしている人が)いる」と答えた人にお聞きします。お世話を必要としている人の状況について教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

1. 高齢(65歳以上)
 2. 認知症
 3. 身体障がい
 4. 知的障がい
 5. ころの精気(うつ病など)※疑い含む
 6. 依存症(お酒やキャプサルなどをやめられず、生活に問題を構えている)※疑い含む
 7. 5、6以外の精気
 8. 日本語が苦手
 9. その他()
 10. わからない

問12 問9で「1.(世話をしている人が)いる」と答えた人にお聞きします。あなたは何卒からお世話をしていますか。(はっきりとわからない場合は、だいたいの年でかまいません)

- ()才から

問13 問9で「1.(世話をしている人が)いる」と答えた人にお聞きします。あなたはどのくらいお世話をしていますか。(○は1つ)

1. ほぼ毎日 2. 週に3~5日 3. 週に1~2日
 4. 1ヶ月に数日 5. その他()

問14 問9で「1.(世話をしている人が)いる」と答えた人にお聞きします。あなたは平日の時間からいお世話をしていますか。(白によって違う場合は、この1ヶ月でいちばん長かった日の時間を教えてください。)

- 1日()時間くらい

問15 問9で「1.(世話をしている人が)いる」と答えた人にお聞きします。お世話をしていることで、以下のような経験をしたことはありませんか。

(あてはまる番号すべてに○)

1. 学校を休んでしまう 2. 通勤や早退をしてしまう
 3. 宿題など勉強する時間がたらない 4. 取る時間がたらない
 5. 洗濯と洗うことができない 6. 習い事ができない
 7. 自分の時間が取れない 8. その他()
 9. 指にない

問16 問9で「1.(世話をしている人が)いる」と答えた人にお聞きします。お世話をすることに大変さを感じていますか。(○は1つ)

1. すごく感じる 2. 少し感じる
 3. あまり感じていない 4. まったく感じていない

問17 あなたは、悩んだり、困ったりした時に相談できる人はいいますか。(○は1つ)

1. いる 2. ほしいけどいない 3. 相談できる人は必要ない 4. わからない

問18 問17で「1.(相談できる人が)いる」と答えた人にお聞きします。それは誰ですか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 家族(お父さん、お母さん、おじさん、おばあさん、きょうだい) 2. しんせき(おじ、おばなど)
 3. 友だち 4. 学校の先生
 5. 市役所・福祉サービスの人 6. 近所の人
 7. SNS上での知り合い 8. その他()

問19 問17で「2. (相談できる人が)ほしいけどいい」と回答した人にお聞きします。もし相談する人がいた場合、どのようなことを相談したいですか。(あてはまる番号すべてに○)

- | | |
|-------------------|----------------|
| 1. 家族のこと | 2. 学校のこと |
| 3. 友達のこと | 4. 勉強・成績のこと |
| 5. 生活や勉強に必要なお金のこと | 6. 自分の将来や進路のこと |
| 7. その他 () | |

問20 あなたは、家族と話す時間がありますか。あてはまる番号に1つ○をしてください。

- | | | | |
|-----------|----------|-------|----------|
| 1. ほとんどない | 2. あまりない | 3. ある | 4. 十分にある |
|-----------|----------|-------|----------|

問21 あなたは、平日(学校に行く日)の放課後(夕方6時くらいまで)は、どこで過ごしますか。一番多くいる場所に1つ○をしてください。

- | | |
|-----------------------------|--------------------|
| 1. 自分の家 | 2. 友達の家 |
| 3. 塾や習い事 | 4. 児童館 |
| 5. 学校(アフタースクール) | 6. 部活やスポーツクラブの活動の場 |
| 7. 図書館 | 8. 公園 |
| 9. 商店街やショッピングモール | 10. ゲームセンター |
| 11. その他(具体的に教えてください: _____) | |

問22 あなたは、病院(医者を含む)に行きたかったが、我慢するように言われたことがありますか。(○は1つ)

- | | | | |
|----------|-----------|-------|----------|
| 1. 何度もある | 2. 1~2回ある | 3. ない | 4. わからない |
|----------|-----------|-------|----------|

問23 あなたは、中学や高校あるいは大学などに進学したいが、お金のことで、進路を制限されていると感じることはありますか。(○は1つ)

- | | | | |
|-------|----------|-------|----------|
| 1. ある | 2. 少し感じる | 3. ない | 4. わからない |
|-------|----------|-------|----------|

問24 あなたは、学習塾や習い事をしたいが、お金のことで、行くことや習うことが制限されていると感じることはありますか。(○は1つ)

- | | | | |
|-------|----------|-------|----------|
| 1. ある | 2. 少し感じる | 3. ない | 4. わからない |
|-------|----------|-------|----------|

問25 あなたは、放課後や休日に、遊んだり一緒に過ごしたりする友達はいますか。(○は1つ)

- | | | | |
|-----------|-----------|-----------|--------|
| 1. たくさんいる | 2. 3~5人いる | 3. 1~2人いる | 4. いない |
|-----------|-----------|-----------|--------|

問26 あなたは家族と外出したり旅行に行ったりする機会がありますか。(○は1つ)

- | | | | |
|---------|-----------|-----------|-------|
| 1. よくある | 2. ときどきある | 3. ほとんどない | 4. ない |
|---------|-----------|-----------|-------|

問27 地域に、ボランティア等による無料の学習塾があれは参加したいですか。(○は1つ)

- | | |
|----------|------------|
| 1. 参加したい | 2. 参加したくない |
|----------|------------|

問28 地域に、無料又は安値で食事ができる「子ども食堂」があれは参加したいですか。(○は1つ)

- | | |
|----------|------------|
| 1. 参加したい | 2. 参加したくない |
|----------|------------|

◎以下の内容について、あなたが考えていることを教えてください。

問29 がんばれば、良いことがあると思いますか。(○は1つ)

- | | | | |
|---------|-------|---------|---------|
| 1. 強く思う | 2. 思う | 3. 少し思う | 4. 思わない |
|---------|-------|---------|---------|

問30 自分に自信がありますか。(○は1つ)

- | | | | |
|-------|---------------|---------------|-------|
| 1. ある | 2. どちらかというところ | 3. どちらかというところ | 4. ない |
|-------|---------------|---------------|-------|

問31 自分は家族に大事にされていると思いますか。(○は1つ)

- | | | | |
|---------|-------|---------|---------|
| 1. 強く思う | 2. 思う | 3. 少し思う | 4. 思わない |
|---------|-------|---------|---------|

問32 不安や孤独を感じることはありますか。(○は1つ)

- | | | | |
|-------|---------------|---------------|-------|
| 1. ある | 2. どちらかというところ | 3. どちらかというところ | 4. ない |
|-------|---------------|---------------|-------|

問33 あなたには将来の夢や目標がありますか。(○は1つ)

- | | | | |
|-------|---------------|---------------|-------|
| 1. ある | 2. どちらかというところ | 3. どちらかというところ | 4. ない |
|-------|---------------|---------------|-------|

問34 問33「あなたには将来の夢や目標がありますか。」で「4. ない」と答えた人におたずねします。夢や目標がない理由は何ですか。(○は1つ)

- | | |
|-------------------|----------------------------|
| 1. もう十分満足しているから | 2. 夢や目標がかなりもりもりかきかき思っているから |
| 3. 具体的に何も思いつかないから | 4. わからない |

◎ヤングケアラーについて、あなたが考えていることを教えてください。

問35 「ヤングケアラー」という言葉を知っていますか。(○は1つ)

1. 内容を詳しく知っている 2. ある程度知っている

3. 言葉を聞いたことはある 4. 知らない

※ヤングケアラー：本来大人がするような家族のお世話を日常的に任されている子どものことです。お世話などをするにより、学校の成績や友人関係に影響があります。



「障がいや病気のあ
る家族に代わり、食
い部・料理・掃除・
洗濯などの家事を
している。



家族に代わり、幼
い子どもだけの
世話をしている。



障がいや病気のあ
るきょうだいの世話
や見守りをしてい
る。



自分を離せない家族の
見守りや声かけなど
の気づかいをしてい
る。



日本語が第一言語で
ない家族や障がい
のある家族のために
通訳している。



統計を受けるために
労務をして、障がい
や病気の家族を
助けている。



アルコール・薬物・ギ
ャンブル問題を抱え
る家族に対応してい
る。



がん・難病・精神
疾患など、怪難的な
病気の家族の看病
をしている。



障がいや病気のあ
る家族の身の回り
の世話をしている。



障がいや病気のあ
る家族の父やトイ
レの介助をしている。

問36 あなた自身は「ヤングケアラー」にあてはまると思えますか。(○は1つ)

1. あてはまる 2. あてはまらない 3. わからない

問37 あなたの周りに「ヤングケアラー」と思われる人はいますか。(○は1つ)

1. いる (知っている) 2. 可能性のある子がいる 3. いない (知らない)

問38 あなたが、毎日の生活で感じていることや悩んでいることを自由に書いてください。

ご協力ありがとうございました。



赤松市観光マスコットキャラクター 陣たくん

ヤングケアラーについて (子ども家庭庁) (<https://www.cfa.go.jp/policies/young-carer/>、参照
2024-01-10) を加工して作成

赤穂市子ども・若者に関する調査 【ご協力のお願い】

日頃より市政にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。
どうぞございます。

このたび、本市では、より一層の子育て支援施策の充実に向けて、「赤穂市子ども計画」を策定いたします。(計画期間：2025～2029年度)

計画の策定にあたり、子ども・若者が抱える不安や悩み、将来に関する考え、市へのニーズなどをよりの確に把握し、今後の施策につなげていくため、「赤穂市子ども・若者に関する調査」を実施します。この調査は、本市にお住まいの15歳～39歳の市民の中から、無作為に選ばせていただいた1,000人の方にご協力をお願いするものです。

調査の趣旨をご理解の上、**7月12日(金)**までにご回答いただきますようご協力をお願いいたします。

なお、本調査により個人が特定されることはありません。

令和6年6月



こちらからア
クセスのう
え、ご回答く
ださい



1. あなたの状況について

問1 令和6年4月1日時点でのあなたの年齢を教えてください。(数値を記入)

あなたの年齢： 歳

問2 あなたの性別を教えてください。(1つに○)

1. 男 2. 女
3. その他(どちらともいえない・わからない・答えたくない)

問3 お住まいの小学校区についてお答えください。(1つに○)
※不明な場合は「11. わからない」を選択し、地名(字名)を記入してください。

1. 赤穂 2. 城西 3. 塩屋 4. 赤穂西
5. 尾崎 6. 御崎 7. 坂越 8. 高雄
9. 有年 10. 原 11. わからない(字名：)

問4 現在、あなたが一緒に住んでいる人をすべて選んでください。(あてはまるものすべてに○)

1. 父親 2. 母親
3. きょうだい 4. 祖父母
5. あなたの配偶者(パートナー) 6. あなたの子ども
7. その他親戚 8. その他()
9. 同居している人はいない(一人暮らし)

問5 一緒に住んでいる家族は、全部で何人ですか。(数値を記入)

家族の人数： 人 (あなたを含めた人数で記入してください)

問6 生計を支えている方は主にどなたですか。また、仕送りで生計を立てている方は、その仕送りを主にしてくれている人をお答えください。(1つに○)

1. あなた自身 2. 父親 3. 母親
4. あなたの配偶者 5. きょうだい 6. あなたの子ども
7. その他() 8. わからない、答えられない

問7 あなたの健康状態について教えてください。(1つに○)

1. よい 2. まあよい
3. ふつう 4. あまりよくない
5. よくない 6. 答えたくない

問8 あなたが最後に卒業(中退を含む)した学校はどこですか。在学中の方は、現在在学している学校をお答えください。(1つに○)

1. 中学校
2. 高等学校(全日制)
3. 高等学校(定時制・通信制・サポート校)
4. 専修学校・専門学校
5. 短期大学
6. 5年制の高等専門学校(高専)
7. 大学・大学院
8. その他()

問9 あなたの現在の仕事をお答えください。(あてはまるものすべてに○)

1. 学生・生徒(予備校生などを含む)
2. 正規の社員・職員・従業員
3. 派遣社員・契約社員・嘱託
4. パート・アルバイト
5. 会社などの役員
6. 自営業・自由業
7. 家族従業者・内職
8. 専業主婦・主夫
9. 家事手伝い
10. 無職(仕事を探している)
11. 無職(仕事を探していない)
12. その他()

問10 あなたの現在の生活水準(衣・食・住・レジャーなどの物質的な生活水準)は、世間一般と比べて、上から下までのどれにあたると思いますか。あなたの実感をお答えください。(1つに○)

1. 世間と比べると上
2. 世間と比べると中の上
3. 世間と比べると中
4. 世間と比べると中の下
5. 世間と比べると下
6. わからない

2. 普段の生活について

問11 あなたは、家での生活に満足していますか。(それぞれについて、あてはまる番号1つに○)

	満足	どちらかといえは満足	どちらかといえは不満	不満
①一緒に住んでいる人のこと	1	2	3	4
②経済的なこと(おこづかい)	1	2	3	4
③家庭での決まりごと	1	2	3	4
④家事の分担、手伝いのこと	1	2	3	4

問12 あなたは普段、どのくらい外出していますか。(1つに○)

1. 仕事や学校で平日は毎日外出する
 2. 仕事や学校で週に3~4日外出する
 3. 遊び等で頻りに外出する
 4. 人づきあいのためにときどき外出する
 5. 普段は家にいるが、自分の趣味に関する用事のみだけ外出する
 6. 普段は家にいるが、近所のコンビニなどには出かける
 7. 自宅からは出るが、家からは出ない
 8. 自宅からほとんど出ない
 9. 答えたくない
- 問15へ
問13へ
問15へ

(問12で「5」~「8」に○をつけた方にうかがいます。)

問13 あなたの外出状況が現在の状態となって、どのくらい続きますか。(1つに○)

1. 3か月未満
2. 3か月~6か月未満
3. 6か月~1年未満
4. 1年~2年未満
5. 2年~3年未満
6. 3年~5年未満
7. 5年~7年未満
8. 7年~10年未満
9. 10年~15年未満
10. 15年~20年未満
11. 20年~25年未満
12. 25年~30年未満
13. 30年以上

(問12で「5」~「8」に○をつけた方にうかがいます。)

問14 あなたの外出状況が現在の状況になった主な理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 学校になじめなかったため
2. 小学校時代の不登校のため
3. 中学校時代の不登校のため
4. 高校時代の不登校のため
5. 大学、専門学校、短期大学等の時代の不登校のため
6. 受験に失敗したため
7. 就職活動がうまくいかなかったため
8. 職場になじめなかったため
9. 人間関係がうまくいかなかったため
10. 退職・退学したため
11. 在宅勤務のため
12. 妊娠したため
13. 病気のため
14. 介護・看護を担うことになったため
15. 新型コロナウイルス感染症が流行したため
16. その他()
17. 特に理由はない
18. わからない

3. 「居場所」について

問15 あなたは、孤独であると感じることがありますか。(1つに○)

1. ない
2. ほとんどない
3. たまにある
4. 時々ある
5. 常にある
6. 答えたくない

問16 あなたは、「居場所」とはどんなところだと思いますか。(あてはまるもの3つまでに○)

1. 自分ひとりで行って、好きなだけいられる場所
2. 落ち着いてくつろげる場所
3. 好きなものがあったり、好きなことができる場所
4. 周りに気をつかわなくていい場所
5. 友だちや親しい人とのつながりの中で安心していらられる場所
6. 自分のことを否定されたり、いやなことが起きない場所
7. おとなに指図されたり、強制されたりしない場所
8. 自分の意見や希望を受け入れてもらえる場所
9. 色々なイベントがあり、自分の好きなものに参加できる場所
10. 信頼できるスタッフがいる場所
11. 色々な人と出会える場所
12. その他 ()
13. わからない

問17 あなたにとっての「居場所」は、次のうちどこですか。(あてはまるもの3つまでに○)

1. 自分の部屋
2. 家族が集まる場所 (親せきの家・リビングなど)
3. 友だちの家
4. 学校 (教室・図書室など)
5. クラブ活動・前活動の場所
6. 塾や習いごとの場所
7. 職場
8. 地域にある公共施設 (図書館・公民館・公園・児童館など)
9. お店 (ゲームセンター・カラオケボックス・ネットカフェなど)
10. 趣味の集まり (団体、サークルなど)
11. インターネット空間 (SNS・動画サイト・オンラインゲームなど)
12. その他 (具体的に:)
13. 居場所はない

4. 家族、友人等のかかわりについて

問18 あなたが先週1週間で、家族と一緒に朝食や夕食を食べた日数を教えてください。(1つに○)

1. 毎日
2. 週に5、6日
3. 週に3、4日
4. 週に1、2日
5. 家族と一緒に食事をしていない

問19 家族とあなたのかかわりはどのようなものですか。(それぞれについて、あてはまる番号1つに○)

	そう思う	どちらかといえは そう思う	どちらかといえは そう思わない	そう思わない
①会話やメール等をよくする	1	2	3	4
②何でも悩みを相談できる	1	2	3	4
③楽しく話せる時がある	1	2	3	4
④困ったときは助けてくれる	1	2	3	4
⑤他の人には言えない本音を話せる	1	2	3	4
⑥強いつなかりを感じている	1	2	3	4

問20 友人・知人とあなたのかかわりはどのようなものですか。
(それぞれについて、あてはまる番号1つに○)

	そう思う	どちらかといえは、 そう思う	どちらかといえは、 そう思わない	そう思わない
①会話やメール等をよくする	1	2	3	4
②阿でも悩みを相談できる	1	2	3	4
③楽しく話せる時がある	1	2	3	4
④困ったときは助けてくれる	1	2	3	4
⑤他の人には言えない本音を話せる	1	2	3	4
⑥強いつなかりを感じている	1	2	3	4

問21 地域の人(近所の人など)とあなたのかかわりはどのようなものですか。
(それぞれについて、あてはまる番号1つに○)

	そう思う	どちらかといえは、 そう思う	どちらかといえは、 そう思わない	そう思わない
①会話やメール等をよくする	1	2	3	4
②阿でも悩みを相談できる	1	2	3	4
③楽しく話せる時がある	1	2	3	4
④困ったときは助けてくれる	1	2	3	4
⑤他の人には言えない本音を話せる	1	2	3	4
⑥強いつなかりを感じている	1	2	3	4

問22 インターネット上での知り合いやコミュニティ(具体的には面識がない、あるいは数回会ったことがあるが、基本的にはネット中心の付き合いの人)とあなたのかかわりはどのようなものですか。(それぞれについて、あてはまる番号1つに○)

	そう思う	どちらかといえは、 そう思う	どちらかといえは、 そう思わない	そう思わない
①会話やメール等をよくする	1	2	3	4
②阿でも悩みを相談できる	1	2	3	4
③楽しく話せる時がある	1	2	3	4
④困ったときは助けてくれる	1	2	3	4
⑤他の人には言えない本音を話せる	1	2	3	4
⑥強いつなかりを感じている	1	2	3	4

(社人の方にうかがいます。)
問23 職場の方(上司、同僚、部下など)とあなたのかかわりはどのようなものですか。
(それぞれについて、あてはまる番号1つに○)

	そう思う	どちらかといえは、 そう思う	どちらかといえは、 そう思わない	そう思わない
①会話やメール等をよくする	1	2	3	4
②阿でも悩みを相談できる	1	2	3	4
③楽しく話せる時がある	1	2	3	4
④困ったときは助けてくれる	1	2	3	4
⑤他の人には言えない本音を話せる	1	2	3	4
⑥強いつなかりを感じている	1	2	3	4

(すべての方にうかがいます。)

問24 あなたは今までに、日常生活や日常生活を円滑に送ることができなかった経験がありましたか。または、現在、日常生活や日常生活を円滑に送れていない状況にありますか。(1つに○)

1. あった(ある) ⇒問25へ 2. なかった(ない) 3. わからない

(問24で「1. あった(ある)」に○を付けた方にうかがいます。)

問25 日常生活や日常生活を円滑に送ることができなかった(送れていない)主な原因は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 親(保護者)のこと	2. 配偶者(パートナー)のこと
3. 親(保護者)、配偶者(パートナー)以外の家族のこと	5. 家計のこと
4. 家族のお世話や介護のこと	7. 学校生活のこと
6. 友人のこと	9. 将来のこと
8. 就職や職場のこと	11. 性・恋愛のこと
10. 体のこと	13. その他()
12. インターネットやSNS上のこと	
14. 悩んでいることや困っていることほは	

問26 あなたは今までに、日常生活や日常生活を円滑に送ることができなかった状態が改善した・解決した経験がありましたか。(1つに○)

1. あった ⇒問27へ 2. なかった 3. わからない

(問26で「1. あった」に○を付けた方にかがいます。)

問27 状態が改善した・解決したきっかけや、改善・解決に役立ったことは何だと思えますか。
(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------------|----------------------|
| 1. 家族・親族の助け | 2. 友人・知人の助け |
| 3. 学校の先生に相談した | 4. 職場の人に相談した |
| 5. 地域の人の助け | 6. 病院に行って相談した |
| 7. 市の相談窓口で相談した | 8. 電話相談を利用した |
| 9. SNSやメール相談などを利用した | 10. 同じような経験をした人に相談した |
| 11. 就学・転校した | 12. 就職・転職した |
| 13. カウンセリングを受けた | 14. 時間がたつて状況が変化した |
| 15. 自分の努力で乗り越えた | 16. その他 () |
| 17. わからない | 18. 答えたくない |

(すべての方にかがいます。)

問28 あなたは、悩みや困りごとについて、相談に乗ってくれたり話を聞いてくれる人かいますか。
(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-----------------------------|-----------------------|
| 1. 家族に相談できる人がいる | 2. 配偶者 (パートナー) に相談できる |
| 3. 親戚に相談できる人がいる | 4. 友人に相談できる人がいる |
| 5. 学校に相談できる人がいる | 6. 職場に相談できる人がいる |
| 7. インターネットやSNS上の知り合いに相談している | |
| 8. 市役所などの公的機関で相談している | 9. その他 () |
| 10. 相談や話したくない ⇒問29へ | 11. 自分で解決するので相談はしない |
| 12. 答えたくない | |

(問28で「10. 相談や話したくない」に○を付けた方にかがいます。)

問29 あなたが、相談したくない理由は何かですか。(あてはまるものすべてに○)

- | |
|------------------------------|
| 1. 相談しても解決できないと思うから |
| 2. 自分ひとりで解決するべきだと思うから |
| 3. 誰にも知られたくないことだから |
| 4. 自分が変な人に思われるのではないかと不安だから |
| 5. 自分の欠点や失敗を悪く言われそうだから |
| 6. 相手がどんな人かわからないから |
| 7. 何を聞かれるか不安に思うから |
| 8. 嫌なこと、できないことをするように言われそうだから |
| 9. 相手にうまく伝えられないから |
| 10. 裏切られたり、失望するのがいやだから |
| 11. お金がかかると思うから |
| 12. その他 () |
| 13. 特に理由はない、わからない |

5. あなたの今・将来について

問30 あなた自身について、次のうちあてはまるものを教えてください。
(それぞれについて、あてはまる番号1つに○)

	あてはまる	どちらかといえばあてはまる	どちらかといえばあてはまらない	あてはまらない
①自分には自分らしさというものがあると思う	1	2	3	4
②自分の欲しいものをまもる事が苦手だ	1	2	3	4
③今の自分を愛えたいと思う	1	2	3	4
④将来よりも今の生活を楽しまたい	1	2	3	4
⑤努力すれば希望する職業につくことができる	1	2	3	4
⑥自分の将来は運やチャンスによって決まると思う	1	2	3	4
⑦人生で短くすることは、結局は自分に原因があると思う	1	2	3	4
⑧他人に迷惑がからならない限り、どんな考えや行動をとろうが、自分の自由だと思う	1	2	3	4
⑨今の自分が好きだ	1	2	3	4
⑩自分らしさを強調するより、他人と同じことをしていると安心だ	1	2	3	4
⑪自分の親（保護者）から要されると思う	1	2	3	4
⑫うまくいくかわからないことにも意欲的に取り組むことができる	1	2	3	4
⑬自分の考えをはっきり相手に伝えることができる	1	2	3	4
⑭自分自身に満足している	1	2	3	4
⑮自分は役に立たないと強く感じる	1	2	3	4

問31 あなたは、自分の将来について明るい希望を持っていますか。(1つに○)

1. 希望がある	2. どちらかといえば、希望がある
3. どちらかといえば、希望がない	4. 希望がない
5. わからない	

問32 結婚について、あなたの考えをお尋ねします。(1つに○)

1. 結婚している（再婚や事実婚を含む）	2. 結婚する予定がある
3. 結婚していたことがある（離別・死別）	4. 結婚したいがまだ予定がない
5. 結婚はまだ考えられない ⇒問33へ	6. 結婚はしたくない ⇒問33へ
7. わからない	

(問32で「5. 結婚はまだ考えられない」または「6. 結婚はしたくない」に○を付けた方がかかります。)

問33 あなたがそう思った理由は何ですか。(あてはまるもの3つまでに○)

1. まだ結婚するには若いと思う	2. 仕事や学業に専念したい
3. 趣味や娯楽を楽しみたい	4. 結婚していない方が自由で気楽
5. 結婚する必要性を感じない	6. 相手にめぐり合わない
7. 異性とうまく付き合えない	8. 結婚資金や、結婚後の生活の経済的な不安がある
9. 親の介護など、家庭の事情がある	10. 親や周囲の人が結婚に同意しない
11. 子どもが生まれた後のことが不安	12. 結婚に対していいイメージがない
13. その他 ()	

(18歳未満の方も含め、現在結婚していない方にうかがいます。)

問34 あなたは今後、結婚したいと思っていますか。(1つに○)

1. 結婚したい ⇒問35へ	2. どちらかといえば結婚したい ⇒問35へ
3. どちらかといえば結婚したくない	4. 結婚したくない
5. わからない・答えたくない	

(問34で「1. 結婚したい」または「2. どちらかといえば結婚したい」に○を付けた方がかかります。)

問35 あなたは、何歳くらいで結婚したいと思っていますか。(数値を記入)

() 歳くらいで結婚したい

(すべての方にうかがいます。)

問36 結婚を望む方が結婚できるような環境を整えるために、赤穂市（市役所）はどのような取組を行うべきだと思いますか。(あてはまるもの3つまでに○)

1. 給料など雇用・労働条件を改善する
2. 育児休暇や育児短時間勤務など、夫婦がともに働き続けられるような職場環境を整える
3. 結婚に関する費用を支援する
4. 住者に関する費用を支援する
5. 出合いの場を提供するなど、出会いを支援する
6. 交際や結婚に関する相談支援を行う
7. 若いうちから自身のライフプランを考える機会を提供する
8. 結婚に関する啓発活動を行う
9. 家事や育児を夫婦で分担できるよう、啓発活動を行う
10. その他 ()
11. 赤穂市が取り組む必要はない

(すべての方にうかがいます。)

問4.4 どんな工夫やルールがあれば、赤穂市に対して、自分の意見を伝えやすいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 匿名で(自分がたれかに知られずに)伝えることができる
2. 意見の伝え方や伝える意見のテーマについて、前もって学ぶ機会がある
3. 伝えたい意見がどのように扱われるかがわかる
4. 意見を伝える場に、友だちや知り合いと一緒に参加できる
5. 自分の意見を聴く人がどんな人か、前もってわかる
6. 伝えたい内容をうまく引き出してくれる役割の人がいる
7. 意見を伝えるときに、身近な信頼できる人がそばにいる
8. ほかの人の意見も知ることができ
9. 伝えたい意見が制度や政策に反映されるところまで関わることができる
10. 伝えたい内容が公開されない(秘密にしてくれる)
11. 自分の意見を他の人が代弁してくれる
12. 意見を伝える場に、友達や知り合いがいない
13. その他 ()

問4.5 あなたは、赤穂市が子どもや若者が希望を持って暮らしていくことができるまちだと思えますか。(1つに○)

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない

問4.6 あなたは、子ども、若者への支援について、赤穂市にどのようなことに取り組んでほしいですか。(特に取り組んでほしいと思うこと3つまでに○)

1. 子ども・若者が参加しやすいイベントなどの情報を提供する
2. 子ども・若者が自分の意見を発表できる場を作る
3. 子ども・若者が地域の活動に参加するきっかけを作る
4. 子ども・若者がボランティア活動をできるような支援する
5. 生活が苦しい子どもや家庭を支援する
6. 子ども・若者が悩みごとや困りごとを相談できる窓口を充実する
7. 虐待を受けている人、虐待を受けたことのある人を支援する
8. 子ども・若者がほっとできる居場所を充実する
9. 学校に行けない人、社会に出られない人が自立できるような支援する
10. 学校の教育を充実する
11. 子ども・若者の非行や犯罪の防止に取り組む
12. 若者が就職して、働き続けられるよう取り組む
13. 結婚を考える若者が結婚できるような支援する
14. その他 ()
15. 取り組んでほしいことは特にない

7. ヤングケアラーについて

★ヤングケアラーとは、「本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っていることにより、子ども自身がやりたいことができず、子ども自身の権利が守られていないと思われる子ども」のことをいいます。

■ ヤングケアラーのイメージ (例) ←一般社団法人日本ケアラー連盟「こんな人がヤングケアラーです」

				
誰かいたり病気の ある家庭に代わり、幼 いときや病気の ときなど、病気の 世話をしている 家事をしている	誰かいたり病気の ある家庭に代わり、幼 いときや病気の ときなど、病気の 世話をしている	誰かいたり病気の ある家庭に代わり、幼 いときや病気の ときなど、病気の 世話をしている	誰かいたり病気の ある家庭に代わり、幼 いときや病気の ときなど、病気の 世話をしている	誰かいたり病気の ある家庭に代わり、幼 いときや病気の ときなど、病気の 世話をしている
求職を支援する ために活動をして、 誰かいたり病気の ある家庭を助け ている	アルバイト・家 賃・キャンプ費用 などを支える家庭 に所属している	がん・難病・精神 疾患など、身体的 な病気の家族の 世話をしている	誰かいたり病気の ある家庭の身の 回りや世話をし ている	誰かいたり病気の ある家庭の身の 回りや世話をし ている

赤穂市子どもの生活実態に係る社会資源調査

記載について

- ① 回答は、あてはまる番号を○で囲んでください。○の数は、設問毎に1つの場合と複数場合があります。また、自由記述の設問には具体的にお答えください。
- ② 本調査で記載している「困窮家庭」および「ヤングケアラー」は、18歳未満の子どものいる世帯として、ご記入ください。
- ③ ご記入いただきました調査票は7月12日（金）までに市役所子育て支援課まで郵送または持参にてご提出ください。
- ④ アンケートに記載いただいたご意見や問い合わせには、回答できまませんでした。ご了承ください。
- ⑤ アンケート調査の結果は、ホームページ等を通じて公表する場合があります。
- ⑥ 調査票の記入について不明な点は、下記までお問い合わせください。

【お問い合わせ先】赤穂市健康福祉部子育て支援課
電話 (0791) 43-6808 FAX (0791) 43-7138

機関名	記入者名
-----	-----

問1 貴機関において、日々の業務の中で、経済的に困窮していると思われる家庭（困窮家庭）の子どもや保護者に接することがありますか。（1つに○）

1. ある 2. ない →問5へ

問1で「1. ある」ど答えたら

問2 困窮家庭には、具体的にどのような状況がありますか。（当てはまるものすべてに○）

1. 給食費の支払いができない
2. 修学旅行等、必要な会費の支払いができない
3. 制服、体操服など必要なものを買うことができない
4. 他の子どもも選が持っているものを持っていないことが多い
5. 子どもの学習面、発達面に課題がある
6. 不登校等であったり、決まった時間に通所できない
7. 日常的に家事や家族の世話をしている（ヤングケアラー）
8. お風呂に入れない
9. 清潔な服装、身なりをしていない
10. 季節にあった服装をしていない
11. 朝食や夕食を食わせていない
12. ひとり親家庭である
13. 生活保護を受給している
14. 保護者との意思疎通が困難な場面がある
15. 多子世帯である（子どもが3人以上）
16. 保護者が就労していない
17. 身近に相談できる人が少ない
18. 児童虐待の兆候が見られた
19. その他

問1で「1. ある」と答えたら

問3 これまでに困窮家庭の子どもと関わる中で、特に印象に残った子どもの状況について具体的に教えてください。（過去3年間程度でお答えください）（自由記述）

問1で「1. ある」と答えたら

問4 困窮家庭の子どもや保護者に対し、これまでどのような支援を行っていますか。（過去3年間程度で具体的に記入してください）（自由記述）

保護者への支援

問5 困窮家庭の子どもや保護者を支援する中で、これまでに効果的だったと感じる取組みがあれば教えてください。（自由記述）

問6 困窮家庭の子どもや保護者に対し、どのような支援が必要だと思いますか。(5つまで○)

<ol style="list-style-type: none"> 1. 食糧支援 (フードバンクなど) 2. 学校内での学習支援 (学校が行う補習など) 3. 学校外での学習支援 (無料学習塾など) 4. 保護者への相談支援 (生活相談、カウンセリングなど) 5. 自然体験や集団遊びなど様々な活動機会の提供 6. 不登校や引きこもりなどの子どもの支援 7. こども食堂を始めとした子ども居場所づくり 8. 生活保護や就学援助以外の経済的支援 9. 保護者の就労支援 10. 高等学校中退の子どもに対する就労支援 11. 困窮家庭の子どもへの早期発見のための新たなネットワークの確立 12. 健全な食習慣や生活習慣を形成するための支援 13. 家事支援 (食事準備、掃除、洗濯などのサポート) 14. その他 	<div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; border-bottom: 1px solid black; height: 20px; width: 100%;"></div>
--	---

問7 貴機関において、日常的に家事や家族の世話をしていると思われる子ども(ヤングケアラー)に接することがありますか。(1つに○)

<ol style="list-style-type: none"> 1. ある 2. ない 	→問10へ
--	-------

問7で「1. ある」と答えた方

問8 貴機関において、ヤングケアラーと思われる子どもであると気づいたきっかけを教えてください。(自由記述)

問7で「1. ある」と答えた方

問9 ヤングケアラーには、具体的にどのような状況がありますか。(当てはまるものすべてに○)

<ol style="list-style-type: none"> 1. 欠席、遅刻、早退が多い 2. 不登校である 3. 精神的な不安定さがある 4. 提出物が遅れがち 5. 持ち物がそろわない 6. 学力が低下している 7. 身だしなみが整っていない 8. しつかりしすぎています 9. 周囲の人に気を遣いすぎる 10. 宿泊行事等を欠席する 11. 校納金が遅れる、未払い 12. その他 	<div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; border-bottom: 1px solid black; height: 20px; width: 100%;"></div>
--	---

問10 困窮家庭の子どもや保護者及びヤングケアラーに対する支援を行う中で、特に悩んだり困ったことはどのようなことですか。(当てはまるものすべてに○)

<ol style="list-style-type: none"> 1. 支援したいが、その方法がよくわからなかった 2. 相談をつなげる機関がわからなかった 3. 支援を行うための十分な予算がなかった 4. 職員が多忙で十分な支援ができなかった 5. 支援をしたいが、家庭との信頼関係が築けなかった(支援を拒否された) 6. 支援するための体制が整っていないかった 7. その他 	<div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; border-bottom: 1px solid black; height: 20px; width: 100%;"></div>
--	---

問11 困窮家庭の子どもや保護者及びヤングケアラーに対する支援を行う上で、連携している機関や団体などはありますか。(当てはまるものすべてに○)

<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療機関 2. 弁護士会 3. 民生委員・児童委員 4. 主任児童委員 5. 赤穂健康福祉事務所 6. 社会福祉協議会 7. 姫路こども家庭センター(児童相談所) 8. 小・中学校 9. 幼稚園・保育所 10. 特別支援学校 11. 保護者会・PTA 12. 市子育て支援課 13. 市社会福祉課 14. 市保健センター 15. 教育委員会(青少年育成センター含む) 16. 警察 17. ハローワーク 18. 民間機関(名称:) 19. その他 20. 特になし 	<div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; border-bottom: 1px solid black; height: 20px; width: 100%;"></div>
---	---

問12 困窮家庭の子どもや保護者及びヤングケアラーの支援について、ご意見等があればご自由にお書きください。(自由記述)

ご協力ありがとうございました。

赤穂市
こども計画策定のためのアンケート調査結果報告書

発行年月：令和6年11月
発行：赤穂市 健康福祉部子育て支援課
〒678-0292 赤穂市加里屋81番地
TEL：0791-43-6808 FAX：0791-43-7138

